# 北中原遺跡

# KITANAKAHARA SITE

一県営一宮団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

1995. 3

山梨県教育委員会 山梨県土木部

# 北中原遺跡

# KITANAKAHARA SITE

ー県営一宮団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー

1995. 3

山梨県教育委員会山 梨 県 土 木 部



第 1 次調査全景(遺跡東方から、やや右上に甲斐国分寺跡を望む 1993年12月撮影)

本書は、山梨県土木部による県営一宮団地建設工事に伴い、1993・1994年度の両年にわたって行われた、山梨県東八代郡一宮町塩田に所在の北中原遺跡における発掘調査の成果をまとめたものであります。

本遺跡が位置する一宮町は、甲府盆地東部にあって、原始・古代から中世へと長きにわたって人々の生活が展開されてきた地域であり、このことを物語る埋蔵文化財の濃密な分布が見られる地域としてもよく知られているところであります。とりわけ古代における地方行政単位である "国"の中核施設とも呼べる国分寺が置かれたていたこともあって、周辺にはたいへん重要な遺跡が点在しております。それらはこれまでの町や県などの行ってきた発掘調査により実態の解明が進められてきていますが、本遺跡もそうした国分寺周辺遺跡群の一翼をなすものといえます。

調査の結果、平安時代中頃の竪穴住居跡77軒を中心に、縄文および平安から中・近世までの土坑131基、中世の溝跡や道路状遺構などを主な内容とし、墨書土器を含む9世紀から11世紀にかけての土器類をはじめ豊富な出土遺物も得られております。その成果は、概して言えば、国分寺に近接した平安集落の一定範囲の様相を明らかにし、また伝説的にいわれることの多い中世塩田郷の実像に一歩迫るものといえるのではないかと思われます。

北中原遺跡における今次の調査は、県営団地建設予定地6,000㎡について全面を対象にしたものではありますが、建築工事との兼ね合いの中で細切れの調査区割りを余儀なくされ、またその調査行程も工事と調整しながらの複雑なものとなってしまいました。こうしたこともあって十分な調査であったか危惧されるところもありますが、本報告書が本県における平安時代から中世にかけての地域社会の解明の一助となれば幸甚であります。

末筆になりますが、調査にあたり種々ご指導・ご協力いただきました関係各位、並びに調査 に従事された皆様に厚くお礼申し上げます。

1995年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長大塚 初重

# 例 言

- 1 本書は、山梨県東八代郡一宮町塩田585に所在する北中原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営一宮団地建設工事に伴うものであり、県教育委員会が県土木部の委託を受け実施した。
- 3 発掘調査および整理調査は、県教育委員会の調査機関である山梨県埋蔵文化財センターが行なった。
- 4 調査はつぎの2次にわたって実施されたが、本報告ではこれらをまとめて報告する。
  - 第1次調査(平成5年度本調査) 1993年11月17日~12月27日
  - 第 2 次調査(平成 6 年度本調査) 1994年 4 月17日~12月27日
- 5 本書の編集及び執筆は、出月洋文が行った。
- 6 遺構については各担当者が担当し、遺物の撮影は出月洋文が行った。
- 7 本調査に係る資料(出土遺物、記録図面・写真等)は一括して、山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 8 発掘・整理調査に際し、下記の方々・機関からご協力・ご教示を頂いた。記して感謝申し上げたい。
  - 一宮町役場、一宮町教育委員会、帝京大学山梨文化財研究所、猪股喜彦・瀬田正明(一宮町教育委員会)、望月和幸(御坂町教育委員会)、室伏徹(勝沼町教育委員会)、芹沢昇(釈迦堂遺跡博物館)、萩原三雄・鈴木稔・畑大介・河西学・宮澤公雄・平野修・櫛原功一(帝京大学山梨文化財研究所)

(順不同・敬称略)

# 凡 例

- 1 遺構番号は、原則として発見順に付している。
- 2 掲載遺構図の縮尺は、とくに断りのない限り、住居跡が80分の1、カマドが40分の1、土坑が80分の1、溝 状遺構・道路状遺構が200分の1となっている。
- 3 掲載遺物図は、平安時代遺物および遺構外の各時代の遺物が4分の1、銭貨が2分の1、縄文時代土器が3分の1、縄文時代の石器が、石鏃が2分の1以外は4分の1となっている。
- 4 平安時代土器の断面には、墨塗りで須恵器を、網点で灰釉陶器を、砂目のスクリーントーンで緑釉陶器を表示している。

	I. I. Date.		(1/80 · 1/40) ·····
	本文目次	第10図	4 ・ 5 A ・ 5 B ・ 6 号住居跡
			(1/80 · 1/40) ·····
口絵		第11図	7~9号住居跡(1/80・1/40)
亨 文		第12図	10~12号住居跡(1/80・1/40)
例言・凡例		第13図	13~14号住居跡(1/80・1/40)
目 次		第14図	16~18·20号住居跡(1/80·1/40)············
亨章 発掘調	査ダイジェスト·······i	第15図	19・21・22号住居跡(1/80・1/40)
第1章 発掘		第16図	23~25号住居跡(1/80・1/40)
第1節 発	掘調査に至る経緯1	第17図	26~29号住居跡(1/80・1/40)
第2節 発	掘調査の概要1	第18図	30~32号住居跡(1/80・1/40)
第3節 調	査組織······1	第19図	33~35号住居跡(1/80・1/40)
第2章 遺跡		第20図	36~38号住居跡(1/80・1/40)
第1節 地	理的環境3	第21図	39~42号住居跡(1/80・1/40)
第2節 歴	史的環境3	第22図	43~45号住居跡(1/80・1/40)
第3章 調査	の方法と層序	第23図	46・47・51・52号住居跡(1/80・1/40)…
第1節 調	査区の設定と遺構調査5	第24図	48~50号住居跡(1/80・1/40)
第2節 基	本層序	第25図	53~56号住居跡(1/80・1/40)
第4章 発見	された遺構と遺物	第26図	57~59号住居跡(1/80・1/40)
第1節 遺	構と遺構に伴う遺物8	第27図	60~62·77号住居跡(1/80·1/40)
(1) 竪穴	住居跡	第28図	63~65号住居跡(1/80・1/40)
(2) 土	坑	第29図	66~68号住居跡(1/80・1/40)
(3) 特殊	小坑	第30図	69~71号住居跡(1/80・1/40)
(4) 竪穴	遺構	第31図	72~74号住居跡(1/80・1/40)
(5) 柱穴	群	第32図	75~77号住居跡(1/80・1/40)
(6) 溝状	遺構	第33図	1 · 23~28 · 86~90 · 95号土坑 (1/80) ······
(7) 道路	状遺構	第34図	2~11·13·65号土坑(1/80)
(8) 遺物	集中区	第35図	
(9) 集石		第36図	29~35 · 50~52 · 66~69 · 117 · 118 · 129 ·
	構外の遺物・・・・・・・・ 121		130号土坑(1 / 80)
	外の縄文時代遺物		36~49·53~59·91~93·131·132号土坑
(2) 遺構	外の古墳時代遺物		(1/80)
	外の中世遺物	第38図	60~64・70~85・112~115・119~122号土坑
	外の近世遺物		(1/80)
第5章 遺構	遺物についての検討 127	第39図	105~111・116・123~128号土坑(1 /80)
第6章 調査	のまとめ 一問題点と課題― 144	第40図	1・2号特殊小坑(1/20)・1号竪穴遺構
			(1/40)・1号柱穴群 (1/80)
		第41図	1~5号溝・1号道路状遺構 (1/200)
		第42図	1号集石土坑 (1/40)・縄文遺物分布
	挿図目次	第43図	1 A・2・3号住居跡出土土器(1/4)
		第44図	4 号住居跡出土土器 (1/4)
第1図 調査	対象範囲と調査前地形2	第45図	4 · 5 A · 6 号住居跡出土土器(1/4) ········
	原因となった工事計画2	第46図	7 · 8 · 9 号住居跡出土土器 (1/4)
	調査の実施結果2	第47図	10・11・12・13号住居跡出土土器(1/4)…
	原遺跡の位置とその周辺遺跡4	第48図	13 · 14 · 15 · 16号住居跡出土土器(1 / 4)…
	区全体図	第49図	17·18·19号住居跡出土土器(1/4)
ᄁᄓᄓᅠᄜᇚᅜ	の設定およびグリッド配置 ·······7	第50図	20 · 21 · 22号住居跡出土土器(1/4) ········
		/1- JOE	~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~
第6図 調査		第51図	24·25号住居跡出土土器 (1 / 4)
第 6 図 調査 第 7 図 標準	の成と40よりファットに直 的な土層7 礫露頭状況見取り図7	第51図 第52図	24·25号住居跡出土土器 (1/4) ························25号住居跡出土土器 (1/4) ····································

.

第54図	30・31号住居跡出土土器(1/4)78		主 口 ル	
第55図	32·33号住居跡出土土器(1/4)79		表 目 次	
第56図	33·34号住居跡出土土器(1/4)80			
第57図	35・36・37号住居跡出土土器(1/4)81		穴住居跡一覧表2"	
第58図	38・39号住居跡出土土器(1/4)82		坑一覧表 ······53	
第59図	39 · 40号住居跡出土土器(1/4) · · · · · · 83	第3表 土器	器類観察表(1)108	8
第60図	42 · 43号住居跡出土土器(1/4) · · · · · · · 84	第4表 土	器類観察表(2) ······109	9
第61図	44号住居跡出土土器(1/4)85	第5表 土	器類観察表(3)110	0
第62図	44・45号住居跡出土土器(1/4)86	第6表 土	器類観察表⑷11	1
第63図	46・47・48・49号住居跡出土土器(1/4) …87		器類観察表(5)112	
第64図	50・51・52・53号住居跡出土土器(1/4) …88	第8表 土	器類観察表(6)11	3
第65図	54・55・56・57号住居跡出土土器(1/4) …89	第9表 土	器類観察表(7) ······114	4
第66図	58・59・60号住居跡出土土器(1/4)90	第10表 土器	器類観察表(8)11:	5
第67図	60·61号住居跡出土土器(1/4)91	第11表 土	器類観察表(9) ······116	6
第68図	62·63号住居跡出土土器(1/4)92	第12表 土	器類観察表(10)11	7
第69図	64·65号住居跡出土土器(1/4)93	第13表 土器	器類観察表(11)118	8
第70図	65·66号住居跡出土土器(1/4)94	第14表 瓦舞	類観察表118	8
第71図	67·68·69号住居跡出土土器(1/4)95	第15表 鉄	製品観察表119	9
第72図	70・71・72・73号住居跡出土土器(1/4)…96	第16表 羽口	口観察表119	9
第73図	44号住居跡出土土器(1/4)97	第17表 鉄河	滓・石製品観察表119	9
第74図	75・76号住居跡出土土器(1/4)98	第18表 銭1	貨観察表 ······119	9
第75図	住居跡以外の遺構および遺構外出土土器	第19表 砥	石観察表120	0
	(1/4)99	第20表 石器	器観察表120	0
第76図	瓦類-その1 (1/4)100			
第77図	瓦類-その2 (1/4)101			
第78図	瓦類―その3(1/4)102			
第79図	瓦類-その4 (1/4)103		写真図版一覧	
第80図	鉄製器 (1/4)104			
第81図	羽口・鉄滓・石製品(1/4)および銭貨	図版 1	調査前状況・試掘調査状況	
	(1/2)105	図版 2	第1次調査の状況	
第82図	砥石-その1 (1/4)106	図版 3	第2次調査の状況	
第83図	砥石-その2(1/4)107	図版 4 ~23	各住居跡の状況	
第84図	縄文時代遺物―土器・その1(1/3)108	図版24~29	土坑・特殊小坑の状況	
第85図	縄文時代遺物-土器・その2(1/3)108	図版30~31	溝状遺構・竪穴遺構・柱穴群・道路状遺構	
第86図	縄文時代遺物―土器・その3(1/3)108	図版32~39	各住居跡の出土土器	
第87図	縄文時代遺物―土器・その4(1/3)109	図版40~41	墨書土器・ヘラ書土器	
第88図	縄文時代遺物―石器(1/4・1/2)110	図版42~43	瓦類	
第89図	出土土器の変遷129	図版45	フイゴ羽口・磨り石・石杵・銭貨	
第90図	40号住居跡における墨書土器の状況131	図版46	砥石	
第91図	北中原遺跡における墨書土器等の分布状況 …132	図版47	被熱土塊	
第92図	北中原遺跡における平安時代住居の変遷(1) …135	図版48	縄文時代遺物	
第93図	北中原遺跡における平安時代住居の変遷(2) …136	図版49	中近世遺物	
第94図	34号住居跡における礫の状況138	図版50	調査経過の記録	
第95図	37号住居跡における礫の状況139			
第96図	42号住居跡における礫の状況140			
第97図	北中原遺跡周辺の古代情報141			
第98図	北中原遺跡周辺の中世情報143			

# 序章 調査報告のあらまし

#### 1 はじめに

北中原遺跡は、東八代郡一宮町の塩田地区にある古 代の遺跡の一つです。

この報告書は、今回の北中原遺跡における発掘調査、すなわち字北中原585番地の約6,000㎡を対象にした埋蔵文化財記録保存のための調査の成果をまとめたものですが、この章では本書を利用する際の手引きとなるよう、調査の概要を整理しておきます。

#### 2 調査の進められ方

#### (1)調査に至るまで

この調査が実施されることとなったのは、当地で県営住宅建設の計画がなされたからで、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の確認をしたところ平安時代の集落が営まれていたことが明らかになりました。この試掘結果を受けて建築主体の県土木部と県教育委員会とで協議し、認められた期間内に建設工事を完了する必要から、'93(平成 5)年と'94年の2年に分けて発掘調査し、調査成果をもって記録の上で保存するという対応がとられることになりました。経過や調査の体制は第1章に詳述されます。

#### (2)調査の方法

初年度に約1,000㎡を調査し、翌年度に残り5,000㎡ を調査するという、2年がかりの調査であったことは



建設中の建物の下での2年目の調査(25住付近)

先に述べましたが、その調査の方法は共通で、まず試 掘調査でわかった埋蔵文化財までの深さのデータをも とに、そのすぐ上までの土を重機によって除去し、そ の後は人手によって遺構確認や遺構の掘下げ、遺物の



住居跡や土坑の調査のようす(53住周辺)

取上げなどを進めていきました。どのような配置で住居跡などの遺構が確認されたか記録を取るため5m間隔の杭(グリッド)を設定し、それに基づいて測量したり、各段階での写真撮影などを行いました。現地調査終了後は、出土遺物のデータ化や調査中の図面・写真等による記録類の整理などを進め、本書が作成されました。調査方法の詳細は第2章にあります。

#### 3 調査で発見されたもの

細かな内容は第4章に報告のとおりですが、第4章 が遺構ごとの説明であるのと別に、ここでは発掘調査 の成果を年代順に概観します。

#### (1)縄文時代

遺構としては、集石遺構が1、上坑が7確認されていますが、いずれも縄文前期の諸磯式の時期のものと考えられます。また調査区東端部の谷状の地形の部分には同じ時期と見られる包含層が形成されていました。このほか遺構は伴わないものの前期から中期、後期・晩期の土器片が調査区のそこここから採集されています。

# (2) 弥生~古墳時代

この時期の遺構は見つかっていませんが、遺物はたいへんわずかながら確認されています。

なお、古墳時代の後半から奈良時代の末頃までの遺 構や遺物は確認されませんでした。

#### (3) 平安時代

今回の調査ではこの時代の竪穴住居跡群が主体的に 確認されました。いくつか重複が見られますが、全部 で77軒分の住居跡が見られ、これらに伴う比較的豊富 な遺物が出土しました。

住居跡は大部分が角が丸みをもった四角形、いわゆ

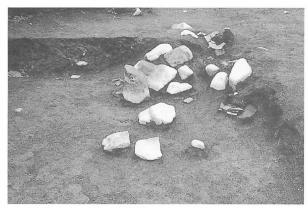
る隅丸方形の平面形の、半地下式(竪穴)のもので、 東北や南東の隅などにカマドが作られていました。カ マドは言うまでもなく煮炊きを行うためのもので、石 を組んでその周りを粘上で固めて構造される、この時 則、この地域において一般的に見られるものです。

遺物としては、上器類で上師器、須惠器、灰釉陶器、 緑釉陶器があり、国分寺が近いこともあって丸瓦や平 瓦などの古代の瓦も見られました。また釘や刀子、斧 などの鉄製品、砥石などの石製品といったものも出上 しています。

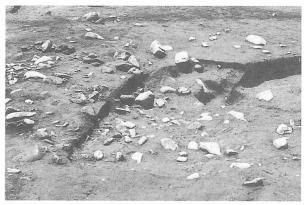
竪穴住居跡以外に今回の調査では130あまりの土坑、すなわち円形や楕円形の素掘りの穴が見られましたが、縄文や中世、近世と時期が特定されたものは1割程度で大半は時期がわかる遺物が伴わないものでした。ただいくつかの土坑が平安時代の住居跡を壊して作られ、またいくつかのものが中世の道路状遺構の下から確認されていることもあり、その多くは平安時代の終わりごろのものではないかと推測されます。

#### (4)中世以降

調査区の東北部での竪穴遺構 1、東南部で部分的に確認された道路状遺構 1、4条の溝跡、上坑が数基といった中世のものと見られる遺構が確認されていあます。遺物では、その大半は遺構に伴うものではありませんが、中国製と見られる青磁の碗の破片、常滑焼の壺などの破片などがありました。



住居の廃棄を物語る住居跡内のカマド材の礫 (34住)



住居跡内外に露出する地山の礫(36住)

近世では、2つの上坑が確認され、このうち寛永通 宝が1点見られた96号上坑は墓穴である可能性も見ら れます。

なお井戸の跡と推定される95号上坑は遺物が伴わないのではっきりした時期はわかりませんが、平安時代の住居跡を掘り込んでいることから、中世ないし近世の井戸はないかと考えられるものです。

#### (5) 年代不確定の遺構

調査区の中央からやや東寄りの位置に掘立柱建物の存在がうかがえる柱穴群が見られましたが、これについては年代を特定する手掛かりが得られませんでした。平安時代から中世までの幅が推定されます。

# 4 調査の結果わかったことと今後の課題

第4章に報告の成果について、いくつかの視点で検討を行った結果は、つづく第5章に記述されますが、 大まかには次のようなことになります。

#### (1)遺跡の歴史的位置づけ

調査成果の中心は、平安時代の、9世紀から11世紀 にかけての集落跡の把握にあったといえます。

この遺跡の西側には 1 ㎞も隔てないところに、奈良時代の終わり頃、甲斐国の国分寺が建てられたこともあって、奈良時代から平安時代にかけては甲斐国の中心地(現在の県庁所在地周辺のような状況)でありました。このため、北中原遺跡の周りには国分寺跡や国分尼寺跡などを初めとして、重要な遺跡が集中して見られます。その詳細は第 2 章にも触れられていますが、北中原遺跡はそうした国分寺遺跡群の中の一つであることが明らかになりました。

#### (2) 平安集落のあり方

# i)集落構成に見られる計画性

確認された平安時代の住居跡は、数時期にわたって営まれているので、一度にどのような配置であったかが問題となりますが、全体的に個々の住居の方向性や問隔などに計画性が見られるように見受けられます。扇状地の基盤をなす地山の礫が露出していて、竪穴住居を造るのに適さないと思われるような所にも配置されたり、重要なところには何度も立て替えしながら作り続けられるような傾向がうかがえます。

## ii) 竪穴住居の造営と廃棄

調査した70軒あまりの竪穴住居の一つひとつには、造られ(建築)、使われ(居住)、片づけられる(廃棄)というサイクルがあります。住居を新たに造るときは、先にふれた造る場所の選定のことの他に、竪穴住居の床(土間)の下に利器を埋めるなどの地鎮祭がとりおこなわれたような痕跡が見られたりしました。また集落が終わりを迎えたとき、カマドを解体したりしながら、住居を閉じるお祭りをしているような状況も観察されています。

#### iii)墨書土器

平安の住居群からは、日常の食器などを中心に様々な生活遺物が出土しましたが、その中で一つ、注目される遺物として墨書土器があげられます。これは、土師器の坏などに墨で文字が書かれたものです。これも平安社会における精神活動との関わりで理解されるものと遺跡の機能などに結びついたものがあることが知られていますが、北中原遺跡の場合、比較的古い段階の住居から、1点の土器について一文字のみが墨書された例が主体的で、精神活動に関連したものと見られます。

## (3)中世の時期の北中原

調査成果の中心をなすものは、平安時代の集落跡であることはすでに見てきましたが、その後の、いわゆる中世の、武士社会の中で営まれた土地利用の痕跡が見られたことも、平安時代の成果に次いで、注目されましょう。遺跡のある一宮町塩田地区は、塩田の長者の伝説が伝わるところで、これまでの周辺の発掘調査

でも、この地に勢力を張った人々がいたことがうかが えるような内容が断片的に確認されてきていますが、 この北中原遺跡でも、道路状遺構や青磁碗の破片など の遺構遺物を通じて中世の塩田の実像にふれるものと 見られる資料が確認されていあます。

#### (4) 今後の課題

このたびの北中原遺跡の発掘調査は、工期が大変限定された住宅建設の工事に関わって行われたもので、大部分が工事と平行して進めざるを得ないような状況にありました。このため一度に全体を見渡して調査することができず、遺構の把握に十分でないところなどが問題点が多く残りました。資料整理も遺跡の位置づけや集落跡の動態的把握などに迫るためにはやはり不十分なものとなってしまいました。ここに報告する成果がこの地域の、ひいては本県の歴史研究に反映されていくよう、活用されていくことを望むところですが、そのために掘り下げが不十分なところは、今後の課題として引き続いて研究されるべきものと考えられます。

# 第1章 調査の経緯と概要

#### 第1節 発掘調査に至る経緯

今回の北中原遺跡の発掘調査は、山梨県土木部(建築住宅課所管)による県営一宮団地の建設に先立つ埋蔵文 化財の記録保存を目的に行われたものである。

土木部では、既に供用されていた一宮団地の北側に用地を追加取得し、平成5~6年度に、RC5階建て2棟を建設することを計画したが、当該地は甲斐国分寺跡にも近接した、埋蔵文化財の多く点在するところでもあることから、県教育委員会学術文化課と協議を持ち、計画地における埋蔵文化財の有無を事前に確認することとされた。

この協議を受けて、平成 5 年10月に、山梨県埋蔵文化財センターが試掘調査を実施したところ、計画地 6,000 mの全域に遺構・遺物の存在が明らかになった。

この試掘結果を踏まえて、土木部建築住宅課・県教育委員会学術文化課に県埋蔵文化財センターを加えた3者で、計画地における埋蔵文化財の取扱いを協議・調整した結果、当該住宅建設が国(建設省)の補助事業として事業期間内の工程確保が必至とされたものであったため、急遽調査体制を確保し、本格的な発掘調査に取り組むこととなった。

#### 第2節 発掘調査の概要

前節に見たような経緯で発掘調査が実施されることとなったが、調査は平成5年と6年の両年にわたり、とくに2年次には、団地の建設工事と並行しながらの困難な調査であった。結果的に、平安時代半ば過ぎに営まれた 集落跡についての好資料を得ることができた。ここで、その調査全体の概略を確認しておきたい。

#### (1) 試掘調査

試掘調査は平成5 (1993)年の10月19日から10月22日まで実施した。周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが前述のとおり国分寺跡に近接する場所であり、建設工事に先立って埋蔵文化財の有無確認が必要とされたことから、用地買収をまってトレンチ調査を実施した。この結果、平安期を主とした集落遺跡の存在が判明し(第3図)、遺跡所在地の小字名に拠って北中原遺跡と命名、直ちに周知化が図られ、以下に見る緊急の本発掘調査に至った。

#### (2) 第1次調査(平成5年度本調査)

第1次調査は、試掘調査の翌月、11月17日に着手し、12月27日までの間、1棟目の建設に必要な1,000㎡分について行い、石組カマドをもつ竪穴住居跡20軒と20数基の土坑、縄文前期の土坑6基を確認している。

#### (3) 第2次調査(平成6年度本調査)

第2次調査は翌6 (1994) 年度に、4月17日から、建設工事と並行して残り約5,000㎡を対象に進め、第1次調査と併せ77軒の住居跡などを確認し、12月27日をもって現地での発掘調査を終えた。なお、9月からは報告書の作成作業についても年度内刊行を目指して進めてきた。

#### 第3節 調査組織

北中原遺跡の発掘調査・整理調査にかかわる組織は以下のとおりである。

調査主体 山梨県教育委員会 (所管課:学術文化課)

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 調査研究課調査第一担当 山本茂樹・野代幸和

〃 調査第二担当 澤登正仁・今福利恵(以上、平成5年度)

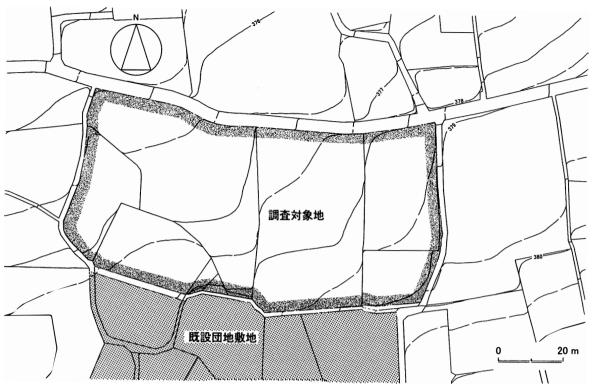
調査研究課調査第五担当 出月洋文・澤登正仁(平成6年度)

発掘調査作業員 芦沢津屋子、雨宮滋美、荒川公子、荒川奈津江、池谷馨、岩間藤江、岩間行子、小幡裕巳、金子浩江、久保田留代、弦間すみ子、河野茂、越石力、小林よ志子、坂本逸郎、志田由記子、志村悟、平重蔵、千須和貴子、内藤巳喜子、長坂清、中村郁子、中村君子、名取静、西脇誠、橋本和美、平山勝子、藤巻公恵、藤巻ひさ江、保坂武子、星野松子、水上五郎、水上秀樹、宮川

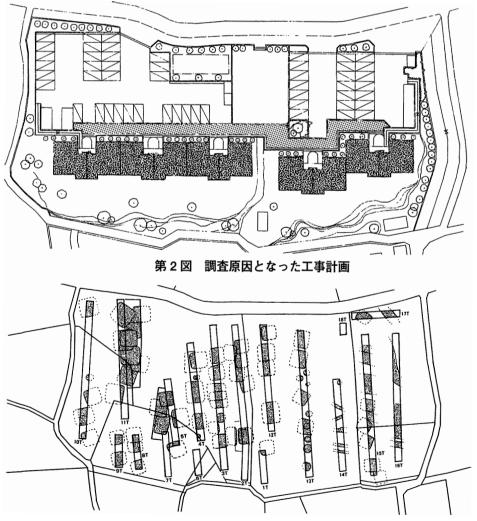
ともゑ、村松おとめ、村松まさみ、矢崎米子、渡辺徳子、渡辺初江(以上、現地調査) 雨宮洋子、飯田みづほ、石原清子、石原由美子、荻原光代、小野恵、武田きく江、内藤富代、 中込星子、中村隆代、正木なつ子、丸山輝雄、矢崎緑、渡辺和子(以上、現地調査および整理) 斉藤律子、佐野眞雪、塩島冨美子、清水友美子、中込みち子、古屋茂子、望月厚子、渡辺洋子

(以上 整理

なお第2次調査の際に、海外技術研修員の雨森サンドラ奈美さん(ブラジル)が8~9月に参加している。



第1図 調査対象範囲と調査前地形



第3図 試掘調査の実施結果

# 第2章 遺跡の環境

#### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

北中原遺跡は、東八代郡一宮町塩田の字北中原に所在する。

調査対象地は大小あわせて8筆に及んでいた(第 1 図参照)が、県営団地建設事業にかかる公有地化に拠って 合筆され、調査時以降、字北中原585番地となっている。

本遺跡の立地は、笛吹川支流の金川が形成した扇状地の扇央部にあって、調査対象地における標高は376~380 mとなっている。南東から北西へ100mに対し4m程下がるといった緩斜面で、また遺跡周辺には扇状地特有の細かな起伏が見られ、調査地内にあっても小さな尾根状部と谷状部が平行する状況が観察された。

遺跡周辺における土地利用現況を見ると、調査地も含め、大部分がモモまたはブドウを栽培する果樹園となっている。遡って、近代以降の土地利用の変遷を見ると、扇状地という地形的制約から、当初はクワに比重が置かれた畑作が中心であったが、部分的に遺跡の東側400mを流れる田垂川の流域などでは水田も形成されていた。しかし、1945年以降、畑作地は徐々にクワからモモを主体とした果樹に転換しはじめ、1960年代にはそうした傾向が加速し、かつて水田の見られたところも含め見渡す限りと形容されるほどとなり、国内有数生産量を誇る果樹園地帯となった。

こうした土地利用下にあって、次節に見るように、本遺跡周辺には多くの埋蔵文化財の包蔵地が分布しており、それらの遺跡は、大抵の営農行為においても大きく損なわれることなく、今日まで伝わってきていた。しかし、本遺跡の南側 100mを東西に通過する中央自動車道の1980年前後の建設工事を契機に、近年、農業経営における状況変化などから、果樹園地が徐々に道路やその他の公的施設、商工業施設などに変わることが目立って多くなってきており、開発事業に伴って行われる今回のような埋蔵文化財の事前調査等の件数も増加してきている。

#### 第2節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡がのっている金川扇状地は、はるか昔の地質時代から長い年月をかけて形成されたものといえるが、この地域で人の暮らしが明確にたどれる1万年余り前には、現在とほぼ同様の状況になっていたと見られる。この金川扇状地にあっては、国分二寺が造営された古代を中心に、相互に関連性をもつような遺跡が比較的濃密に分布する状況は周知のとおりであり、遺跡の面からこの地域に原始古代から中世にかけて継続的に土地利用がなされてきたことが指摘される。

ここで周辺の遺跡の状況について時代を追って概観しておくと、旧石器時代から縄文時代にかけては、金川扇状地(特に右岸側)の標高360~380m前後と東方、京戸川扇状地の標高440~450m辺りとに分布が見られる。本遺跡も含まれる前者では、国分寺西遺跡、国分寺南遺跡、豆塚遺跡、北堀遺跡などがあり、後者は釈迦堂遺跡群に相当する。

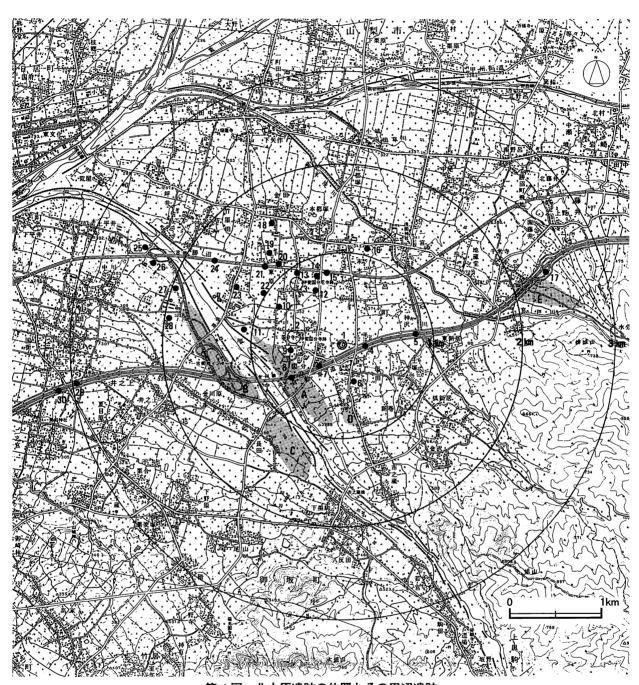
続く弥生時代から古墳時代にかけては、本遺跡に隣接する塩田地内や国分地内などでも遺物の出土が散見されるが基本的に希薄で、遺跡分布の中心は標高360m前後から下、扇端部に向かっていく傾向が見られる。

古墳時代も後半になると、この周辺には横穴式石室を有す後期古墳が多く築造されるようになる。金川沿岸域の四ッ塚古墳群や長田古墳群、塩田(楽音寺)古墳群、国分築地古墳群など、また京戸川右岸の千米寺古墳群などがそれで、県下でも有数の後期古墳群の集中域として知られる。

7世紀代までの開発形態の限界からか、専ら奥津城としての位置づけが主であった本遺跡の周辺も、つぎの 8世紀以降になると、政治経済的な土地利用がにわかに高まりを見せるような状況になる。すなわち集落遺跡等が増加し、とくに本遺跡の西側 1km内に国分僧寺、国分尼寺の造営が開始され進展する奈良時代末から平安時代半ば過ぎまでは、当地に古代甲斐国の一大拠点たる活況がもたらされたことを物語るように、濃密な遺跡群の分布が確認されている。本遺跡に近接する塩田周辺に限って見ても、笠木地蔵遺跡、北堀遺跡、東新居遺跡などで中央自動車道建設の際の面的な発掘調査により実像の解明が進んでおり、また一宮町教育委員会によって継続的に行われている国分寺周辺地域の調査成果からも、該期における当地方の繁栄ぶりが明らかにされてきている。

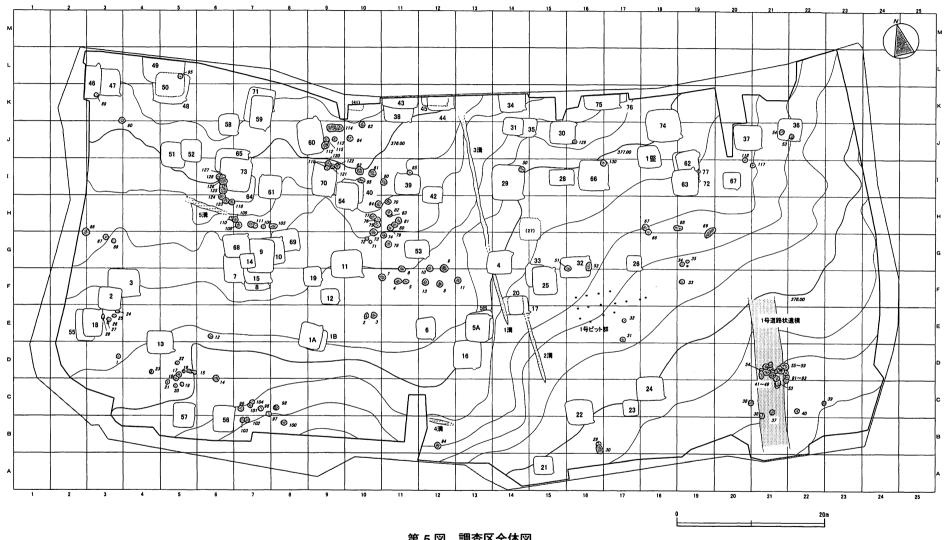
『甲斐国志』は建長 7 (1255) 年に甲斐国分寺の諸堂の焼亡を伝えるが、その少し前から集落遺跡は影を潜めている。しかしそれは周辺に社会的な動きがなくなったということではなく、竪穴住居で構成される従前の形態の集落からの変化を意味すると見られ、実際断片的ながらもこの周辺一帯には中世遺物を出土させる遺跡が、他地域より高い密度で確認されている。それは中世塩田郷に勢を張ったとされる塩田長者の伝説のバックグランドに相当するものと見ることができよう。

以上に見たような遺跡環境にあるが、改めて強調的に確認しておくことは、本遺跡が甲斐国分寺跡の東に直線 距離0.5kmの近接した位置関係にあり、今後も含めて注目のされるところであるということである。



第4図 北中原遺跡の位置とその周辺遺跡

1 北中原遺跡 2 甲斐国分寺跡 3 甲斐国分尼寺跡 4 北堀遺跡 5 東新居遺跡 6 天神原遺跡 8 豆塚遺跡 11経塚古墳 7 笠木地蔵遺跡 9 国分寺南遺跡 10松原遺跡 12竜ノ木遺跡 15車地蔵遺跡 13甲斐国分尼寺遺跡 14両ノ木神社遺跡 16鞍掛遺跡 17釈迦堂遺跡 21桜畑遺跡 22矢倉遺跡 18筑前原北遺跡 19筑前原遺跡 20国分尼寺北遺跡 23北大内遺跡 24西田町遺跡 25大原遺跡 26御幸道遺跡 27狐原遺跡 28茶かん遺跡 29姥塚遺跡 30二之宮遺跡 A国分築地古墳群 B四ッ塚古墳群 C長田古墳群 D塩田(楽音寺) 古墳群 E千米寺古墳群



第5図 調査区全体図

# 第3章 調査の方法と層序

#### 第1節 調査区の設定と遺構調査

#### (1)調査区設定

今回の北中原遺跡の発掘調査では、東八代郡一宮町塩田字北中原585番地の約6,000㎡の全面を対象に本調査事業が実施された。

調査の原因となった県営住宅の建設計画は、敷地の中にRC5階建での30戸棟および20戸棟の2棟を建て、その周囲に駐車場その他の外構施設を配置する内容であった。建築自体が補助事業で認可事業期間内に工事工程の確保をする必要から、初年度に30戸棟一棟分の建築に必要な範囲約1,000㎡を調査し、終了後は直ちに1棟目の建築工事側に引き渡し、翌年度には建築工事と並行しながら、残り5,000㎡を調査するという行程がとられ、その年度割りの調査区設定は第6図のとおりとなっている。

#### (2) グリッド配置

第 1 次調査の着手段階で、調査対象地全体を見渡して最も効率よい任意の方向を基準に 5 m 方眼のグリッド設定を行い、第 2 次調査でもそれを踏襲した。グリッドには、東西方向に西から東へ 1 から25まで番号付けし、南北方向に南から北へ順に A からMまでのアルファベットを割り当て、それぞれの組み合わせでG-4 あるいはH-15などのようにグリッド名を表示した。

なおこの調査で用いたグリッドは国土座標と整合するものではないが、周辺で調査を進めている一宮町教育委員会では遺跡相互の関係を把握し、ここの調査成果を体系的に見るために国土座標を基準にしたグリッド設定を行っており、本調査の成果もそれらと関連付けできるよう土地区画の測量成果に基づいた座標系を第 6 図の中に示した。

# (3) 遺構調査の方法

遺構調査手順は原則として、重機による表土・耕作土の剥ぎ取りを行い、埋蔵文化財包含層の直上からは人手によって薄く土を削りながら遺構の検出作業を進めた。確認された遺構は、遺構ごとに検出順に遺構番号を付し、遺構内に堆積した土(覆土)の掘下げを行い、遺物の検出や遺構自体の把握につとめた。

遺構図面の作成には、1/20スケールでの平板実測とグリッド杭を基準にした1 m方眼の遺り方実測を併用しているが、カマドの精査などにおいて1/10の、道路状遺構などの広範囲に及ぶ遺構では1/40のスケールによる実測を行っている。また遺構全体図作成においては、複雑な調査行程のためその都度1/100スケールで遺構平面の記録を進め、併せて2.5 m メッシュで遺構面のレベル記録を行った。現地調査終了の段階で数枚に別れたこれらの実測図を集成し、20cm間隔のコンターを描き起こして、全体図としている。

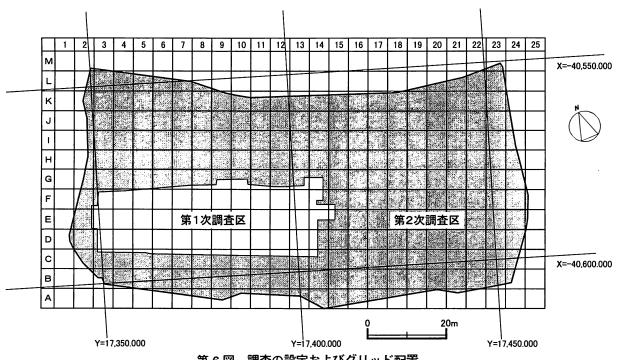
空中写真撮影は、初年度の終了段階に実施しているが、2年次は2棟の団地建物を建てながらの調査であった ため、実施を見送り、建築中の建物の最上部などからの撮影により、欠を若干なりとも埋めるよう留意した。

なお、竪穴住居跡の調査については、一般的な調査の進め方のほか、とくに調査後半段階でのカマド施設の精査でセクション記録を略し、替わりに石組みの見通し図作成に重点を置いているところがある。また住居内に点在した礫やカマド石組みの用材としての礫などは、水洗いし通し番号を付した後、大きさや煤の付着状況などを観察しデータを取るようにしたものもある。

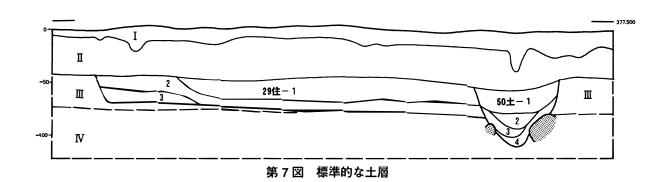
#### 第2節 基本層序

今回調査の実施範囲における埋蔵文化財包含蔵層を含めた標準的な層序は、第7図に例示したような状況であった。同図は、平安期の29号住居跡とそれより新しく掘り込まれた中世の頃の50号土坑にかかる部分の現況地表面からの土層の記録で、図中の I 層は暗褐色土で、常時耕作が及ぶ表土層であり、Ⅱ 層も暗褐色土であるがやや黒味と締まりが増し、十数年あるいはそれ以上の頻度で作物の改植のための深耕や土壌改良のための天地返しなどが及んだ層と見られる。まばらに遺物が混じる。Ⅲ 層は地山の上部にあたる暗黄褐色土で、遺物を含まず、基本的にはこの層の上面が遺構確認面となっている。Ⅳ 層は黄褐色の砂質土で、大小の礫が多く混じる、地山の基盤をなす土層である。調査期間中に、工事引き渡し後の J −13グリッド周辺で、合併処理槽埋設のための掘削工事の際の観察では、表土下3 m余りのところまで礫が大型化するものの同様な扇状地に普遍的な堆積が確認された。

なお、Ⅱ層とⅢ層の間には、縄文遺物を包含する暗褐色土層がH-22グリッド周辺で、平安時代遺物を包含する暗褐色土層がH-15グリッド周辺などで、中近世遺物を包含する暗黒褐色土層がK-12グリッド周辺でそれぞれ部分的に確認されている。また、Ⅲ層とⅣ層の境界は数十cmの幅で上下の変化が有り、高いところではⅣ層が直に竪穴住居跡の床面や遺構確認面にまで露頭する状況も見られるが、この集落跡の構成を考える上での参考とするため、Ⅳ層の露頭が確認される範囲を第8図に模式的に示した。



第6図 調査の設定およびグリッド配置



第8図 地山礫露頭状況見取図

# 第4章 発見された遺構と遺物

ここでは今回の2年次にわたる北中原遺跡の発掘調査の中で確認された遺構と遺物について報告する。

調査の結果、発見された遺構は、竪穴住居跡(平安時代)77、土坑(縄文、平安〜中世)131、特殊小坑(平安時代)3、竪穴遺構(平安〜中世)1、柱穴群(平安〜中世)1、溝跡(中世)5、道路状遺構(中世)1、集石土坑(縄文時代)1、遺物集中区(縄文時代)1などがあった。以下、遺構の種別ごとにその出土遺物も合わせ見ていく。

## 第1節 遺構と遺構に伴う遺物

#### (1) 竪穴住居跡

第1次調査で22軒、第2次調査で55軒、合わせて77軒の竪穴住居跡が確認された。いずれも平安時代の半ば頃を中心とするもので、多くが内部施設として石組みカマドをもっているものである。それぞれの住居ごとに、発見の状況や重複関係、形状・規模や施設、出土遺物などについて、項目立てて説明する。

#### 1 A号住居跡(遺構:第9図、遺物:第43図・第76図1)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $D-8\cdot D-9\cdot E-8\cdot E-9$  グリッドに位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 1 軒の住居跡として調査を進めたが、途中から同位置で1B号住居跡と重複するものと判明し、その前後関係は1B号(旧)→1A号(新)と理解された。
- (形状) やや歪んだ隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.5m×南北4.1m。床面までの深さは南壁で28cm、北壁で10cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.57 mを測る。南側半分ほどに撹乱を受けているほかは、貼り床も確認され、全体的によく踏み固められている。
- (施設) 壁溝、柱穴などは確認されていない。カマドは、北壁の中央よりやや東寄りに付設される。石組みカマドで、袖石が部分的に遺存している。
- (遺物) 土師器で坏(1・2)、高足高台付坏(3)、小型甕(4)、甕系鉢(5) および羽釜(6) などがある。

#### 1 B号住居跡(遺構:第9図)

- (概要) 調査区の中央部西寄りで、1 A号住居跡とほぼ同位置に、東に1 mほど偏して確認された竪穴住居跡である。
- (重複) 1 A 号住居跡と重複し、1 A 号に切られている。
- (形状) やや歪んだ隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.1 m×南北3.5 m。床面までの深さは南壁で28cm、北壁で10cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.60mを測る。大部分 1 A号住居跡に切られているが、東辺部寄りで比較的良好な床が 1 A号より若干高めのレベルで確認されている。
- (施設) 壁溝、柱穴などは確認されていない。カマドも1A号住居跡と重複する関係か確認されなかった。
- (遺物) 土師器片などが若干見られたが、図示できるものはかった。

#### 2号住居跡(遺構:第9図、遺物:第43図・第80図1・30)

- (概要) 調査区の南西、E-3からF-3グリッドにかけ位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 3号住居跡と重複し、関係は3号(旧)→2号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.3 m×南北3.3 m。床面までの深さは南壁、北壁ともに30cmほどであった。
- (床面) 床面標高は376.57 m。比較的平坦で、よく踏み固められている。竪穴内南側で、床面よりやや浮いた状態で、20cm内外の礫が点在していた。
- (施設)壁溝はない。南西隅に寄ったところに深さ20cmほどの小土坑が見られた。カマドは南東コーナーに付設されていた。石組みカマドで、部分的に解体され、用材の礫を積み上げた状況が観察される。積まれた礫の下部には、左右の一部の袖石が原位置を保っており、焚き口部での幅は40cm程度と推定された。
- (遺物) 土師器が主で、坏(1~3·5~9)、皿(4)、甕(10~14) および羽釜(15) などが見られた。また 鉄製品で刀子(第80図1)、釘(同図30) があった。

#### 3号住居跡(遺構:第9図、遺物:第43図)

- (概要) 調査区の南西、 $F-3 \cdot F-4$  グリッドに位置する。
- (重複) 2号住居跡と重複し、関係は3号(旧)→2号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.5m×南北3.5m、床面までの深さは南壁で32cm、北壁で23cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.57 m。貼床が確認されている。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。石組みカマド
- (遺物) 土師器で坏(1・2・5)、皿(4・6)、高足高台付坏(3)、および羽釜(7) などがある。

#### 4号住居跡(遺構:第10図、遺物:第44・45図・第80図3)

- (概要) 調査区の中央部、 $F-13 \cdot F-14 \cdot G-13 \cdot G-14$ グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.5m×南北3.6m、床面までの深さは南壁で33cm、北壁で17cmを測る。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北東コーナーに付設される。石組みカマドで左右の並びが確認され、焚き口部での幅は35cmほどである。
- (遺物) 土師器で坏 (1~20)、羽釜 (21) などのほか、甕 (22~24) がある。このうち土師器の坏の19・20は 墨書が見られ、19は体部外面に正位で「有」と読める。20は判読困難であるが、体部外面に逆位で記せ られたものと見られる。ほかに第80図3に示した鉄製品(釘か)がある。

#### 5 A・5 B号住居跡(遺構:第10図、遺物:第45図・第80図28)

- (概要) 調査区の中央部南寄り、E-13グリッドに位置し、ほぼ同じ位置に主軸をやや異にして 2 軒の竪穴住居 跡が存在する。撹乱等により確認が容易でなかったため、調査中は明確でなかったが、平面形やカマド 位置などの検討により 2 軒重複と理解された。
- (重複) 16号住居跡と重複し、関係は古い方から新しいものへ16号→5B号→5A号となっている。
- (形状)ともに隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 5 A号住居の方が東西2.8m(推定)×南北3.5m、5 B号は東に0.8m寄って軸方向を西に振った状況だが規模は5 A号とほぼ同じくらいで、東西3.0m(推定)×南北3.7mと見られる。床面までの深さは、ともに南壁で10cm、北壁で17cm程度となっている。
- (床面) 床面標高は、ほぼ同じで376.82m。貼床・硬化面は良好に観察されていない。
- (施設) カマドは、 5 A号住居跡については東壁北寄りに付設される。石組みカマドと見られるが、残存状態はよくなく、右袖の一部の石が残るのみである。また 5 B号のカマドは不明だが 5 A号と同じ辺りとも見られる。
- (遺物) 土師器で皿(1 ~ 3)、坏(4)、高足高台付坏(5)、甕(6 · 7) などのほか、鍋と考えられるもの (8) が見られた。以上の図化されたものは、いずれも 5 A 号住居跡に帰属する。なお 5 B 号住居跡で は、第80図28に示した刀子が 1 点、東壁際の覆土上部より出土している。

# 6号住居跡(遺構:第10図、遺物:第45図・第80図 2・4)

- (概要)調査区の中央部南寄り、E-11・E-12グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.0m×南北3.2m、床面までの深さは南壁で13cm、北壁で5cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.75m。東半分に畑灌用送水パイプ埋設による錯乱があるなど状態はよくない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。石組みカマドの可能性が考えられるが全壊に近い。
- (遺物) 土師器で坏(1~3)と、甕系鉢(4)がある。また第80図2の刀子、4の釘も見られた。

# 7号住居跡(遺構:第11図、遺物:第46図・第76図2)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $F-6 \cdot F-7 \cdot G-6 \cdot G-7$ グリッドに位置する。
- (重複) 8号、14号、15号、68号の各住居跡と切り合っている。8号より新しく、その外のものに先行する。

- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.3 m (推定) ×南北3.8 m 、床面までの深さは、調査時期と状況が異なるが、南壁で30cm 、北壁で15cmとなっている。
- (床面) 床面標高は376.23 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南壁の東寄りに付設される。石組みカマドであったと思われるが、原位置を保つ袖石等は残らない。
- (遺物) 土師器で坏(1~3)、高足高台付坏(4)、甕(7・8) などのほか、転用硯かと見られる須恵器の甕の体部破片(6)、灰釉陶器の椀(5) があった。1の坏には、体部外面に逆位で「親」と判読される 墨書が見られた。ほかに第76図2の丸瓦片が出土している。

#### 8号住居跡(遺構:第11図、遺物:第46図・第76図3~4・第80図6・第81図9)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、F-7グリッドに位置する。
- (重複) 7号、15号住居跡などと切り合っていて、本住居が先行する。
- (形状) 長方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.0m×南北1.5m以上、床面までの深さは南壁で35cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.34 m。貼床が部分的に確認されている。
- (施設) カマドは東壁の南寄りに付設される。石組みカマドだが解体が進み、左袖石を一つ残すのみである。
- (遺物) 土師器で坏(1~4)、高足高台付坏(5)、甑(6)、甕(7)、甕系鉢(8) などが見られた。このほか覆土内より北宋銭の熈寧元寳が1点出土している。また平瓦片や鉄製品(鎌) などもある。

#### 9号住居跡(遺構:第11図、遺物:第46図・第81図15)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $F-7 \cdot F-8 \cdot G-7 \cdot G-8$  グリッドに位置する。
- (重複) 10号、14号、15号、68号住居跡などと重複関係をもち、最も新しい。
- (形状) 長方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.0 m×南北4.8 m、床面までの深さは南壁で35cm、北壁で20cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.20m。重複の関係で、貼床としての状況が確認されている。
- (施設) カマドは西壁の北寄りに付設される。焼土の堆積が確認されたのみで、石組みかどうかも明確にしえない。
- (遺物) 土師器が主で、坏 (1~3) と、皿 (4)、甕 (5)、甕系鉢 (6·7) などがある。また覆土内より北 宋銭の至和通寳が1点出土している (第81図15)。

#### 10号住居跡(遺構:第12図、遺物:第47図)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $G-7\cdot G-8$  グリッドに位置する。
- (重複) 9号、14号、69号住居跡などと重複関係をもち、9号、14号より古く、69号より新しい。
- (形状) 長方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.0m×南北3.5m、床面までの深さは南壁で35cm、北壁で20cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.15m。貼床は明確でないが、中央部で硬化が確認されている。
- (施設) カマドは東北コーナーに付設された石組みカマドで、両側の袖石の並びがよく残る。焚き口部の幅は35 cmを測る。焚き口部の中ほどに支脚かと見られる小礫が置かれていた。
- (遺物) 土師器で坏(1~3)、高足高台付坏である可能性が高い皿(4)、羽釜(6) などのほか、灰釉陶器の椀(5) が見られた。

#### 11号住居跡(遺構:第12図、遺物:第47図・第76図 5)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $F-9 \cdot F-10 \cdot G-9 \cdot G-10$ グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.1 m×南北3.7 m、床面までの深さは南壁で23cm、北壁で16cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.37 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。石組みカマドであったが、解体が進み両側の袖石の一、二を残す 程度であった。

(遺物) 土師器で坏(1~3)と、甕(4)がある。ほかに丸瓦片(第76図 5) もある。

#### 12号住居跡(遺構:第12図、遺物:第47図・第81図5)

- (概要)調査区の中央部西寄り、F-9グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.9m×南北2.3m、床面までの深さは南壁で22cm、北壁で21cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.54 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁の南寄りに付設される。カマド構造は石組みによると思われるが、解体が進んでおり、本来の構造を残していない。
- (遺物) 土師器で坏 (1~3) と第81図5の鉄滓が見られた。

#### 13号住居跡(遺構:第13図、遺物:第47・48図・第81図 4 ・第82図 1 )

- (概要) 調査区の南西、 $D-4\cdot D-5\cdot E-4\cdot E-5$ グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はないが、南東側に土坑 (16号土坑他) が集中して存在する。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.0m×南北2.7m、床面までの深さは南壁で26cm、北壁で17cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.55 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏 (1~5)、皿 (6·7)、壷かと見られるもの (8)、甕 (10~12)、小型甕 (13) があり、 灰釉陶器の椀 (9) も見られた。また第81図 4 に示した碗形の鉄滓も出土している。

#### 14号住居跡(遺構:第13図、遺物:第48図)

- (概要)調査区の中央部西寄り、G-7グリッドに位置する。
- (重複) 7、9、15号住居跡などと重複関係をもち、7・15号より新しく、9号より古い。
- (形状)長方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西1.8m (推定) ×南北2.0m、床面までの深さは、周囲すべて他の住居跡と重複しており、セクション観察での数値であるが、東壁で20cm程度である。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東北コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1~4) が見られた。

#### 15号住居跡(遺構:第13図、遺物:第48図)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $F-7 \cdot F-8 \cdot G-7 \cdot G-8$  グリッドに位置する。
- (重複) 7・9・10・14号住居跡などと重複し、10号より新しく、7・9・14号より古い。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.0m以上×南北3.4m (推定)、床面までの深さは東壁カマド付近で35cmとなっている。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東南コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1~5)、高足高台付坏(6・7)のほか、灰釉陶器の椀(8)が見られた。

#### 16号住居跡(遺構:第14図、遺物:第48図)

- (概要)調査区の中央部南寄り、D-13グリッドに位置する。
- (重複) 5号住居跡と重複し、16号(旧)→5号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.3m×南北3.9m、床面までの深さは南壁で9cm程度と全体に浅い。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーから付設される。
- (遺物) 土師器で皿 (1・2)、高足高台付坏 (3) がある。

# 17号住居跡(遺構:第14図、遺物:第49図)

- (概要)調査区の中央部南寄り、E-14・F-14グリッドに位置する。
- (重複) 20号住居跡と重複し、20号 (旧) →17号 (新) である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.0m×南北2.8m、床面までの深さは南壁で35cm、北壁で20cmを測る。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。石組カマドと見られるが残りはよくない。
- (遺物) 土師器で坏(1 · 2 · 5 ~ 7)、皿 (3 · 4)、小型甕 (11)、羽釜 (9 · 10)、甕 (12 · 13)、須恵器の甕 (8) などが見られた。

#### 18号住居跡(遺構:第14図、遺物:第49図)

- (概要)調査区の西端、E-3グリッドに位置する。
- (重複) 55号住居跡と重複し、55号(旧)→18号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.7m×南北4.0m、床面までの深さは南壁で29cm、北壁で24cmを測る。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北東コーナーから付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1・2)、皿(3・4)、高台をもつ坏系鉢(5)、甕(6・7) がある。

#### 19号住居跡(遺構:第15図、遺物:第50図)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、F-8・F-9グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.3m×南北2.5m、床面までの深さは南壁で36cm、北壁で20cmを測る。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁の中央部やや南寄りに付設される。石組の残りはよくない。
- (遺物) 土師器で坏(1・2)のほか、灰釉陶器の長頸瓶(3)と思われるものの底部が見られた。

# 20号住居跡(遺構:第14図)

- (概要)調査区の中央部南寄り、 $E-14 \cdot F-14$ グリッドに位置する。
- (重複) 17号住居跡と重複し、20号 (旧) →17号 (新) である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.7 m (推定) ×南北2.5 m、床面までの深さは17号住居跡の下部で10cm前後である。
- (床面) 貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは確認されなかった。
- (遺物) 少量で、図示されるものはない。

# 21号住居跡(遺構:第15図、遺物:第50図)

- (概要) 調査区の南寄り、A-15グリッドに位置する竪穴住居跡である。すべての住居跡の中で最も南に位置し、 遺跡立地からしてこの住居の本来の周辺生活面の標高はもっと高かったと見られるが、結果的に削平が 激しく、残存状況はかなり悪い。なお、本住居跡以降は2年次め('94年)の調査によるものである。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、残存部は浅いが本来は箱形の断面形状を呈したものと思われる。
- (規模) 東西2.9m×南北2.7m。床面までの深さは南壁で12cm、北壁で4cmを測る。
- (床面) 床面標高は377.94m。南西側に床面に達する撹乱が見られる。全般に地山の礫の露頭が見られ、踏み固めの状況も弱い。
- (施設) カマドは、南東コーナー付近に付設される。残存状況は悪く、袖石を抜き取った状況が見られることから、両袖石の間が30cm弱となる石組みカマドであったと見られる。
- (遺物) 図示できた遺物に、土師器で坏 (1・2)、皿 (3) がある。

#### 22号住居跡(遺構:第15図、遺物:第50図・第76図6・第82図2)

- (概要) これも調査区の南寄り、B-16・C-16グリッドにあって、残存状況のよくない竪穴住居跡である。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.1 m×南北3.0 m。床面までの深さは南壁で 8 cm、北壁で 4 cmを測る。
- (床面) 床面標高は377.81 m。地山の礫がそこここに露頭しているが、比較的平坦で、周辺部を除いてよく踏み 固められている。竪穴内南側で、床面よりやや浮いた状態で、20cm内外の礫が点在していた。
- (施設) 壁溝はない。南西隅に寄ったところに深さ20cmほどの小土坑が見られた。カマドは南東コーナーに付設される。石組みカマドで、部分的に解体され、用材の礫を積み上げた状況が観察された。
- (遺物) 土師器、瓦、砥石などが検出されている。このうち、図示できたものは、土師器で坏(1~3·5·6)、 皿(4·7·8)、高足高台付坏(10)、坏系鉢(9)、小型甕(11)、甕(12) などがある。瓦は第76図 6に示した平瓦の残欠で、カマド内より、砥石は第82図2のものが北壁寄りの覆土中から出土している。

#### 23号住居跡(遺構:第16図)

- (概要) 調査区の南、C-17グリッドに位置する。調査段階では住居跡として進めたが、直接に伴う遺物が認められないので、確実なことはいえないものの、平安時代の竪穴住居とは周壁の立ち上がり方などにおいて若干様相を異にし、形態等から平安以降の竪穴遺構の可能性も考えられる。
- (重複)他の遺構との重複関係はない。ただし、次に見る24号住居跡が、東側に10cm弱まで近接しており、これ との同時存在はありえず、状況から24号(旧)→23号(新)との前後関係が推察される。
- (形状) 平面形はややくずれた隅丸方形で、断面形状は皿形を呈す。
- (規模) 東西2.9m×南北3.2m。床面までの深さは南壁で8cm、北壁で7cm。
- (床面) 床面標高は378.00 m を測る。貼床は確認されず、ほぼ平坦な床面には、全体的に大小の地山の礫の露頭が見られた。
- (施設) 壁溝や柱穴のほか、カマドも確認されなかった。
- (遺物) 覆土に混入した少量の土師器片のみで、図化し得るものはなかった。

# 24号住居跡(遺構:第16図、遺物:第51図・第80図7)

- (概要)調査区の南東寄り、C-17・C-18・D-17・D-18グリッドに位置する竪穴住居跡である。
- (重複)他の遺構との重複関係はない。ただし、前項でふれたように23号住居跡が西側に近接し、24号(旧)→23号(新)の前後関係が考えられる。
- (形状) 平面形はややくずれた隅丸方形で、断面形状は皿形を呈す。
- (規模) 東西4.4m×南北3.2m、床面までの深さは南壁で15cm、北壁で10cmを測る。
- (床面) 貼床は確認されず、床面には南北に二分するような東西方向の段差が認められ、カマド前付近の床面標高は377.88m、北半部で377.94mとなっている。この段差の前後でかなりの床面硬化が見られる。なおいくつかのピットが認められたが、その性格は特定できなかった。また床面上には、カマド前周辺を中心に大小の礫の投入が観察されている。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られないが、大小のピットが 4 ヵ所確認されている。カマドは南東コーナーに付設された石組みカマドであったと見られるが、残存情況が悪く、左側の袖石 1 つを留めるのみであった。
- (遺物) 土師器で坏(1・2)、皿(3・4)、高足高台付坏(5) や羽釜(8・9)、甕(10) などがあり、灰 釉陶器の椀(7) や輪花椀の破片資料(6) も出土している。7 は完形で、見込み底面に平滑化した範 囲や口縁部に墨痕と思われるものが観察されることなどから、転用硯と理解される。

#### 25号住居跡(遺構:第16図、遺物:第51・52図・第82図 3 ・第80図 8・9)

- (概要) 調査区の中央部南寄り、F-15からG-15グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。床面からやや 浮いて焼土層が一面に覆っていて、火災住居の可能性が見受けられた。
- (重複)西側で33号住居跡と重複し、その関係は33号(旧)→25号(新)である。
- (形状) 歪みのある隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.7~3.1 m×南北4.4 m。床面までの深さは南壁で37cm、北壁では33cmとなっている。
- (床面) 床面標高は376.83 mのカマド前面部と他(床面標高は376.90 m) を画すような形で矩の手状に、24号住居跡と同様な段差が見られた。

- (施設) 壁溝、柱穴およびカマド以外の施設は確認されていない。カマドは、北東コーナーに付設された石組みカマドだが、解体がなされ、両側に袖石が部分的に残る程度であった。
- (遺物) 遺物量は豊富で、住居内全般に散見され、焼土層にあるものは二次的な被熱を受けたと観察されるものも見られた。土師器では坏に外面調整にヘラケズリのあるもの( $1\cdot2\cdot4$ )とないもの( $8\sim19\cdot25$ )が混在し、皿にも前者( $3\cdot7$ )と後者( $20\sim24$ )がある。5 は墨書土器で、体部外面に複数の文字が認められるが、判読困難なものである。 $6\cdot26\cdot27$ についても、いずれも坏の小破片だが墨書が見られる。他に高足高台付坏(28)、小型甕(33)、甕( $32\cdot34$ )などがあった。須恵器には二次的な利用が認められる甕の破片(30)や「壺G」(29)があり、また良質な緑釉陶器椀(31)も覆土焼土層中より出土している。このほか凝灰岩製の砥石 1 点(第82図 3 )、第80図  $8\cdot9$  の鉄鏃等も検出されている。

#### 26号住居跡(遺構:第17図、遺物:第53図・第81図7)

- (概要) 調査区の中央部東寄りの $F-17 \cdot F-18 \cdot G-17 \cdot G-18$ グリッドにかかる位置に確認された、比較的小ぶりの竪穴住居跡である。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.7m×南北2.6m。床面までの深さは南壁、北壁それぞれで28cm程度となっている。
- (床面) 床面標高は377.28mを測る。中央部を中心にさほど強くないが硬化面が確認された。なお、カマド前面の床面上には、間層をほとんど置かない状態で、その形や煤の付着状況などからカマドの芯として用いられていた礫が重なり合うように見られたことが注意された。本住居跡のカマド石組みは、次にも触れる通り解体された状況にないことから、他の竪穴住居跡のものを投入したと見られる。
- (施設) 壁溝や柱穴などは見られない。カマドは東壁の中央部から南寄りに付設された石組みカマドで、前後の 梁石まで残っていて、石組み構造の残存状態はたいへん良好であった。焚き口部での袖石の間隔は内法で45cmとなっている。
- (遺物) 土師器が主で、坏(1~6)および甕(7・8) などがある。ほかに第81図7の石杵も見られた。

#### 27号住居跡

(概要) 調査区のほぼ中央の、G-14・G-15・H-14・H-15グリッドにあって、東西 3 m、南北 4 mの範囲に遺物の分布が認められたため、27号住居跡として調査を進めたが、明確な床面やカマド等が確認されず、また遺物も図化困難な13点ほどの土師器が得られたのみであったため、整理段階の検討により、住居跡でなくゴミ捨て場的な遺物だまりとして扱うこととし、27号は欠番とした。

#### 28号住居跡(遺構:第17図、遺物:第53図)

- (概要) 調査区の中央部北東寄り、 $I-15 \cdot I-16$ グリッドに位置する竪穴住居跡である。調査区を細分した調査行程の関係で、西側 3 分の 1 (94/5月) と東側残り部分 (94/11月) と、二時期に分けて調査した。なお、覆土中にはカマド前を除いて、多量の礫が入っているのが特筆される。礫は人頭大かそれ以上の大きさのものもあるが、拳大までの大きさの石が多く、カマド用材の投げ込みとは様相を異にするように受け止められるものであった。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 東西に長い隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.3m×南北2.4m。床面までの深さは南壁で18cm、北壁で10cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.86m。カマド前から住居中央部にかけて硬化が見られた。
- (施設) 壁溝や柱穴などは見られない。カマドは南東コーナーに付設される。残存状況が良くなく、袖石などは 見られないが、おそらく石組みカマドであったと思われる。煙出し側に露頭した地山の礫が黒くすすけ た状態になっているのが観察された。
- (遺物) 遺物量はそう多くなく、図示しえたものも小片が多い。土師器の坏( $1 \sim 3 \cdot 5$ )、 $\square$  (4) などがそれである。5 は坏の小破片だが、底部外面に墨書が見られる。

#### 29号住居跡(遺構:第17図、遺物:第53図)

(概要) 調査区のほぼ中央部で、H-14から I-14グリッドかけて確認された。本遺跡では大きい部類の竪穴住居跡である。

- (重複) 本住居跡の東北コーナー部に、出土遺物から中世のものと見られる50号土坑が掘り込まれている。また住居内の北西よりの部分に 2 つの、推定径50cmほどの掘り込みが存在した。これらもセクション観察こそできなかったが、内部の礫の詰まり方などから後世の土坑であったと考えられる。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.5m×南北4.9m、床面までの深さは南壁で22cm、北壁で15cmを測る。
- (床面) 床面標高は377.12m。貼床は認められず、平坦な床面は、周辺部を除いて硬化していた。
- (施設) 壁溝や柱穴などは見られない。カマドは南壁の南東コーナーに付設される。石組みカマドで、両側の袖石の配列の遺存が良好であった。両袖石の間隔は、焚き口部で45cm程度と広めである。
- (遺物) 土師器が主で、坏(1)、皿(2~5)、高足高台付坏(6~9)、甕(10~12) などがある。

#### 30号住居跡(遺構:第18図、遺物:第54図・第80図11)

- (概要) 調査区の中央北側、 $J-15 \cdot J-16$ グリッドにまたがって位置する竪穴住居跡で、本住居跡も28号住居跡と同様に94年5月と12月の2回に分けて調査することを余儀なくされたものである。
- (重複) 本住居跡の南東コーナー部に、より新しいと見られる129号土坑が半分重複して存在した。
- (形状) やや東西に長い隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.5m×南北3.3m、床面までの深さは南壁で22cm、北壁で18cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は376.48 m。貼床は見られず、とくに中央部付近が踏み固められていた。住居内の中央やや東寄りの床面直上に、17~8点の人頭大もしくはそれ以上の礫のまとまりが認められた。
- (施設) 壁溝や柱穴などは見られなかった。カマドは北壁の北東コーナーに付設されていた。残存状況は良好でなく、本来は石組みカマドであって、おそらく解体を受けたものと思われる。
- (遺物) 土師器で坏(1)、高足高台付坏(3~5)、坏系鉢(2)、甕(7)があり、灰釉陶器で椀(6)があった。また第80図11の用途不明の鉄製品が、西壁寄りの床面上より出土している。

#### 31号住居跡(遺構:第18図、遺物:第54図・第80図10・第82図4)

- (概要) 調査区中央部の北側、Jー14からKー14グリッドにかけ位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 東壁側において35号住居跡と重複し、関係は35号(旧)→31号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.8m×南北3.0m、床面までの深さは南壁、北壁ともに35cm前後となっている。
- (**床面**) 床面標高は376.18m。薄い貼床が認められた。住居内には床面に接する形で人頭大の礫が点在していた。 なお北壁際の貼床の下部から刀子の先端と柄側が破損したものが検出されている。
- (施設)壁溝や柱穴などは見られない。カマドは南東コーナーに付設される。石組みカマドで、両側の袖石の配列が大変よく遺存していた。丁寧な組み方の袖石には、煤の付着も明瞭に看取された。
- (遺物) 土師器で坏(1~9)、高足高台付坏(10) などのほか、甕(12) と置きカマドの残欠(11) が見られた。また第80図10は、先に見た貼床下部からの刀子である。このほか砂岩製の砥石も 1 点(第82図 4) 検出されている。

# 32号住居跡(遺構:第18図、遺物:第55図)

- (概要) 調査区の中央部東寄り、 $F-15\cdot F-16\cdot G-15\cdot G-16$ グリッドにかけて確認された竪穴住居跡であ 。
- (重複)ほぼ中程で51号土坑と、東壁部分で52号土坑と重複する。どちらも本住居跡より新しい。
- (形状) 東西に長い長方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.2m×南北2.8m、床面までの深さは南壁で16cm、北壁で20cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は377.05 m。西壁寄りで部分的に貼床が確認されている。カマド前の床面上には、40cm大のものを主とする礫がまとまって見られた。
- (施設)壁溝や柱穴などは確認されない。カマドは北東コーナーに付設される。石組みカマドで、両側の袖石が原位置を保っていた。焚き口部での袖石の間隔は内法で30cm程である。
- (遺物) 土師器で坏(1~5)、高足高台付坏(6)、甕(8) があり、灰釉陶器で瓶の破片資料(7) が出土した。

#### 33号住居跡(遺構:第19図、遺物:第55・56図)

- (概要) 調査区中央部やや東寄り、 $F-14 \cdot F-15 \cdot G-14 \cdot G-15$ の各グリッドにかけて存在した竪穴住居跡である。
- (重複) 東側半分近くを25号住居跡に切られている。すなわち重複関係は、33号(旧)→25号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.7m (推定) ×南北3.3m、床面までの深さは南壁で36cm、北壁で34cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.83 m。貼床は認められず、床面の硬化はさほど強くないものであった。
- (施設) カマドは北壁の西寄りに付設されていた。石組みカマドで、両側の袖石がのこり、焚き口部での袖石の間隔は内法で55cmとなっている。カマド内には、土師器甕類を主に遺物が多く、またカマド内のほぼ中央には支脚の役割を果たしていたと見られる立石が存在した。
- (遺物) 土師器が主体で、坏 (1~6)、皿 (7~10)、小型甕 (11·12)、羽釜 (13·14)、甕 (15·16) および 甕系鉢 (17·18) などがあった。10の皿には底部外面に墨書が認められる。

#### 34号住居跡(遺構:第19図、遺物:第56図・第76図7)

- (概要)調査区の中央部北端、K-14グリッドに位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.3m×南北3.0m、床面までの深さは南壁で37cm、北壁で25cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は376.09 m。貼床は見られない。周辺部を除いて硬化が見られた。石組みカマドの用材であったと見られる人頭大前後の大きさの礫が、カマド前と北壁側の床面上にまとまって確認されている。
- (施設) カマドは東壁の南寄りに付設される。石組みカマドで、梁石を失い、左側の袖石も2個程度抜き去られているが、右側には袖石の脇を固める貼り石がよく現状を保っていた。焚き口部の幅は、据え方などから45cm前後と見られる。
- (遺物) いずれも土師器で、坏( $1\sim3$ )、皿( $4\cdot5$ )、坏系鉢( $6\cdot7$ )、羽釜( $8\sim10$ )、甕(11)および置きカマドの破片資料(12)などがある。このうち5の皿は、特異な形態で、見込みに貫通しない2つの小孔が認められるが、他に類例を知らず、用途についても不明である。またカマド内より平瓦片(第76図7)が出土している。

# 35号住居跡(遺構:第19図、遺物:第57図・第82図 5・6)

- (概要) 調査区の中央部北側、J-14からJ-15グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。
- (**重複**) 西側 3 分の 1 近くを31号住居跡に切られている。すなわち重複関係は、35号 (旧) →31号 (新) である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.2m (推定) ×南北3.8m、床面までの深さは南壁で56cm、北壁で35cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.25 m。貼床は確認されず、床面の顕著な硬化も認められなった。カマドの前面に、煤で 黒ずんだ礫が床面直上で2~3点見られた。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られないが、住居の中央東寄りに、径20cm、深さ18cmほどの小ピットが存在したが、性格は不明である。カマドは南東コーナーに付設されていた。残存状況のよくなかったが、おそらく石組みカマドであったと見られる。
- (遺物) 土師器がほとんどで、図示しえたものに坏(1-5)、皿(6)、羽釜(7)および甕( $8\cdot9\cdot10$ )などがある。このほか砂岩製の砥石も 2 点(第82図  $5\cdot6$ )検出されている。

# 36号住居跡(遺構:第20図、遺物:第57図)

- (概要) 調査区の東北端、J-21・J-22・K-21・K-22グリッドに位置する。全体的に激しく削平を受け、 果樹の苗の植え込み用の穴による撹乱もあったりして、たいへん残存状況が悪い竪穴住居跡であった。 とりわけ西半は削平の影響が床面まで達している。
- (重複) 2つの土坑が重複する。いずれも本住居跡より新しい。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.3 m (推定) ×南北2.9 m 、床面までの深さは南壁で13cm、北壁では数cm程度となる。
- (床面) 床面標高は377.60 m。床面の遺存状態は悪く、硬化面の分布などは確認しえなかった。住居周辺が地山

- の礫の露頭する範囲に当たっており、生活時の床面にも礫の露頭があったと推定される状況である。
- (施設) 壁溝、柱穴などは存在しなかったと見られる。カマドは南東コーナーに付設され石組みカマドであったが、袖石が押し倒されているような状況が見受けられる。本来は焚き口の幅45cm前後の規模の石組みカマドであったと推定される。
- (遺物) カマド内とその前面周辺からの出土で、図示しえたものとして、土師器の坏( $1 \sim 3$ )、 $\square$  (4) などがある。

#### 37号住居跡(遺構:第20図、遺物:第57図)

- (概要)調査区東北部、J-20からJ-21グリッドにかけ位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 他の遺構との重複関係は見られない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.0m×南北3.1m、床面までの深さは南壁で25cm、北壁で17cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は377.08m。周辺部を除いて良好な床面が形成されていた。床面上には、カマド前を中心に、カマド用材であったと見られる礫が散乱していた。
- (施設) 壁溝、柱穴などは確認されない。カマドは南東コーナーに付設される。焚き口側に礫が積まれるなど、ある程度解体の進んだものではあるが、左右の袖石列のほか煙出し側の梁石も 1 つほぼ現状を留めるなど、比較的遺存の良好な石組みの状況が確認された。焚き口部での幅は30cmほどである。
- (遺物) 土師器の坏 (1・2)、皿 (3・4)、小型甕 (5)、甕 (6) などがある。

#### 38号住居跡(遺構:第20図、遺物:第58図)

- (概要)調査区の中央部北端、J-11からK-11グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 北側に43号住居跡が重複し、新旧関係は38号(旧)→43号(新)である。
- (形状) いくぶん東西に長い隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形であった。
- (規模) 東西3.7m×南北2.9m (推定)、床面までの深さは東壁で23cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.63 m。基本的に貼床は確認されず、床面の硬化もさほど強くはない。カマド前面に径 1 m余り、深さ30cmほどの掘り込みがあり、長さ約70cmの石が埋め込まれた状態になっていたが、竪穴住居跡の構築時に邪魔な大石を埋め込んで処理したものかと推察される。
- (施設) 壁溝、柱穴などは見られない。カマドは東壁の南東コーナー寄りに付設されていた。石組みカマドと推定されるが、石組みはほとんど原形を留めない。
- (遺物) 土師器で坏(1~7·9)、皿(8)、坏系鉢(10)、甕(16~18) などがあり、9の坏の小片には体部 外面に正位で墨書が見られる。須恵器はいずれも破片で坏(11)、「壺G」(12) がある。さらに、灰釉 陶器の皿(13) および瓶(14) や緑釉陶器の輪花皿(15) も出土している。

#### 39号住居跡(遺構:第21図、遺物:第58~59図・第76図8・第82図7)

- (概要)調査区の中央部北寄り、I-11からI-12グリッドにかけて確認された竪穴住居跡である。
- (重複) 住居の北辺中央に、より新しい65号土坑が重複している。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.7m×南北3.2m、床面までの深さは南壁で36cm、北壁で35cmを測る。
- **(床面)**床面標高は375.85m。貼床が認められ、床面はほぼ平坦で、壁際を除き硬化していた。
- (施設) 壁溝、柱穴などは認められなったが、南辺中央付近によって径約80cm、深さ20cm弱の皿上の掘り込みが存在した。カマドは北壁に2ヵ所確認された。便宜上、西側隅寄りに付設されたものをAカマド、北壁のほぼ中央に確認されたものをBカマドとした。後者は65号土坑が掘り込まれている影響もあってか、若干の焼土が認められた程度で、遺物も伴わない。このため、両者の前後関係は断定できないが、状況から後者から前者に造り替えられたのではないかと見られる。前者のAカマドは石組みカマドであったと見られるが、残存状況はよくない。
- (遺物) 土師器で坏 (1~5)、皿 (6)、小型甕 (9)、甕系鉢 (10)、甕 (11~14) など、須恵器で坏 (7)、 灰釉陶器の瓶 (8) などが見られ、また第76図 8 に示した丸瓦の破片や第82図 7 に示した緑色凝灰岩製 の砥石も覆土中より出土している。

#### 40号住居跡(遺構:第21図、遺物:第59図・第82図8)

- (概要) 調査区の中央部北西寄りで、H-9・H-10・I-9・I-10の各グリッドにかけて位置する竪穴住居 跡である。
- (重複) 西半で54号住居跡と重複し、関係は40号(旧)→54号(新)である。また北辺のカマド付近では、85号 土坑も本住居跡を切り込む形で重複している。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.1 m×南北2.9 m、床面までの深さは南壁で47cm、北壁で41cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は375.68m。貼床は確認されず、床面の硬化もさほど強くはなかった。床面上にはやや浮いた 状態で、大小の礫が点在している。
- (施設)壁溝、柱穴は見られない。カマドは北壁の中央やや東寄りに付設されていた。カマドに差しかかって85号土坑が掘り込まれていることもあるが、左側に袖石と思われる石が1点検出されたのみで、石組みカマドのかなり解体が進んだものではなかったかと見られる。
- (遺物) 土師器の坏 (1~5)、須恵器の坏 (7) と坏蓋 (6)、「壷G」(8) などがある。土師器の1~4はいずれも墨書を有する坏で、1は底部外面に「三」が、2は「大」が底部外面に、3は「有」と判読されるものが底部外面に、4は体部外面に「行」かと判読されるものが逆位で、それぞれ墨書されている。なお3の坏には見込みに漆らしい付着物が目につく。これら4点の墨書土器のうち、1が北西隅、2が北東隅、3が南東隅寄りの、それぞれ壁際床面上に上向きで出土した、完形ないしはほぼ完形に近いものであり、この3点の在り方は住居の廃絶行為と結びついたものではないかと考えられるものである。須恵器の坏身と坏蓋は前者の方が口径が大きく組み合うものではない。また8はいわゆる壷Gの口縁と底部を欠いた残欠だが、カマド前面から出土した5片が接合したものである。このほか花崗岩製の砥石も1点(第82図8)検出されている。

#### 41号住居跡

(概要) 調査区の北側、K-10グリッドにおいて、その一部を確認したもので、大部分が調査区外に続く。調査 段階で住居跡として進めたものの、床面がたいへん不安定で、直接的な遺物も見られないことなどから、 最終的には竪穴住居跡ではない可能性が高いと判断される。

#### 42号住居跡(遺構:第21図、遺物:第60図)

- (概要)調査区の中央部北寄り、H-12・I-12グリッドに位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.3 m×南北3.0 m、床面までの深さは南壁で26cm、北壁で24cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.12m。貼床は見られない。床面はほぼ平坦で、さほど強くないが硬化が認められた。住居のほぼ中央にひときわ大きな礫が床面上に転じていたほか、南半にいくつか礫が点在している。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは南東コーナーに造られた石組みカマドで、両側の袖石の並びが残るが、解体の影響か、使用時のままとは言い難い状況にある。焚き口部での幅は40cm前後になる。
- (遺物)土師器が中心で、坏(1~9)、Ⅲ(10~13)、小型甕(14・15)、甕(16・17)などがある。

#### 43号住居跡(遺構:第22図、遺物:第60図・第82図10)

- (概要)調査区の中央部の北端で、K −11グリッドに位置する竪穴住居跡で、北側半分程が調査区外になる。
- (重複)38号住居跡と重複しており、土層観察により新旧関係は、38号(旧)→43号(新)である。
- (形状) 南半を調査したのみであるが、隅丸方形の平面形を取るものと見られる。断面形状は箱形。
- (規模) 東西2.9 m×南北1.2 m以上。床面までの深さは南壁で14cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.50mで重複する38号住居跡に比して10cm余り深い。南西側で地山の礫が床面上に露頭しているもののほぼ平坦で、安定された床面が形成されていたが、貼床は観察されなかった。床面に接するように、中央やや西寄りとカマド前面に長さ50cm前後の石があり、また人頭大の礫が両者の中間にまとまって見られた。人頭大の礫の集中の周りには炭が多く散っていたのが注意された。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは南東コーナーに付設される石組みカマドであるが、かなり解体が進み、右側の袖石が1つ残る程度であった。
- (遺物)出土点数はそう多くなく、図示できた遺物としては、土師器の坏(1)、甕(4)のほか、灰釉陶器の

椀(2)、瓶(3) などで、いずれも覆土中からの破片資料である。また砂岩製の砥石(第82図10)も見られた。

#### 44号住居跡(遺構:第22図、遺物:第61~62図・第80図12・13)

- (概要) 調査区の中央部の北端、K-12グリッドに位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 北西側に 1 m程度ずれて45号住居跡が重複しており、土層観察から44号(旧)→45号(新)の切り合いが確認された。
- (形状) 南半のみ確認であるが、隅丸方形の平面形を有し、断面形状は箱形を呈すものと見られる。
- (規模) 東西3.1 m×南北1.5 m以上、床面までの深さは南壁で39cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は375.55 m。 さほど強くないがカマド前を中心に硬化が認められた。45号住居跡との切り合いの関係もあって明確にはとらえきれなかったが、土層観察によるとカマド周辺に比べて 7 cmほど西側が高い、24・25号住居跡などで確認されたような段差が認められる。また床面上にはいくつか礫の点在が見られた。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは、石組みカマドで、東壁の南東コーナー寄りに付設されている。焚き口側の梁石を失う程度で、比較的良好な遺存状態である。焚き口部の幅は約40cmとなっている。右側の袖には、34号住居跡の場合と同様なカマド脇を固める貼り石が設けられている。
- (遺物) 遺物量は豊富で、図示できたものだけでも38点になる。このうち土師器では、坏 (1~11·13~18·24~27)、皿 (12·19~23)、高足高台付坏 (28~31)、羽釜 (35)、甕 (36~38) などがあり、灰釉陶器で椀 (32)、瓶 (33·34) などがある。このうち土師器の坏の24~27の 4点は、いずれも細片で判読困難だが、墨書が確認されるものである。また32の椀の見込みに、擦って平滑になった範囲が認められる。33の瓶は体部下半の大型破片で、そのまま火にかけ、鍋として再利用したような状況が観察される。このほか、第80図12に示した刀子、同図13の釘などの鉄製品の出土も見られた。

#### 45号住居跡(遺構:第22図、遺物:第62図・第76図9・第82図9・第81図1)

- (概要) 調査区の中央部の北端、K-12グリッドに位置し、北側の大部分は調査区外になる竪穴住居跡である。
- (重複) あとから南西側に寄って設営された44号住居跡と重複している。
- (形状) これも南半のみ確認であるが、隅丸方形の平面形を有し、断面形状は箱形を呈すものと見られる。
- (規模) 東西3.4m×南北1.2m以上、床面までの深さは南壁で42cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.45 m で、重複する44号住居跡のカマド側床面に比べ10cmほど低い。貼床は確認されず、 床面の硬化もさほど強くはなかった。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは南東コーナーに付設されていた。44号住居跡との切り合いの関係により、たいへん残りが悪い。
- (遺物) 土師器が主で、坏 (1~9·13~15)、皿 (10~12)、小型甕 (16)、甕 (17·18) などがある。このうち土師器の坏の13~15の3点は墨書土器で、13は体部外面に倒位で「而」と読める。他は細片で判読困難であるが、体部外面に逆位に記されたものと見られる。またこのほか丸瓦の破片1点(第76図9)と砂岩製の砥石1点(第82図9)、フイゴの羽口(第81図1)も検出された。

#### 46号住居跡(遺構:第23図、遺物:第63図)

- (概要) 調査区の西北端、K-3からL-3グリッドにかけて確認された竪穴住居跡である。西側の大半は調査 区外に及んでいる。
- (重複)東辺で47号住居跡と重複し、関係は47号(旧)→46号(新)で、さらに89号土坑と重複する。
- (形状) 東半のみ確認であるが、隅丸方形の平面形を有し、断面形状は箱形を呈すものと見られる。
- (規模) 東西1.6m以上×南北4.3m、床面までの深さは南壁で39cm、北壁で20cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.46m。貼床は認められず、床面の硬化もさほど強くはなかった。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは北壁の北東コーナー寄りに付設される。焚き口側の梁石を失う程度の、やや良好な遺存状態の石組みカマドであった。焚き口部の幅は23cmで比較的狭く、煙出し側に細長く伸びる構造となっている。
- (遺物) 出土点数は少なく、図示できた遺物も土師器の坏(1)と皿(2)のみで、いずれもカマド内からの出土である。

# 47号住居跡(遺構:第23図、遺物:第63図・第83図11)

- (概要)調査区の西北、K-3・L-3グリッドに位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 西側に46号住居跡が重複していて、この住居跡に切られている。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.4m×南北3.1m、床面までの深さは南壁で23cm、北壁で20cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.53 m で、切り合い関係にある46号住居跡に比べて 7 cmほど高くなっている。床面は平坦で、周辺部以外は硬化が認められている。住居の中ほどに径75~65cm、深さ40cmの掘り込みがあり、上面が平坦な長さ45cmの平石が床面から 2~3 cm出る程度に水平に据えられ、平石の周りには貼り床が形成されていたのが注目される。礎石と理解することも可能だが、状況的に見て工作台的な性格を優先して考えたい。
- (施設) 壁溝、柱穴等は見られない。カマドは南東コーナーに付設された石組みカマドで、両側の袖石の並びを 残していた。焚き口部の幅は40cmである。
- (遺物) 土師器の坏 (1 ~ 4)、皿 (5 · 6)、高足高台付坏 (7)、甕 (8 ~ 9) があり、砂岩製の砥石 (第83 図11) も出土している。

#### 48号住居跡(遺構:第24図、遺物:第63図・第76図10・第77図11・第80図14)

- (概要) 調査区の北西、 $K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5$  グリッドに位置する。
- (**重複**) 49号・50号住居跡と重複し、関係は古い順に50号→48号→49号である。またさらに95号土坑が北壁東寄りに重複するが、土坑がより新しい。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西5.6m×南北3.9m、床面までの深さは南壁で40cm、北壁で30cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.30m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは 2 ヶ所確認され、双方共に石組みカマドで、南西コーナー、南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏 (1)、羽釜 (2) などがともにBカマドに見られた。土師器の坏には、見込みに刻書があり、「女」と見られる文字ではないかと思われる。ほかに瓦および釘かと見られる鉄製品がある。

#### 49号住居跡(遺構:第24図、遺物:第63図・第80図15)

- (概要)調査区の北西、L-45グリッドに位置する。
- (重複) 48号・50号住居跡と重複し、48号・50号の両住居跡より新しい。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西6.0m×南北2.8m以上、床面までの深さは南壁で35cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.30m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。またカマドも確認されなかった。
- (遺物) 土師器で坏(1)、坏と見られる土器(2) はともに墨書土器で、判読困難ではあるが1は底部外面に、2は体部外面に墨書が認められる。また第80図15の釘も出土している。

#### 50号住居跡(遺構:第24図、遺物:第64図・第77図12)

- (概要)調査区の北西、 $K-4\cdot K-5\cdot L-4\cdot L-5$  グリッドに位置し、48号住居跡の下部に確認された竪穴住居跡である。
- (重複) 48号・49号住居跡と重複し、関係は古い順に50号→48号→49号である。また95号土坑が住居床面を掘り 抜いて存在する。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西 $3.5\,\mathrm{m}$  ×南北 $3.1\,\mathrm{m}$ 。床面までの深さは、確認面である48号住居跡の床面からの計測で、 $20\,\mathrm{cm}$  となっている。
- (床面) 床面標高は375.10m。貼床はほとんど見られることなく、中央部を中心にそれほど強くない硬化面が確認されている。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは東壁のほぼ中央に付設される。残存状況は不良で、構造等は不明。
- (**遺物**) 土師器で坏 (1~9)、甕 (10) が見られた。このうち 1 · 2 は墨書土器で、 1 は判読困難であるが底 部外面に記せられ、 2 も底部外面でこちらは「上」と読める。また第77図12の丸瓦の完形のものが焼土

を被るように検出されている。このほか焼土に混じって多量の粘土塊が確認されているが、スサが入っているものもあり、また一部でかなりの高温を受け表面が溶融するほどのものも見られる。焼き物の焼成窯に相当するような施設を構成していたものが解体され、住居の廃絶とともに投棄されたものと考えられるが、この点は第5章で再度検討する。

#### 51号住居跡(遺構:第23図、遺物:第64図)

- (概要) 調査区の北西寄り、 I-5 から J-5グリッドにかけて確認されたもので、残りのよくない浅い竪穴住居跡である。
- (重複) 東壁側の一部を52号住居跡に切られている。
- (形状) やや歪んだ隅丸方形の平面形をもつ。断面形状は、浅いので確かなことはいえないが箱形と見られる。
- (規模) 東西3.2m×南北3.3m、床面までの深さは南壁で8cm、北壁で7cmとなっている。
- (床面) 床面標高は375.87 m。貼床は確認されず、平坦な床面にはしっかりした硬化は見られない。
- (施設) 壁溝や柱穴と見らるものはないが、中央に径25cm、深さ15cmのピットが存在した。カマドは不明で、52 号住居跡と切合う部分に存在した可能性もある。
- (遺物) 出土点数は多くない。図示できたものに、土師器の坏 $(1 \cdot 2)$ 、(3) がある。

# 52号住居跡(遺構:第23図、遺物:第64図)

- (概要) 調査区の北西寄りで、I-5・I-6・J-5・J-6の各グリッドにかけて位置する。調査段階で竪 穴住居跡としての扱いで調査を進めたが、カマドが確認されないことや遺物に確かなものが見られない ことなどにより、住居跡でない可能性を残すものである。
- (重複) 西側で51号住居跡と重複し、関係は51号(旧)→52号(新)である。
- (形状) やや東西に長い隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.2m×南北2.7m、床面までの深さは南壁で13cm、北壁で11cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は375.66m。貼床は見られず、中央が低くなる擂り鉢状的な床面で、安定した床面とは認められないものであった。
- (施設) 壁溝、柱穴はもとより、カマドも確認されなかった。
- (遺物) ここでも遺物は少なく、図示できた土師器の坏(1・2) も、いずれも細片である。

#### 53号住居跡(遺構:第25図、遺物:第64図・第83図12)

- (概要) 調査区のほぼ中央のG-11からG-12グリッドにかけて確認された竪穴住居跡である。住居のやや西寄りを南北に横切る畑灌送水管の埋設による撹乱が見られるが、床面に達するほどのものではなかった。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.0m×南北2.7m、床面までの深さは南壁で17cm、北壁で11cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は376.68 m。貼床は確認されていない。中央部を中心に硬化した面が見られた。なおカマド前から中央部にかけて40~15cm大の礫が分布していた。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは南壁の中央部からやや東寄りに付設される。石組みカマドで、一部 の袖石と思われるものが見られるが、原位置から動いているようである。
- (遺物) 土師器の坏 (1)、高足高台付坏 (2)、灰釉陶器の椀 (3) と壷 (4) などがある。またこのほかに砂岩製の砥石 (第83図12) も出土している。

#### 54号住居跡(遺構:第25図、遺物:第65図・第77図13)

- (概要) 調査区の中央部北西寄り、H-9・H-10・I-9・I-10の各グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。細分された調査区の境界に当たった関係で、工事行程との調整上の不備により、西端を確認することができなかった。なお覆土中には大小の礫が多量に含まれていた。
- (重複) 40号住居跡と重複し、新旧関係は40号(旧)→54号(新)となっている。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西1.9m以上×南北3.0m。床面までの深さは南壁で40cmであった。
- (床面) 床面標高は375.85 m で、重複する40号住居跡とより15cmほど上位にある。先行して確認された40号住居 跡の調査途上にこの住居の存在が判明したという状況のため、床面の状態等については明確に把握しえ

なかった。

- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは南東コーナーにあって、石組みカマドで、残存状況のかなり悪いものであった。
- (**遺物**) 土師器が中心で、坏 (1~3·5)、皿 (4)、高足高台付坏 (6)、甕 (7) がある。このほか丸瓦の破片 (第77図13) が出土している。

#### 55号住居跡(遺構:第25図、遺物:第65図)

- (概要) 調査区の南西、中央部西寄り、E-2からE-3グリッドにかけ確認された竪穴住居跡で、東半は第1次調査と第2次調査の境界に当たる。第1次調査での調査範囲の西端に出ていた18号住居跡は、東西が2.4m分確認され、さらに西に延長が見込まれていたため、第2次調査においてそれに該当する位置で精査を進めたところ本住居跡が確認された。当初は18号住居跡の延長として見ていたが、床面標高と南北幅が合わないので、東側を再精査したところ、本住居跡床面の15cmほど下位から18号住居跡の西壁の立ち上がりが見出され、切り合い関係にある2軒の住居跡であることが認識された経過がある。この段階でそれ以上東側は工事が行われており、本住居跡の東半を確認することは不可能であった。
- (重複) 東側で18号住居跡と重複し、18号住居跡に切られている。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.5 m以上×南北4.6 m、床面までの深さは南壁で13cm、北壁で17cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は376.25m。貼床は確認されず、硬化状況もそう確かなものではなかった。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは確認できなかった。
- (遺物) 図示できたものに、土師器の坏 (1)、皿 (2・3)、高足高台付坏 (4)、甕 (6・7)、灰釉陶器の椀の破片資料 (5) などがある。

#### 56号住居跡(遺構:第25図、遺物:第65図)

(概要) 調査区の南西端、B-6からC-6グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。21号住居跡などと同様に削平され残存状況が悪い。

(重複) 他の遺構との重複関係はない。

- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は残りが悪いのではっきりしないが箱形を呈していたと見られる。
- (規模) 東西2.8m (推定) ×南北3.9m、床面までの深さは南壁で17cm、北壁で21cmを測る。
- (床面) 床面標高は377.16m。貼床は確認されず、部分的に地山の礫が露頭する床面はあまり良好ではない。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは北東コーナーに付設される。残りがたいへん悪く焼土の分布が確認 される程度のもので、詳細は不明である。
- (遺物) 図示できたものに、土師器の坏 (1·3)、甕 (4)、灰釉陶器の段皿 (2) などがある。3は小片のために 皿である可能性も否定しきれないものであるが、とくに判読はできないものの、体部外面に逆位で墨書が行われている。

#### 57号住居跡(遺構:第26図、遺物:第65図)

- (概要) 調査区の南西、 $B-5\cdot C-5$  グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.9 m (推定) ×南北3.4 m、床面までの深さは南壁で10cm、北壁で3 cmを測る。
- (床面) 床面標高は377.05 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは北壁の北東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で甕(1) が見られた。

#### 58号住居跡(遺構:第26図、遺物:第66図・第83図13)

- (概要) 調査区の北西寄り、 $J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7$ グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.8m×南北2.9m、床面までの深さは南壁で21cm、北壁で16cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.61 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。

- (施設) 壁溝、柱穴は見られない。カマドは東壁の 2 ヵ所にみられ、Aカマドは南東コーナー寄りに、Bカマドは中央部やや南寄りに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1~4)、皿 (5)、高足高台付坏 (6)、羽釜 (8・9)、小型甕 (10·11)、甕 (12~14) があり、また灰釉陶器では椀 (7) があった。ほかに第83図13の砥石が見られた。

#### 59号住居跡(遺構:第26図、遺物:第66図・第83図14)

- (概要) 調査区の北西寄り、 $J-7\cdot J-8\cdot K-7\cdot K-8$ グリッドに位置する。
- (重複) 71号住居跡と重複し、関係は71号 (旧) →59号 (新) である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.7m×南北4.1m、床面までの深さは南壁で26cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.58m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南壁の南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1)、高足高台付坏(3)、坏系鉢(2) があり、須恵器では蓋(4) が見られた。

#### 60号住居跡(遺構:第27図、遺物:第66・67図)

- (概要) 調査区の中央部北西寄り、 $J-8\cdot J-9\cdot K-8\cdot K-9$  グリッドに位置する。
- (重複)他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.8 m×南北4.5 m、床面までの深さは南壁で27cm、北壁で18cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.67 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北壁の北東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1 ~ 7)、Ⅲ(8 ~10)、甕(13・14)、灰釉陶器の椀(11・12)がある。

#### 61号住居跡(遺構:第27図、遺物:第67図)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、 $H-7 \cdot H-8 \cdot I-7 \cdot I-8$  グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.9m×南北3.5m、床面までの深さは南壁で26cm、北壁で18cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.85m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北壁の中央部から西寄りに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1 ~10)、Ⅲ (11~13)、甕 (15~18) があり、坏のうち 7 は墨書土器で判読困難ではあるが体部外面正位にその文字が認められる。また灰釉陶器で瓶 (14) がある。

#### 62号住居跡(遺構:第27図、遺物:第68図・第80図16~19)

- (概要) 調査区の東寄り、 $I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19$ グリッドに位置する。
- (重複) 63住、77住、72住、
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.2m×南北3.4m、床面までの深さは南壁で5cm、北壁で5cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.62 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁のほぼ中央部に付設される。
- (遺物)土師器で皿(1~7)、坏系鉢(8)、甕(9)など、また第80図16~19に鉄斧ほかの鉄製品がある。

# 63号住居跡(遺構:第28図、遺物:第68図・第80図20)

- (概要)調査区の東寄り、 $I-18 \cdot I-19$ グリッドに位置する。
- (重複) 62住、72住、77住?
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.9m×南北4.4m、床面までの深さは南壁で33cmを測る。
- (床面)床面標高は376.89m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北壁の中央部から北東寄りに付設される。
- (遺物) 土師器では坏(1~3)、皿(4~8)、高足高台付坏(9)、羽釜(12)、甕系鉢(15·16)、甕(13・

14) など、灰釉陶器では椀(11)、輪花椀(10) などがあった。第80図20の用途不明の金具も見られた。

#### 64号住居跡(遺構:第28図、遺物:第69図・第78図14・第80図21~23)

- (概要)調査区の西北寄り、H-7からI-7グリッドにかけて位置する竪穴住居跡である。
- (重複) 73号住居跡と重複し、新旧関係は64号(旧)→73号(新)である。また116・123・124号土坑とも重複する。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.5m (推定) ×南北4.1m、床面までの深さは南壁で47cmとなっている。
- (床面) 床面標高は374.68m。床面は大部分が73号住居跡に切られていて、貼床や硬化の状況については詳細に 把握し得なかった。
- (施設) カマドは東壁の南隅寄りに付設される。石組みカマドで、部分的に構造が残り、甕の破片などが点在した。カマド以外の壁溝、柱穴等の施設は見られない。
- (遺物) 土師器で、坏 (1~4·7~11)、皿 (5·6)、羽釜 (13)、小型甕 (14·15)、甕 (16) などがあり、 灰釉陶器で壷 (12) などが見られた。坏のうち 7~11は墨書土器で、 7 は底部外面に、 8~11は体部外面にそれぞれ文字が認められる。ほかに第78図14に平瓦、第80図21~23に鉄製品がある。

## 65号住居跡(遺構:第28図、遺物:第69・70図・第78図15~21)

- (概要) 調査区の西寄り、 $I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7$ グリッドに位置する。
- (重複) 73号住居跡と重複し、関係は65号(旧) →73号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.2m×南北3.8m、床面までの深さは北壁で47cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.41 mとなっている。貼床はとくに確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナー部にあったものと推定されるが、73号住居跡との切り合いによって失われたものらしく、確認されていない。
- (遺物) 土師器で坏 (1~3·7)、皿 (4~6)、高足高台付坏 (8)、小型甕 (13·15)、羽釜 (11·12)、甕 (14·16)、須恵器で甕 (9·10) などがある。坏のうち 2 の見込みには線刻が見られる。これは破片で 多くを失っており、このため全体的にはよくわからないが、文字というより絵画的なものの可能性が高い。また7は坏と思われる小片であるが墨書土器で、体部外面に文字が認められる。判読はできない。 須恵器で甕のうち10は転用硯と思われる。また第78図に平瓦 (15·16)、丸瓦 (17~21) がある。

#### 66号住居跡(遺構:第29図、遺物:第70図・第80図24・25・第83図15・16)

- (概要)調査区の中央部東寄り、I-16・I-17グリッドに位置する。
- (重複)他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.6m×南北3.8m、床面までの深さは南壁で27cm、北壁で18cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.76m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁の南 2 コーナー付設される。
- (遺物) 土師器で、坏(1~7)、高足高台付坏(8~11)、蓋(12)、羽釜(14)、甕系鉢(15)、甕(16~20) があり、また灰釉陶器では椀(13)などが見られた。8の高足高台付坏は脚端打欠きが顕著である。このほか第80図24・25に鉄製品、第83図15・16に砥石がある。

#### 67号住居跡(遺構:第29図、遺物:第71図・第80図26)

- (概要)調査区の西、I-20グリッドに位置する。
- (重複) 他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.8m×南北2.6m、床面までの深さは南壁で25cm、北壁で30cmを測る。
- (**床面**) 床面標高は376.97 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で、坏  $(1 \sim 3)$ 、皿 (4)、高足高台付坏  $(5 \sim 8)$ 、甕 (9) がある。なお高足高台付坏については体部内外面にタールが付着しているものがある  $(5 \cdot 6)$ 。ほかに用途不明の鉄製品がある。

#### 68号住居跡(遺構:第29図、遺物:第71図・第78図22・23・第79図24)

- (概要)調査区の中央部西寄り、G-6・G-7グリッドに位置する。
- (重複) 7、9、14、15号と重複する。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.9m×南北3.5m、床面までの深さは北壁で13cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.25 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で、坏 (1)、小型甕 (4)、羽釜 (3)、甕 (5) などが見られた。また灰釉陶器で椀 (2) があるが、これは灯明皿と思われ、灯明芯の痕を示す煤が明瞭に付着している。

#### 69号住居跡(遺構:第30図、遺物:第71図・第79図25・26)

- (概要) 調査区の中央部西寄り、G-8・H-8グリッドに位置する。
- (重複) 9住、10住と重複し、これらに先行する。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.0m×南北3.0m、床面までの深さは北壁で12cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.28m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁の中央部から南寄りに付設される。
- (遺物) 土師器で、坏(2)、皿(1)、甕(4)、羽釜(3)がある。なお2の坏については、見込みに放射状の線刻があり、摺鉢の機能が与えられていた可能性もある。ほかに第29図25・26の瓦片もある。

#### 70号住居跡(遺構:第30図、遺物:第72図・83図17)

- (概要)調査区の中央部西寄り、H-9・I-9グリッドに位置する。
- (重複) 119、120、121、122号土坑に切られている。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.4m×南北4.3m、床面までの深さは南壁で35cm、北壁で8cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.87 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1)、高足高台付坏(2・3)、甕(5~7)、灰釉陶器の段皿(4) や砥石(第83図17) などが見られた。とくに2の高足高台付坏については、脚端部に打欠きした状況が顕著に観察される。

### 71号住居跡(遺構:第30図、遺物:第72図)

- (概要) 調査区の中央部北西寄り、 $J-7\cdot J-8\cdot K-7\cdot K-8$ グリッドに位置する。
- (重複) 59号竪穴住居跡と重複し、関係は71号(旧)→59号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.6m×南北4.8m、床面までの深さは北壁で22cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.59m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁のほぼ中央部に付設される。
- (遺物) 出土点数はたいへん少なく、図化できたのは1の緑釉陶器の耳皿の残欠の1点のみである。

#### 72号住居跡(遺構:第31図、遺物:第72図)

- (概要) 調査区の東寄り、I-18・I-19グリッドに位置する。
- (重複)他の遺構との重複関係は62号、63号、77号
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西2.4m×南北2.5m、床面までの深さは東壁で50cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.78m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁の中央に付設される。
- (遺物) 図化できたのは土師器の甕(1)の1点のみである。

#### 73号住居跡(遺構:第31図、遺物:第72図)

(概要) 調査区の西寄り、 $I-6 \cdot I-7$  グリッドに位置する。

- (重複) 南壁側に64号住居跡が、また北壁側に65号住居跡が重複し、いずれの住居跡よりも新しい。また西壁側で125~127号土坑と重複し土坑より古いことが土層観察により確認された。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.9m×南北4.8m、床面までの深さは東壁で47cmを測る。
- (床面) 床面標高は375.68m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは北東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏 (1)、皿 (2~4)、柱状高台付皿 (5)、羽釜 (9·10)、小型甕 (11)、甕 (12)、灰釉陶器で瓶 (6) などが見られた。また7と8は須恵器甕の破片で、内面に磨痕が認められる。

#### 74号住居跡(遺構:第31図、遺物:第73図・第80図27・第81図 2)

- (概要)調査区の北東寄り、 $J-18 \cdot J-19 \cdot K-18 \cdot K-19$ グリッドに位置する。火災住居と見られる。
- (重複)他の遺構との重複関係はない。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.9m×南北4.3m、床面までの深さは南壁で27cm、北壁で25cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.62m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。たいへん遺存状態のよい石組カマドであった。
- (遺物) 土師器で坏 (1・2・5)、高足高台付坏 (3・4)、甕系鉢 (8・9・11)、甕 (7・10)、灰釉陶器の 椀 (6) などが見られた。とくに 5 の坏は、体部から底部外面にかけてタールが付着している。また3 の高足高台付坏は、体部周辺と脚端を再調整した状況が見られる。ほかに鉄製品で刀子 (第80図27) や フイゴ羽口 (第81図 2) もあった。

#### 75号住居跡(遺構:第32図、遺物:第74図・第83図18)

- (概要)調査区の北東寄り、 $K-16 \cdot K-17$ グリッドに位置する。
- (重複) 76号竪穴住居跡と重複し、関係は76号(旧) →75号(新)である。
- (形状) 長方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西4.9m×南北2.5m、床面までの深さは南壁で21cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.30 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏(1 ~ 7)、Ⅲ (8 ~13)、高足高台付坏(14·15)、灰釉陶器で椀(16) など、また緑色凝 灰岩製の砥石(第83図18) も見られた。

# 76号住居跡(遺構:第32図、遺物:第74図)

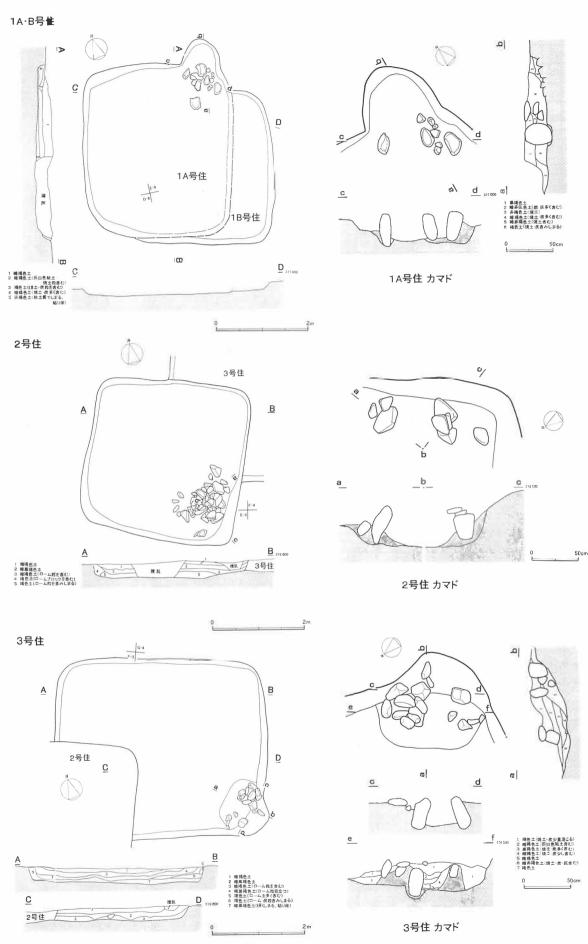
- (概要)調査区の北東寄り、K-17グリッドに位置する。
- (重複) 75号住居跡と重複し、関係は76号(旧)→75号(新)である。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西1.0m以上×南北1.7m以上、床面までの深さは東壁で38cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.33 m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは南東コーナーに付設される。
- (遺物) 土師器で坏  $(1 \sim 4)$ 、皿 (5)、甕  $(6 \cdot 7)$  などが見られた。

## 77号住居跡(遺構:第32図)

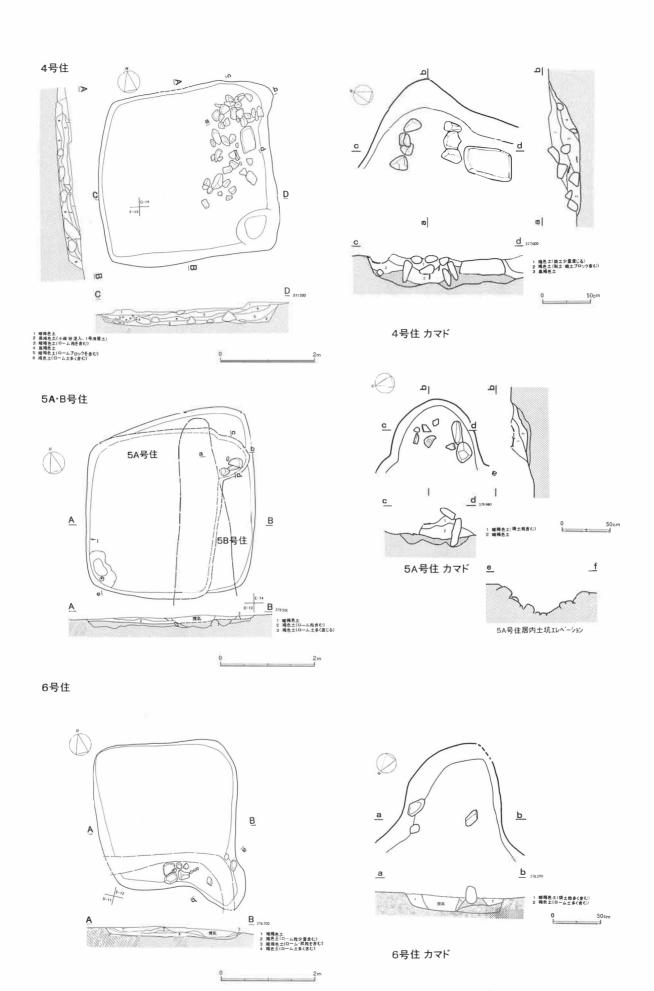
- (概要) 調査区の東寄り、 $I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19$ グリッドに位置する 4 つの竪穴住居跡の重複の中に確認されたもので、切り合いのため残存状況のよくない住居跡である。
- (重複) 62号、63号、72号の各住居跡と重複し、前後関係はそれらに先行するものである。
- (形状) 隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は箱形を呈す。
- (規模) 東西3.9m×南北3.9m、確認面から床面までの深さは、北壁で41cmを測る。
- (床面) 床面標高は376.68m。貼床・硬化面は全く確認されていない。
- (施設) カマドは東壁の中央部から南寄りに付設される。大部分72号住居跡に切られていることもあって残りが わるい。
- (遺物) 出土遺物はわずかで、図示できるものはなかった。

## 第1表 竪穴住居跡一覧表

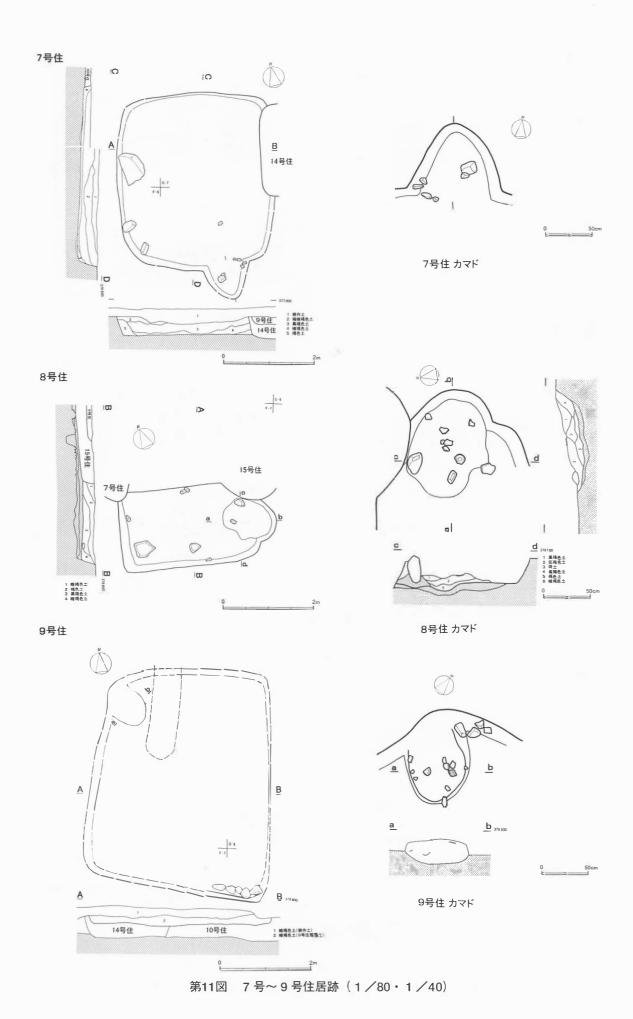
								立八任冶勋一员	沙					
B-DAL.	iii ka na a na a na a na a na a na a na	平面形	東西	ıŧiJt	深さ	()	床レベル	カマ	۴	竹假		<b>乖 複</b>	時期	備考
fEUNo.	所任グリッド名	1.004>	(m)	(m)	(4.0	((m)	(m)	(i) 27	構造	依存度	焚口幅	'IK PX	-,	, ,
1 A号信号路	D-8 · D-9 · E-8 · E-9	隅丸が形	3.5	4.1	S:28	N: 10	376.57	北辺一東	(i#I	両袖の一部残	35	1B住より新	3 <b> 4</b>	
1 B 号住居跡	D-8 · D-9 · E-8 · E-9	隅丸方形	4.1	3.5	S:28	N:10	376.60	不明	-	-	-	1 AfEより古	不明	
2号住居路	E-3 · F-3	関丸方形	3.3	3.3	S:30	N : 30	376.57	東辺-南i	(i#I	両袖の一部残	(40)	3(長より新	<b>②</b> P	İ
3 号住居路	F-3 · F-4	四人方形	4.5	3.5	_	N:23	376.57	市東隅	{i#I	両袖の一部残	(35)	2任より古	3月	i
4 15 (111)	F-13 · F-14 · G-13 · G-14	四人方形	3.5	3.6		N : 17	376.65	東北隅	(i#L	両袖残	35	1満より古	(2) <b>(9)</b>	<del>                                     </del>
5 A 15(ELS)#		<b>_</b>	2.7		_				(i#I	石油の 部残	不明	5 B・16(主より新	(M)	
	E-13	関ル方形	_	3.5		N : 17	376.82	東辺ー北	TIEL	(1RHO) Tabyk	11111		_	-
5 B 号住居跡	E-13	隅丸方形	2.7	3.5	-	N : 17	376.82	不明		-		5 A信より古	不明	<del> </del>
6号住居跡	E-11 · E-12	四人方形	3.0	3.2		N:5	376.75	市東隅	石組か	全块	不明		①関か	
7号住居跡	$F-6\cdot F-7\cdot G-6\cdot G-7$	関丸方形	*3.3	3.8	S:30	N: 15	376.23	南辺一東	信組か	全壊に近い	不明	8・15・68住より新、9・14住より占	3月	
8号住塔琳	F - 7	隅丸方形	3.0	-	S:35		376.34	東辺一市	(i#l	左袖の一部残	不明	7・15住より占	<b>③期</b>	
9号住居跡	$F-7 \cdot F-8 \cdot G-7 \cdot G-8$	隅丸方形	4.0	4.8	S:35	N:20	376.20	西辺一北	不明	全域に近い	不明	10・14・15・68信より新	<b>€</b> 卿	
10号住場路	G-7 · G-8	四人方形	4.0	3.5	S:35	N: 20	376.15	東北隅	fi#I	操行を除いて残	35	69(Eより新、9・14(Eより古	3 <b>19</b> 1	
11号住居跡	F-9 · F-10 · G-9 · G-10	四人方形	4.1	3.7	S:23	N : 16	376.37	東南隅	(i#I	両袖の 部残	(37)		③明	
125分注号器	F-9	関丸方形	2.9	2.3	S:22	N : 21	376.54	東辺一市	(i#L	全域	不明		①(F)	
13号住民路	D-4 · D-5 · E-4 · E-5	隅丸方形	3.0	2.7		N : 17	376.55	東南隅	fi#I	前部梁石も残	40		319	1
145分主经路	G-7		*1.8	2.0	E : 20	15 - 17	376.15		(i#I		不明	2 15# kb# 0/t kb#	③関か	-
		隅丸方形						東北隅		占袖ほぼ残		7・15住より新、9住より古		<del> </del>
15号住居路	F-7 · F-8 · G-7 · G-8	隅丸方形	>3.0	*3.4	E: 35		376.20	東南隅	fill	前部梁石も残	40		3141	<del>                                     </del>
165分形料	D-13	四人方形	4.3	*3.9	S:9		376.95	東市岡	不明			5 A(Eより占	(PH)	
17号住居跡	E-14 · F-14	隅丸方形	4.0	2.8	S:35	N:20	376.90	東南隅	石組か	全域	不明	20住より新、1鴻・2鴻より古	3191	
18号住居跡	E-3	隅丸が形	2.7	4.0	S:29	N : 24	376.14	東北隅	(i#l	両袖と奥朗梁有残	32	55(主より新	<b>①</b> P	l
195分住居跡	F-8 · F-9	隅丸が形	2.3	2.5	S:36	N:20	376.28	東辺一中	{i組か	全境	不明		DW)	
20号住場路	E-14 · F-14	隅丸方形	•2.7	2.8		N:24	376.85	不明	-	_	_	17住より古	不明	İ
21号住居路	A-15	関丸方形	2.9	2.7		N: 4	377.94	東南隅	{i組か	全境	(30)		39	<u> </u>
22号住民跡	B-16 · C-16	関丸が形	3.1	3.0	-	N: 4	377.81	東南隅	行組か	全域	不明	1	3月	i
23号住居跡	C-17	関したが		3.0	<del>.                                      </del>	N : 7	377.81	不明	114177		1111		平安以降か	<del> </del>
			2.9						1.m.	1 - S.h E.h		1	-	1
24号住場	C-17 · C-18 · D-17 · D-18		4.4	3.2		N : 10	377.88	東市四	信組か	た袖・石銭	不明		(1) (F)	1
25号住居路	F-15 · G-15	四人方形	2.7~3.1	4.4		N:33	376.83	東北隅	(i#l	両袖の一部残	35	33(主より新	3月	ļ
267分在45路	F-17 · F-18 · G-17 · G-18	隅丸方形	2.7	2.6	S:28	N:28	377.28	東辺-南	(i#I	ほぼ完任	45		3141	ļ
275分往好路	G-14 · G-15 · H-14 · H-15	-	-	-	_		_	-	-	-	-		-	欠番
28号住塔路	I -15 · I -16	隅丸が形	3.3	2.4	S:18	N : 10	376.86	東門隔	信組か	全境	不明		<b>ФИ</b>	
29号住居跡	H-14 · I -14	隅丸が形	4.5	4.9	S:22	N : 15	377.12	東iti网	(i#I	両袖ほぼ残	45	50土坑より古	<b>①</b> III	
30号住場路	J-15 · J-16	関丸方形	4.5	3.3		N: 18	376.48	東北隅	(i#I	全域	不明	129上坑より古	①[F]	
31号住場路	J -14 · K -14	関ル方形	2.8	3.0	-	N : 35	376.18	東市隔	GAL		40	35(Eより新	3191	1
										両袖と奥朗梁有残				-
32号住場路	F-15 · F-16 · G-15 · G-16	四人が形	4.2	2.8		N : 20	377.05	東北隅	(i#I	両袖ほぼ残	30	51・52上坑より占	<b>⊕</b> Ø	<del>                                     </del>
33号住居跡	F-14 · F-15 · G-14 · G-15		2.7	3.3	!		376.83	北辺一西	fi¥l	両袖の一部残		25作より古	②卿	<u> </u>
34号住居跡	K - 14	四人方形	3.3	3.0		N : 25	376.09	東辺一南	(i#I	左袖半欠	(45)		② <b>明</b>	
35号住居跡	J -14 · J -15	四人方形	*3.2	3.8	S:56	N:35	376.25	東辺一甫	信組か	全域	不明	31(によりむ	3期	
36号住塔路	J -21 · J -22 · K -21 · K -22	隅丸が形	*3.3	2.9	N : 13	N:5	377.60	市東隅	fi#IL	高級的政	(45)	53・54土坑より新	3 <b>19</b> 1	
375分柱塔路	J −20 · J −21	隅丸方形	3.5~4.0	3.1	S:25	N:17	377.08	前東隅	有机	両袖と奥関梁有残	30		③期か	
38号往時時	J-11 · K-11	四人方形	3.7	2.9	E:23		375.63	東辺一南	fill	石袖一部残	不明	43(Eよりさ	299	
								A:北辺-西	行組か	全域	不明	39(長 Bカマドより新	② <b>I</b> 明	i –
395分柱科路	1-11 · 1-12	関ルが形	3.7	3.2	S:36	N : 35	375.85	B: 4622-44	不明	基底部のみ	不明	65上坑より占	不明	
40号住居跡	H-9·H-10·I-9·I-10	関ルが形	3.1	2.9	S:47	N : 41	375.68	北辺一中	(i#I	左袖一部残	不明	54住より古	①M	1
41号住居跡	K -10	_	_				070.00	_	_	- 15.160		71.	-	欠番
41.711.4397	K 10	_			_			1: August	(i#l	両袖残	40		341	Aur
491111111111111111111111111111111111111	U = 12 . I = 12	ERR In 1: ES	2.2	2.0	c · 2c	N: - 94	276 12							
42号住民跡	H-12 · I -12	四丸方形	3.3	3.0	S:26	N:24	376.12	· 前東隅						
43号住場	K-11	四丸方形	2.9	>1.2	S : 14	N:24	375.50	東市開	{i#l	石油 部残	布例	38低より新	③関か	
43号住居跡 44号住居跡	K-11 K-12	四人方形 四人方形	2.9 3.1	>1.2 >1.5	S:14 S:39	N:24	375.50 375.55	東市隅 東辺一市	tial tial	石袖 部残 両袖と奥朗梁石残	不明 40	45(主より新	③明か ③明	
43号住居跡 44号住居跡 45号住居跡	K-11 K-12 K-12	四人方形 四人方形 四人方形	2.9	>1.2	S:14 S:39	N : 24	375.50	東市開	{i#l	石油 部残	不明 40		③関か	
43号住居跡 44号住居跡	K-11 K-12	四人方形 四人方形	2.9 3.1	>1.2 >1.5	S:14 S:39		375.50 375.55	東市隅 東辺一市	tial tial	石袖 部残 両袖と奥朗梁石残	不明 40	45住より新 44住より古	③明か ③明	
43号住居跡 44号住居跡 45号住居跡	K-11 K-12 K-12	四人方形 四人方形 四人方形	2.9 3.1 3.4	>1.2 >1.5 >1.2 4.3	S:14 S:39 S:42	N : 20	375.50 375.55 375.45	東市隅 東辺一市 東市隅	信組 信組 信組か	信袖・部残 両袖と奥爾梁石残 基底部のみ	不明 40	45住より新 44住より古	③開か ③開 ②開	
43号住居跡 44号住居跡 45号住居跡 46号住居跡 47号住居跡	K-11 K-12 K-12 K-2 · K-3 · L-2 · L-3 K-3 · L-3	國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23	N:20 N:20	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53	東市隅 東辺一市 東市隅 北辺一東	信組 信組 信組か 信組	右袖・部残 両袖と奥関梁石残 基底部のみ 両袖と奥関梁石残	不明 40 不明 23 40	45任より新 44任より古 47任より新	③明か ③明 ②明 ⑤明	
43号住居路 44号住居路 45号住居路 46号住居路	K-11 K-12 K-12 K-2 · K-3 · L-2 · L-3	國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6	>1.2 >1.5 >1.2 4.3	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23	N:20 N:20	375.50 375.55 375.45 375.46	東市國 東辺一市 東市國 北辺一東 東市國	石組 石組か 石組か 石組 石組	信袖一部残 両袖と奥開梁石残 基底部のみ 両袖と奥開梁石残 両袖残	不明 40 不明 23 40 30	45(Eより新 44(Eより古 47(Eより新 46(Eより古	③明か ③明 ②明 ③明	
43号住居跡 44号住居跡 45号住居跡 46号住居跡 47号住居跡	K-11 K-12 K-12 K-2 · K-3 · L-2 · L-3 K-3 · L-3	國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形 國 丸 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23	N:20 N:20	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53	東市國 東辺一市 東市國 北辺-東 東市國 A:西南國	行組 行組か 行組か 行組 行組 行組	石油・部残 両袖と奥隅梁石残 基底部のみ 両袖と奥爾梁石残 両袖残	不明 40 不明 23 40 30	45ほより新 44ほより古 47ほより新 46ほより古 49ほより古、50ほより新	3明か 3明 2明 3明 3明 3明	
43号任星時 44号任星時 45号任星時 46号任星時 47号任星時 47号任星時 48号任星時	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot I3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \end{array}$	限 上 方形 限 上 方形 限 上 方形 限 上 方形 限 上 方形 限 上 方形 限 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40	N:20 N:20 N:30	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 4 : 西市陽 13 : 東市陽	行組 行組か 行組 行組 行組 行組 行組	信袖・部残 時袖と奥閣梁石残 基低部のみ 時袖と奥閣梁石残 時袖と奥梁残 両袖と奥梁残 両袖の・部残	不明 40 不明 23 40 30 35	45ほより新 44ほより占 47ほより新 46ほより占 49ほより占、50ほより新 49ほより占、50ほより新	③明か ③明 ②明 ③明 ③明 ③明 ③明	
43号任時辦 44号任時辦 45号任時辦 46号任時辦 47号任時辦 48号任時辦 49号任時辦	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \end{array}$	限 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4	N:20 N:20 N:30	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30	東市陽 東江一市 東市陽 北江一東 東市陽 お:西南陽 お:東市陽 本頭 最	行組 行組か 行組か 行組 行組 行組	石油・部残 両袖と奥隅梁石残 基底部のみ 両袖と奥爾梁石残 両袖残	不明 40 不明 23 40 30 35	45ほより新 44ほより古 47ほより新 46ほより古 49ほより古、50ほより新 49ほより古、50ほより新 48・50ほより新 48・49ほより古	③明か ③明 ②明 ③明 ③明 ③明 ①明	
435/feliph 445/feliph 455/feliph 465/feliph 475/feliph 485/feliph 485/feliph 505/feliph 505/feliph	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \end{array}$	國人方形 國人方形 國人方形 國人方形 國人方形 國人方形 國人方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4	N:20 N:20 N:30 Reff: F) N:7	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.10 375.87	東市陽 東江一市 東市陽 北江一東 東市陽 A:西市陽 上頭市陽 大韓設 東辺一中 大韓認	石組 石組か 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組	信袖・部残 時袖と奥閣梁石残 基低部のみ 時袖と奥閣梁石残 時袖と奥梁残 両袖と奥梁残 両袖の・部残	不明 40 不明 23 40 30 35	45ほより新 44ほより古 47ほより新 46ほより古 49ほより古、50ほより新 49により古、50ほより新 48・50ほより新 48・49ほより古 52ほより古	3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 1 m/h 1 m/h	
435/16USPA 445/16USPA 455/16USPA 465/16USPA 475/16USPA 485/16USPA 485/16USPA 505/16USPA 505/16USPA 505/16USPA 505/16USPA 505/16USPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ \end{array}$	隔	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 3.3	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8	N: 20 N: 20 N: 30 N: 30 N: 7 N: 7	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.10 375.87	東市陽 東辺一市 東市國 A:西市國 B:東市國 本確認 東辺一中 本確認 本確認	石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 ー 一 不明 ー	信納・部残 両額と與關梁信残 基就部のみ 両額と與關梁信残 両額と與環境 両額の・部銭 一 場合でのみ ー	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明	45ほより新 44ほより古 47ほより新 46ほより古 49ほより古、50ほより新 49ほより古、50ほより新 48・50ほより新 48・49ほより古	3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 1 m/h 1 m/h 1 m/h 3 m/h	
4357EUPA 4457EUPA 4557EUPA 4557EUPA 4657EUPA 4757EUPA 4857EUPA 4957EUPA 5057EUPA 5057EUPA 5057EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ \end{array}$	隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 3.3 2.7	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13	N: 20 N: 20 N: 30 N: 30 N: 7 N: 7	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.10 375.87 375.66	東市陽 東江一市 東市國 A:西南國 B:東市國 本:西南國 林	石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 ー 不明 ー ー 石組か	信前・部長  海舶と規關電行线 基底部のみ 両額と規關電行线 両額と現場で行线 両額と現実残 両額の「部銭 一 基底部のみ 一 基底部のみ 一 場高が 一 場高が 一 場面のある。 一 場面のある。 一 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	不明 40 不明 23 40 30 35 - 不明 -	45분より新 44분より占 47世より新 46분より占 49世より占、50世より新 49世より占、50世より新 48・50世より新 48・49世より占 52世より占 51世より新	3 m/h 3 m 2 m 3 m 3 m 3 m 3 m 3 m 3 m 4 m 1 m 1 m 1 m 4 m 3 m 3 m 3 m 4 m 3 m 4 m 3 m 4 m 3 m 4 m 3 m 4 m 4 m 4 m 4 m 4 m 4 m 4 m 4 m 4 m 4	
4357 EUSPA 4457 EUSPA 4557 EUSPA 4557 EUSPA 4657 EUSPA 4757 EUSPA 4757 EUSPA 5057 EUSPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ \end{array}$	國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 3.3 2.7 2.7	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:7	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.30 375.87 375.66 376.68	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 お:東市陽 林確認 東辺一中 本確認 東辺一中 本確認 南辺一東	石組 石組 石組 石組 石組 石組 - - 不明 - - 石組 石組	信納・部残 両額と與關梁信残 基就部のみ 両額と與關梁信残 両額と與環境 両額の・部銭 一 場合でのみ ー	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明	45ほより新 44年より古 47年より 新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 52年より古	3 mm s mm s mm s mm s mm s mm s mm s mm	
4357fEUB# 4457fEUB# 4557fEUB# 4657fEUB# 4757fEUB# 4857fEUB# 5057fEUB# 5057fEUB# 5257fEUB# 5457fEUB# 5457fEUB# 5457fEUB# 5457fEUB# 5557fEUB#	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot I3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \end{array}$	國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 3.3 2.7 2.7 3.0 4.6	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:35	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:7 N:11	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.10 375.87 375.66 376.68 375.85	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 お・東市陽 林崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中	石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石	(計論·那獎   尚能と與關梁行线 基底部のみ   兩地と與關梁行线   山油的   山油的   山油的   一   上   一   一   一   兩部的   域   山   山   山   山   山   山   山   山	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明 — 不明	45분より新 44분より占 47世より新 46분より占 49世より占、50世より新 49世より占、50世より新 48・50世より新 48・49世より占 52世より占 51世より新	3 m/h 3 m/h 2 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 4 m/h	
4357任以終 4457任以終 4557任以終 4657任以終 4657任以終 4857任以終 5057任以終 5057任以終 5257任以終 5457任以終 5457任以終 5457任以終 5457任以終 5557任以終 5657任以終	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot 13 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \end{array}$	國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.8	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 2.7 2.7 3.0 4.6 3.9	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:20(4 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:13	N: 20 N: 20 N: 30 Rsff: F) N: 7 N: 11 N: 11	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.87 375.66 376.68 375.85 376.25	東市陽 東市陽 北辺一東 東市陽 お:西南陽 お:西南陽 お:東市陽 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東道 東京 南辺 本崎 南北 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 - - - - 石組 石組 - - - -	(計前·那獎   尚能と與關鍵行线 基底部のみ   兩地的與關鍵行线   兩地的,都模 - 一   兩地的數 - 一   兩地的數 - 一   基础的數 - 一 - 一 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明 — 不明 不明	45ほより新 44年より古 47年より 新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 52年より古	3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 4 m/s 4 m/s 4 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 4 m/s	
4357fEUB# 4457fEUB# 4557fEUB# 4657fEUB# 4757fEUB# 4857fEUB# 5057fEUB# 5057fEUB# 5257fEUB# 5457fEUB# 5457fEUB# 5457fEUB# 5457fEUB# 5557fEUB#	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot I3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \end{array}$	國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形 國 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 2.7 2.7 3.0 4.6 3.9	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:35	N: 20 N: 20 N: 30 Rsff: F) N: 7 N: 11 N: 11	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.10 375.87 375.66 376.68 375.85	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 お・東市陽 林崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中 本崎認 東辺一中	石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石	信前・部長  海舶と機関東行线 基底部のみ 両値と関係で行线 両値と関係で行线 両値と関係で行数 両値と関係である。 - ー 「海舶所攻 両胎所攻 両胎所攻 両胎所攻 両胎所攻 両胎所攻	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明 — 不明	45ほより新 44年より古 47年より 新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 52年より古	3 m/h 3 m/h 2 m/h 3 m/h 3 m/h 3 m/h 4 m/h	
4357EUPA 4457EUPA 4557EUPA 4657EUPA 4757EUPA 4857EUPA 5057EUPA 5257EUPA 5257EUPA 5357EUPA 5457EUPA 5557EUPA 5657EUPA 5757EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot I3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot I4 \cdot L-5 \\ I4 \cdot I5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot I4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \end{array}$	隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 离 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >19 >2.5 2.8 -2.9	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 3.3 2.7 2.7 3.0 4.6 3.9 3.4	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:13 S:17 S:10	N: 20 N: 20 N: 30 N: 30 N: 30 N: 7 N: 11 N: 11 N: 11	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.87 375.66 376.68 375.85 376.25 377.16	東市陽 東市陽 北辺一東 東市陽 お:西南陽 お:西南陽 お:東市陽 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東辺一中 林崎忠 東道 東京 南辺 本崎 南北 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 石組 - - - - 石組 石組 - - - -	(計前·那獎   尚能と與關鍵行线 基底部のみ   兩地的與關鍵行线   兩地的,都模 - 一   兩地的數 - 一   兩地的數 - 一   基础的數 - 一 - 一 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人 - 人	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明 — 不明 不明	45ほより新 44年より古 47年より 新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 52年より古	3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 4 m/s 4 m/s 4 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 3 m/s 4 m/s	
4357任以終 4457任以終 4557任以終 4657任以終 4657任以終 4857任以終 5057任以終 5057任以終 5257任以終 5457任以終 5457任以終 5457任以終 5457任以終 5557任以終 5657任以終	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot 13 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \end{array}$	國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形 國 上方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.8	>1.2 >1.5 >1.2 4.3 3.1 3.9 >2.8 3.1 2.7 2.7 3.0 4.6 3.9	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:20(4 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:13	N: 20 N: 20 N: 30 N: 30 N: 30 N: 7 N: 11 N: 11 N: 11	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.87 375.66 376.68 375.85 376.25	東市陽 東辺一市 東市園 A:西市園 B:東市園 本確認 東辺一中 本確認 市辺一東 市辺一東 市辺の東 本確認 東北國	「	信前・部長  海舶と機関東行线 基底部のみ 両値と関係で行线 両値と関係で行线 両値と関係で行数 両値と関係である。 - ー 「海舶所攻 両胎所攻 両胎所攻 両胎所攻 両胎所攻 両胎所攻	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明 — 不明 不明 不明	45ほより新 44ほより古 47ほより新 46ほより古 49ほより古 50ほより新 48・50ほより新 48・49ほより古 52ほより古 51ほより新	3 III / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	
4357EUPA 4457EUPA 4557EUPA 4657EUPA 4757EUPA 4857EUPA 5057EUPA 5257EUPA 5257EUPA 5357EUPA 5457EUPA 5557EUPA 5657EUPA 5757EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot I3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot I4 \cdot L-5 \\ I4 \cdot I5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot I4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \end{array}$	隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 离 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >19 >2.5 2.8 -2.9	>1.2   >1.5   >1.2   4.3   3.1   3.9   >2.8   3.1   3.3   2.7   2.7   3.0   4.6   3.9   3.4   2.9	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:13 S:17 S:10	N: 20 N: 20 N: 30 N: 30 N: 30 N: 7 N: 11 N: 11 N: 11	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.87 375.66 376.68 375.85 376.25 377.16	東市陽 東辺一市 東市陽 A:西南陽 B:東市陽 本頭是 東辺一中 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是 本頭是	「	信前・部長  海舶と規關電行线 基底部のみ 両額と規模で行线 両額と関連で行线 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 両額と関連で行 はな部のみ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 に に に に に に に に に に に に に	不明 40 不明 23 40 30 35 — 不明 — 不明 不明 不明 不明	45년より新 44년より古 47년より 新 46년より古 49년より古 49년より古 50년より新 48・50년より新 48・50년より新 48・49년より古 52년より古 51년より新 51년より 新 58년より 新	3 III / 3 III	
4357fEURA 4457fEURA 4557fEURA 4657fEURA 4657fEURA 4857fEURA 4957fEURA 5057fEURA 5157fEURA 5357fEURA 5457fEURA 5557fEURA 5657fEURA 5657fEURA 5657fEURA 5657fEURA 5657fEURA 5657fEURA 5657fEURA	$\begin{array}{l} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \end{array}$	隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形 隔 上 方形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.8 *2.9	>1.2	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:17 S:40 S:13 S:17 S:40 S:21 S:21	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:21 N:21	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.10 375.87 375.66 375.65 377.16 377.16	東市陽 東辺一市 東市陽 A:西市陽 B:東市陽 本確認 東辺一中 本確認 市辺一東 市辺一東 本確認 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 A:東辺一市 B:東辺一市	<ul> <li>信報</li> <li>信報</li> <li>信報</li> <li>信報</li> <li>一</li> <li>一&lt;</li></ul>	信納・那残   両軸と規關使行残   場底部のみ   両軸と規關使行残   両軸的   両軸と規定残   両軸の 一部残   一   場底部のみ   一   一   両軸削財   一   場底部のみ   一   一   一   一   一   一   場底部のみ   一   一   一   一   一   一   一   一   一   一	430  400   450  400   450  400   450  400   450  400   450  450	45년より新 44년より古 47년より新 46년より古 49년より古 50년より新 48・50년より新 48・50년より新 48・49년より古 52년より古 52년より古 52년より古 53년より新 58년よりお 58년より新 58년より新	3 III > 3 III	
4357EUPA 4457EUPA 4557EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4857EUPA 5057EUPA 5057EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ \end{array}$	隔 上 扩形 隔 上 扩形	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.2 3.2 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 3.8	>1.2	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:40 S:13 S:17 S:10 S:21 S:21	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:12 N:21 N:3	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.87 375.66 376.68 375.85 376.25 377.16 377.05	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 北辺一東 東市陽 北辺一中 東京市陽 本確認 東辺一中 未確認 市辺一東 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	信組 信組 信組 信組 信組 信組 信組 一 一 一 信組 一 一 一 信組 一 一 一 (組 の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に に に に に に に に に に に に	信納・那残 両額と與關梁行残 基底部のみ 両額と與關梁行残 両額と與梁残 両額と與梁残 両額の、都残 一 一 一 両額前功 一 一 両額前功 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	430  40	45년より新 44년より古 47년より新 46년より古 49년より古 50년より新 48・50년より新 48・50년より新 48・49년より古 52년より古 52년より古 52년より古 53년より新 58년よりお 58년より新 58년より新	3 (19) / (2) (19) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	
4357EUPA 4457EUPA 4557EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4757EUPA 4857EUPA 5057EUPA 5057EUPA 5357EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot H-8 \cdot I-8 \end{array}$	隔 上 扩形 积 上 扩形 积 上 扩 形 积 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 扩 和 上 加 和 L 加	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.3 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.8 2.9 2.8 2.9 2.8	>1.2	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:38 S:17 S:40 S:13 S:17 S:10 S:12 S:26 S:26 S:27 S:26	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.87 375.66 375.85 376.25 377.16 377.05 375.61	東市陽 東辺一市 東市園 A:西市園 B:東市園 本確認 東辺一中 本確認 市辺一東 市辺一東 本確認 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國	行組 行組 行組 行組 行組 行組 一 一 一 一 一 行組 一 一 一 行組 一 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行組 一 一 行 に に に に に に に に に に に に に	信納・部長 両軸と與關梁行线 域能と與關梁行线 両軸と與梁线 両軸の・部线 一 域能のみ 一 域能ののみ 一 一 両軸崩壊 両軸崩壊 一 域にののみ 一 一 両軸崩壊 両軸崩壊 一 域に下のみ 一 一 一 域に下のみ 一 一 一 域に下のみ 一 一 一 域に下のみ 一 一 一 域に下のみ 一 一 一 はに下のみ 一 一 一 はに下のみ 一 一 に行付 に行付 に行付 に行付 に行付 に行り に行り に行り に行り に行り に行り に行り に行り	439	45日より新 44日より古 47日より新 46日より古 49日より古、50日より新 48・49日より古 52日より新 48・49日より古 52日より古 52日より新 40日より古 53日より新 58日より新 71日より新	3 III > 3 III > 3 III > 3 III > 3 III   3 III   3 III   3 III   3 III   3 III   3 III   3 III   3 III > 3 III   3 III	
4357任以終 4457任以終 4457任以終 4657任以終 4657任以終 4857任以終 4957任以終 5057任以終 5057任以終 5357任以終 5357任以終 5557任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終 5657任以終	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot H-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot H-8 \cdot I-8 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \end{array}$	隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >19 >2.5 '2.8 '2.9 2.7 3.8 2.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:8 S:17 S:40 S:13 S:17 S:10 S:21 S:22 S:25 S:25 S:25 S:26 S:5	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16	375.50 375.45 375.46 375.43 375.30 375.30 375.30 375.85 376.68 376.85 376.25 377.16 377.66 375.85 375.61 375.62	東市陽 東2一十 東1市陽 A:西南陽 B:東市陽 本662 東21 - 中 本662 本662 本662 本662 本662 本662 本662 東北陽 東北陽 東北陽 A:東辺一市 B:東辺一中 東市図一中	行組 行組 行組 行組 行組 行組 一 不明 一 一 行組 一 行組 一 行組 行組 一 行組 行組 一 行組 行組 行 石 行 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石 石	信前・部長   両軸と機關梁石残 基底部のみ 両軸と機謀空行残 両軸の一部成 一 基底部のみ 一 基底部のみ 一 一 両軸削助壊 両軸削助壊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45により新 44作より古 47作より 新 44作より古 47作より 新 49作より古 50作より新 49作より古 50作より新 48・50作より新 48・49作より古 52作より 新 51作より 新 58作より 新 58作より 新 58作 A カマドより 新 58作 A カマドより 新		
4357EUPA 4457EUPA 4557EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4857EUPA 4857EUPA 5057EUPA 5157EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5557EUPA 5557EUPA 5657EUPA 5657EUPA 5657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA 6657EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18$	隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 积 上 扩形 积 上 扩形 积 上 扩 形 上 扩 和 上 加 上 扩 和 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.8 2.8 2.7 3.8 2.9 3.9 3.9 3.9	>1.2   >1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.5   >1.5   >1.5   <1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:20(4 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:27 S:26 S:27 S:26 S:33	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16	375.50 375.45 375.45 375.45 375.30 375.30 375.30 375.30 375.66 376.68 377.65 377.65 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62	東市陽 東辺一市 東市陽 本:四中 本:西市陽 日:東市陽 本:西北陽 本:西北陽 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:東辺一市 本:西北 本:東辺一市 本:西北 本:東辺一市 本:西北 本:東辺一市 本:西北 田:東辺一市 本:西北 田:東辺一市 田:東山市 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東	信報 信報 信報 信報 信報 一 一 一 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か	信前・部代  海納と規關受行残 基底部のみ 両額と規關受信残 両額と現受残 両額と現受残 両額の、部代 一 一 一 一 両額削壊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45ほより新 44年より古 44年より古 44年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 52年より古 53年より新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新		
4337fEURA 4437fEURA 4537fEURA 4537fEURA 4637fEURA 4737fEURA 4837fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot J-8 \cdot I-8 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot I-19 $	隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 形 风 上 扩 形 积 上 扩 和 上 加 上 扩 和 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.9 2.8 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.9 4.5	>1.2   >1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.5   >1.5   <1.5   >1.5   <1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:35 S:13 S:17 S:10 S:11 S:10 S:11 S:11 S:10 S:12 S:21 S:26 S:27 S:28 S:27 S:28 S:28 S:28 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.30 375.66 376.68 377.65 375.61 375.62 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 A:西南陽 B:東市陽 本確認 東辺一中 本確認 市辺一東 本確認 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽	信報	信前・部長   両軸と機關梁石残 基底部のみ 両軸と機謀空行残 両軸の一部成 一 基底部のみ 一 基底部のみ 一 一 両軸削助壊 両軸削助壊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45ほより新 44年より古 47年より新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 51年より新 58年より古 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年より古 11年より新		
4357EUPA 4457EUPA 4457EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4757EUPA 5057EUPA 5057EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5057EUPA 5057EUPA 6057EUPA 6057EUPA 6057EUPA 6057EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18$	既	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.8 2.8 2.7 3.8 2.9 3.9 3.9 3.9	>1.2   >1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   <1.5   >1.2   <1.5   >1.2   <1.5   >1.5   >1.5   <1.5   >1.5   <1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:20(4 S:35 S:20(4 S:8 S:13 S:17 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:27 S:26 S:27 S:26 S:33	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16	375.50 375.45 375.45 375.45 375.30 375.30 375.30 375.30 375.66 376.68 377.65 377.65 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62 375.62	東市陽 東辺一市 東市陽 本:四中 本:西市陽 日:東市陽 本:西北陽 本:西北陽 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:西北 本:東辺一市 本:西北 本:東辺一市 本:西北 本:東辺一市 本:西北 本:東辺一市 本:西北 田:東辺一市 本:西北 田:東辺一市 田:東山市 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東 田:東	信報 信報 信報 信報 信報 一 一 一 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か 信報か	信前・部代  海納と規關受行残 基底部のみ 両額と規關受信残 両額と現受残 両額と現受残 両額の、部代 一 一 一 一 両額削壊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45ほより新 44年より古 44年より古 44年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 52年より古 53年より新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新		
4337fEURA 4437fEURA 4537fEURA 4537fEURA 4637fEURA 4737fEURA 4837fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA 6037fEURA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot J-8 \cdot I-8 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \cdot I-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-19 \cdot I-19 $	隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 隔 上 扩 形 形 风 上 扩 形 积 上 扩 和 上 加 上 扩 和 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上 加 上	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.9 2.8 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.9 4.5	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:35 S:13 S:17 S:10 S:11 S:10 S:11 S:11 S:10 S:12 S:21 S:26 S:27 S:28 S:27 S:28 S:28 S:28 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29 S:29	N:20 N:20 N:30 N:30 N:30 N:17 N:11 N:11 N:11 N:16 N:18	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.30 375.66 376.68 377.65 375.61 375.62 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 A:西南陽 B:東市陽 本確認 東辺一中 本確認 市辺一東 本確認 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽	信報	信前・部代  海納と規關受行残 基底部のみ 両額と規關受信残 両額と現受残 両額と現受残 両額の、部代 一 一 一 一 両額削壊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45ほより新 44年より古 47年より新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 51年より新 58年より古 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年より古 11年より新		
4357EUPA 4457EUPA 4457EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4657EUPA 4757EUPA 5057EUPA 5057EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5357EUPA 5057EUPA 5057EUPA 6057EUPA 6057EUPA 6057EUPA 6057EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-3 \cdot I - 3 \\ K-3 \cdot I - 3 \\ K-4 \cdot K - 5 \cdot I - 4 \cdot I - 5 \\ I - 4 \cdot I - 5 \\ K-4 \cdot K - 5 \cdot I - 4 \cdot I - 5 \\ I - 5 \cdot J - 5 \\ I - 5 \cdot J - 5 \\ I - 5 \cdot J - 5 \\ I - 5 \cdot J - 5 \\ I - 5 \cdot J - 6 \cdot J - 5 \cdot J - 6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I - 9 \cdot I - 10 \\ E-2 \cdot E - 3 \\ B-6 \cdot C - 6 \\ B-5 \cdot C - 5 \\ J-6 \cdot J - 7 \cdot K - 6 \cdot K - 7 \\ J-7 \cdot J - 8 \cdot K - 7 \cdot K - 8 \\ J-8 \cdot J - 9 \cdot K - 8 \cdot K - 9 \\ H-7 \cdot I - 7 \cdot H - 8 \cdot I - 8 \\ I-18 \cdot I - 19 \cdot J - 18 \cdot J - 19 \\ I-18 \cdot I - 19 \\ H-7 \cdot I - 7 \\ I-6 \cdot I - 7 \cdot J - 6 \cdot J - 7 \end{array}$	既	2.9 3.1 3.4 >1.6 3.4 5.6 6.0 3.5 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.8 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 3.2 3.3 3.9 *4.5 4.5	>1.2   >1.5   >1.2   <1.3   <1.3   <1.3   <1.4   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:23 S:20 S:20 S:20 S:20 S:21 S:20 S:21 S:20 S:21 S:20 S:21 S:20 S:21 S:21 S:21 S:21 S:21 S:21 S:21 S:21	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:16 N:18 N:18 N:18	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.30 375.60 375.85 377.16 375.62 375.62 375.62 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 お 三東市陽 お 藤 遊 東辺一中 木崎 超 東辺一中 木崎 超 東北西 東北西 東北西 東北西 東北西 東北西 東北西 東北西	(報) (報) (報) (報) (報) (報) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대	信納・那残 両額と與關東行残 場就等のみ 両額と與關東行残 両額と與東東 両額の、都成 一 場就等のみ 一 一 局額例域 一 場就等のみ 一 一 高額例域 一 場就等のみ 一 一 高額例域 一 場就等のみ 一 一 高額例域 一 場就等のみ 一 の 一 の に で 行 で 行 の は の に で の に で 行 の は の に の に に に に に に に に に に に に に	(33) 40 (63) 40 30 35 (73) (73) (73) (73) (73) (73) (73) (73)	45ほより新 44年より古 47年より新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 51年より新 58年より古 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年より古 11年より新		
4337/EUPA 4437/EUPA 4437/EUPA 4537/EUPA 4637/EUPA 4637/EUPA 4837/EUPA 4837/EUPA 5037/EUPA 5037/EUPA 5037/EUPA 5037/EUPA 5037/EUPA 5037/EUPA 6037/EUPA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot H-8 \cdot I-8 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-16 \cdot J-7 \\ I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-16 \cdot I-17 \\ \end{array}$	隔上扩形 隔上扩形 隔人 扩形 形形形形 隔人 扩形	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.8 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 4.5 4.5 4.2 3.6	>1.2	S:14 S:39 S:42 S:39 S:42 S:39 S:20 S:20 S:20 S:40 S:35 S:20 S:35 S:17 S:40 S:13 S:17 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:35 S:33 S:47 S:47 S:27	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:16 N:18 N:18 N:18	375.50 375.55 375.45 375.46 375.30 375.30 375.30 375.30 375.85 375.85 377.05 375.85 377.05 375.87 37	東市陽 東辺一市 東市陽 A:西市岡 B:東市岡 A:西市岡 B:東市岡 本確認 市辺一東 本確認 市辺一東 本確認 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡	(報) (報) (報) (報) (報) (報) (日報) (日報) (日報) (	信納・部残   両軸と機関東行残 基底部のみ 両軸と機関東行残 両軸と関東で残 両軸の一部成 一 基底部のみ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45ほより新 44年より古 47年より新 46年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 51年より新 58年より古 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年より古 11年より新	(3m)a-(3m) (3m) (3m) (3m) (3m) (3m) (3m) (3m)	
4357任以終 4457任以終 4557任以終 4657任以終 4657任以終 4857任以終 5057任以終 5157任以終 5157任以終 5357任以終 5557任以終 5557任以終 5557任以終 6657任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終 6357任以終	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ H-7 \cdot I-7 \cdot H-8 \cdot I-8 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \\ H-7 \cdot I-7 \\ I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-16 \cdot I-17 \\ I-20 \\ \end{array}$	隔 上 扩 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >19 >2.5 2.8 2.9 2.8 2.9 3.9 4.5 4.5 4.6 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:42 S:30 S:23 S:20(4 S:35 S:217 S:17 S:10 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:5 S:33 S:47 S:47 S:47 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27 S:2	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:16 N:18 N:18 N:18	375.50 375.45 375.45 375.45 375.30 375.30 375.30 375.85 375.85 376.68 377.45 377.45 375.85 375.85 376.82 375.85 376.82 37	東市陽 東辺一市 東市國 A:西南國 B:東市國 A:西南國 B:東市國 本確認 東辺一中 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認	(報 ) (	信納・那残   両軸と機關梁石残 場底部のみ 両軸と機謀守行残 両軸の一部残 一 場底部のみ 一 場底部のみ 一 一 両軸削助壊 一 一 両軸削助壊 一 一 一 両軸削助壊 一 一 一 一 一 両軸削助壊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439  40   40   40   40   40   40   40   40	45はより新 44年より古 44年より古 44年より古 44年より古 49年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 53年より新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新 58年カラマドより新		
4337fEURA 4437fEURA 4437fEURA 4537fEURA 4637fEURA 4737fEURA 4837fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 5037fEURA 6037fEURA	$\begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \cdot K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \\ I-17 \cdot I-7 \\ I-6 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-16 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-16 \cdot I-7 \cdot J-6 \cdot J-7 \\ I-16 \cdot I-7 \cdot J-12 \cdot G-12 \\ I-120 \\ G-6 \cdot G-7 \\ \end{array}$	隔 上 扩 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形 形	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.8 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 2.3 2.2 3.0 4.5 4.5 4.2 3.6 4.0 4.0	>1.2   >1.5   >1.2   <1.3   <1.3   <1.3   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1.4   <1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:35 S:13 S:17 S:10 S:11 S:10 S:21 S:26 S:21 S:26 S:27 S:25 S:27 S:25 S:27 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:4	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:13 N:18 N:18 N:18 N:18 N:18 N:30	375.50 375.45 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.60 376.68 377.65 375.61 375.62 375.63 375.63 375.63 375.63 375.64 375.63 375.64 375.63 375.64 375.63 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 376.68	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 A:西南陽 B:東市陽 本確認 東辺一中 本確認 市辺一東 本確認 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽 東北陽	(報 (報 (報 (報 (報 (報 (報 (報 (報 ( ( ( ( ( (	信納・那残 両軸と規關使行残 基底部のみ 両軸と規模で行数 両軸と規模で行数 両軸と規模で 一 場底部のみ 一 一 両軸側域 一 場底部のみ 一 一 両軸側域 一 場底部のみ 一 一 両軸側域 で着行材残 で着行材残 で右付枝 で右付枝 で右付枝 で右付枝 で右付枝 でが 両軸と現行はず残 両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸と現行はず残 の両軸の一部状	13    40	45はより新 44年より古 47年より新 46年より古 47年より古 50年より新 48・50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 53年より古 53年より新 58年 カマドより新 58年 カマドより新 58年 カフドより新 58年 カファ より古 71年より新 62・72・77年より新 62・72・77年より新 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古		
4337fEUPA 4437fEUPA 4437fEUPA 4537fEUPA 4637fEUPA 4757fEUPA 4837fEUPA 4937fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 6037fEUPA	$ \begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \\ K-3 \\ 13 \\ K-4 \\ \cdot K-5 \\ \cdot I4 \\ \cdot I5 \\ I4 \\ \cdot I5 \\ I4 \\ \cdot I5 \\ I4 \\ \cdot I5 \\ I4 \\ \cdot I5 \\$	隔上方形形成上方形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >1.9 2.8 2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 3.0 3.5 3.5 2.8 3.9 4.0 3.4	>1.2   >1.5   >1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:42 S:20 S:20 S:20 S:35 S:20(4 S:8 S:17 S:40 S:17 S:40 S:21 S:26 S:27 S:26 S:35 S:47 S:27 S:27 S:27 S:27 S:25 S:27 S:27 S:27 S:27 S:28	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:13 N:18 N:18 N:18 N:18 N:18 N:30	375.50 375.55 375.45 375.45 375.45 375.50 375.50 375.87 375.66 377.85 377.65 377.65 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 375.85 376.62 375.85 376.62 376.86 376.87 37	東市陽 東辺一市 東市陽 A:南市岡 B:東市國 A:西市國 B:東市國 本確認 市辺一東 本確認 市辺一東 本確認 東北國 本定型一中 本定型一中 と東辺一中 北辺一両 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國 東北國	(報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報)	信納・那残 両額と與關東信義 場底部のみ 両額と與漢実残 両額のの。 両額のの。 一 場底部のみ 一 一 場底部のみ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	4:30    40	45年より新 44年より古 47年より新 46年より古、50年より新 48年より古、50年より新 48・49年より古、50年より新 48・49年より古 52年より古 53年より新 40年より古 53年より新 58年より新 62・72・77年より新 62・72・77年より新 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古		
4337fEUPA 4437fEUPA 4437fEUPA 4537fEUPA 4637fEUPA 4837fEUPA 4837fEUPA 4937fEUPA 5337fEUPA 6337fEUPA	$ \begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-6 \\ I-5 \cdot J-6 \\ I-7 \cdot J-7 \\ I$	隔 人人 好 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形形 形	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 2.8 2.9 3.8 2.9 3.2 3.9 4.5 4.2 3.6 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9 3.9	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:42 S:39 S:204 S:204 S:35 S:207 S:40 S:17 S:40 S:17 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:27 S:26 S:27 S:27 S:26 S:27 S:28 S:27 S:28 S:27 S:28 S:27 S:28 S:27 S:28 S:27 S:28 S:33	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:13 N:18 N:18 N:18 N:18 N:18 N:30	375.50 375.45 375.45 375.46 375.46 375.30 375.30 375.37 375.87 375.85 377.66 375.85 375.87	東市陽 東辺一市 東市國 A:西南南國 B:東市國 A:西南南國 B:東市國 本確認 市辺一東 本確認 市辺一東 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認 本確認	(報) (報) (報) (報) (報) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대) (대	信納・部残   両軸と機関東行残 場域に負関で行残 両軸を関東で代表 両軸を関東で代表 両軸の一部成 一 場底でのみーー 一 一 両軸削り壊ーー 基底でのみ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45年より新 44年より古 47年より新 46年より古、50年より新 48年より古、50年より新 48・49年より古、50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 51年より新 40年より古 58年 カマドより新 18年より古 71年より新 58年 カマドより新 73年より古 71年より新 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古		
43万任以終 44万任以終 44万任以終 45万任以終 46万任以終 48万任以終 49万任以終 50万任以終 50万任以終 50万任以終 50万任以終 50万任以終 50万任以終 60万任以 60万任 60万任 60万任以 60万任以 60万任 60万任 60万任 60万任 60万任 60万任 60万任 60万任	K-11 K-12 K-12 K-12 K-2 K-3 · L-2 · L-3 K-3 · L-4 · L-5 L-4 · L-5 K-4 · K-5 · L-4 · L-5 I-5 · J-5 I-5 · J-6 · J-5 · J-6 G-11 · G-12 H-9 · H-10 · I-9 · I-10 E-2 · E-3 B-6 · C-6 B-5 · C-5 J-6 · J-7 · K-6 · K-7 J-7 · J-8 · K-7 · K-8 I-18 · I-19 · J-18 · J-19 I-18 · I-19 I-16 · I-7 I-6 · I-7 I-6 · I-7 I-6 · G-7 G-8 · H-8 I-9 · I-9 J-7 · K-7 · K-8 I-19	隔处上分形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >19 >2.8 2.9 3.2 2.7 3.9 4.5 4.2 3.6 2.8 3.9 4.0 3.6 3.6 2.4	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:23 S:20(4 S:35 S:217 S:10 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:5 S:33 S:47 S:47 S:27 S:28 S:27 S:28 S:27 S:28 S:38 S:47 S:27 S:28 S:28 S:27 S:28 S:38 S:47 S:28 S:28 S:38 S:47 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28	N:20 N:20 N:30 N:30 N:7 N:11 N:11 N:11 N:13 N:18 N:18 N:18 N:18 N:18 N:30	375.50 375.45 375.45 375.43 375.30 375.30 375.30 375.87 375.85 376.68 377.45 377.45 375.85 376.82 37	東市陽 東辺一市 東市國 北辺一東 北市國 A:西南國 B:東市國 A:西南國 B:東市國 本語 東辺一中 本語 語辺一東 市辺一東 市辺一東 市辺一東 市辺一東 市辺一東 市辺一東 市辺一東 市	信報	信納・郵残 両納と規關或行残 場就定のみ 両納的で、開発行残 両納的で、常成 一 場話などのみ 一 場話などのみ 一 一 両納的功 一 一 両納的功 一 一 一 両納的功 一 一 一 両納的功 で右行村残 で右行村残 で右行村残 で右行村残 で結婚 両納むと梁行ほど校 両納むと梁行はず校 両納むと梁行はず校 両納をと受行はず校 両納をとな行ばず校 両納をとな行ばずな 両納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向納の「常残 一 両向が の になる になる になる になる になる になる になる になる	43   40	45はより新 44年より古 44年より古 44年より古 44年より古 55年より新 49年より古、50年より新 48・49年より古 55年より新 48・49年より古 55年より新 40年より新 40年より新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより古 71年より新 73年より古・116年成より古 73年より古・116年成より古 53年より古・77年より新 62・72・77年より新 62・63年より古・77年より新 63・63年より古・77年より新 63・63年より古・77年より新		
4357任以終 4457任以終 4457任以終 4657任以終 4657任以終 4857任以終 5057任以終 5057任以終 5157任以終 5157任以終 5557任以終 5557任以終 5657任以終 6657任以 6657 6657 6657 6657 6657 6657 6657 665	$ \begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \\ K-3 \cdot L-2 \cdot L-3 \\ K-3 \cdot L-3 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ L-4 \cdot L-5 \\ K-4 \cdot K-5 \cdot L-4 \cdot L-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot J-5 \\ I-5 \cdot I-6 \cdot J-5 \cdot J-6 \\ G-11 \cdot G-12 \\ H-9 \cdot H-10 \cdot I-9 \cdot I-10 \\ E-2 \cdot E-3 \\ B-6 \cdot C-6 \\ B-5 \cdot C-5 \\ J-6 \cdot J-7 \cdot K-6 \cdot K-7 \\ J-7 \cdot J-8 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ J-8 \cdot J-9 \cdot K-8 \cdot K-9 \\ I-18 \cdot I-19 \cdot J-18 \cdot J-19 \\ I-18 \cdot I-19 \\ I-18 \cdot I-17 \\ I-20 \\ G-6 \cdot G-7 \\ G-8 \cdot H-8 \\ H-9 \cdot I-9 \\ J-7 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ I-19 \\ I-7 \cdot K-7 \cdot K-8 \\ I-19 \\ I-6 \cdot I-7 \\ I-19 \\ I-6 \cdot I-7 \\ I-10 \\$	隔 人人 化多子子 医二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 3.5 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 3.9 4.5 4.5 4.2 3.9 4.0 3.4 3.6 6.6 2.4 3.9	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:23 S:40 S:35 S:20(4 S:35 S:17 S:40 S:13 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27 S:27	N:20 N:20 N:30 N:30 N:31 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16 N:18 N:18 N:30 N:18 N:30	375.50 375.45 375.45 375.45 375.45 375.30 375.30 375.30 375.30 375.66 376.68 375.85 376.62 375.86 375.87 375.62 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63	東市陽 東辺一市 東市陽 上辺一東 東市開 上辺一東 東市開 上で、東市開 上で、東市開 上で、東市開 上で、東市開 本が設と 東辺一中 本が認と 市辺一東 本が認と 東北に関 本・東辺一市 と・東辺一市 と・東辺一市 東北辺一中 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四	(報 ) (報 ) (報 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대	信納・那残   海椒と嗅糊染石残   場底部のみ   海舶のみ   海舶のみ   海舶ののみ   一   場底部のみ   一   海舶の次   一   海舶削壊   一   海舶削壊   一   一   海舶削壊   一   一   海舶の一部残   海舶と遂行石村残   海柏と遂行石村残   海柏と遂行石村残   海柏と遂行石が残   海柏と遂行石が残   海柏とばて残   方・部板   海柏とばて残   方・地の一部状   海柏の一部状   海柏の一形状   海根の一形状   海体が   海を   海を   海を   海を   海を   海を   海を   海を	イ3間   40   40   40   40   40   40   40   4	45年より新 44年より古 47年より新 46年より古、50年より新 48年より古、50年より新 48・49年より古、50年より新 48・49年より古 52年より古 52年より古 51年より新 40年より古 58年 カマドより新 18年より古 71年より新 58年 カマドより新 73年より古 71年より新 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古 73年より古	(3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	
4337fEUPA 4437fEUPA 4437fEUPA 4637fEUPA 4637fEUPA 4837fEUPA 4837fEUPA 4837fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 5037fEUPA 6037fEUPA 7037fEUPA	$ \begin{array}{c} K-11 \\ K-12 \\ K-12 \\ K-2 \\ K-2 \\ K-3 \\ L-4 \\ L-5 \\ K-4 \\ K-5 \\ L-4 \\ L-5 \\ K-4 \\ K-5 \\ L-4 \\ L-5 \\ K-4 \\ K-5 \\ L-4 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-6 \\ L-5 \\ L-5 \\ L-6 \\ L-5 \\ L-6 \\ L-5 \\ L-6 \\ L-7 \\ L$	隔 人人 扩 形形	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 2.3 3.0 4.5 4.5 4.2 3.6 4.2 3.6 4.0 3.4 3.9 4.0 3.9 3.9	>1.2   >1.5   >1.2   <1.3   <1.3   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:24 S:39 S:20 S:35 S:10 S:13 S:17 S:40 S:21 S:26 S:27 S:27 S:28 S:33 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47	N:20 N:20 N:30 N:30 N:31 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16 N:18 N:18 N:30 N:18 N:30	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.60 375.65 376.62 377.65 375.61 375.62 375.63 375.63 375.64 375.63 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.65	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 A:西市時陽 B:東市陽 A・西市陽 B:東市陽 本種認 東辺一中 本種認 東北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 東北四 本 中間 東辺一中 北辺一東 東辺一中 北辺一東 東辺一中 北辺一東 東辺一市 北辺一東 東辺一市 北辺一東 東辺一市 大明 東市  東北 東辺一市 大明 東市  東北 東辺一市	(報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報)	信納・那残 両軸と與關梁信残 場就第のみ 両軸と與梁线 両軸と與梁线 両軸の一部代 一 局軸側域 一 局軸側域 一 局軸側域 一 一 同軸側域 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信可引 関連記述可信 電信 可 可 同 面記述 電信 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可	13    40	45분より新 44代より古 47代より新 46代より古 47代より 新 48代より古 50代より新 48・50代より新 48・49ほより古 52代より古 52代より古 51代より新 40代より新 18代より古 58代 カマドより 新 58代 A カマドより 新 58代 A カマドより 新 58代 A カマドより 新 58代 A カマドより 新 73代より 古 11代より 新 73代より 古 11代より 古 11代より 古 11代より 古 50代より 古 11代より 古 50代より 古 11代より 古 50代より 古 50千名 11代より 古 50代より 古 50		
4357EUW 4457EUW 4457EUW 4657EUW 4657EUW 4857EUW 5057EUW 5057EUW 5057EUW 5057EUW 5057EUW 5057EUW 5057EUW 5057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 6057EUW 7057EU	K-11 K-12 K-12 K-12 K-2 K-3 \ L-3 \ K-4 \ K-5 \ L-4 \ L-5 L-4 \ L-5 L-4 \ L-5 L-5 \ J-5 I-5 \ J-6 \ J-5 \ J-6 G-11 \ G-12 H-9 \ H-10 \ I-9 \ I-10 E-2 \ E-3 B-6 \ C-6 B-5 \ C-5 J-6 \ J-7 \ K-6 \ K-7 J-7 \ J-8 \ K-7 \ K-8 J-8 \ J-9 \ K-8 \ K-9 H-7 \ I-7 \ J-6 \ J-7 I-16 \ I-7 I-6 \ I-7 I-6 \ I-7 I-7 \ K-8 H-9 \ H-8 H-9 \ I-9 I-18 \ I-19 I-19 \ I-18 \ I-19 I-18 \ I-1	隔处上分形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.8 2.9 2.8 2.9 3.8 2.9 3.2 3.6 4.2 3.6 4.2 3.6 4.2 3.6 3.6 4.0 3.4 3.6 3.9 4.9	>1.2   >1.5   >1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.2   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1.5   <1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:42 S:20 S:20 S:20 S:35 S:20(4 S:8 S:17 S:40 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:35 S:47 S:27 S:27 S:28 S:38 S:47 S:27 S:28 S:38 S:47 S:27 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28	N:20 N:20 N:30 N:30 N:31 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16 N:18 N:18 N:30 N:18 N:30	375.50 375.45 375.45 375.45 375.45 375.30 375.30 375.30 375.30 375.66 376.68 375.85 376.62 375.86 375.87 375.62 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63 375.63	東市陽 東辺一市 東市陽 上辺一東 東市開 上辺一東 東市開 上で、東市開 上で、東市開 上で、東市開 上で、東市開 本が設と 東辺一中 本が認と 市辺一東 本が認と 東北に関 本・東辺一市 と・東辺一市 と・東辺一市 東北辺一中 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四 東北四	(報 ) (報 ) (報 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대 ) (대	信納・那残   海椒と嗅糊染石残   場底部のみ   海舶のみ   海舶のみ   海舶ののみ   一   場底部のみ   一   海舶の次   一   海舶削壊   一   海舶削壊   一   一   海舶削壊   一   一   海舶の一部残   海舶と遂行石村残   海柏と遂行石村残   海柏と遂行石村残   海柏と遂行石が残   海柏と遂行石が残   海柏とばて残   方・部板   海柏とばて残   方・地の一部状   海柏の一部状   海柏の一形状   海根の一形状   海体が   海を   海を   海を   海を   海を   海を   海を   海を	13    40	45はより新 44年より古 44年より古 44年より古 44年より古 55年より新 49年より古、50年より新 48・49年より古 55年より新 48・49年より古 55年より新 40年より新 40年より新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより新 58年カカマドより古 71年より新 73年より古・116年成より古 73年より古・116年成より古 53年より古・77年より新 62・72・77年より新 62・63年より古・77年より新 63・63年より古・77年より新 63・63年より古・77年より新	(3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	
4357任以終 4457任以終 4457任以終 4657任以終 4657任以終 4857任以終 4957任以終 5157任以終 5157任以終 5357任以終 5357任以終 5657任以終 5657任以終 6757任以終 6757任以 6757任 6757任 6757任 6757任 6757任 6757任 6757任 6757任 675	K-11 K-12 K-12 K-12 K-2 K-3 · L-3 K-3 · L-3 K-4 · K-5 · L-4 · L-5 L-4 · L-5 K-4 · K-5 · L-4 · L-5 I-5 · J-5 I-5 · J-6 · J-5 · J-6 G-11 · G-12 H-9 · H-10 · I-9 · I-10 E-2 · E-3 B-6 · C-6 B-5 · C-5 J-6 · J-7 · K-6 · K-7 J-7 · J-8 · K-7 · K-8 J-8 · J-9 · K-8 · K-9 H-7 · I-7 · H-8 · I-8 I-18 · I-19 · J-18 · J-19 I-16 · I-7 I-20 G-6 · G-7 G-8 · H-8 H-9 · I-9 J-7 · K-7 · K-8 I-19 I-6 · I-7 J-7 · K-8 I-19 I-6 · I-7 J-7 · K-8 I-19 J-7 · K-7 · K-8 I-19 J-18 · J-19 · K-18 · K-19 K-16 · K-17 K-17	隔风 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	2.9 3.1 3.4 >1.6 5.6 6.0 3.5 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.5 *2.9 2.8 2.7 3.8 2.9 3.2 2.3 3.0 4.5 4.5 4.2 3.6 4.2 3.6 4.0 3.4 3.9 4.0 3.9 3.9	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:24 S:39 S:20 S:35 S:10 S:13 S:17 S:40 S:21 S:26 S:27 S:27 S:28 S:33 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47 S:47	N:20 N:20 N:30 N:30 N:31 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16 N:18 N:18 N:30 N:18 N:30	375.50 375.55 375.45 375.46 375.53 375.30 375.30 375.60 375.65 376.62 377.65 375.61 375.62 375.63 375.63 375.64 375.63 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.64 375.65	東市陽 東辺一市 東市陽 北辺一東 東市陽 A:西市時陽 B:東市陽 A・西市陽 B:東市陽 本種認 東辺一中 本種認 東北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 本北陽 東北四 本 中間 東辺一中 北辺一東 東辺一中 北辺一東 東辺一中 北辺一東 東辺一市 北辺一東 東辺一市 北辺一東 東辺一市 大明 東市  東北 東辺一市 大明 東市  東北 東辺一市	(報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報) (報報)	信納・那残 両軸と與關梁信残 場就第のみ 両軸と與梁线 両軸と與梁线 両軸の一部代 一 局軸側域 一 局軸側域 一 局軸側域 一 一 同軸側域 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信付射线 電信可引 関連記述可信 電信 可 可 同 面記述 電信 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可 可	4:30  40	45분より新 44代より古 47代より新 46代より古 47代より 新 48代より古 50代より新 48・50代より新 48・49ほより古 52代より古 52代より古 51代より新 40代より新 18代より古 58代 カマドより 新 58代 A カマドより 新 58代 A カマドより 新 58代 A カマドより 新 58代 A カマドより 新 73代より 古 11代より 新 73代より 古 11代より 古 11代より 古 11代より 古 50代より 古 11代より 古 50代より 古 11代より 古 50代より 古 50千名 11代より 古 50代より 古 50		
43571EUSB 44571EUSB 44571EUSB 46571EUSB 46571EUSB 48571EUSB 55571EUSB 53571EUSB 53571EUSB 53571EUSB 53571EUSB 53571EUSB 53571EUSB 63571EUSB	K-11 K-12 K-12 K-12 K-2 K-3 \ L-3 \ K-4 \ K-5 \ L-4 \ L-5 L-4 \ L-5 L-4 \ L-5 L-5 \ J-5 I-5 \ J-6 \ J-5 \ J-6 G-11 \ G-12 H-9 \ H-10 \ I-9 \ I-10 E-2 \ E-3 B-6 \ C-6 B-5 \ C-5 J-6 \ J-7 \ K-6 \ K-7 J-7 \ J-8 \ K-7 \ K-8 J-8 \ J-9 \ K-8 \ K-9 H-7 \ I-7 \ J-6 \ J-7 I-16 \ I-7 I-6 \ I-7 I-6 \ I-7 I-7 \ K-8 H-9 \ H-8 H-9 \ I-9 I-18 \ I-19 I-19 \ I-18 \ I-19 I-18 \ I-1	隔风 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名 人名	2.9 3.1 3.4 >1.6 6.0 6.0 3.5 3.2 3.2 3.2 3.0 >1.9 >2.8 2.9 2.8 2.9 3.8 2.9 3.2 3.6 4.2 3.6 4.2 3.6 4.2 3.6 3.6 4.0 3.4 3.6 3.9 4.9	>1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1.2   >1.5   >1	S:14 S:39 S:42 S:39 S:42 S:20 S:20 S:20 S:35 S:20(4 S:8 S:17 S:40 S:17 S:10 S:21 S:26 S:27 S:26 S:35 S:47 S:27 S:27 S:28 S:38 S:47 S:27 S:28 S:38 S:47 S:27 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:38 S:27 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28 S:28	N:20 N:20 N:30 N:30 N:31 N:11 N:11 N:11 N:11 N:16 N:16 N:18 N:18 N:30 N:18 N:30	375.50 375.45 375.45 375.45 375.45 375.45 375.50 375.50 375.85 376.68 377.65 377.65 377.65 375.85 376.62 375.87	東市陽 東辺一市 東市陽 和 : 西市岡 日: 東市岡 日: 東市岡 日: 東市岡 本確認 市辺一東 市辺一東 市辺一東 本確認 東北岡 本東辺一市 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡 東北岡	(報) (報) (報) (報) (報) (報) (報) (報) (報) (報)	信納・部残 両軸と機関梁行残 場域にと機関梁行残 両軸軸のみ 両軸軸ののみ 一 場域部ののみ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	439	45분より新 44代より古 47代より新 46代より古 47代より 新 48代より古 50代より新 48・50代より新 48・49ほより古 52代より古 52代よりお 52代よりお 52代よりお 53代より新 60代より新 60代より新 60代より新 60代より新 60代より新 60代より新 60代より 新 60代より 古 71代より 新 601 より古 71代より 新 601 より古 71代より 古		



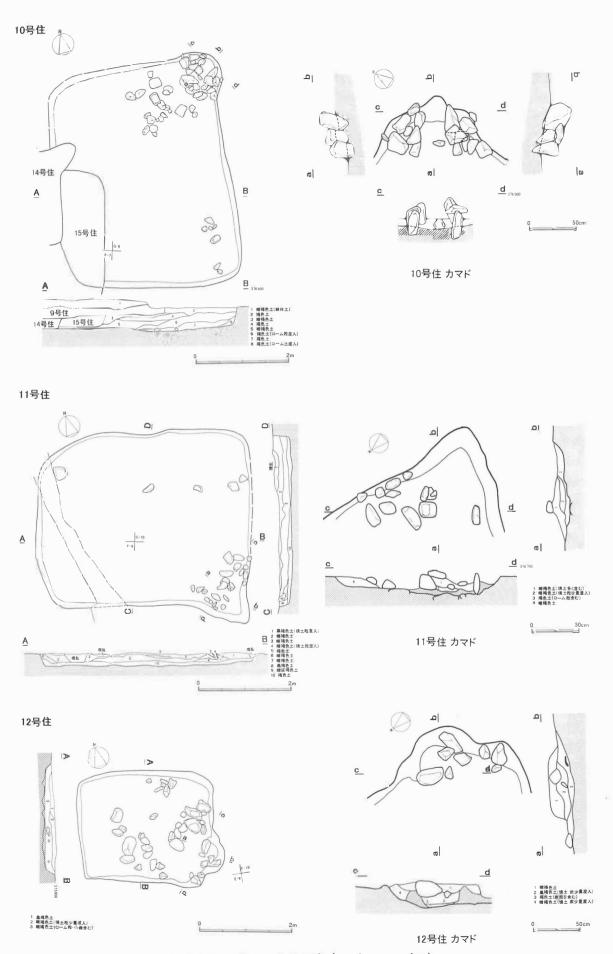
第9図 1 A 号・1 B 号・2 号・3 号住居跡 (1/80・1/40)



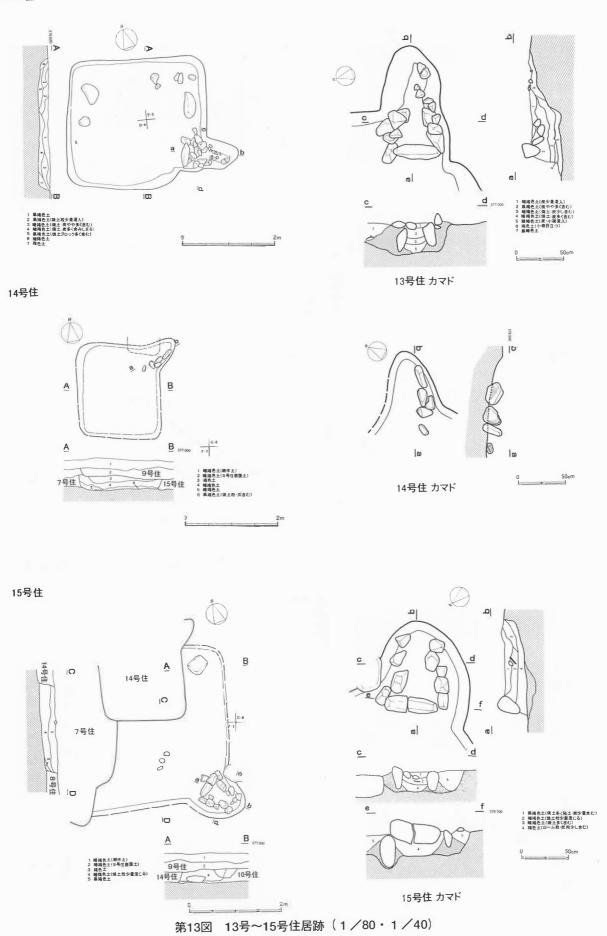
第10図 4号・5 A号・5 B号・6号住居跡(1/80・1/40)

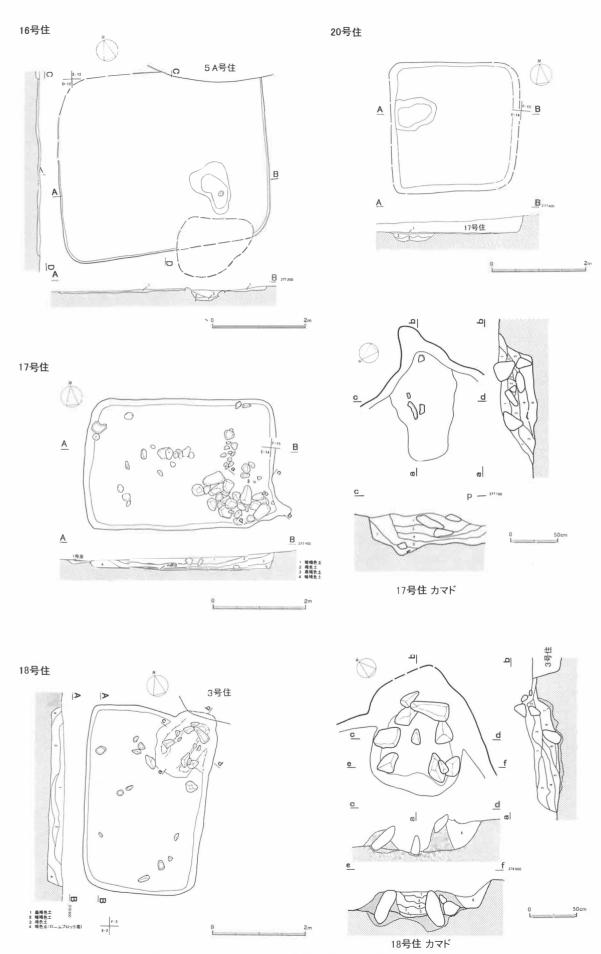


**-** 3**● -**



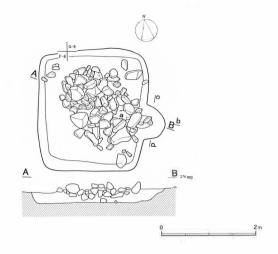
第12図 10号~12号住居跡(1/80・1/40)

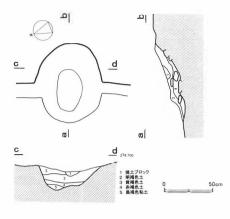




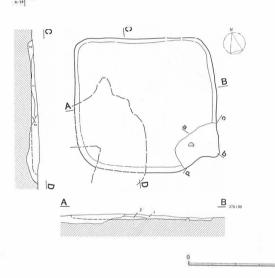
第14図 16号~18号・20号住居跡(1/80・1/40)

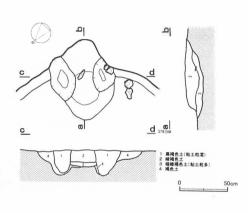






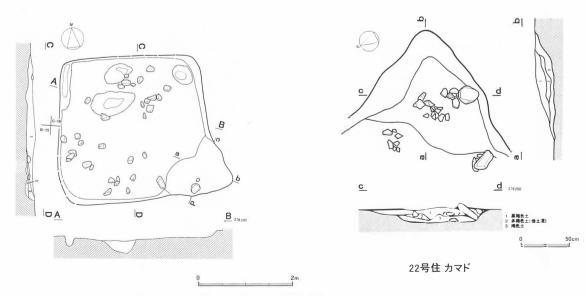
19号住 カマド



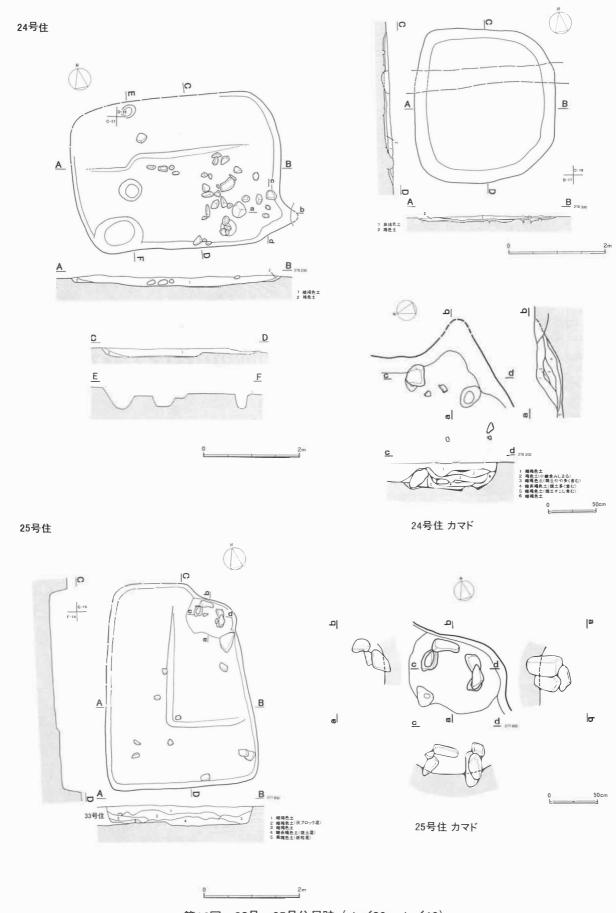


21号住 カマド

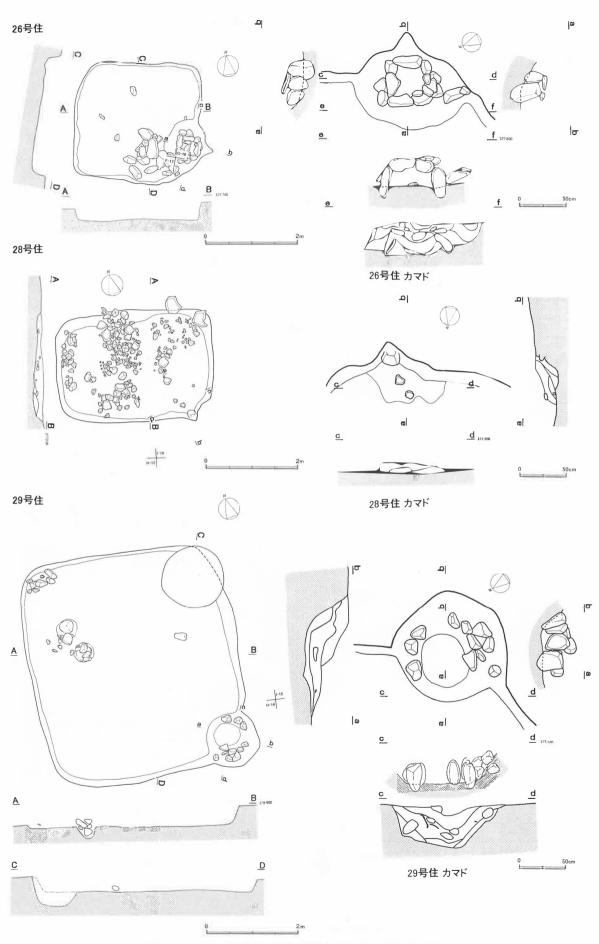
# 22号住



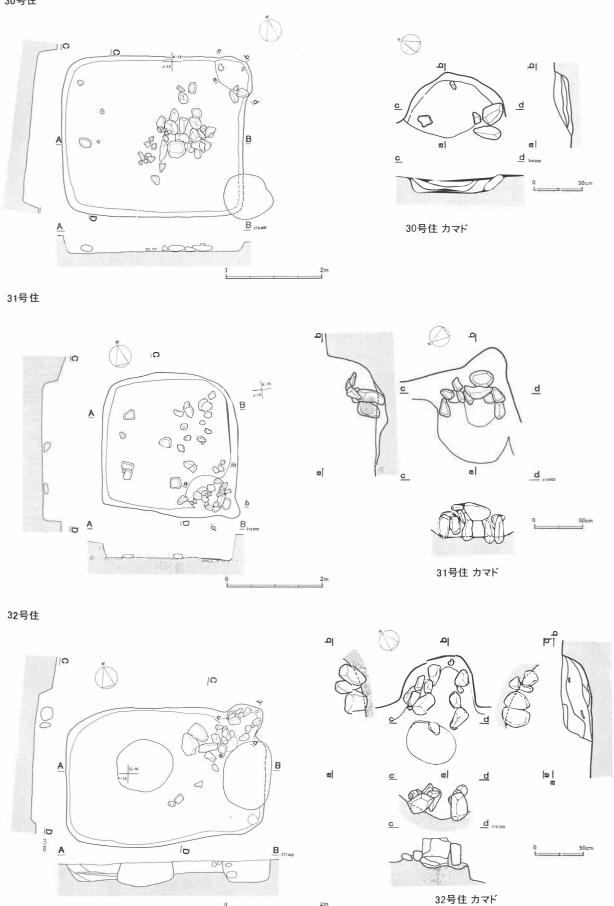
第15図 19号・21号・22号住居跡(1/80・1/40)



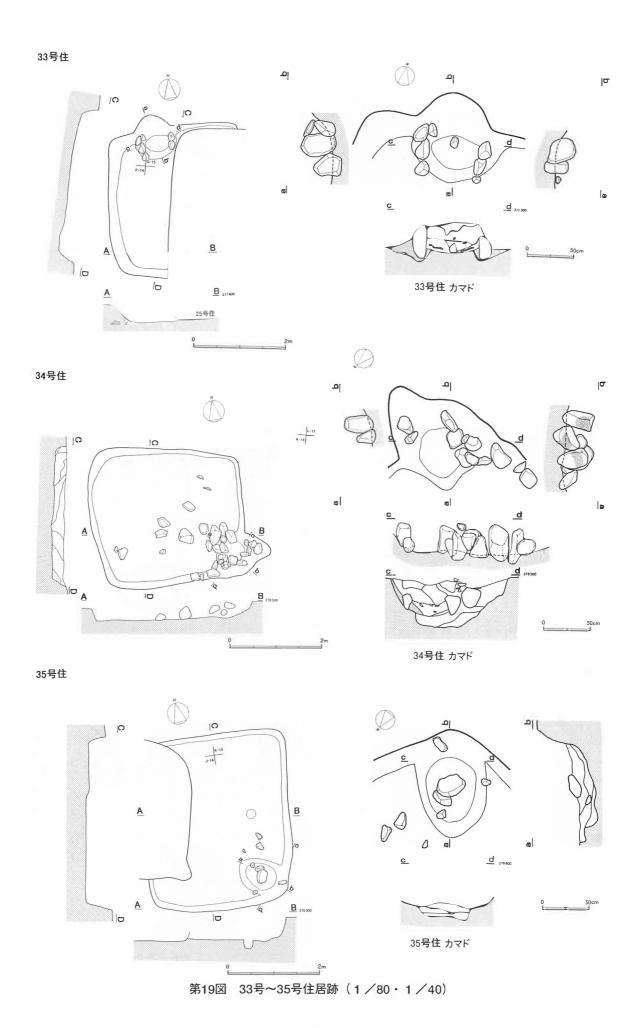
第16図 23号~25号住居跡(1/80・1/40)



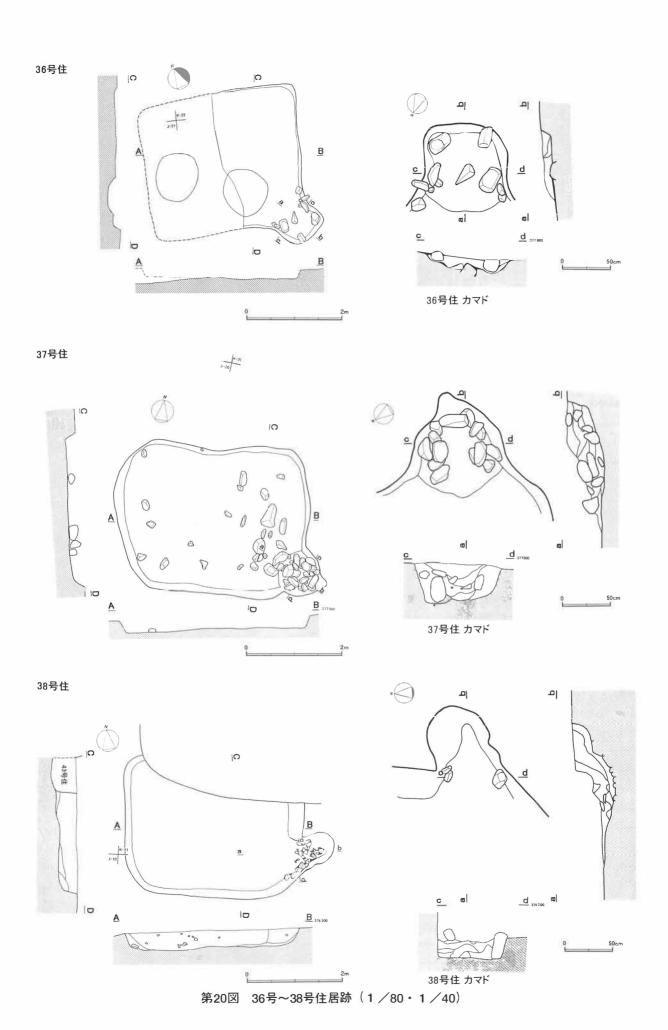
第17図 26号・28号・29号住居跡(1/80・1/40)



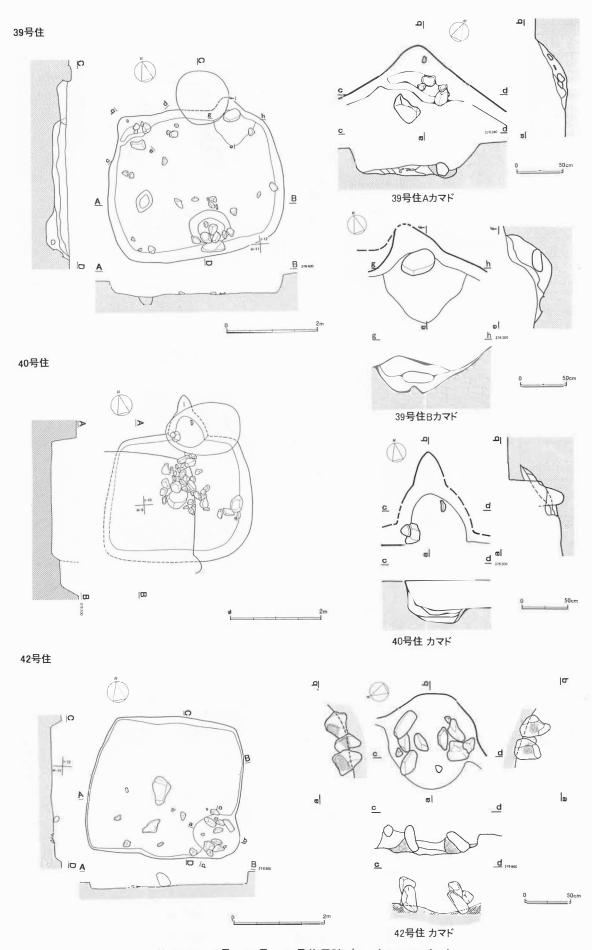
第18図 30号~32号住居跡(1/80・1/40)



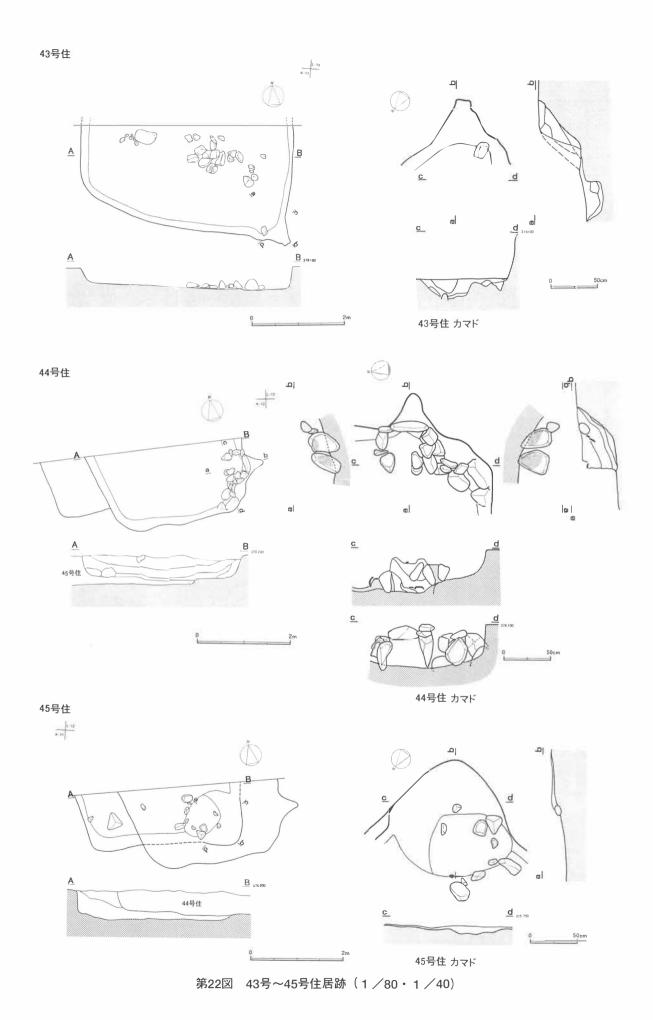
-38 -



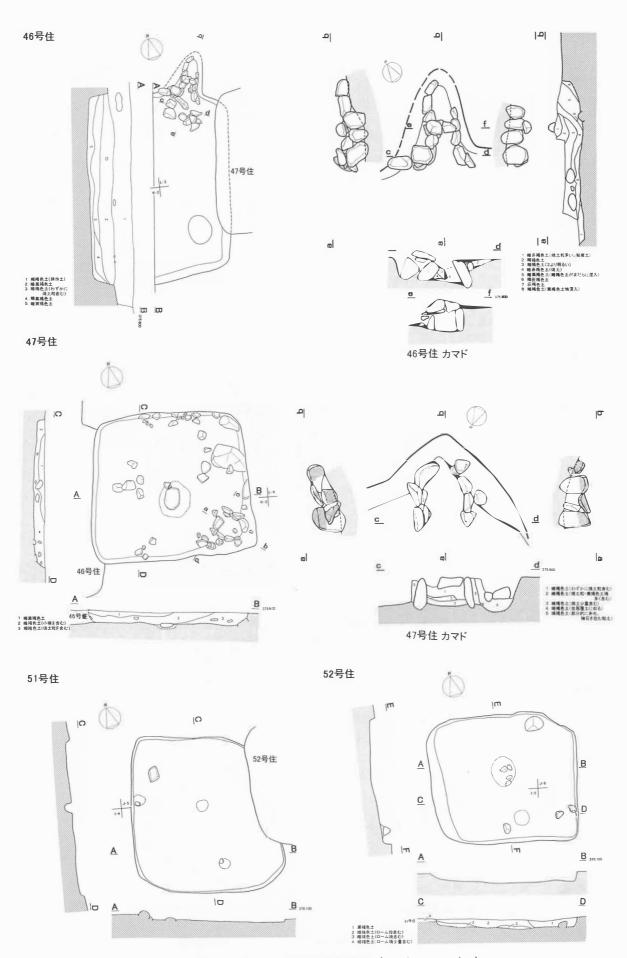
-39-



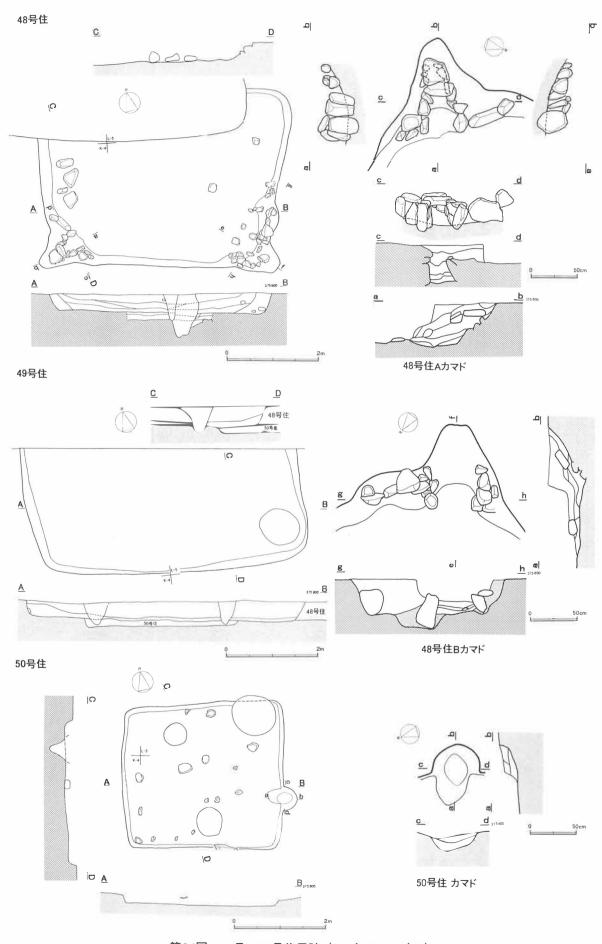
第21図 39号・40号・42号住居跡(1/80・1/40)



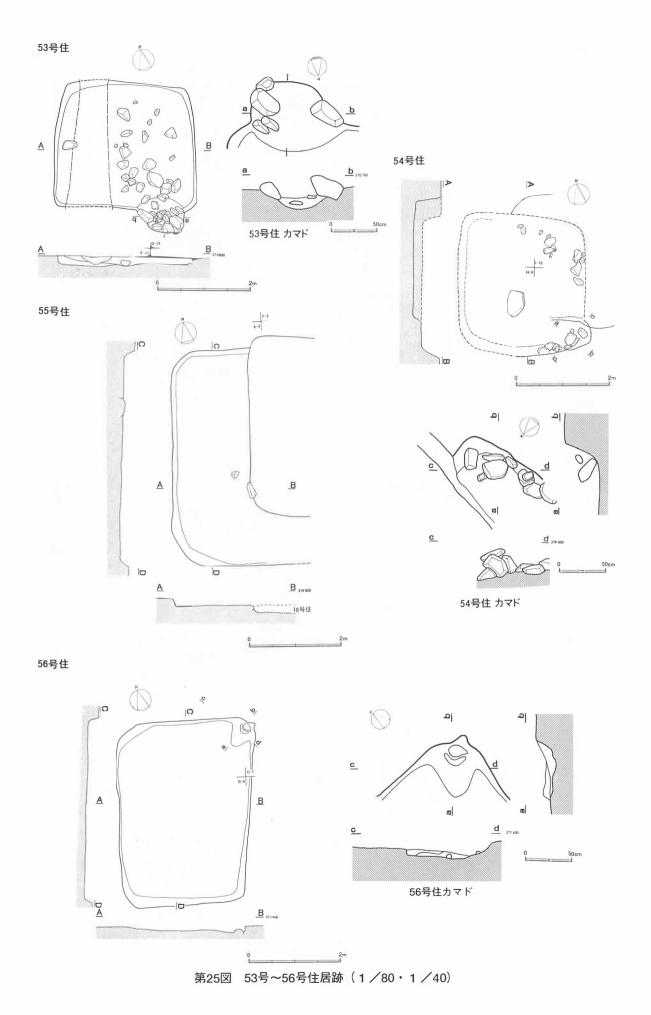
- 41 -

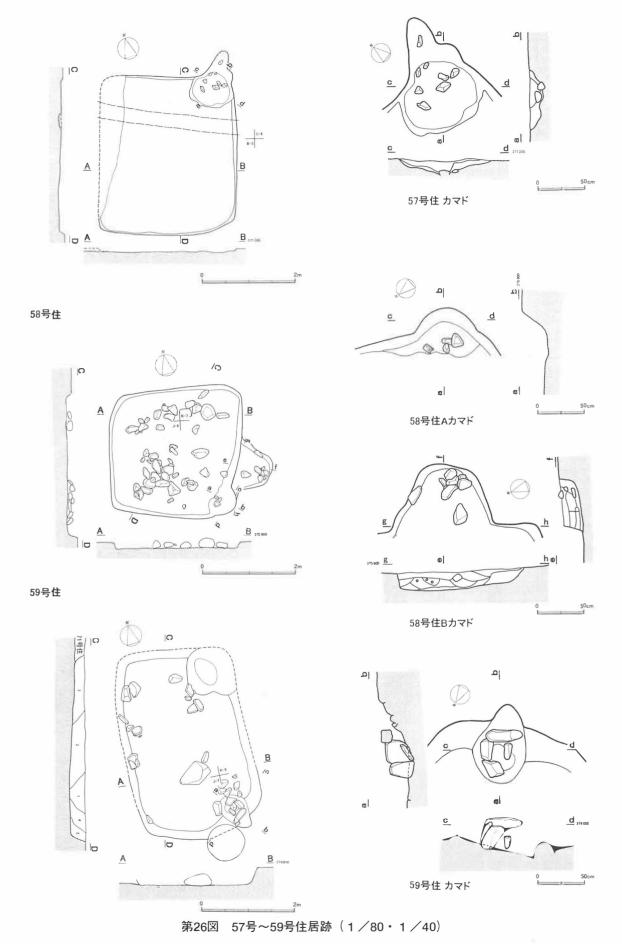


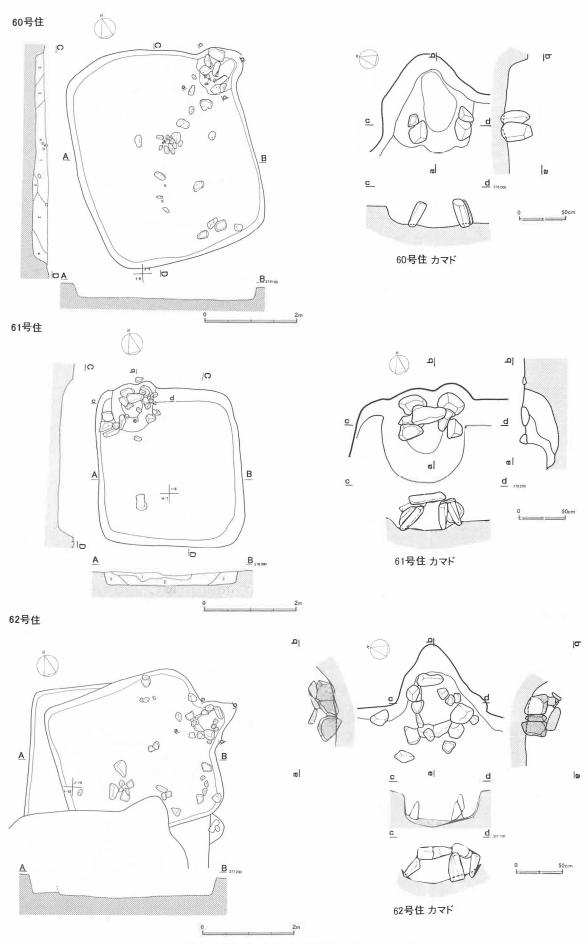
第23図 46号・47号・51号・52号住居跡(1 /80・1 /40)



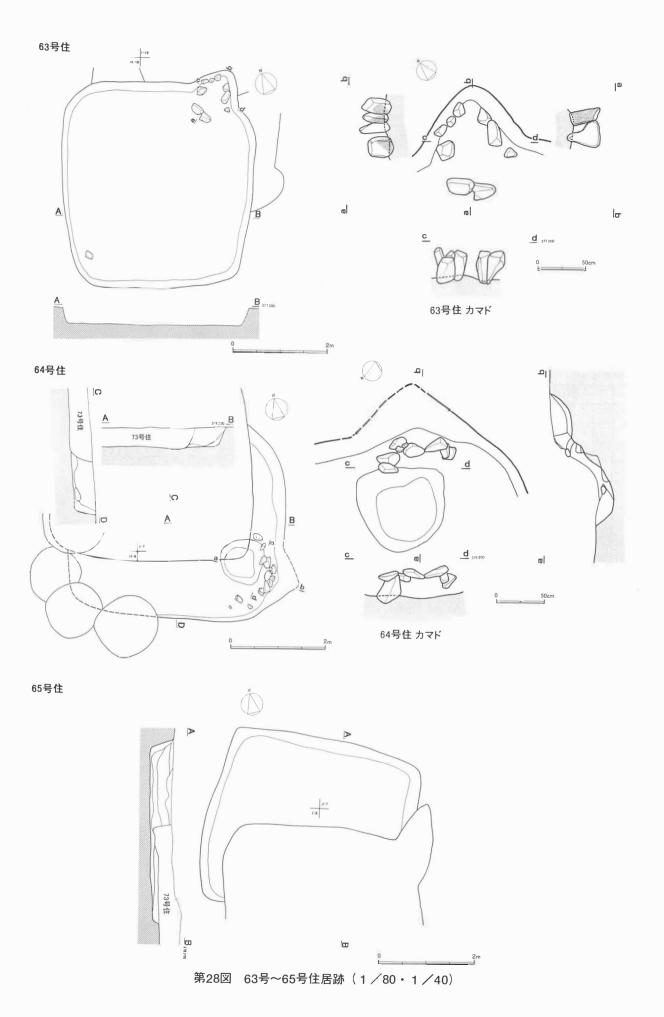
第24図 48号~50号住居跡(1/80・1/40)

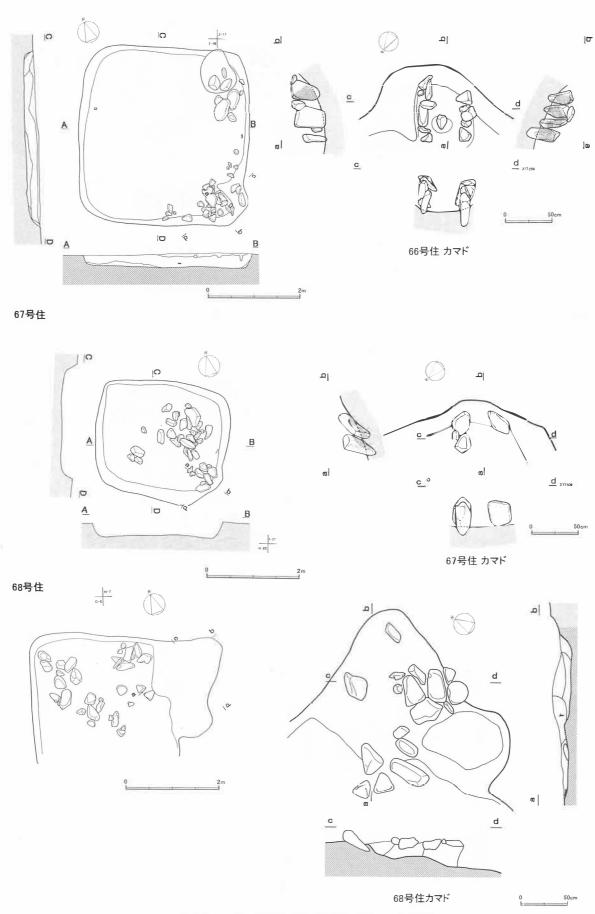






第27図 60号~62号住居跡(1/80・1/40)

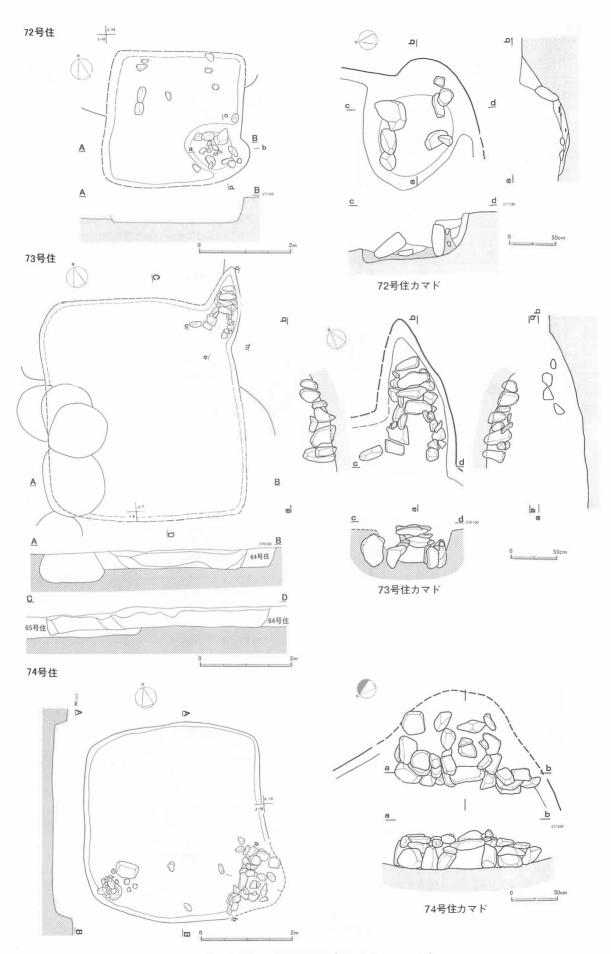




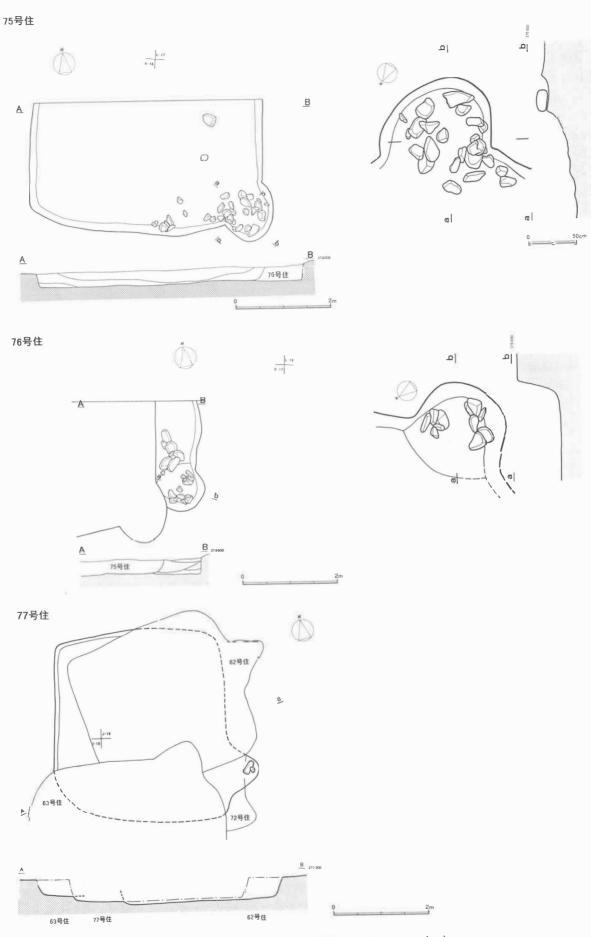
第29図 66号~68号住居跡(1/80・1/40)



第30図 69号~71号住居跡(1/80・1/40)



第31図 72号~74号住居跡(1/80・1/40)



第32図 75号~77号住居跡(1/80・1/40)

#### (2) 土 坑

発見された土坑は、全部で 130基ほどである。形状や性格、また年代的にも幅があると見られるが、伴出する 遺物もたいへん少なく、個々明確に把握することはできなかった。年代的に大別すると、

土坑A=縄文時代の所産になる土坑。数は多くないが、15号土坑、69号土坑などがそれである。

土坑B=住居群の年代にやや遅れて造られたもの。すなわち古代末から中世の初めと推定される。大部分の土坑がこれに含まれる。62号土坑などはその典型で、袋状の形態になるものが多い。32号住居跡を掘り込んで造られた51号および52号土坑のように、平安期の住居を切るものもある。

土坑C=中世の土坑で、50号土坑や95号土坑などがある。

土坑D=近世の土坑で、30号土坑、96号土坑などがある。

これらの一つひとつの土坑についての状況は、第2表にまとめたものにゆずり、以下にとくに注目されたものについてのみ概観する。

## 15号土坑(遺構:第35図、遺物:第75図 9~12)

(概要)調査区の南西寄り、D-5に位置する。

- (形状) 長径1.5m、短径1.0mほどの、東西方向に長軸を持つ不整形の平面形で、確認面からの深さは約20cmを 測る。
- (特記) この土坑の覆土からは第81図 9~12をはじめ若干の諸磯B期の縄文土器の破片資料が見られ、土坑自体、縄文時代前期の所産と見られる。

#### 30号土坑(遺構:第36図、遺物:第75図8)

- (概要)調査区の東南端、B-16グリッドに位置する。29号土坑と重複し、それより新しい。
- (形状) 長径2.0 m、短径1.5 m ほどの、南北方向に長軸を持つ楕円の平面形で、確認面からの深さは約10cm程度とごく浅いものであった。
- (特記) この土坑からは内耳土器の焙烙の残欠が出土している。おそらく近世の所産と見られる。

#### 36号土坑(遺構:第37図)

- (概要)調査区の東南端、B-20グリッドとC-20グリッドにまたがって位置する。
- (形状) 径1.2mほどの円形の平面形で、確認面からの深さは約40cmを測り、いくぶん袋状気味の形態をしている。
- (特記) この土坑の辺りを南北にとおって確認されている道路状遺構と重複しており、中世前半の時期が予想される1号道路状遺構は、この36号土坑を貼って構築されていることが土層観察により確認され、本遺跡における大部分の同様な土坑の年代を考える手掛かりとなるものと見られる。またこの北側、5 m前後には20基近くの土坑が重なり合って密集しているのが確認されたが、それらもみな36号土坑同様、道路状遺構の下に造られたものであることが判明している。

#### 50号土坑(遺構:第36図)

- (概要)調査区のほぼ中央部で、I-14グリッドに位置し、29号住居を切る。
- (形状) 長径1.4m、短径1.1mの、東西方向に長軸を持つ楕円の平面形と、確認面から66cmほどの深さを有し、 やや擂鉢状の形態を呈している。
- (特記) この土坑は29号住居跡と重複しており、この竪穴住居跡を一部掘り込んで構築されている。土坑覆土からは常滑焼と見られる陶器などが出土しており、本遺跡における土坑の中では比較的新しい部類に属すものと思われる。

## 52号土坑(遺構:第36図)

- (概要) 調査区のほぼ中央部やや東寄り、G-16グリッドに確認された土坑である。
- (形状) 長径1.4m、短径1.0mほどの長円形の平面形で、深さは約40cm。
- (特記) 32号住居跡のカマド近くに、この住居を切り込む形で造られている。この土坑は、もともと住居内に投棄されていたと見られ、この土坑を掘るに当たって、掘り出されたと判断される礫 3 個が、堆積土の下部に入っていた。ほかに51号土坑も同様にこの住居を切っている。

# 第2表 土坑一覧表

2号上坑 3号土坑 4号土坑 5号土坑 6号土坑 7号土坑 8号土坑 9号土坑	797FX D-3 E-10 E-10 F-11	平面形 格円形 不整格円形 不整格円形	及行差 (cm) 70 168	tillé (ca) 55	深さ (cm) 23	迫物等	備を	LUINO.	グリッド名	华丽形	(cm)	知経 (cm)	深さ (cm)	道物等		ኝ
2号上坑 3号土坑 4号土坑 5号土坑 6号土坑 7号土坑 8号土坑 9号土坑	E-10	不整楕円形	70	55	<del>-</del>			6713 l-tir		<del> </del>	_	-	$\vdash$	<del></del>	ļ	
3号土坑 4号土坑 5号土坑 6号土坑 7号土坑 8号土坑 9号土坑	E-10		168		_				H-18	门形	100	92	42		袋状	
4 号土坑 5 号土坑 6 号土坑 7 号土坑 8 号土坑 9 号土坑		不够接出联		85	35			681} 15%	H -18 · H -19	不整形	118	65	18		2647	—
5 号土坑 6 号土坑 7 号土坑 8 号土坑 9 号土坑 10号土坑	F-11	15861117112	208	134	45			69号 比抗	G -19~H-19	不整格円形	250	110	60	模文的用土器		
6 号土坑 7 号土坑 8 号土坑 9 号土坑 10号土坑		往出川杉	136	130	20	<u> </u>		70号 比坑		ほぼ円形		<del> </del>	-	M X HWI J. GI	<u> </u>	
6 号土坑 7 号土坑 8 号土坑 9 号土坑 10号土坑	F-11	ほぼ門形	125	115	17			71号上坑	G-10	ほぼ円形	96	94	35			
7号土坑 8号土坑 9号土坑 10号土坑	F-11~G-11	桁凹形	160	120	45	青磁碗片		72号 比坑			- 65	51	17		<u> </u>	
8 号土坑 9 号土坑 10号土坑	F-10~F-11	Kirus	128	80	25	14 MITMEN	_	<del></del>	G-10	ほぼ円形	60	55	10			
9 号士坑 10号士坑	F -12	ほぼ円形	144	138	40			73号上坑	G-10 · H-10	ほぼ門形	127	127	50		袋状	
10号士坑	F-12~G-12	ほぼ門形			_	_		74号  :坑	G-11	ほぼ桁凹形	83	75	15			
h	F-12~G-12		135	133	60			75号上坑	H-10	不整円形	118	118	25			
11号土坑	F-13	はは川形	113	113	35			76号上坑	H-10	不整格円形	110	90	38			
<b></b>			208	110	30	_	<u> </u>	77号上坑	H-10	ほぼり形	100	92	35		袋状	
$\vdash$	D-6	不整门形	110	90	55			785) Estic	G-11	ほぼ門形	108	100	37		袋状	
	F - 12	ほぼ川形	140	130	35			79号上坑	H-11	ほぼ門形	120	115	32			
	C-6~D-6	不整川形	150	148	20			80号上坑	H-11	ほぼり形	130	125	40			
	D - 5	不整形	145	95	20	模文的用上器		81号 法坑	H-11	格門形	140	103	40			
16号土坑	D - 5	ほぼ川形	56	52	50			82号土坑	H-11	不整円形	103	100	45		袋状	
17号上坑	D - 5	ほほけが	80	65	40			83号 化坑	H-11	不整円形	95	90	60		袋状	
18 <sup>1</sup> }.E.Mi	C-5~D-5	格円形	95	73	30			841) litit	H — 10	不包打形	130	120	55			
19号上市	C-5	ほぼ川形	92	82	20			85号 协定	1-10	桁円形	160	110	38		40岁住村路よ	り新
20号上坑	C – 5	ほぼ川形	73	62	30			86号 比坑	G-2 · G-3 · H-2 · H-3	不管円形	115	110	65			
21号土坑	C-5	不整格円形	70	57	20			87号 比坑	G – 3	ほぼ円形	98	93	45			
225 計坑	D – 5	不整格円形	69	56	30			88号上坑	G – 3	不整門形	65	60	15			
23号土坑	D – 4	ほぼり形	52	49	40			89号上坑	к-3	格円形	65	50	38			
24号:抗	E-3~E-4	桁凹形	100	65	27			90号 比坑	J-3 · J-4 · K-3 · K-4	ほぼ門形	93	90	20			
	E – 3	桁門形	114	90	30			<del></del>	D-21~D-22	桁円形	130	110	58		一部袋状	
26号土坑	E-3	不整円形	122	92	35	_		92号 15坑	D-21~D-22	KITIF	120	95	35			
27号土坑	E-3	桁凹形	55	40	30			935} 比坑	C-21~C-22	ほぼ川形	110	107	30			
	E-3	桁凹形	113	87	40			94号土坑	B-12	不整円形	130	115	70			
	B-16	PI形	125	(120)	30	_		951) EST	L-5	不整門形	75	70	109		49号住民を切る	Itrim
	B-16	桁門形	200	150	$\overline{}$	内耳上器	P-13	96号比坑	C-7	ほぼ川形	110	100		"克水道街	なか	: 117-4-
<del></del>	E-16	印形	90	90	55	1721 1.00	<b>投状</b>	97号上坑	B-7~C-7	ほぼ川形	110	104	35	жими	一部袋状	
		円形	70		_		RIV				$\rightarrow$				iipze4A	
	E-16		-+	70	22		(PAR	98号 技术	C-8	門形	116	116	40			
	F-19	不管円形	105	90	50		袋状	99号 土坑	C-7	ほぼ円形	100	96	20			
	G -19	円形	100	80	27			100号上坑	B-8	桁凹形	154	138	20			
	G-19	ほぼ川形	60	56	25			101号 f.坑	C-7	不整円形	106	98	30			
	B-20~C-20	ほぼ川形	125	120	40		1号道路状遺構より古	102号 比坑	B-7	ほぼ門形	116	104	25			
	C-21	ほぼ川形	115	110	34			103号上坑	B-7	格巴形	112	70	17			
38号土坑 (	C-20~C-21	ほぼり形	107	102	10			104号上坑	C-7	桁印形	92	54	10			
395計坑 (	C-22~C-23	ほぼ川形	100	88	18			105号 技术	H - 8	不整格円形	182	104	25			
40号土坑 (	C-22	ほぼ川形	122	110	25			1065 計定	H - 7	格印形	95	72	30		一部及状	
41号土坑 (	C -21	格巴形	130	(90)	40		1 号道路状遺構より古	107号土坑	H – 7	不整桁凹形	110	105	35			
42号土坑 (	C -21	不整円形	123	(90)	43			108号 告坑	H - 7	円形	95	95	25		块块	
43号土坑 1	D-21	桁凹形	112	(110)	42		*	109号 比坑	H - 7	円形	110	108	28			
44号土坑 1	D-21	円形	110	108	47	]	*	110号 比坑	G – 7	門形	65	60	15			
45号土坑 1	D-21	ほぼ川形	143	(140)	50	I	,	111号土坑	H - 7	不整格円形	(140)	110	13			
46号出坑 1	D-21	長円形	(150)	100	56		*	112号上坑	J — 9	不整格门形	125	110	38		60号住居跡よ	:り新
47号土坑 1	D-21	ほぼ門形	105	96	38			113号 比抗	1 – 8	門形	72	68	38			
48号土坑 1	D-21	桥印形	105	82	12		*	114号 比烷	J — 9	不整格円形	240	90	15			
49号土坑 1	D-21	ほぼ川形	125	(90)	40		"	115号土坑	J — 9	印形	105	100	40		60号信号数よ	:り新
50号上坑	1 -14	桁凹形	138	110	66	常滑など	295月退跡より新	1165 土坑	H - 6 ~ H - 7	円形	122	122	65		64号任民辦よ	:り新
51号土坑 (	G -16	ほぼ川形	122	110	50		325月長時跡より新	1175] お花	I -20~ I -21	門形	100	100	24			
	G-16	長円形	145	100	46		,,	118号上坑	I −20~ ,I −20	門形	100	100	22	-		
	J -22	ほぼ川形	100	95	30		36号信息跡より新	119岁上坑		ほぼ川形	95	90	28		70号信息跡よ	
	J -21~ J -22	ほぼ川形	100	95	35			120号 比坑		ほぼ桁門形	115	105	30			
	D-21	印形	110	(110)	37		1 号道路状道標より占	121号 技术	<del></del>	ほぼ桁川形	80	70	27			
	D-21	11/1/18	100	(100)	47		"		1-9	格円形	105	80	30			
			90	(60)	38		*				-+		50		64号性場外よ	- h es
	D-21	格印形	-	-		_		123号上坑		四形	118	115			OFFICE	y 45
	D-21	格門形	150	(120)	58		*	124号 技権	•	(まぼり形) この1801年	130	120	40		, mail reserve	- h
	D-21	桁凹形	180	160	17			-	1 - 6	不整備円形	150	130	18		7357任星路よ	り新
		門形	120	112	22			126号上坑		ほぼり形	125	(110)	25			
61号土坑		17所	125	120	30			127号 比坑		ほぼ川形	105	(100)	22		*	
	I - 10	門形	140	130	65		级权	128号土坑	1 - 6	ほぼ川形	115	(110)	20			
		円形	100	95	20			129号上坑		不整円形	110	100	24		30号住場跡よ	.り新
+	J -10	ほぼ川形	100	(93)	15				I -16~ I -17	ほぼ川形	100	95	60		66号住居跡よ	:り新
65号土坑	1-11	円形	118	117	25		395州長時路より新	131号土坑	C -21	格門形	130	(90)	42		1 号道路状遗析	Aより古
	G-18~H-18	ほぼ円形	100	90	24			132号上坑	D -21	桁門形	(105)	95	42			

#### 62号土坑(遺構:第38図)

- (概要) 調査区のほぼ中央部の北西寄り、I-10グリッドに確認された土坑である。
- (形状) 確認面での口径が1.25 m ほどの円形の平面形で、深さは約70cm。フラスコ状の形態をもち、底から10cm 上にある最大径は1.4 m を測る。
- (特記) この土坑の周辺は地山の礫層までが深く、したがって礫層上の黄褐色砂層が厚いため土坑などを掘るのは比較的容易だったと見られ、たいへん丁寧に掘り込まれている。土坑覆土中に丸瓦の破片が 1 点見られた。この土坑についても性格不明といわざるを得ないもので、何らかの手がかりを求めるため、埋め戻しに要した土の量を測ることによってその容量を確認したところ、およそ800リットルという数字が得られている。

## 69号土坑(遺構:第36図)

- (概要) 調査区の東寄り、G-19からH-19グリッドにかけて見られた土坑である。
- (形状) 長径2.5m、短径1.1mほどの長円形の平面形で、深さは約80cmを測る。
- (特記) この土坑の周辺には縄文前期、諸磯B式期の遺物が比較的濃密に分布しており、この土坑内からも数点 確認されていることから、本土坑は縄文前期の所産と見られる。

### 95号土坑(遺構:第33図)

- (概要) 調査区の北西端で、L 5 グリッドに位置する土坑である。48・49・50号住居跡と重複し、それらを切り込んで構築されている。
- (形状) 径0.8mほどのほぼ円形の平面形で、確認面からの深さは約109cmを測り、円筒形に近い形態である。
- (特記) この土坑はほぼ同じレベルで切り合う48・49号住居跡およびさらにその下層にある50号住居と重複する もので、最下層の50号住居の床面をさらに50cmほど掘削して底面に達する。時期的には中世以降の所産 と見られるが、土坑の形態や砂の堆積が見られた底面の状況から井戸の可能性が推測されるものである。

#### 96号土坑(遺構:第35図、遺物:第81図4)

- (概要) 調査区の南西寄り、C-7グリッドに確認された土坑である。
- (形状) 径約1.0mの円形の平面形で、確認面からの深さは約20cm程度の浅めの土坑。底面には礫の路頭が見られる。
- (特記) この土坑からは「寛永通寶」が 1 点出土している。確認面からの深さは浅いものであったが、かなり削平を受けていると見られ、状況的に見て近世の墓坑の可能性が考えられるものである。94号土坑なども伴う遺物は見られなかったが、同様な性格が考えられそうなものであった。

## (3)特殊小坑

土坑と呼ぶほどの規模でなく、半完形の遺物が収まっている程度の大きさの小ピットを特殊坑と仮称し、それらの検出状況を報告する。

#### 1号特殊小坑(遺構:第40図、遺物:第75図3)

- (概要)調査区の北東部、K-20グリッドに確認された小さな掘り込みで、土師器の半完形の坏が1点出土している。37号住居跡の北壁の中央から70cmほど北に位置しており、性格は不明だが、その位置関係からして37号住居跡と何らかの関連を持つかと考えられる。
- (形状) 調査小区境に当たっていたため西端を確認し得なかったが、長さ80cm (推定)、幅30cmの東西に細長い平面形を有し、黄褐色深さは3~4cm程度であった。
- (遺物) 土師器で残存立50%余りの坏(第75図3) が1点見られた。

## 2号特殊坑(遺構:第40図、遺物:第75図5)

- (概要) 調査区の中央北寄り、J-13グリッドに位置する。 3 号溝の東側の脇に接して確認されている。これについては、位置関係から溝跡との関連がありそうにもとれるが、遺物の時期等から両者は年代的に隔たりが見られ、溝跡との関係とは別にその意味が検討されようが、その性格を明らかにはしえない。
- (形状) 径30cmほどの不整円形の平面形を呈し、断面形状はすり鉢形の小土坑である。
- (遺物) 土師器の羽釜の1/3程度の残存率のものが1点(第75図5)が見られた。

#### (4)竪穴遺構(遺構:第40図)

一つだけではあるが、通常の竪穴住居に類似した形態ではあるが、詳細に見ると次ぎに見るような諸点で得意な様相が見られるため、竪穴遺構として区別した。

#### 1 号竪穴遺構

- (概要) 調査区の北東寄り、I-17・I-18からJ-17・J-18グリッドにかけて確認された竪穴状の遺構である。
- (形状) やや歪んだ隅丸方形の平面形を呈し、断面形状は皿形を呈す。
- (規模) 東西2.4m×南北2.6m。床面までの深さは南壁で28cm、北壁で10cmを測る。
- (床面) 床面標高は、南側で376.70 m、北側で376.80 mとなっており、中央部で10 cmほどの段差が見られる。覆土中には人頭大程度の礫が多く見られたが、カマドの構築材のような煤の付着や被熱痕等は認められなかった。床面はかなり強く硬化しており、皿状にゆるやかに立ち上がる壁面の下部まで続く効果状況が見られた。また床面中央部に柱穴と見られるピットが確認されている。
- (遺物) 覆土中に土師器の小片等が若干見られたが、それらは埋没過程で混入したもので、確実にこの遺構に伴う遺物は確認されていない。
- (特記) 遺物が伴わないため、明確には言い切れないが、中世の遺構で、床面の状況などから工房的なものの可能性が推定されるものであった。類似したものが近隣の笠木地蔵遺跡などにおいても確認されている。

## (5) 柱穴群

調査区の中央部やや南西に偏した位置に確認されたもので、建物跡の可能性もあるが、その配列に乱れがあり、確実なことはいえない状況にあった。ピットは確認面で径20cm程度、深さ30~50cmとなっている。建物であるとすれば、3間×2間の大きさで東側に柵列が取り付くかたちになる。直接伴う遺物が認められなかったので時期は明確にしがたいが、主軸方位などから平安時代のものと推定される。

## (6) 溝状遺構

1から5号までの5本の溝状遺構が確認された。とくに1号溝と3号溝は調査年次がことなったため、はじめ別な溝と考えられたが、最終的に連続する1本の溝であることが確認されている。

1号溝から3号溝は、調査区中央にほぼ南北方向で検出されたもので、いずれも幅50~70cm、深さ20~30cmで、あった。1・3号溝は延長が約30mで、これと平行する2号溝は約10mの長さが確認されている。2号溝と3号溝の北側は途中で確認が出来なくなっており、1号溝と2号溝の南側は続きは削平を受け消失している。これらの溝の覆土からは平安期の遺物が多く、わずかながら中世に係ると見られる土器・陶器片が認められている。1・3号溝は4号住居跡と重複しており、住居跡を切っていることもあり、遺物の状況も合わせ見て中世の溝と見られる。なおこれらの溝は、常時水流があったとは考えられない。

4号溝はB-12グリッドに、5号溝は $H-5\cdot H-6$ グリッドに確認されたどちらかというと東西方向の溝で、これらは $1\sim3$ 号溝とは方向も異なり、遺物をほとんど含まないことや断面形などの点でも様相を異にしており、 $1\sim3$ 号溝より新しいものと見られる。

#### (7)道路状遺構

1 つだけ、調査区のやや東寄りのところを南北に、直線的に横切るかたちで確認されており、初めは性格不明 遺構 (SX05) として、調査を進めたが、後で以下の諸点を勘案して1号道路状遺構と改めた。

その幅は約4 mで、長さ約29mにわたって確認された。南側の延長はさらに調査区外に続くと見られる。北側については途中から確認できなくなったが、おそらく真っ直ぐ北に続いていたものと推定される。部分的に側溝が確認されたが、基本的には浅い皿状の断面形をしており、幅の中程では良好な硬化面が認められたが、両側寄りでは硬化が弱くなるといった状況のものであった。これを道路と見たのは、道路以外の遺構としては考えられないような長さと幅をもち、加えてほとんど平坦な底面に強い硬化面が形成されているからで、積極的に道路跡と呼称してもよいかとも思われる。

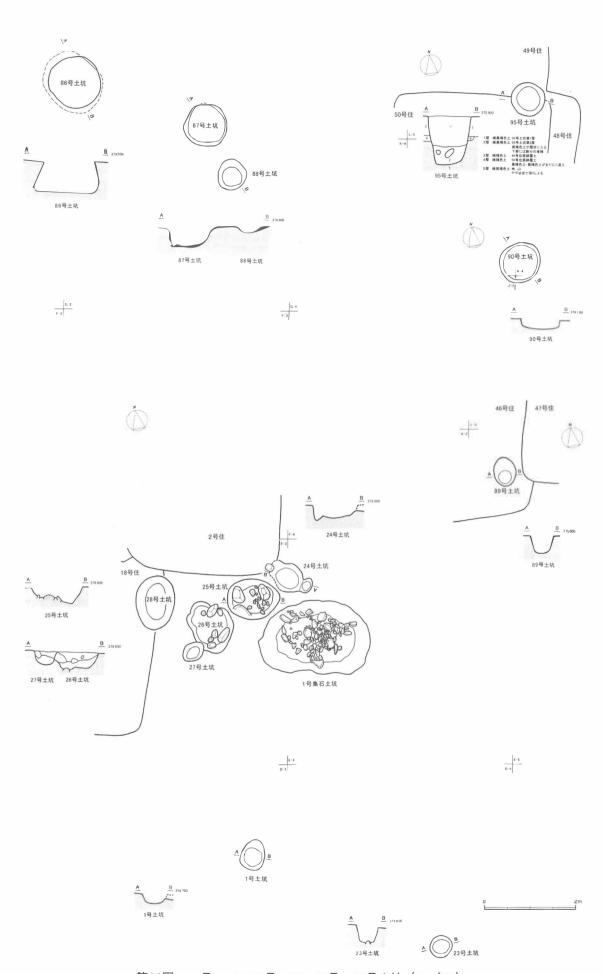
この道路状遺構の年代は、一部で平安末ないし中世の初めと見られる土坑を覆うように造られていることや、硬化面近くで蓮弁文青磁碗片(第74図 7)が出土していることなどから、中世の所産で、細かくは14世紀前後くらいではないかと推定される。周辺地形に合わせて南から北に傾斜を持つものの、直線的に通過していく点に特徴があるといえよう。

## (8) 遺物集中区(遺構:第42図、遺物:第84·85図、第88図1~3)

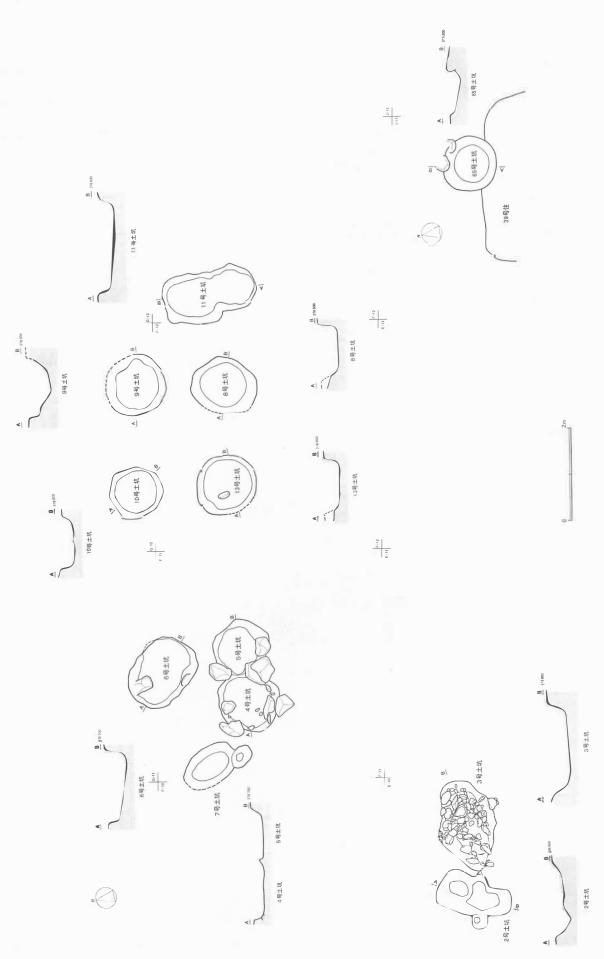
調査区東北寄りのH-21グリッド周辺に見られる小さな谷状の地形に、縄文時代前期の諸磯B式段階の薄い包含層が見られ、これを中心にさらに周辺に土器の分布が見られた。谷状地形以外では中期や晩期の土器も混在し、具体的な遺構の把握も、層的な分離もできなかった。出土遺物は、土器(第84・85図)、石器(第88図 1 ~ 3)がある。

## (9)集石土坑(遺構:第42図)

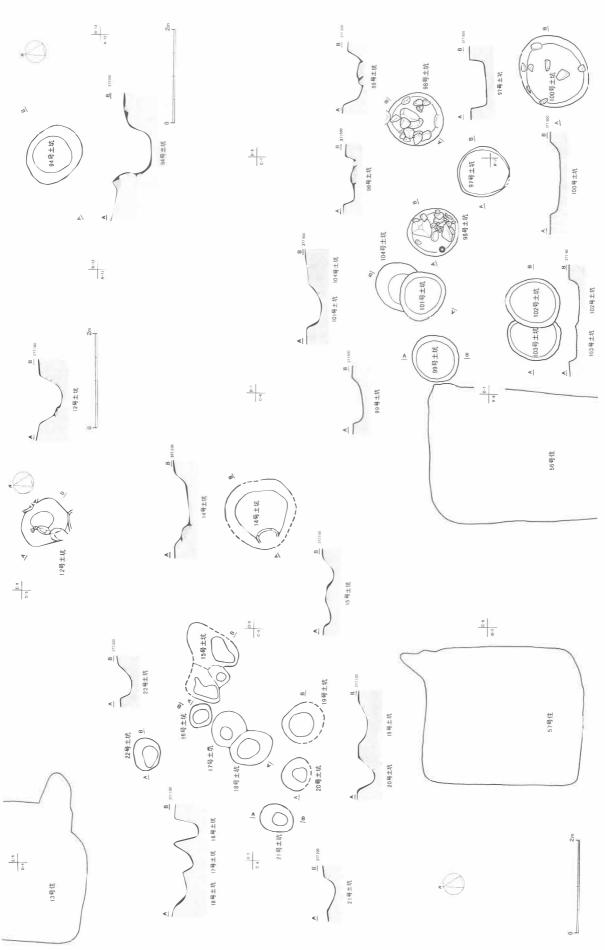
調査区の南西部のE-3 グリッドに、長径2.5m、短径1.6m、深さ55cmの土坑が確認され、覆土中には礫が集中して詰まっていたため、確認段階から集石遺構としていたものを途中から 1 号集石土坑に改めた。縄文時代前期(諸磯B式か)の遺物が認められたが、図示しうるほどのものはなかった。



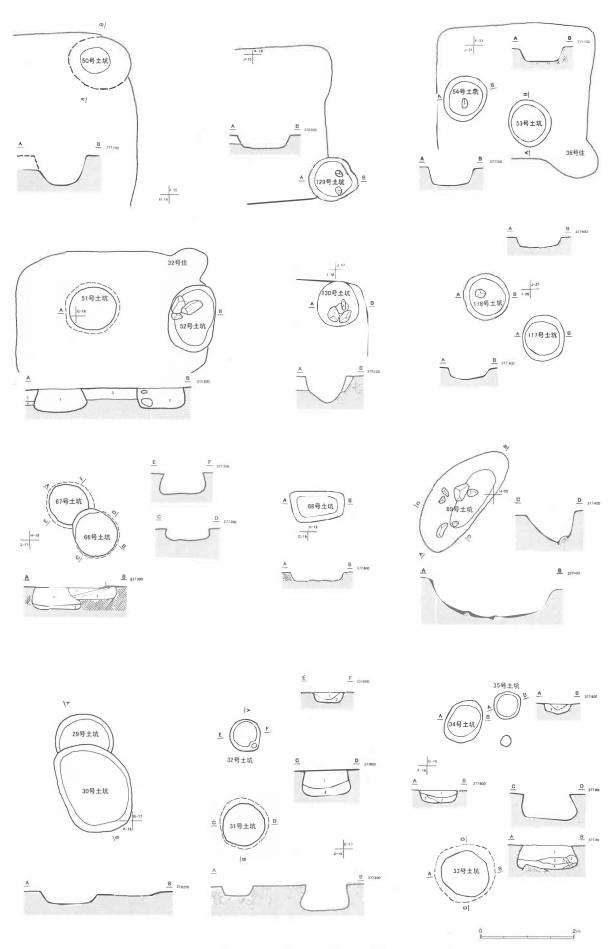
第33図 1号・23~28号・86~90号・95号土坑(1/80)



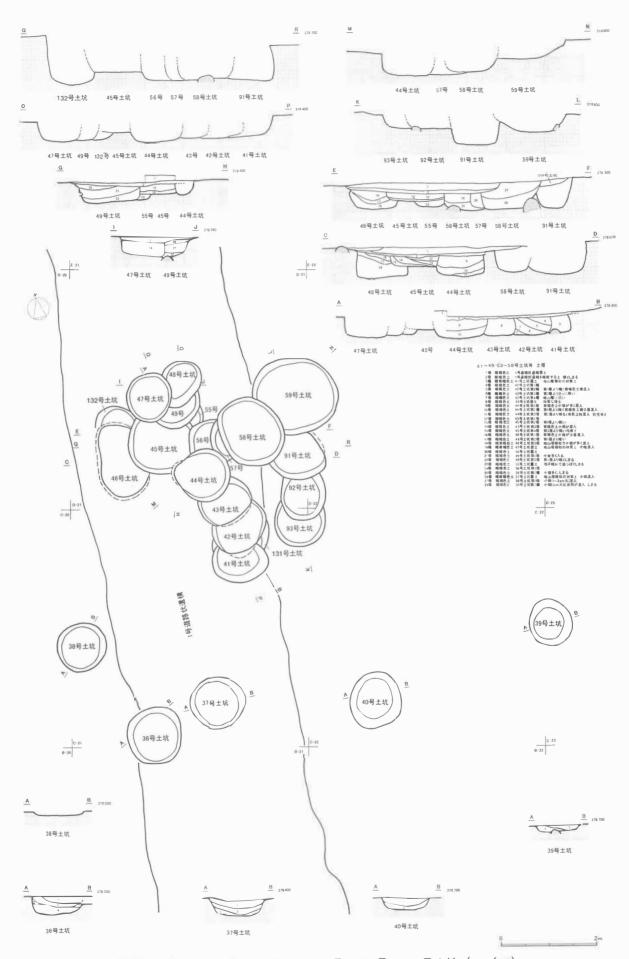
第34図 2~11号・13号・65号土坑(1/80)



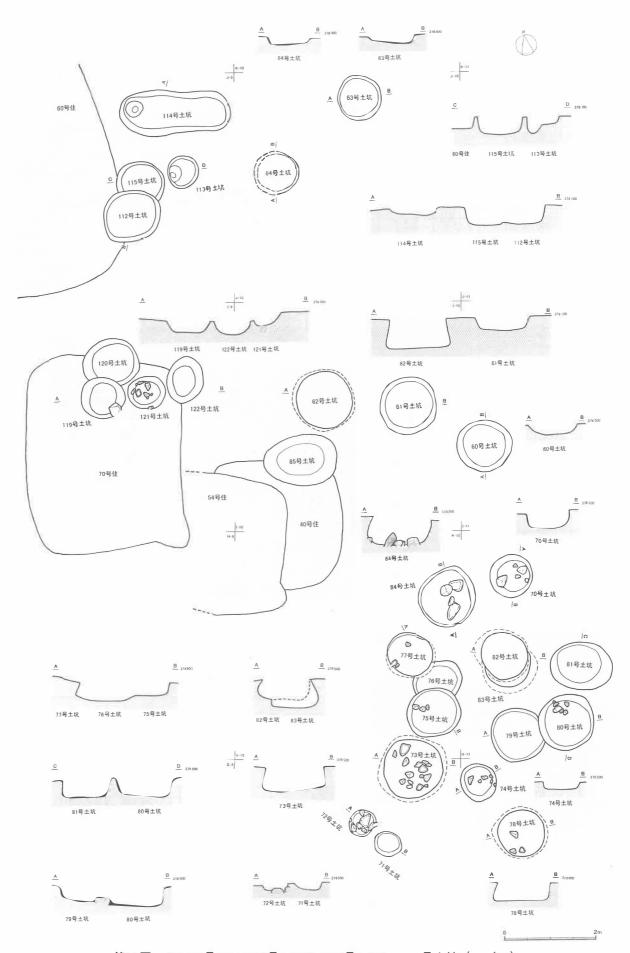
第35図 12号・14~22号・94号・96~104号土坑



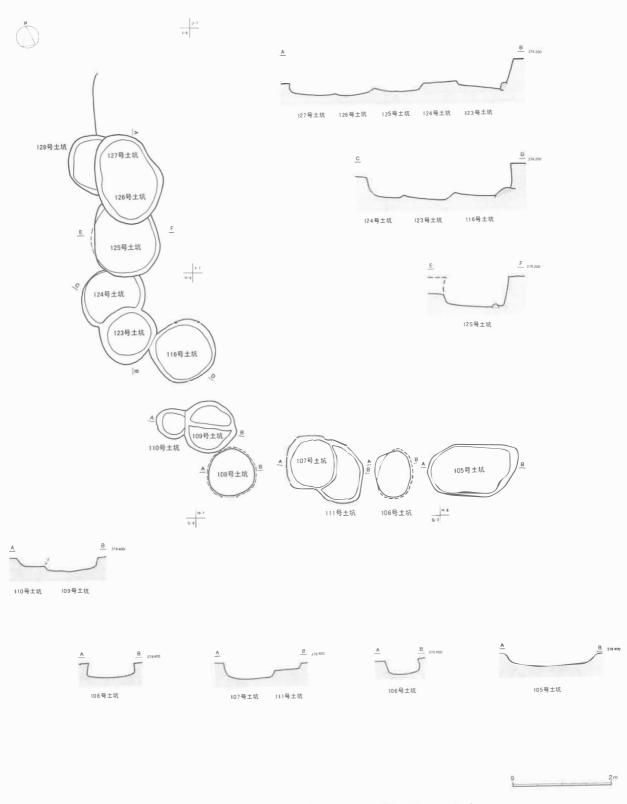
第36図 29~35号・50~52号・66~69号・117号・118号・129・130号土坑(1/80)



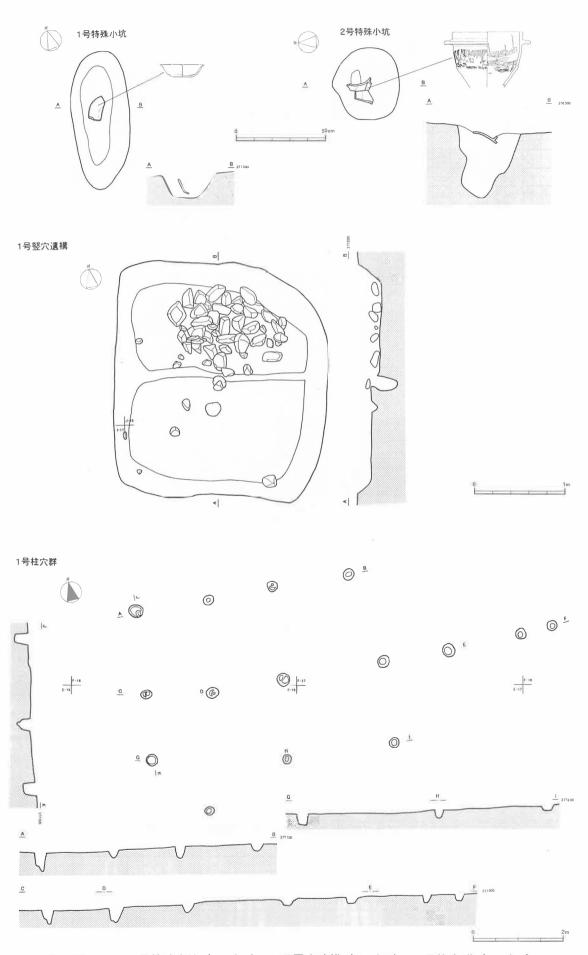
第37図 36~49号・53~59号・91~93号・131号・132号土坑(1/80)



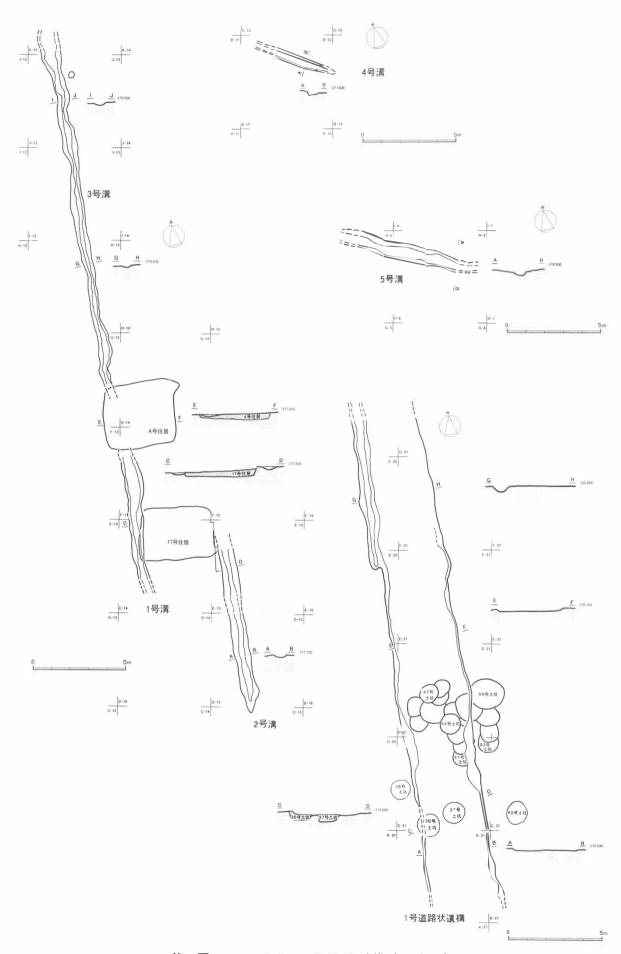
第38図 60~64号・70~85号・112~115号・119~122号土坑(1/80)



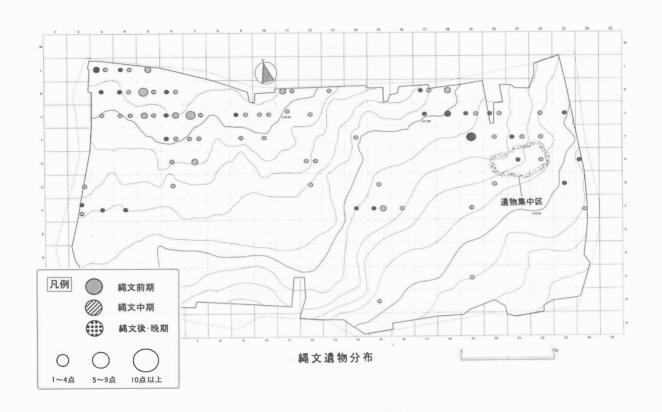
第39図 105~111号・116号・123~128号土坑(1/80)

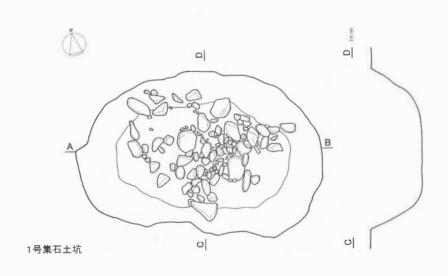


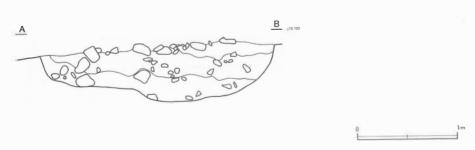
第40図 1~2号特殊小坑(1/20)・1号竪穴遺構(1/40)・1号柱穴群(1/80)



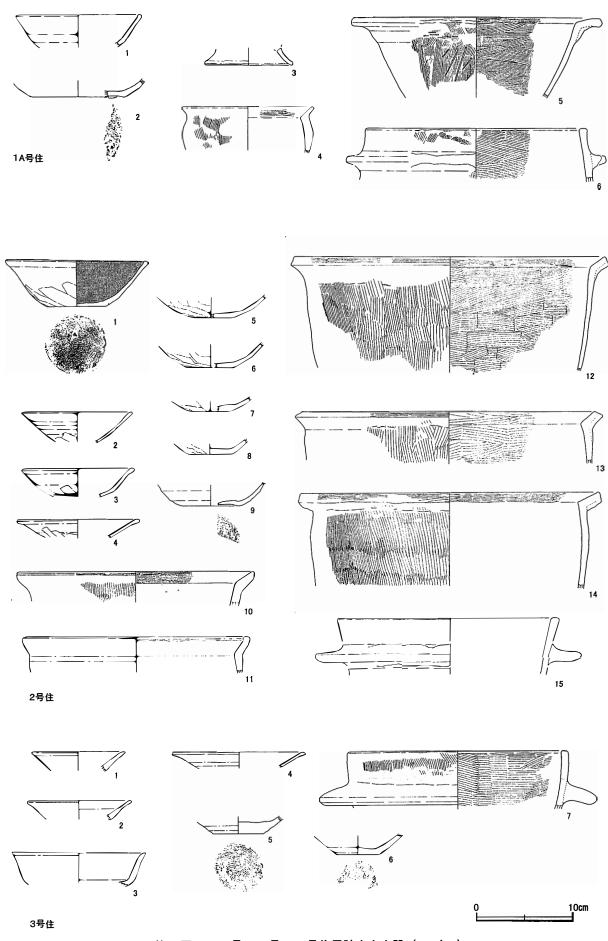
第41図 1~5号溝・1号道路状遺構(1/200)



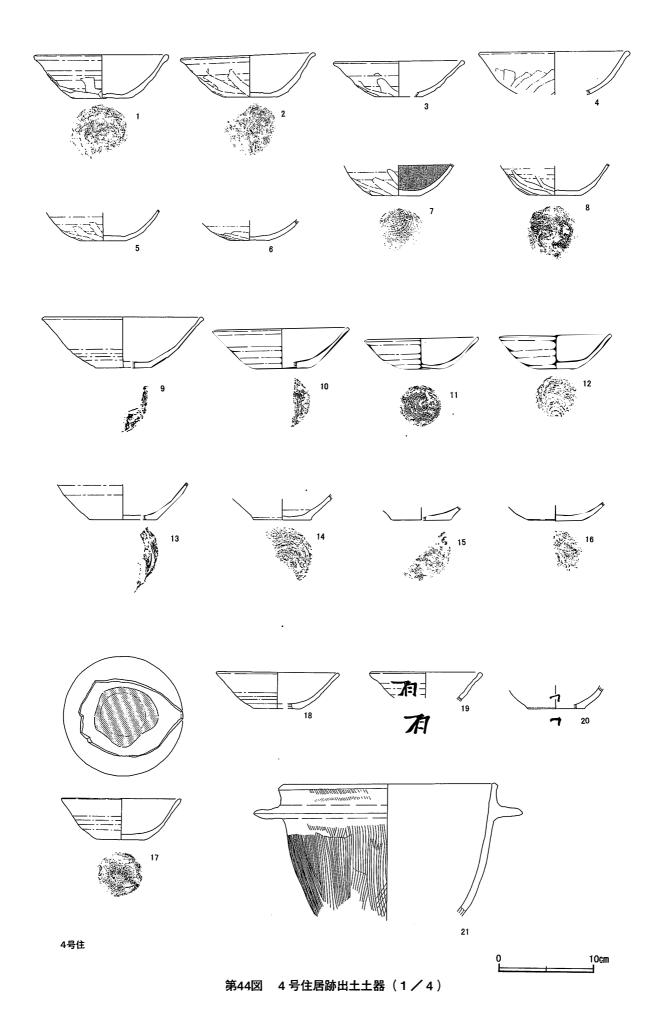




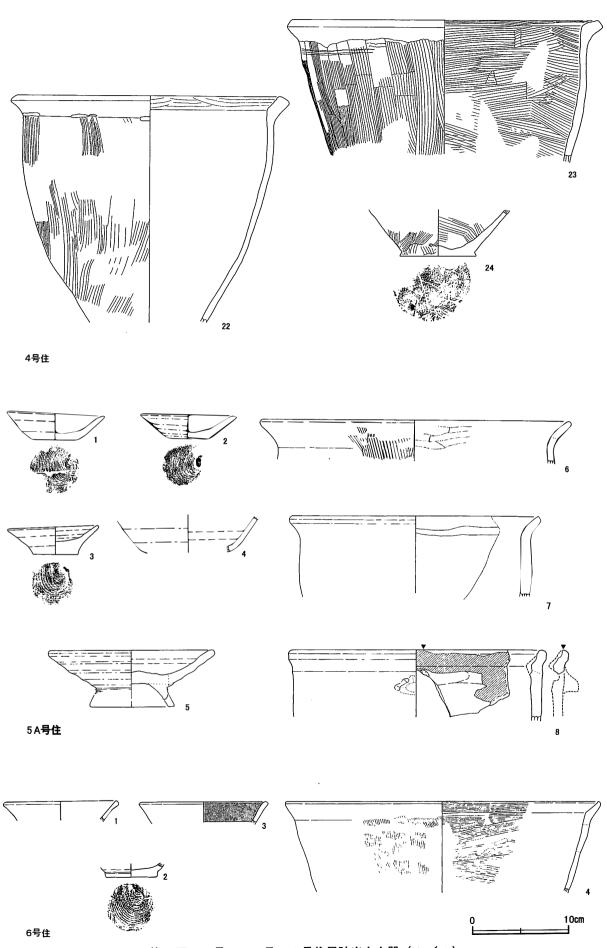
第42図 1号集石土坑(1/40)・縄文遺物分布(1/500)



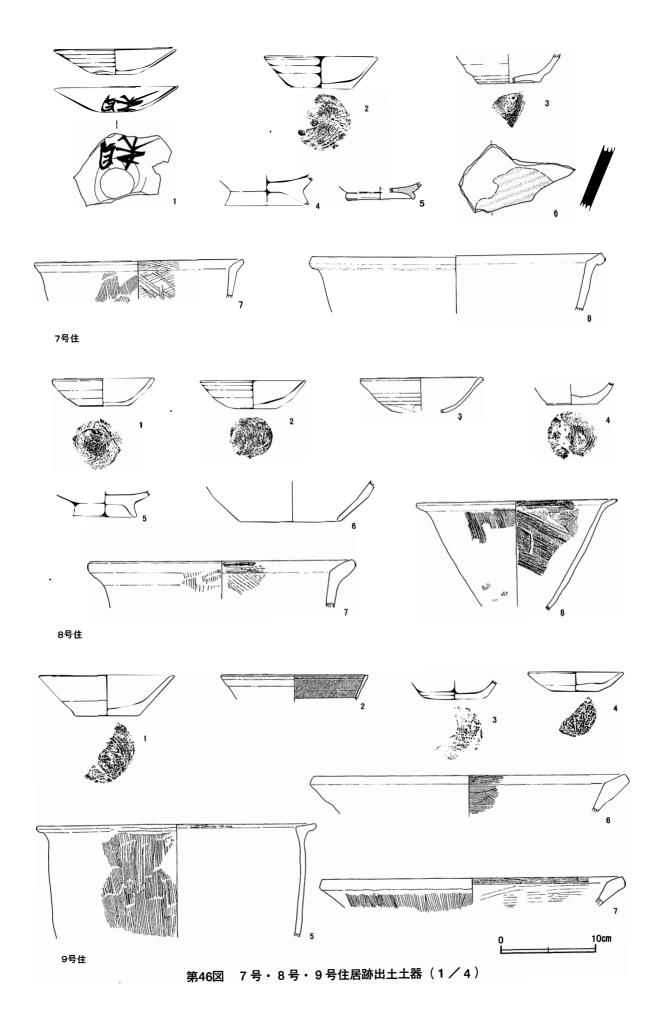
第43図 1 A号・2号・3号住居跡出土土器(1/4)

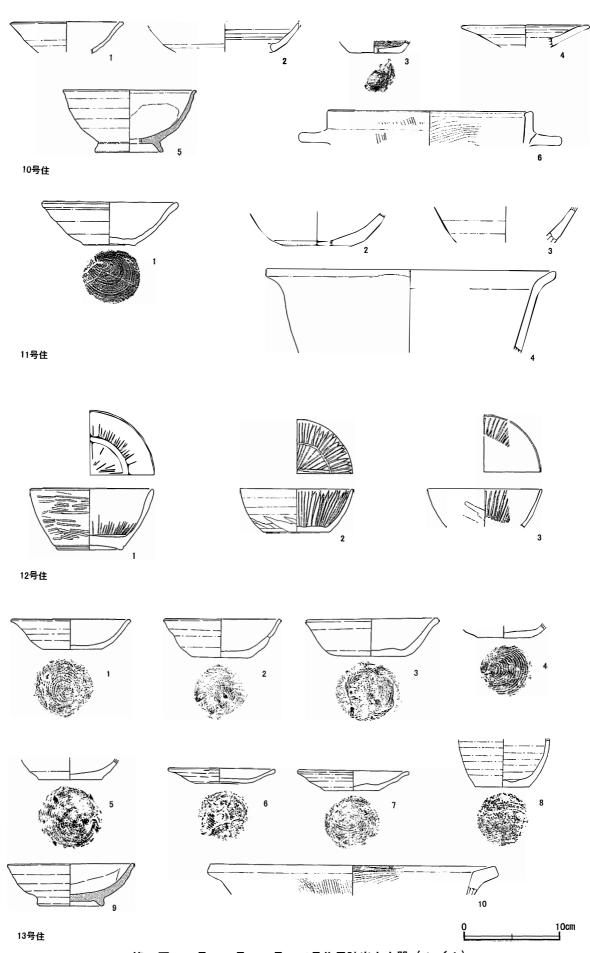


- 68 **-**

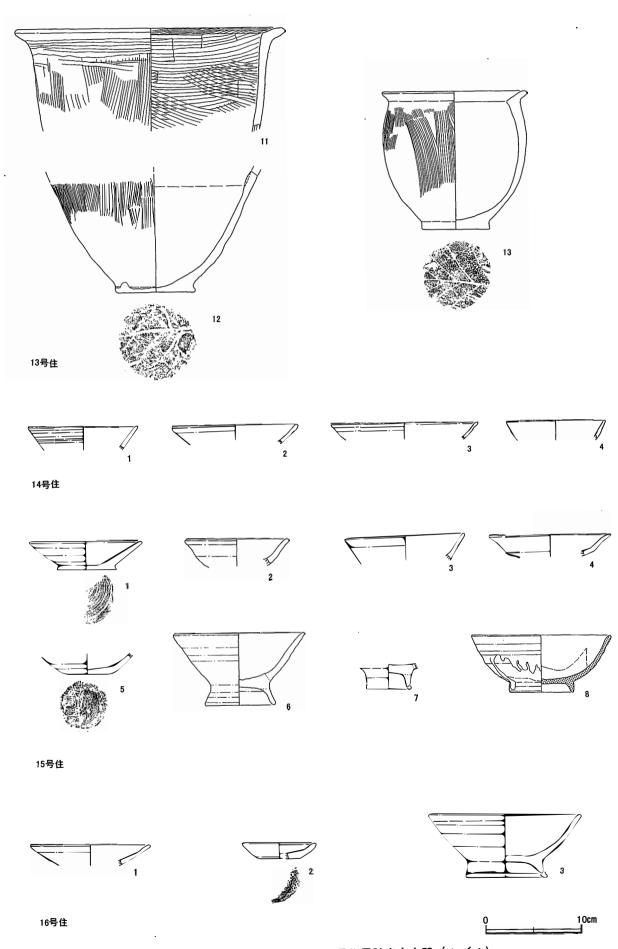


第45図 4号・5 A号・6号住居跡出土土器(1/4)

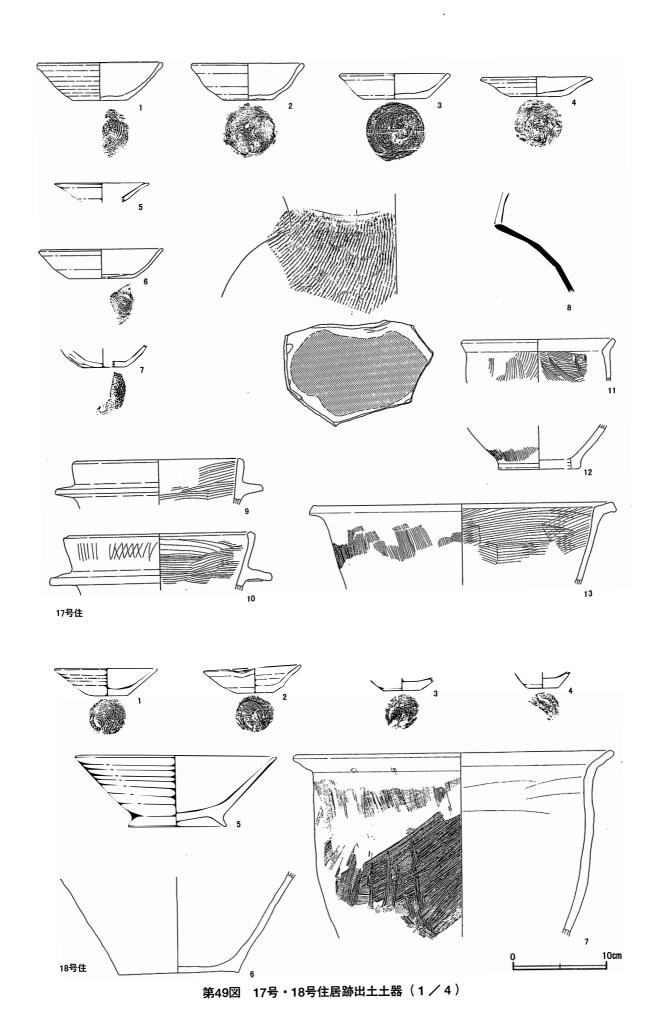




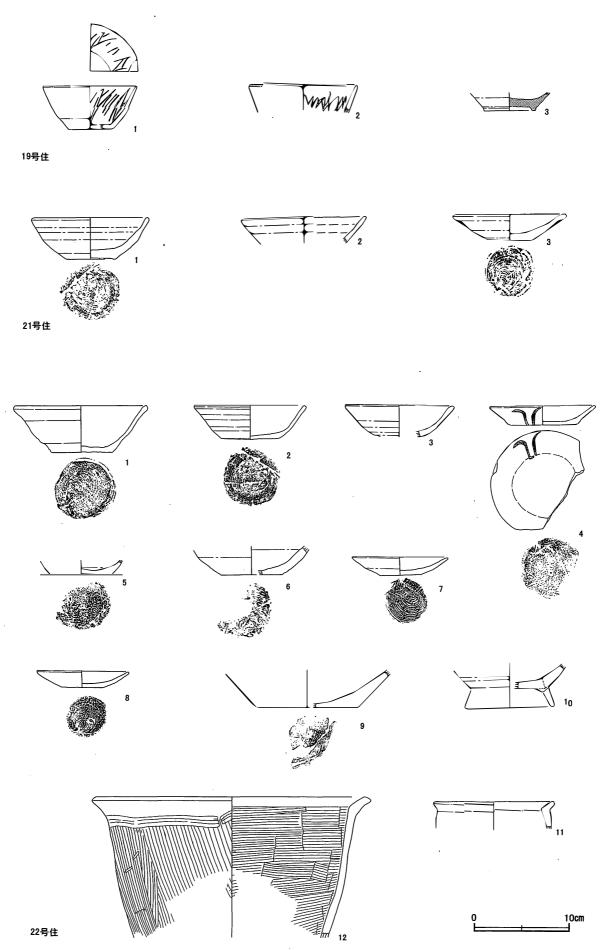
第47図 10号・11号・12号・13号住居跡出土土器(1 / 4)



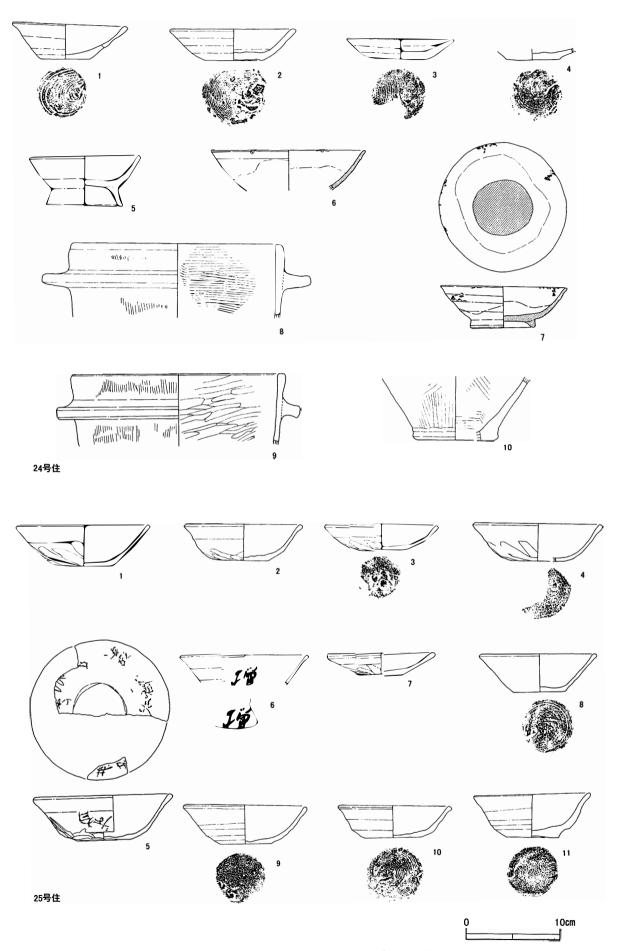
第48図 13号・14号・15号・16号住居跡出土土器(1/4)



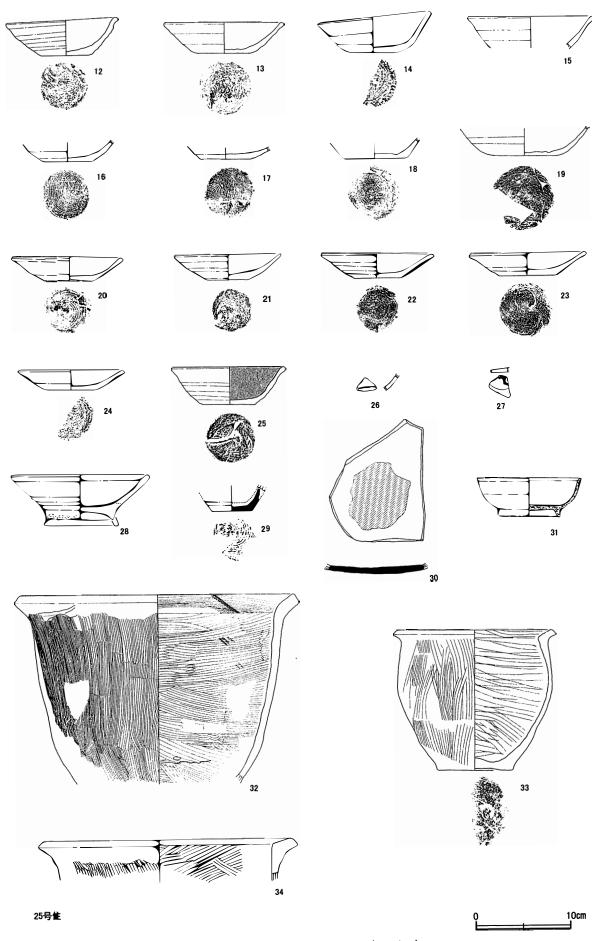
**—** 73 **—** 



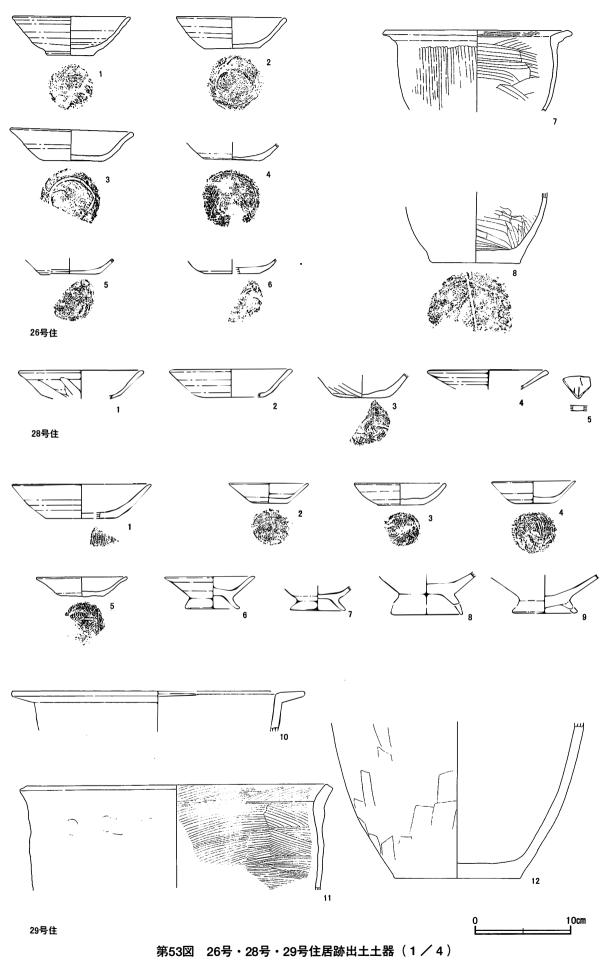
第50図 19号・21号・22号住居跡出土土器(1 / 4)

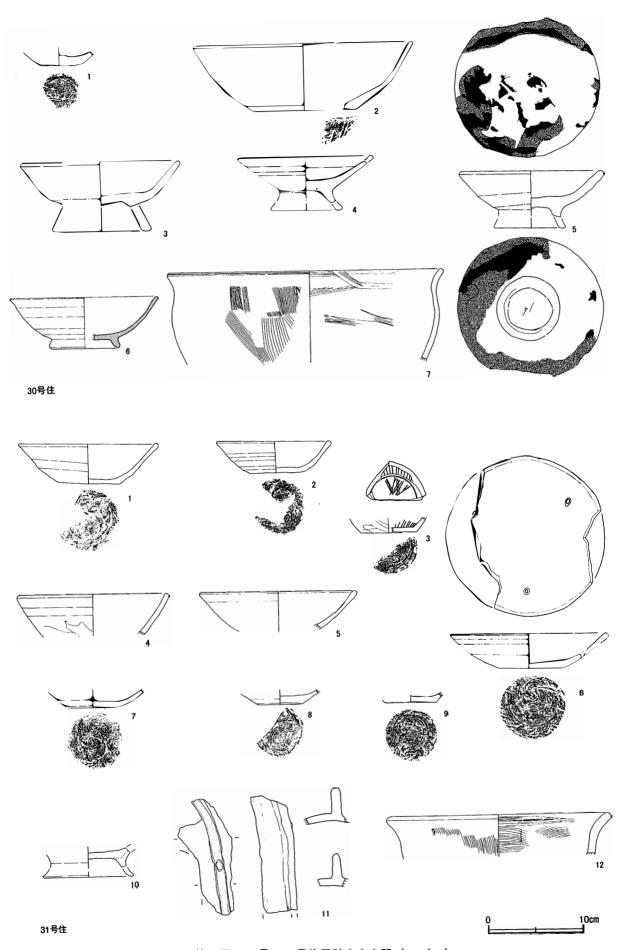


第51図 24号・25号住居跡出土土器(1/4)

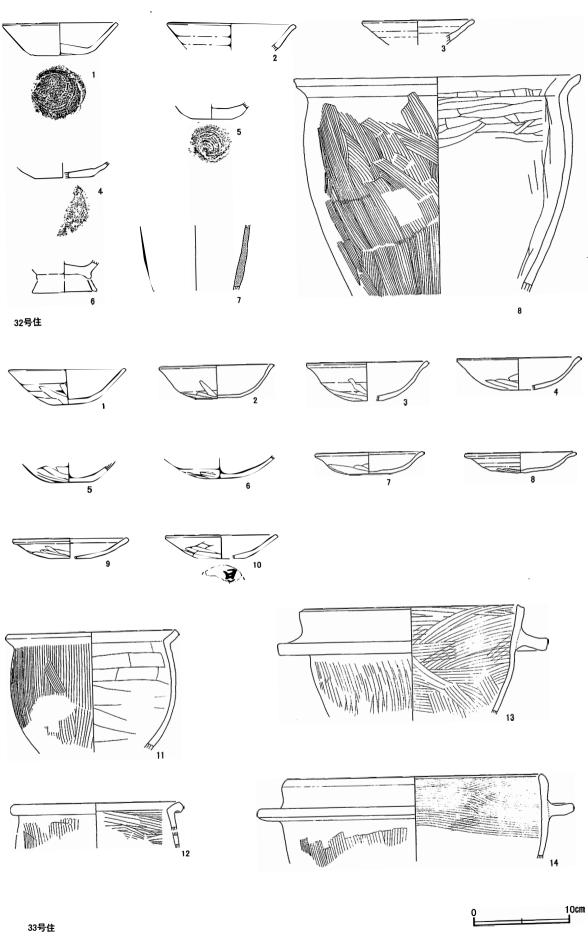


第52図 25号住居跡出土土器(1/4)

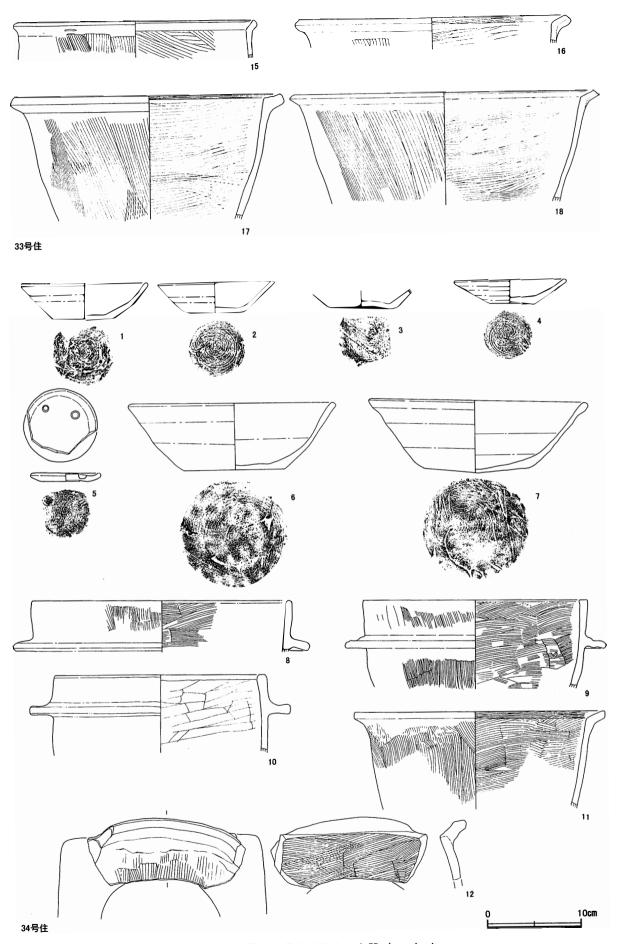




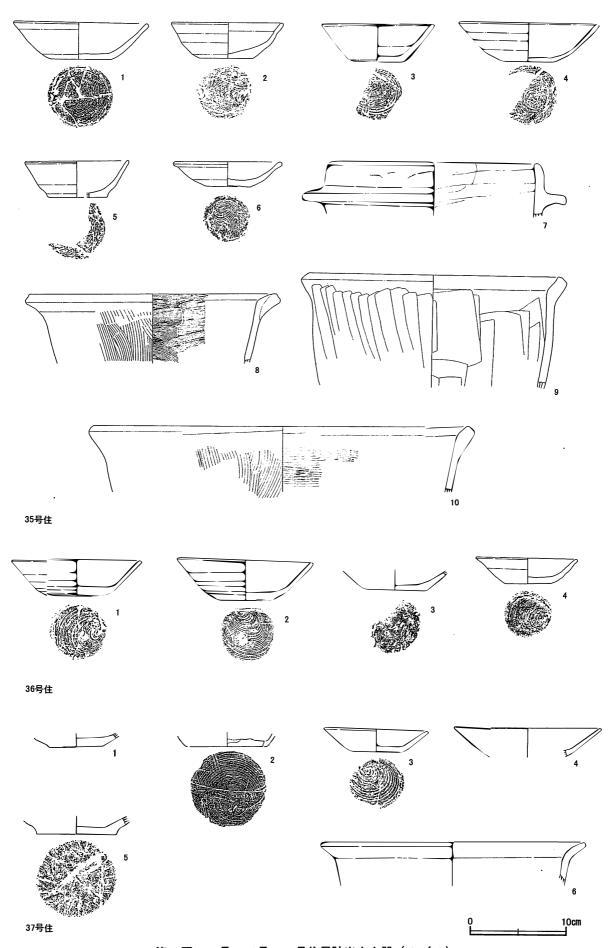
第54図 30号・31号住居跡出土土器(1/4)



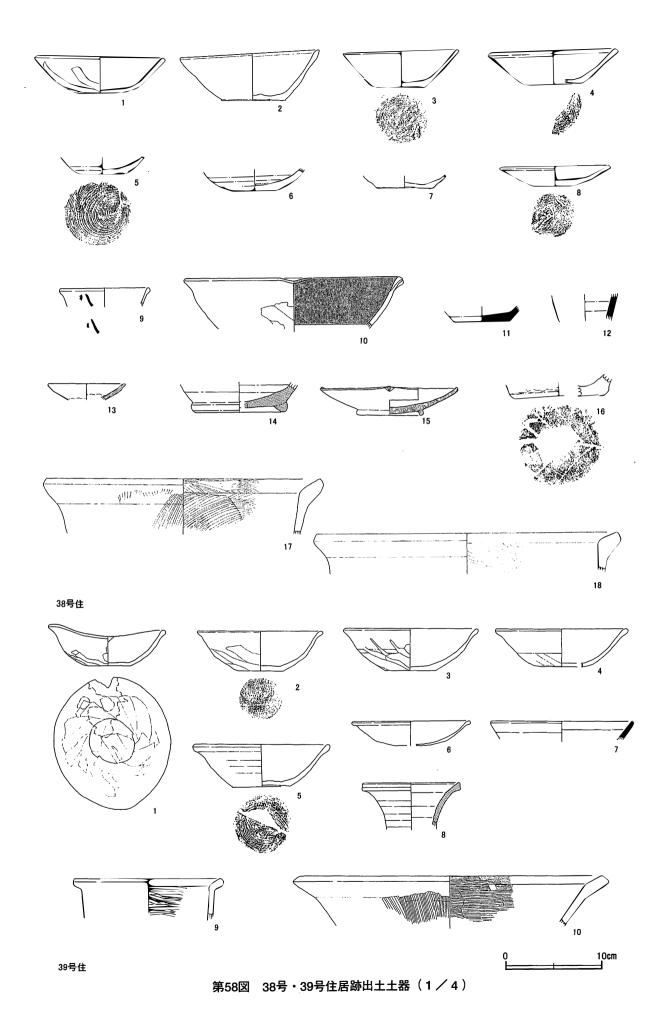
第55図 32号・33号住居跡出土土器(1/4)



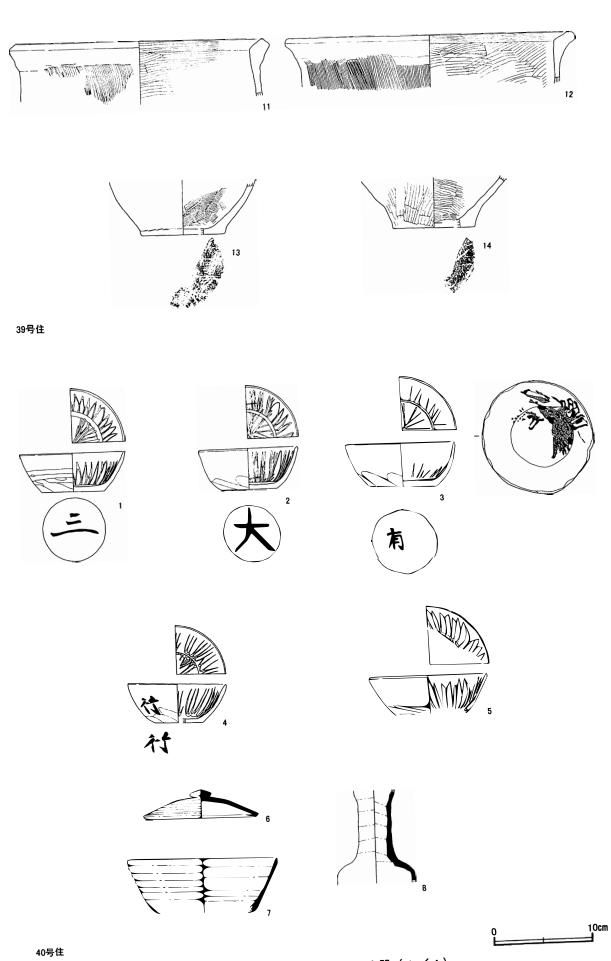
第56図 33号・34号住居跡出土土器(1/4)



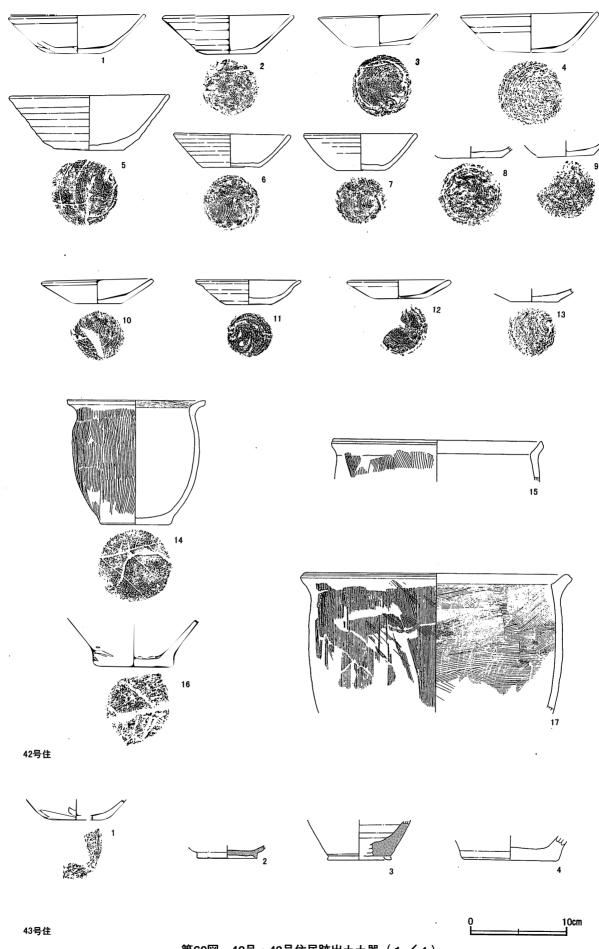
第57図 35号・36号・37号住居跡出土土器(1/4)



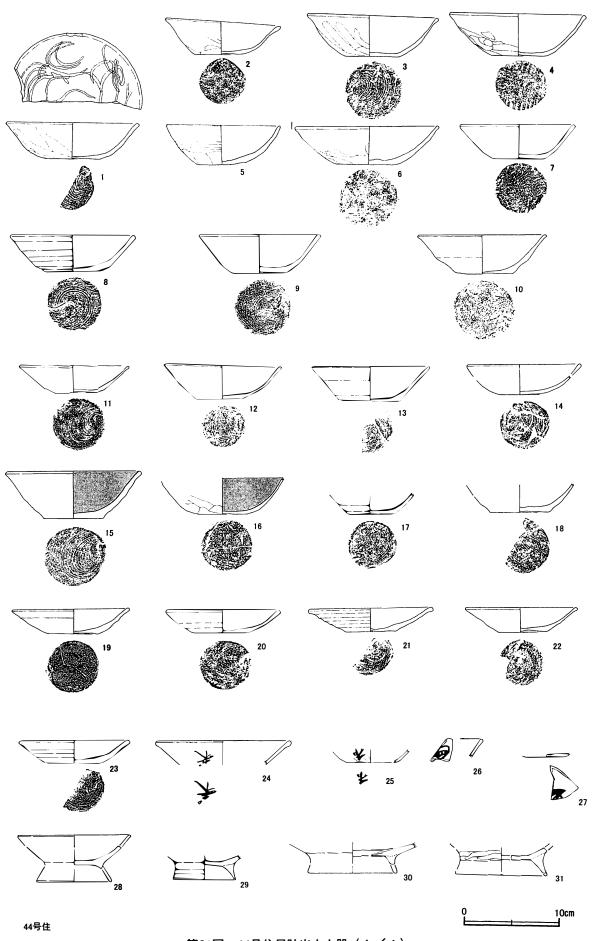
<del>- 82 -</del>



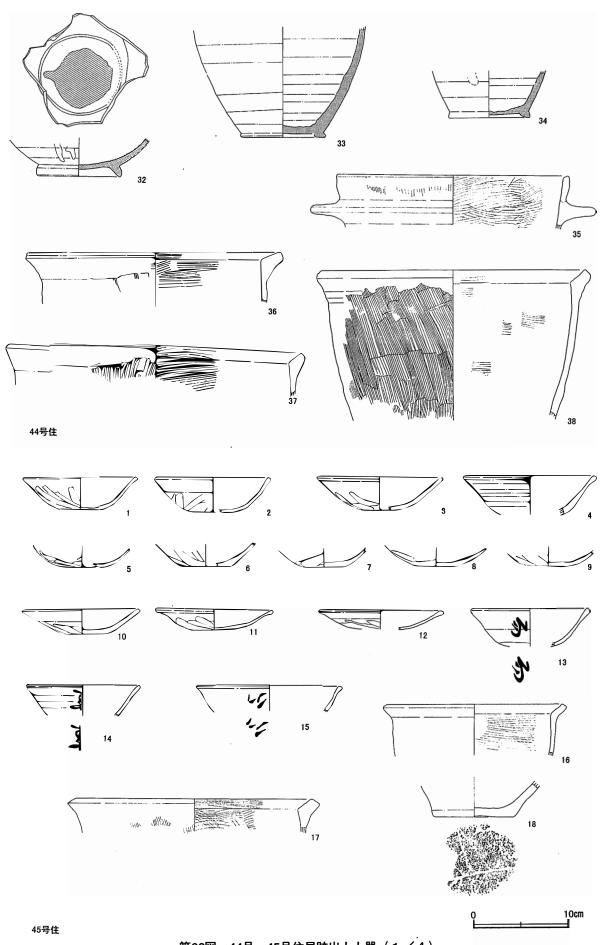
第59図 39号・40号住居跡出土土器(1/4)



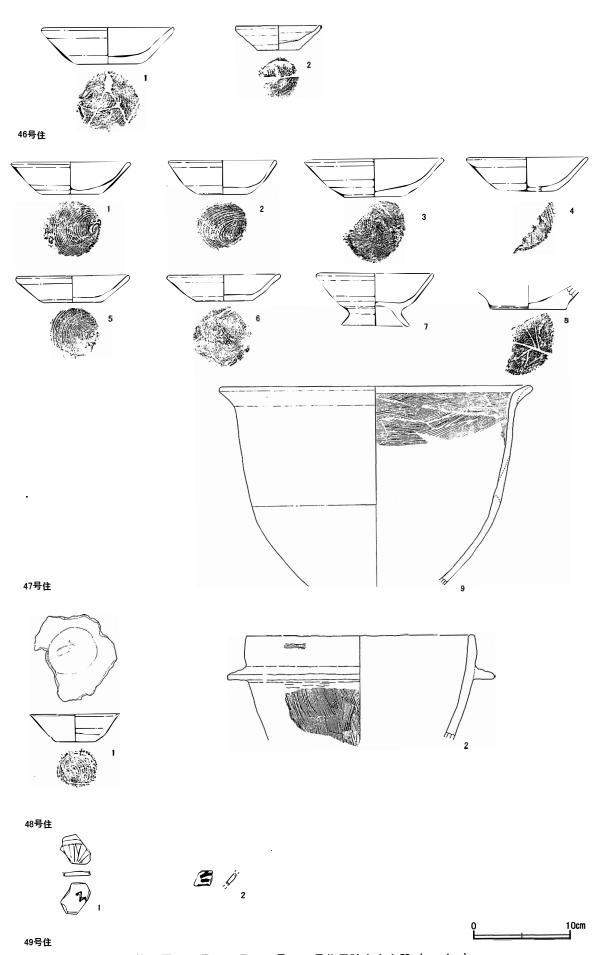
第60図 42号・43号住居跡出土土器(1/4)



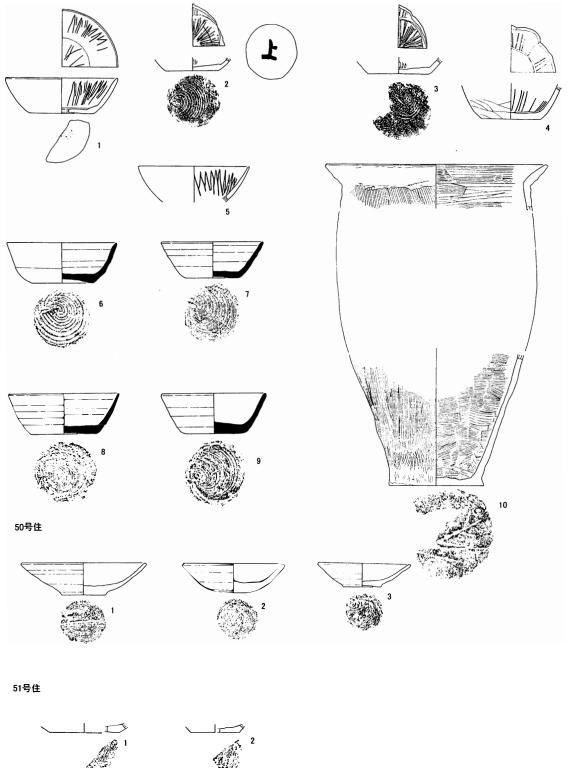
第61図 44号住居跡出土土器(1/4)



第62図 44号・45号住居跡出土土器(1/4)

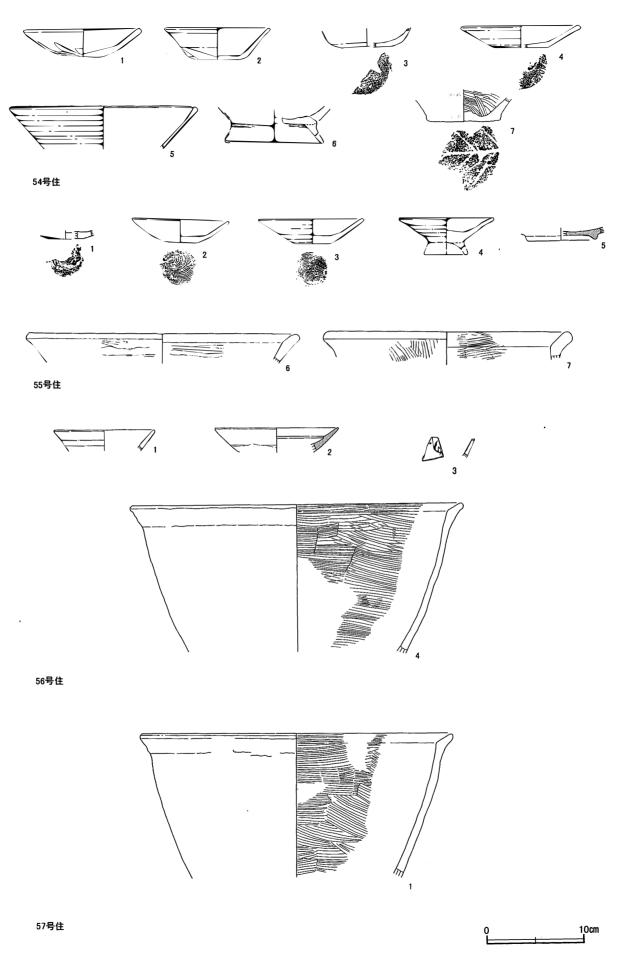


第63図 46号・47号・48号・49号住居跡出土土器(1/4)

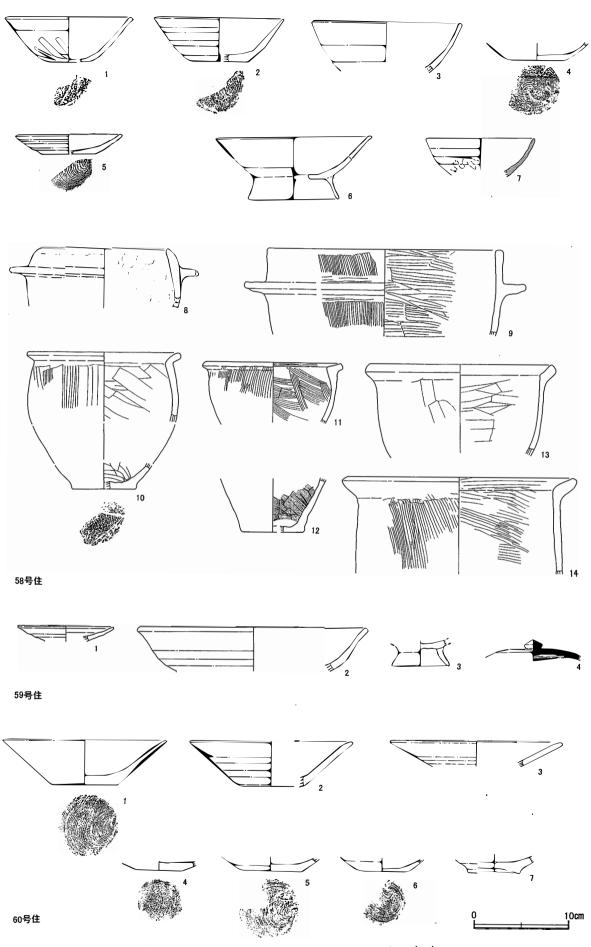


52号住 52号住 53号住

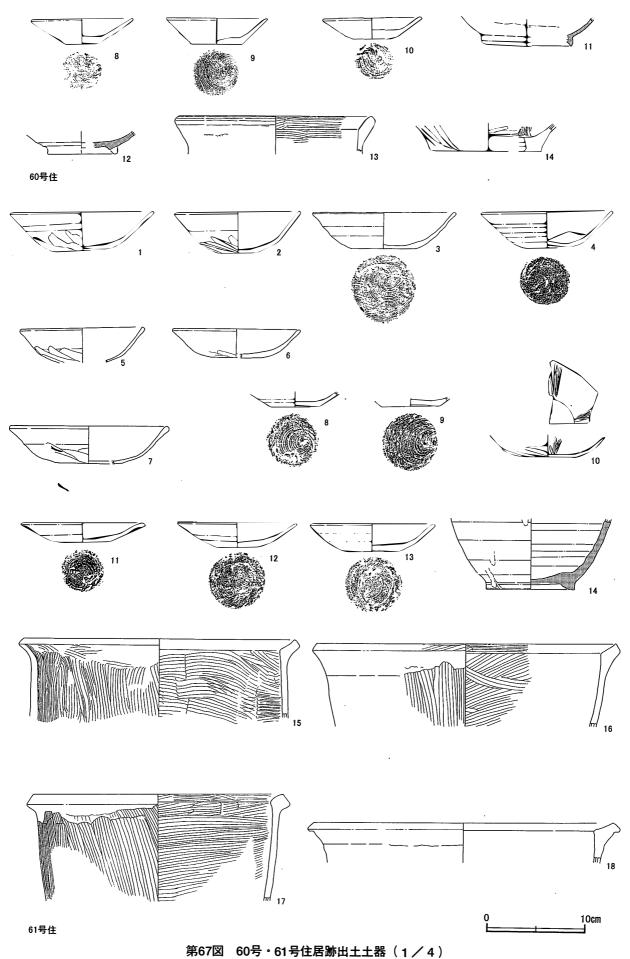
第64図 50号・51号・52号・53号住居跡出土土器(1/4)



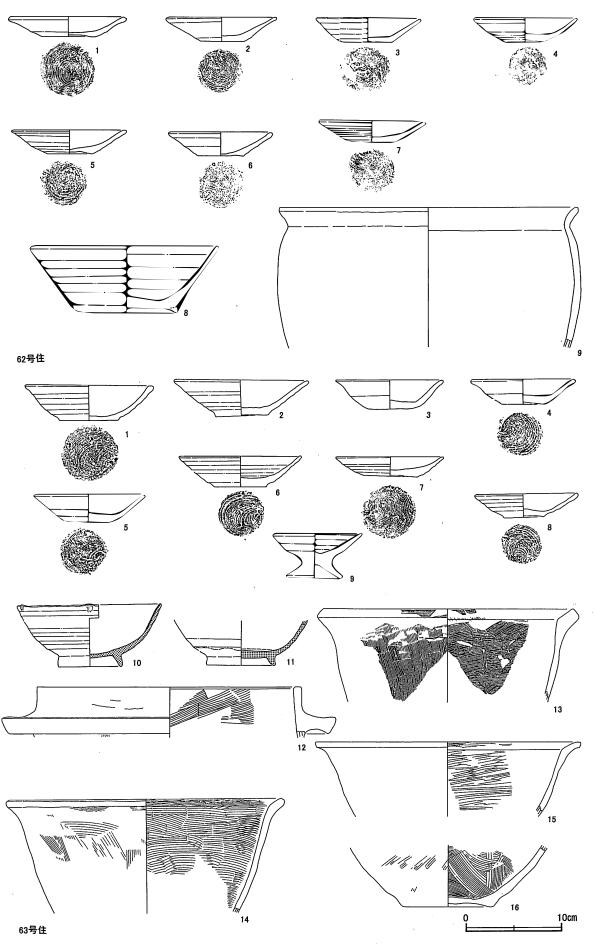
第65図 54号・55号・56号・57号住居跡出土土器(1 / 4)



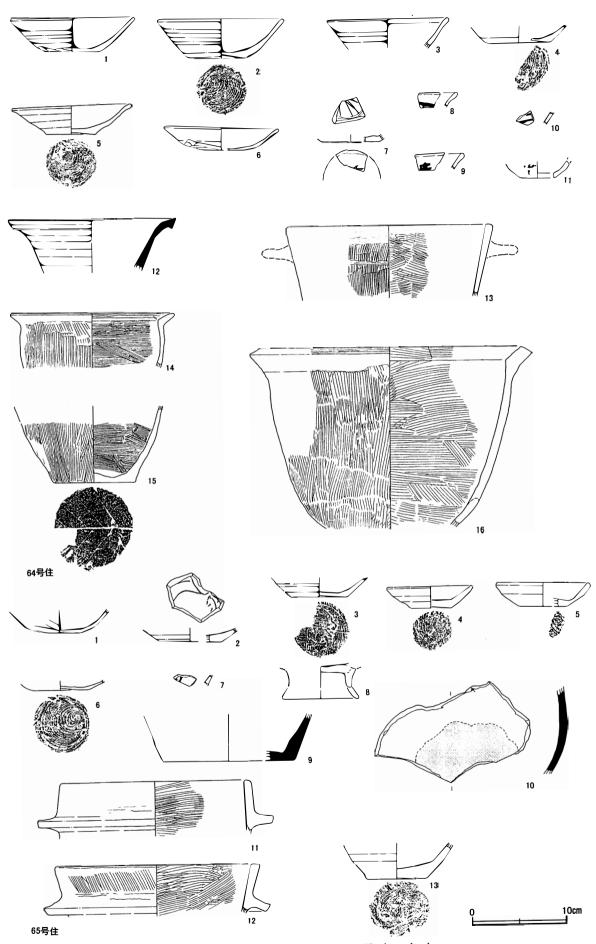
第66図 58号・59号・60号住居跡出土土器(1/4)



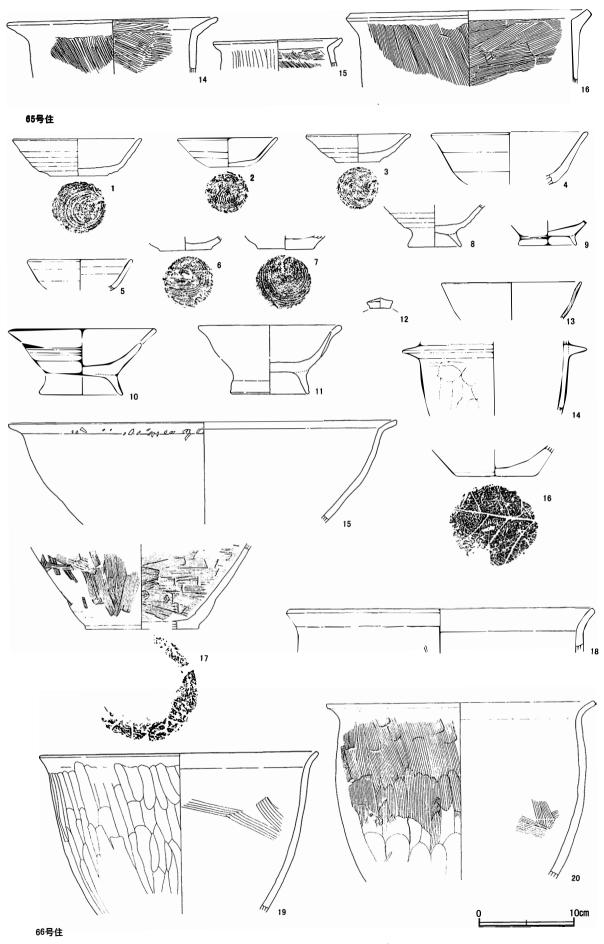
000 000 01分压治助用工工品(1)4



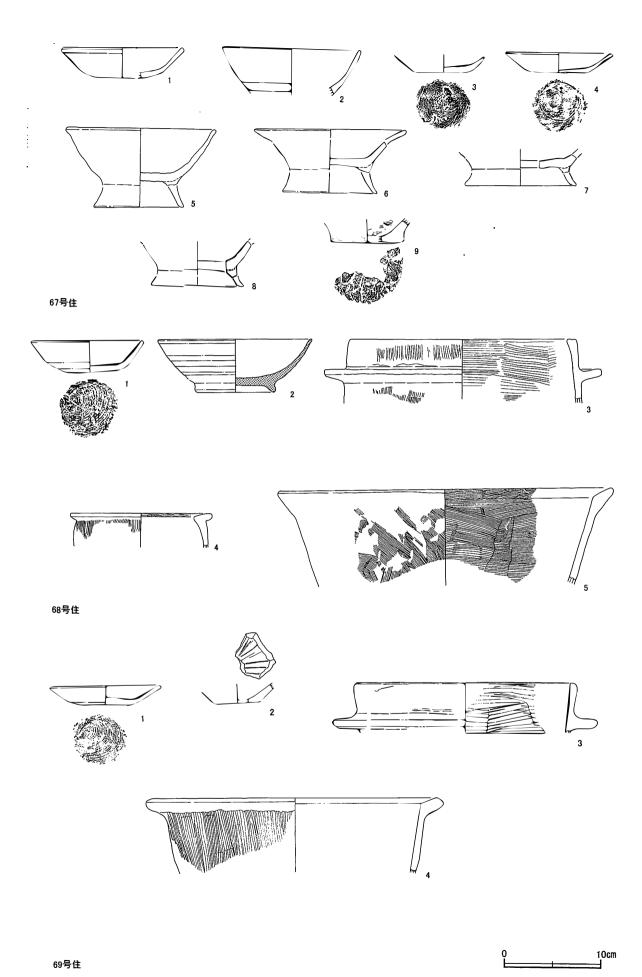
第68図 62号・63号住居跡出土土器(1/4)



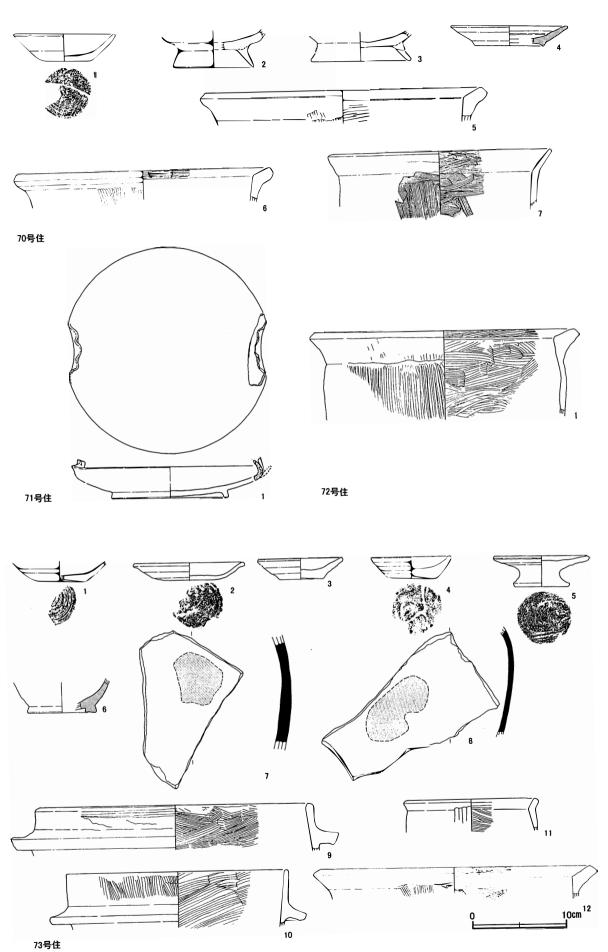
第69図 64号・65号住居跡出土土器(1/4)



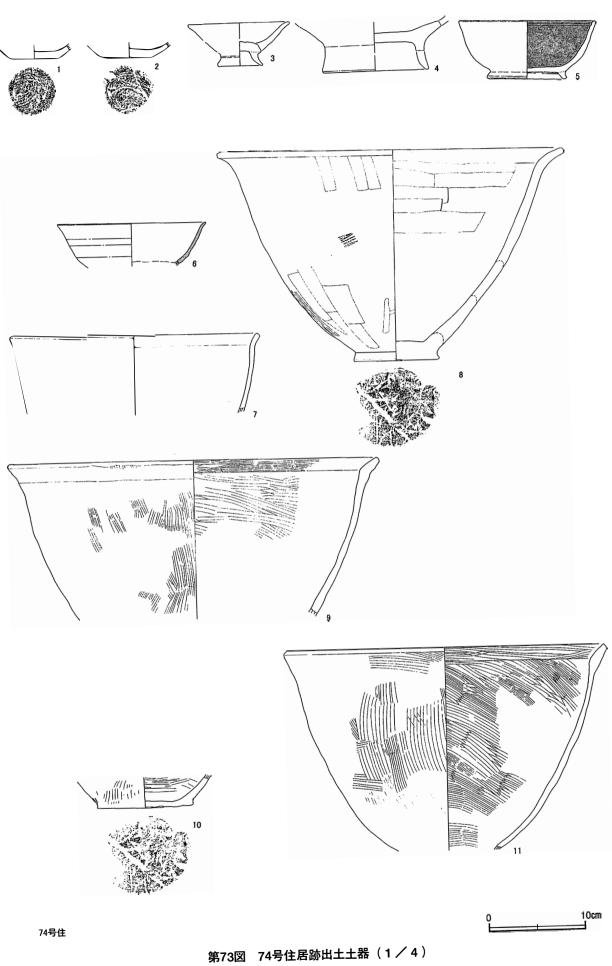
第70図 65号・66号住居跡出土土器(1/4)

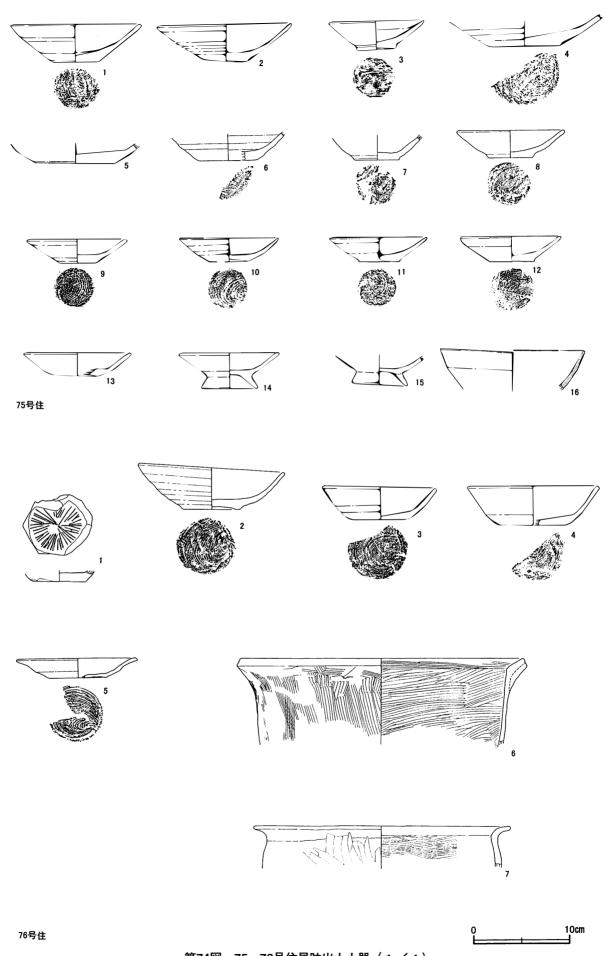


第71図 67号・68号・69号住居跡出土土器(1/4)

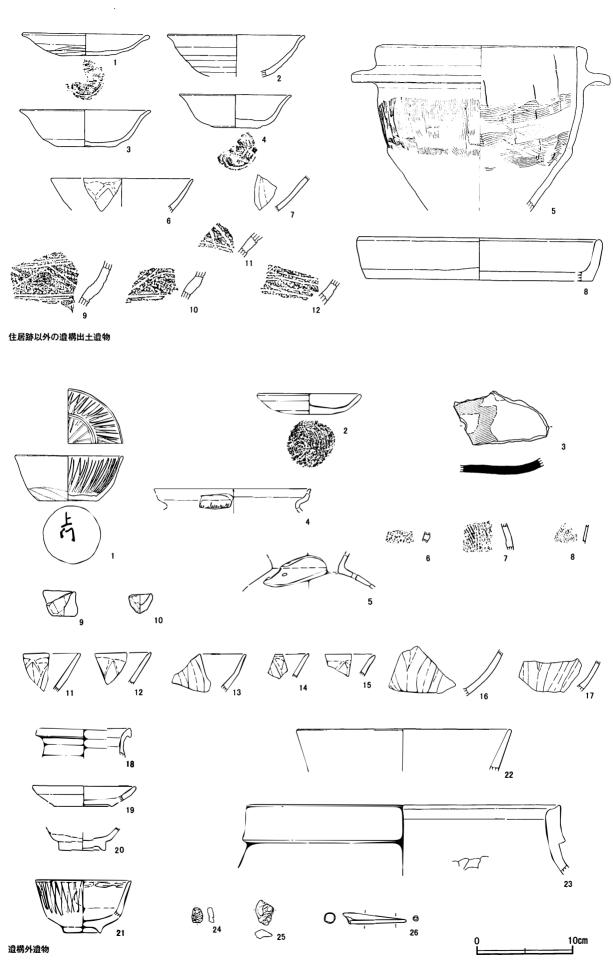


第72図 70号・71号・72号・73号住居跡出土土器(1 / 4)

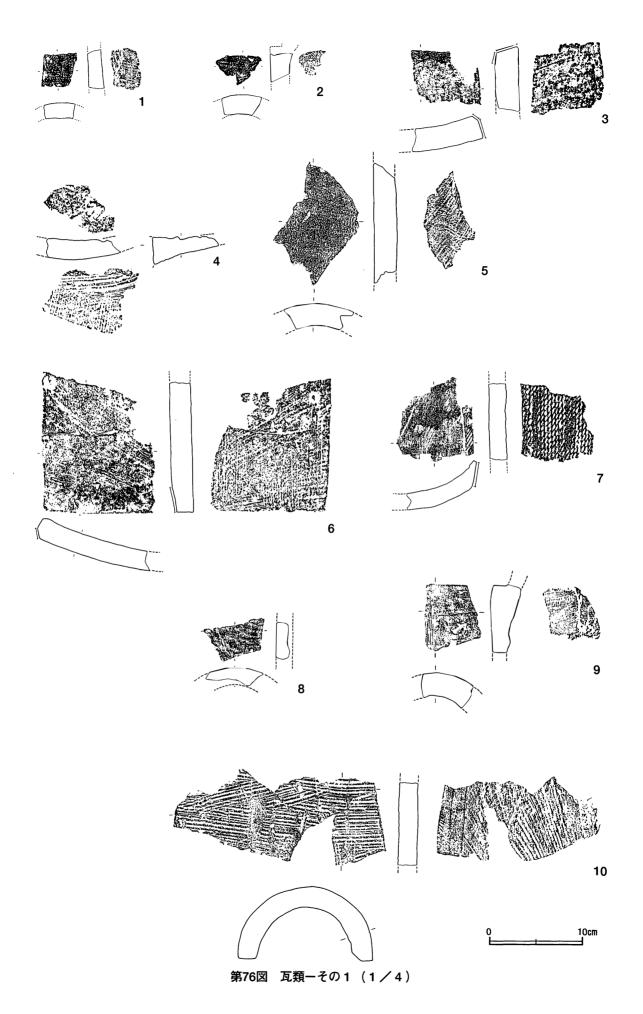




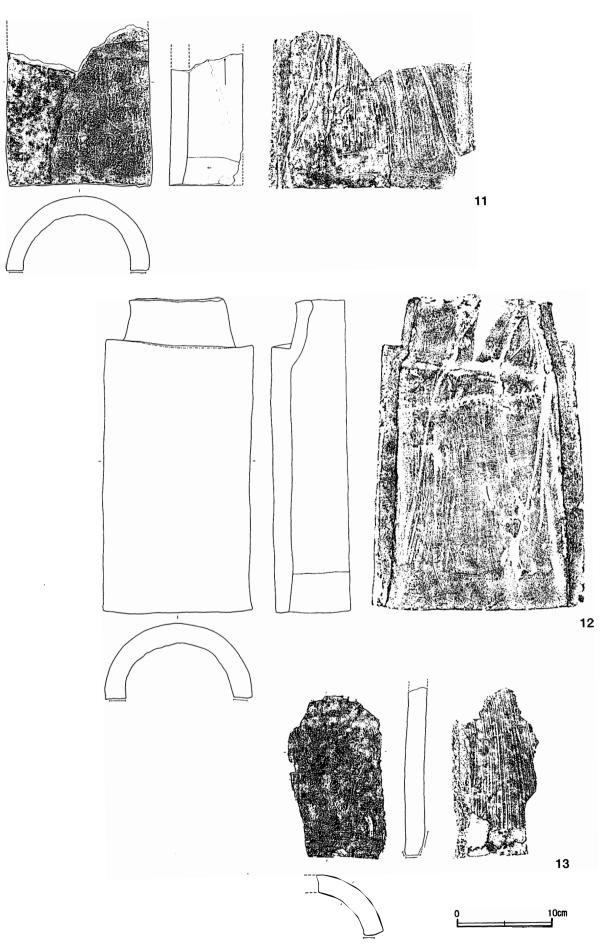
第74図 75・76号住居跡出土土器(1/4)



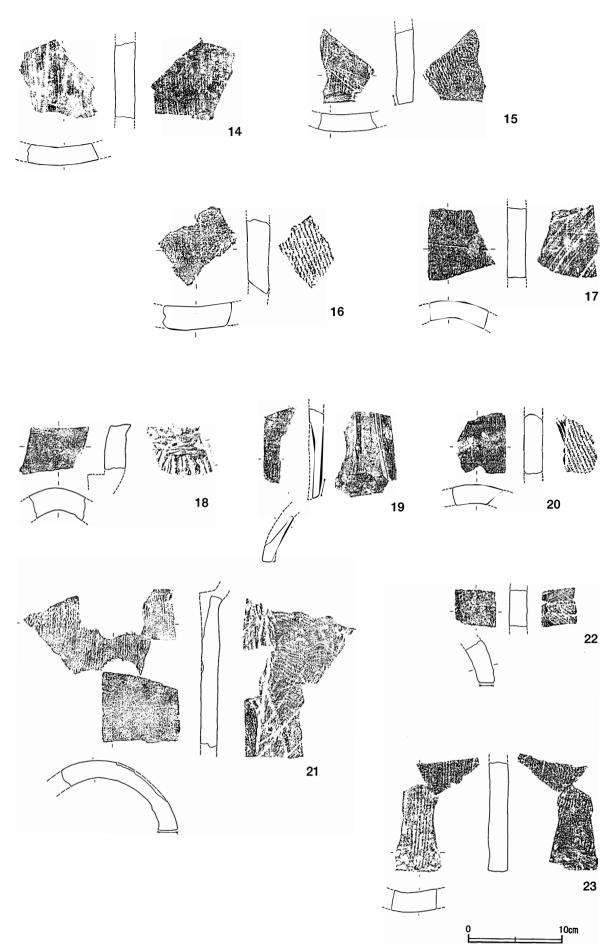
第75図 住居跡以外の遺構および遺構出土土器(1/4)



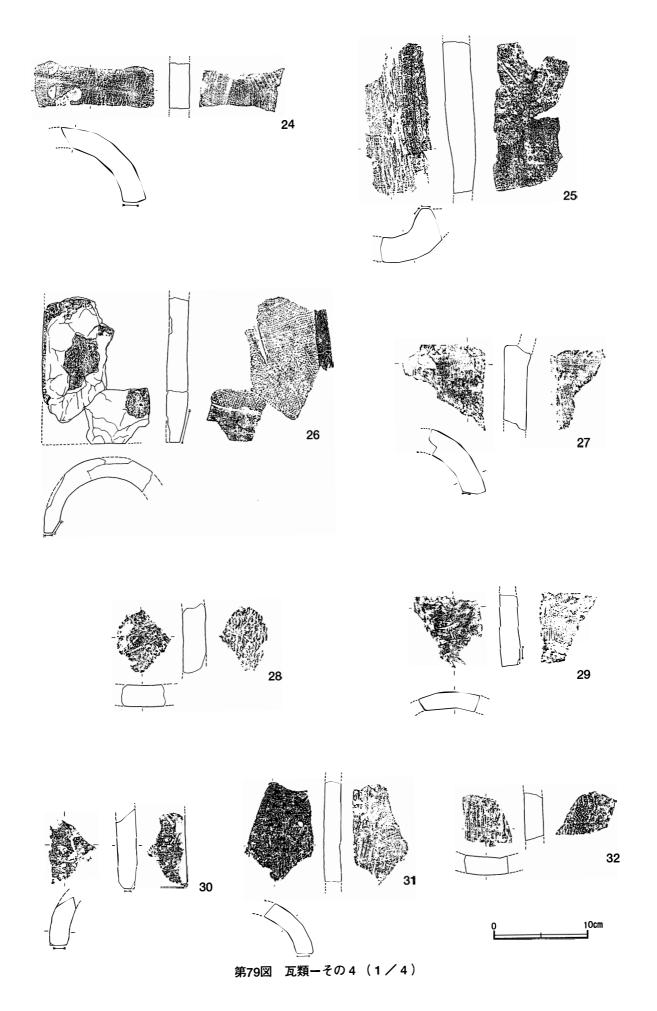
**- 100 -**

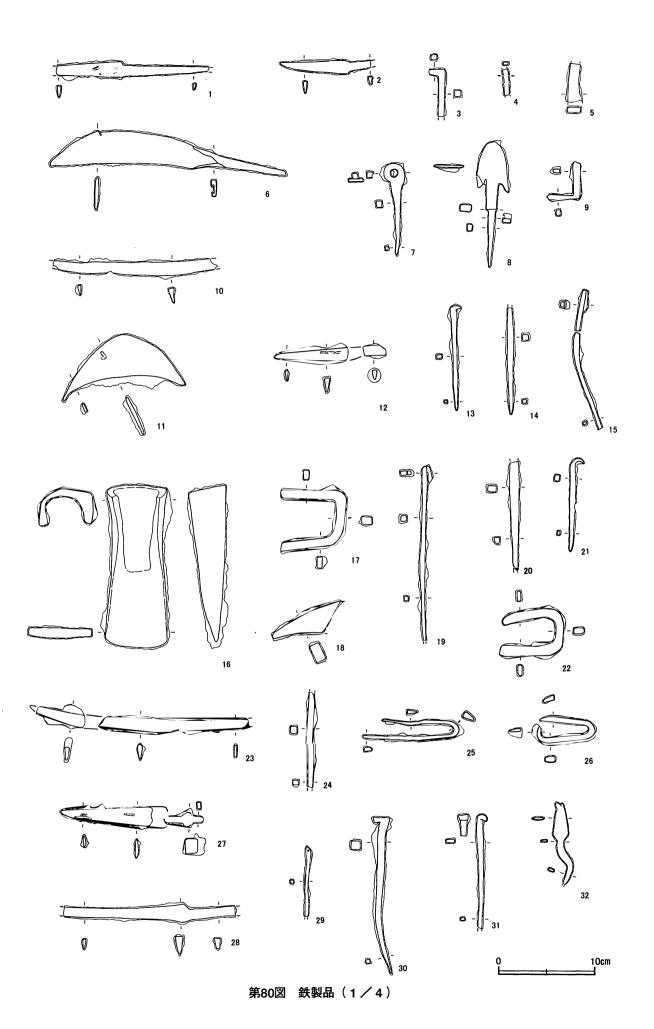


第77図 瓦類-その2(1/4)

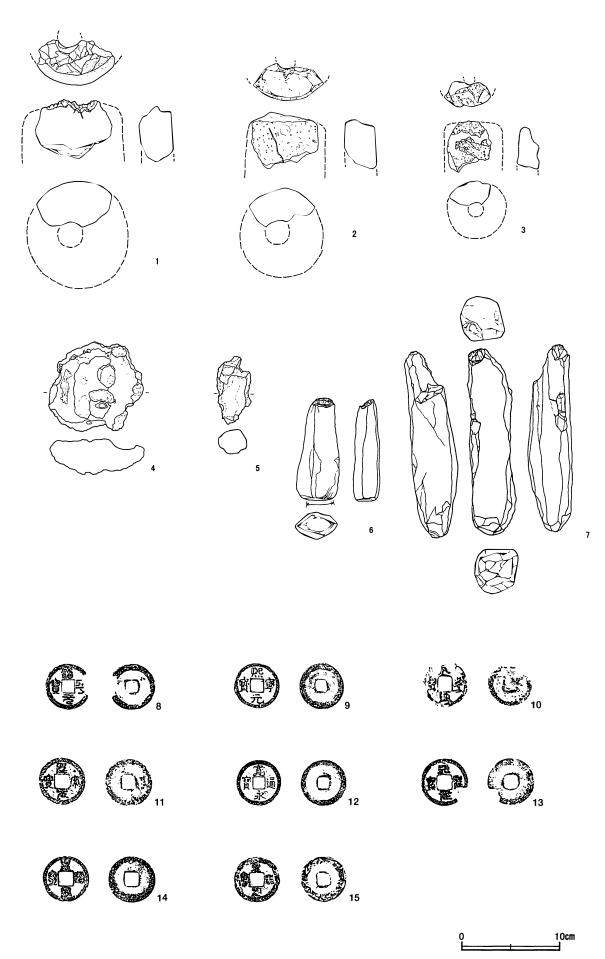


第78図 瓦類 一その3 (1/4)

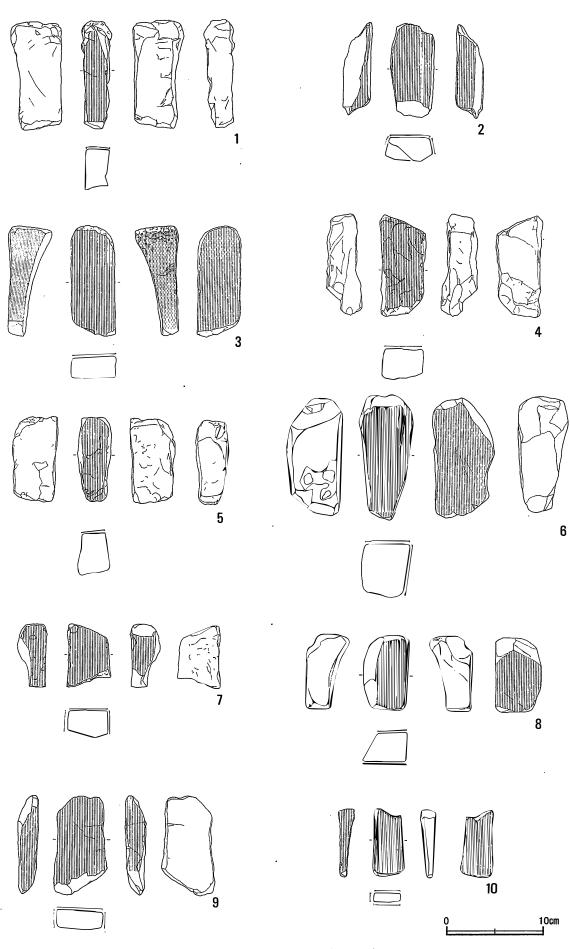




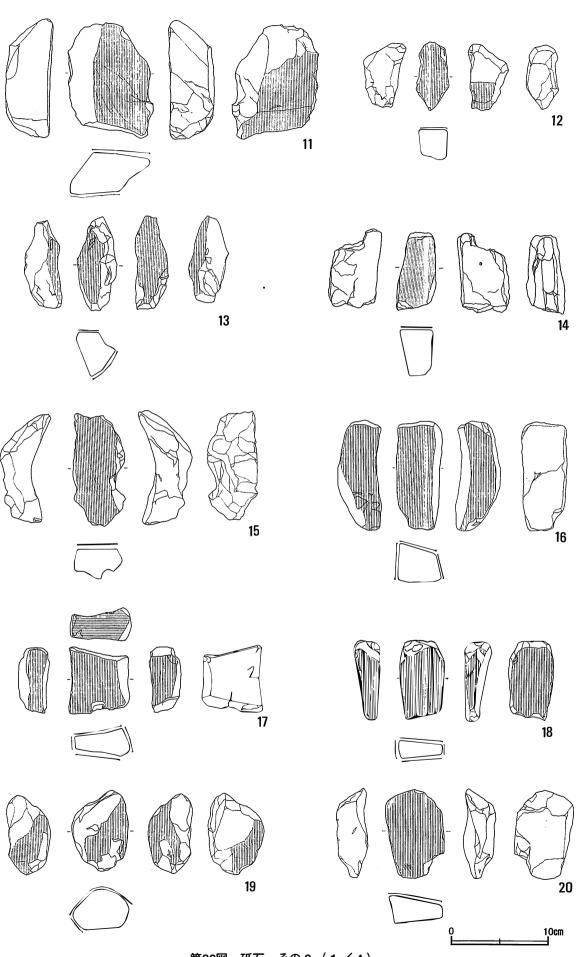
**- 104 -**



第81図 羽口・鉄滓・石製品(1/4)および銭貨(1/2)



第82図 砥石-その1 (1/4)



第83図 砥石ーその2 (1/4)

## 第3表 土器類観察表(1)

画像的   画像的   May   Ma		簡等
### 1978   A.M.   1 カッド	白色粒子	
1	"赤色粒子、椒密"	
- *** 3 関比	"赤色粒子、椒密"	
4 7日に 上が高 小科学 (14.0) 88 95% が ハケー(1) 指揮はデ 報色: 73 Y R 4 / 4 5 10 に 上が高 対象 (20.0) 18 55% が パッケー(1) 非常はデ 利益(1.5.7 Y R 4 / 4 1.5.7 Y R 4 / 4	"赤色粒子、椒密"	「別色上器」
		「別色上器」
		「別色上器」
- 2 分性 1 カテド科 (P-22) 上的窓 将 150 6.1 50 160 1999 キ・貼 ヘラテブ 明神経:5 Y R 5 / 8		「黑色上器」
- ・ 2 間長 (P-17間) 計解器 好 (11.8) 10 40% 別 ハラケズリ 別称極色: SYR5 8 8 3 カッド内 技術器 好 (00.0) 16 15 15% 別 ハラケズリ 別色: TSYR4 / 4 4 間に (P-4) 比解器 好 (00.0) 16 15 15% 別 ハラケズリ 別色: TSYR4 / 4 5 間上 (P-4) 比解器 好 (00.0) 9 10% 別 ハラケズリ 別色: TSYR4 / 4 5 間上 (P-4) 比解器 好 (4.6) - 21 20% 別 ハラケズリ 別称地色: SYR5 / 6 6 間上 (1.6) 1 - 11 10% 別 元 ラケズリ 科別色: SYR5 / 6 7 間上 比解器 好 (4.0) - 22 20% 別 外 20 クラズリ 長田: SYR6 / 6 7 7 間上 比解器 好 (5.1) - 16 10% 別 光 20 ヘラケズリ 正式: W報色: SYR5 / 6 7 7 間上 比解器 好 (5.1) - 16 10% 別 光 20 ヘラケズリ 正式: W報色: SYR5 / 6 20 20% 別 光 20 ヘラケズリ 正式: W報色: SYR5 / 6 10 間上 比解器 好 (5.1) - 16 10% 別 光 20 ヘラケズリ 正式: W報色: SYR5 / 6 20 20% 別 月 20 次 20 次 20 次 20 次 20 次 20 次 20 次 20		
3 カッド  1   1568		
4 限上(P-4) 上が高 間 (3.0) 9 105 別) - ファフリ 明本拠色: SYR5 6 9 105 別) - ファフリ 明本拠色: SYR5 6		
8 阻上		
- 9 別上 (P-16) 上部器 坪		
- 10 現土 上が高 要 (16.8) 25 < 5.5 外・10 ハケメ 明本限色:5 YR 3 / 4 ・ 11 和土		
- 11 祝士		
- 12 カマド中(P-31) 上部器 要 (32.6) 180 (40% 外・円)ハケメ 明本限値:5 Y R 5 / 6 - 13 P-39 上的器 要 (32.6) 55 (40% 外・円)ハケメ ほどみ限値:5 Y R 3 / 7 - 14 カマド中(P-34) 上部器 要 (31.6) 230 15% 外・円)ハケメ 内 照色: 7.5 Y R 3 / 7 - 15 カマド中(P-34) 上部器 財産 (22.4) 58 (5.5 開助)ナデ にぶい現値:7.5 Y R 5 / 7 - 3 け		
- *** 13 P - 39 上前図 費 (32.0) 55 405 外・内) ハケメ にぶい素別色: 5 YR 4 / *** *** *** *** *** *** *** *** ***		
- 14 カマドは (P-26) 上的器 類 (31.6) 230 15% 外・内) ハケメ 別・脱色: 7.5 Y R 3/1 におい 利地色: 5 Y R 4/3		
- *** 14 カマド内(P-26) 上的器 異 (31.6) 230 15% カ・ドリハケメ (4) 組色: 7.5 Y R 4 / 3  *** 15 カマド内(P-36) 土的器 異 (23.4) 58 < 5% 5陽) ナデ におい親色: 5 Y R 4 / 3  *** 2 カマド内(P-36) 土的器 环 (9.4) 5 5 5		
- 3 1/fe 1 現土 (P-26) 土地沼 坪 (9.4) 5 5 5 分 外) ナデ におい現色: 7.57 R 5 / 3		
- *** 2 カマド科 (P-1 他) 上師器 坪		罰部のみ
- *** 3 カマド内 (P-1) 土崎器 坪か (14.2) 39 20% 外)ナデ にぶい残配色:10YR 6 / *** 4 カマド内 土崎器 皿 (14.0) 3 5% 外)ナデ 税色:5YR 6 / 6 *** *** 5 限上 (P-1) 土崎器 坪 - (5.4) - 74 20% 外)ナデ、松)糸切り にぶい残配色:10YR 5 / 6 限上 (P-10) 土崎器 田 - (4.6) - 31 20% 外)ナデ、松)糸切り 松色:5YR 6 / 6 *** *** *** *** *** *** *** *** *		
************************************		Your Country on wear to the
************************************	<u> </u>	高足高台付坏の可能性あり
- *** 6 関上 (P-10) 上的器 間		混入か
- 7 カマド内(P-1 他)上的器 好 (23.2) 286 15% 外・内)ハケメ 赤斑色:2.5Y R 4 / 6	·	
第44回 4 5 fit 1 カマド内 (P-7) 他 土命器 坏 (14.2) 6.2 4.6 72 45% 外)、		
- *** 2 カマド内(P-2億) 上的器 年 14.4 5.8 4.6 105 70% 於 外別・クラケズリ にぶい本制色:5 Y R 4 / 3 *** *** *** *** *** *** *** *** ***		
***********************************		
	1	
- * * * * * * * * * * * * * * * * * * *		
- *** 6 図上 (P-248) 上的窓 坪 - 42 - 29 40% 外・於)へラケズリ 明赤担色:2.5Y R 5 / 6 * *** 7 * * * * * * * * * * * * * * *		
" 7 カマド内 (P-10億) 上海器 坪 - 5.2 - 72 40% 外) ヘラケズリ 内) 股色:5 YR 6 / 6 内) 別色:5 YR 7 / 7 内 アド内 (P-253) 上向器 坪 - 5.5 - 50 40% 外) ナデ、底) 糸切り 明本現色:5 YR 7 / 6 内) 別点:5 YR 7 / 6 内) 日本現色:5 YR 7 / 6 内) 日本記:5 YR 7		
*** *********************************		
***********************************	Ì	「無色土器」
***・ *** *** *** *** *** *** *** *** *	<del> </del>	
- 10 関土: (P-275他) 上的器 坪 (は.7) (6.7) 4.1 42 40% 外)ナデ、K)糸切り 明赤担色: 2.5 Y R 5 / 6 - 11 カマド内 (P-33) 上的器 坪 12.0 4.7 3.2 62 90% 外)ナデ、K)糸切り 明赤担色: 2.5 Y R 5 / 6 - 12 カマド内 (P-1) 上的器 坪 11.8 4.7 3.5 87 8.5% 外)ナデ、K)糸切り 赤担色: 2.5 Y R 4 / 6 - 13 関土: (P-131他) 上的器 坪 - (7.0) - 26 20% 外)ナデ、K)糸切り にぶい赤担色: 5 Y R 4 / 6 - 14 関土: (P-48他) 上的器 坪 - 6.2 - 30 35% 外)ナデ、K)糸切り 明赤担色: 5 Y R 7 / 6 - 15 カマド内 (P-15) 上加器 坪 - (6.40 - 21 20% 外)ナデ、K)糸切り 内・配色: 5 Y R 7 / 6 - 16 関土: (P-293) 上加器 坪 - (5.8) - 17 20% 外)ナデ、K)糸切り 松色: 5 Y R 7 / 6 - 17 カマド内 (P-252) 上加器 坪 - (5.8) - 17 20% 外)ナデ、K)糸切り 松色: 5 Y R 7 / 6		ozmic WEIN
- " 11 カマド内(P-33) 土煙器 坪 12.0 4.7 3.2 62 90% 外)ナデ、酸)糸切り 明本関色: 2.5 Y R 5 / 6 / 7 12 カマド内(P-1) 土煙器 坪 11.8 4.7 3.5 87 85% 外)ナデ、酸)糸切り 赤褐色: 2.5 Y R 4 / 6 / 7 13 現土: (P-131億) 上煙器 坪 - (7.0) - 26 20% 外)ナデ、酸)糸切り にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 7 2 2 20% 外)ナデ、酸)糸切り にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 7 2 2 20% 外)ナデ、酸)糸切り 明赤褐色: 5 Y R 3 / 8 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
- *** 12 カマド内(P-1) 1対策 年 11.8 47 3.5 87 85% 外)ナデ、眩)糸切り 森坦色:2.5 Y R 4 / 6  * *** 13 関土:(P-131億) 上何器 年 - (7.0) - 26 20% 外)ナデ、眩)糸切り にぶい赤利色:5 Y R 4 / 6  * *** 14 関土:(P-48億) 上旬器 年 - 6.2 - 30 35% 外)ナデ、眩)糸切り 明赤利色:5 Y R 3 / 3  * *** 15 カマド内(P-15) 上面器 年 - (6.4) - 21 20% 外)ナデ、眩)糸切り 別・ 10 (10 (2.5 Y R 7 / 6 / 8 ) トロ 11 (10 (2.5 Y R 6 / 8 ) トロ 12 (2.5 Y R 6 / 8 ) トロ 12 (2.5 Y R 6 / 8 ) トロ 13 (2.5 Y R 7 / 6 ) トロ 14 (2.5 Y R 7 / 6 ) トロ 15 (2.5 Y R 7 / 6 ) トロ 15 (2.5 Y R 6 / 8 ) トロ 17 (2.5 Y R 7 / 6 ) トロ 18 (2.5 Y R 7 / 6 ) トロ 18 (2.5		
"" 13 関土(P-131億) 上向器 塔     - (7.0) - 26 20% 外) ナデ、底) 糸切り にぶい赤利色: 5 Y R 4 / "" 14 関土(P-48億) 上向器 塚     - (6.2) - 30 35% 外) ナデ、底) 糸切り 明赤利色: 5 Y R 3 / 3 / 3 / 3 / 5 / 5 / 5 / 5 / 5 / 5 /		Commence of the
** ** 14 N(1: (P-48他) 上的器 本 - 6.2 - 30 35% 外) ナデ、K() 糸切り 明赤斑色: 5 YR 3/3 ** ** 15 カマド内 (P-15) 上面器 本 - (6.4) - 21 20% 外) ナデ、K() 糸切り 別 税色: 5 YR 7/6 内) 税色: 2.5 YR 6/8 ** 16 N(1: (P-293) 上加器 本 - (5.8) - 17 20% 外) ナデ、K() 糸切り 税色: 5 YR 7/6 ** 17 カマド内 (P-252) 上加器 本 - (5.8) - 17 20% 外) ナデ、K() 糸切り 税色: 5 YR 7/6 ** 17 カマド内 (P-252) 上加器 本 - (12.7) 5.0 4.3 60 45% 外) ナデ、K() 糸切り にぶい赤闪色: 5 YR 7/6	,	底部円柱づくり
- " 15 カマド州 (P-15) 上加器 は - (6.4) - 21 20% 外)ナデ、紋)糸切り 州)税色:5 YR 7 / 6 内)税色:2.5 YR 6 / 8 で 16 関注: (P-293) 上加器 は - (5.8) - 17 20% 外)ナデ、紋)糸切り 税色:5 YR 7 / 6 で 17 カマド州(P-252)上加器 は (12.7) 5.0 4.3 60 45% 外)ナデ、紋)糸切り にない赤利色:5 YR 7 / 6	<u> </u>	
*** 16 NG.H: (P-253) 上原語 片 - (5.8) - 17 20% 外) ナデ、底) 糸切り 担急: 5 Y R 7/6 *** *** *** *** *** *** *** *** *** *		
17 カマド内 (P-252) 上師器 环 (12.7) 5.0 4.3 60 45% 外) ナデ、底) 糸切り にぶい赤利色: 5 Y R 5 /		
	1	見込みに擦痕あり
" 18 関土: (P-285) 上角電 坪 (13.2) (5.0) 4.0 21 15% 外)ナデ、底)糸切り 明赤拠色: 2.5 Y R 5 / 8	-	High Edg Later war as the
<ul> <li>" 19 図上(P-96) 上前器 坏 (11.2) 19 15% 外)ナデ、(ド半次) 税色: 2.5 Y R 6 / 8</li> <li>" 20 図上(P-43) 上前器 坏 - (6.2) - 12 10% 外)ナデ、底)糸切り 炭肉色: 5 Y R 4 / 2</li> </ul>	+	――――――――――――――――――――――――――――――――――――
" 20 pc.1. (1 <sup>-43)</sup> 1.1mm コー 0.2) - 12 1070 77/77、85/ 3607	+	-MIT IET (LAUNTUIL TEN.)
第45図 " 22 カマド内 (P-5) 他 上崎器 翌 33.0 2340 50% 外・内)ハケメ にぶい赤闪色:2.5Y R 4 /	4	
" " 23 カマド内 (P-6) 他 上崎器 翌 (29.4) 2000 80% 外) ハケメ、内) ナデ にぶい赤利色: 5 Y R 4 /		
" * 24 カマド内(P-23)他 上崎器 - 8.0 - 230 <5% 外・円)ハケメ、紙) 木葉紙 にぶい赤褐色: 2.5Y R 4/	4	22と同一個体か
~ 5 A 5/ft 1 親上 (P-8他) 上師器 Ⅲ 10.5 4.8 2.9 76 70% 外) ナデ、底) 糸切り にぶい赤利色:5 Y R 4 /	1	
" - 2 関土 (P-32他) 土が探り 皿 10.1 4.2 2.5 81 85% 外)ナデ、底)糸切り にぶい配色:5 Y R 6 / 4		
3 土均内 (P-1) 土崎器 皿 (9.8) 4.8 3.1 82 80% 外)ナデ、統)糸切り にぶい赤褐色:5 Y R 4 /	1	
4 財政下 (P-29) 上前器	<b>_</b>	
" 5 カマド内 (P-9 他) 上崎器 高起高台付环 (17.5) 205 50% 外) ナデ、 永分 永り 大脚   用未収色: 2.5 Y R 5 / 6		脚部打欠き
" 6 関土 (P-16) 土地器 燮 (32.4) 50 < 5% 外・内) ハケメ にぶい赤似色: 5 Y R 4 / にぶい赤似色: 5 Y R 4 / にぶい赤似色: 5 Y R 5 / 4 にぶい似色: 7 S Y R 5 / 4 にぶい似色: 7 S Y R 5 / 4 にぶい似色: 7 S Y R 5 / 4 にぶい似色: 7 S Y R 5 / 4 にない似色: 7 S Y R 5 / 4 にないいんしき Y R 5 / 4 にないいんしき Y R 5 / 4 にないいんしき Y R 5 / 4 にないいんしき Y R 5 / 4 にないかんしき Y R 5 / 4 にないかんと Y R 5 / 4 にないかんしき Y R 5 / 4 にな	-	
* * 7 カでドハ(アー2/3) 上原窓 愛 (26.4) 139 <10% 外・内) ナデ にぶい利色:7.5 Y R 5 / 4 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *	1	
* 6号性 1 関土: 上師器 耳 (12.2) - 9 5% 外ナデ、(下半次) にぶい別位:7.5Y R 5/4	+	
# # 2   1071 + 1-10675   15   (13.4) 59   5.5%   (4) +デ (下単化)   外) 粒色:7.5 Y R 6 / 6		「黒色土器」
" 2 NG: 13時後 中 (13.4) - 39 (3.76) 777. (下平次) 内 川色:7.5Y R1.7/1		I ME.LOJ
* * 3 製土 (P-7) 土崎器 环 - 5.2 - 42 15% 的 糸切り 和色:7.5Y R6/6		
* * 4 カマド内(P-1他)上摘器 要系件 (32.7) 90 <10% 外・内)ハケメ にぶい赤利色: 5 Y R 4 /		
新46  2   7 別     1	1	以書「親」か(体部外面一逆)
2 曜日: (P-15他) 上が器 杯 (12.2) 6.5 3.3 41 40% 外)ナデ、kg)糸切り 明視色:7.5 Y R 5 / 8		底间に板目似
" 4 限上 (P-45) 上部器 高速高台体本 121 45% 外・内)ナデ 短色: 7.5Y R 7/6		脚部打欠き

第4表 土器類観察表(2)

							31	4 表	-		類観祭表(2)	_		
柳树	遺構名	No.	B EGFC	FA 391	25 M	1 1/2	ušit (m)	2543	il(\$	残存率	技法・形態の特徴	<u>е</u> "н	胎上	船 考
新4614	7 好能	5	RLt.	灰釉陶器	#si	(cm)	(cm) (7.0)	(cm)	(g) 21	5 %	付け高台	灰白色: 10Y R 7/1		
334014	7711:	6	版: (P-2)	須恵器	想	_	- (1.0)		56	< 5 %	外) タクキメ	灰白色: 10Y R 7/1		転用促か
-	*	7	程上:	北師器	増	(21.2)	_		27	< 5 %	タト・川川 ハケメ	判位:7.5YR4/3		III III III III III III III III III II
-		8	₩.E. (P −32)	上師器	发	(30.7)			97	10%	外・内) ナデ	川利色: 7.5Y R 3/2		
-,-	8 왕(li:	1	程士 (P-11他)	比師器	坏	(11.0)	5.2	3.0	56	40%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色: 5Y R 5 / 8		
-,-	*	2	カマド内 (P-1)	上師器	坏	(11.3)	5.0	3.0	68	70%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい赤褐色: 5 Y R 5/4		
	*	3	カマド内 (P-3)	上的器	ч	(13.6)			20	40%	外) ヘラケズリ、(底欠)	明黄褐色;10YR6/6		見込みにスタンプ?
-	-	4	程上 (P−13他)	上師器	坏	_	5.4		61	50%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色;5YR5/6		
~		5	%∐: (P − 3	北部	高足高台付坏		(6.7)		79	30%	外) ナデ	明赤褐色:5YR5/6		脚部打欠き
~		6	カマド内 (P-5他)	比師器	#K	-	_	(10.6)	56	10%	外・内) ナデ	1200:5 Y R 6 ∕ 6		
"	,	7	W.E.	上師器	獎	(28.6)		_	49	10%	外・14) ハケメ	明赤褐色; 2.5 Y R 5 / 6		
*	*	8	カマド14 (P-20)	上師器	授系鉢	(17.4)	-	-	138	10%	外・内) ハケメ	暗视值:7.5YR3/4		外面に煤付着、内面は将毛
*	9 F/E	1	视上	比師器	坏	(14.4)	6.8	4.3	70	40%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色; 5 Y R 5 / 6		
,	,,	2	税上 (P-128)	上師器	坏	(15.8)	_		8	<10%	外) ナデ、(下半欠)	外) 明赤褐色: 5 Y R 5 / 8		「無色土器」
						(Tuno)						内) 炽色;7.5Y R 1.7/1		1
		3	W f. (P-125他)	上海器	坏	(10.0)	5.6		32	30%	外)ナデ、底)糸切り	明赤枫色: 5 Y R 5 / 6		
	•	4	双比	上師器	III.	(10.2)	(5.0)	2.1	27	35%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
	,	5	カマド内 (P-54)	上が高	授 授系鉢	(32.0)	_		185	<10%	外・(4) ハケメ	オリーブ初色: 2.5Y 4/4		
		7	別止 (P−1) カマド内 (P−54) 他	上師器	<b>投系針</b>	(34.0)			318	< 5 %	外) ナデ、内) ハケメ 外) ハケメ、内) ナデ	にぶい初色: 7.5Y R 5/4 にぶい赤褐色: 5 Y R 4/3		
3547t×l	10号住	-		1.05%	坏	(12.0)	_			15%		明赤褐色: 2.5Y R 5/6		
914714	10311;	2	現主 (P-1) 現上 (P-325)	上師器	坏	(12.0)	$\vdash \exists$		15	10%	外) ナデ、(下半欠) 外) ナデ、	赤褐色: 2.5Y R 4/6		-
$\vdash$					-	_			17			外) 程色: 5 Y R 6 / 8		
"	~	3	设:1: (P-324)	上師器	坏		(5.3)		16	10%	成) 糸切り	内) 思色: 7.5Y R 2/1		[黑色主器]
~		4	税 t: (P-9)	t:師器	III ?	(13.4)	-		26	10%	外・14) ナデ	₩低:7.5YR6/6		高足高台付か
~	~	5	双比 (P-11)	灰釉陶器	Hiệ	(15.1)	(7.9)	6.9	102	40%	付け高台	灰白色: 7.5Y R 8/1		
~	~	6	関土: (P-97)	上師器	利釜	(21.8)			30	10%	外・14) ハケメ	赤褐色: 5 Y R 4 / 8		幻部欠失
-	1150:	1	<b>税</b> : (P-52)	土師器	坏	14.6	5.4	4.9	111	60%	外) ナデ、底) 糸切り	和色:5YR6/8		<b>医所に板目錐</b>
"	*	2	援1: (P−53)	上師器	坏?	_	(7.4)		64	20%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい税色:7.5YR7/4		高足高台が付くか
	*	3	阅土: (P-23/27)	比師器	坏?	-	-	-	51	15%	外・14) ナデ	明赤褐色: 5 YR 5/6		高足高台が付くか
	,	4	程: (P-57)	上師器	授	(26.8)	-	-	130	10%	外・内) ナデ	にぶい赤褐色 ; 5 Y R 4 / 3		
.,	1253 (E	1	双上 (P-4他)	上師器	坏	11.9	7.0	4.6	115	85%	外)へラケズリ、内)暗文、 成)糸切り	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		見込みに部分的に煤付着
$\vdash$											が、 ポワル 外) ヘラミガキ、(内) 暗文、			Hardisin- WANG-HILLY L.W.
"	*	2	双点: (P-1他)	上伸器	坏	13.3	6.7	6.6	156	65%	が) ペクミカギ、(4) 可文、 底) ケズリ高台	明赤褐色:2.5YR 5/6		体部内面に部分的に媒付着、上部 に擦痕
	.,	3	段1:、カマド内	1:0#28	坏	(12.0)	-	-	11	5 %	外) ヘラケズリ、内) 暗文	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 8		
~	13号信	1	カマド内 (P-13) 他	上的报	坏	12.8	6.2	3.2	96	80%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色: 2.5 Y R 5 / 6		口縁部に煤付着、底面に板目痕
		2	カマド周辺	上海器	坏	12.4	5.4	4.0	114	75%	外) ナデ、(資) 糸切り	にぶい利色: 7.5Y R 5 / 4		
-	~	3	カマド内 (P-10)	上師器	坏	14.1	6.5	4.0	210	100%	外)ナデ、底)糸切り	明戡色:7.5Y R 5 ∕ 6		底面に板目板
-	~	4	双:1: (P-46)	<b>法師器</b>	坏	-	5.6	-	48	30%	外) ナデ、底) 糸切り	製色:7.5YR4/6		底面に板目痕
"	~	5	カマド内 (P-1)	上師器	坏	-	6.7		80	60%	外) ナデ、底) 糸切り	明构色:7.5YR5/6		
"	"	6	災上: (P−18他)	北師器	ш	11.4	6.5	4.0	42	65%	外) ナデ、底) 糸切り	桁位:2.5Y R 6 ∕ 6		
	"	7	划上 (P-4他)	上師器	all	11.9	5.5	2.2	65	65%	外) ナデ、底) 糸切り	税位:5 Y R 6 ∕ 6		底部円柱づくり、底面に板目痕
-	~	8	カマド周辺	上師器	₩?	-	5.7		89	25%	外) ナデ、14) 水びき	にぶい初色: 7.5Y R 5/4		体部外面に底近くにタール分煤付
*	*	9	カマド内(Pー2)他	灰釉陶器	椀	13.5	7.1	4.5	161	70%	付け高台	灰黄褐色;10 Y R 6 / 2		
*	*	10	野: (P-41)	上的器	搜	(30.8)			45	< 5 %	外・内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
<b>র্টা48াশ</b>	*	11	カマド内 (P-5) 他	上伸器	授	(28.4)	_		1035	35%	外・内) ハケメ	昕赤褐色: 7.5 Y R 3 / 2		
-	*	12	カマド内(P-3 N他)	l:MX	授	_	8.5		920	40%	外) ハケメ、内) ナデ	暗赤褐色: 7.5YR 3/2		擬口縁化、捏ね鉢的に使用か
	~	13	カマド内 (P-14他)	上師器	小型瓷	15.2	7.0	14.4	660	80%	外) ハケメ、(内) ナデ	以构色: 7.5 Y R 3 ∕ 2		
	145州	1	视:f; (P−10a)	上師器	坏	(11.4)			2	< 5 %	外) ナデ、(下半欠)	明构色:7.5YR5/6		
-	~	2	税1: (P-389)	上師器	14	(13.2)	-		3	< 5 %	外) ナデ、(下半欠)	税位: 2.5 Y R 6 / 6		
"		3	版上(P-6)	上師器	环	(15.2)			2	< 5 %	外)ナデ、(下半欠)	明赤枫色: 2.5 Y R 5 / 6		
	*	4	度f; (P-10b)	北師器	坏	(10.4)	-		4	< 5 %	外) ナデ、(下半欠)	校色: 5 Y R 6 / 6		
	15号信	1	カマド内 (P-3)	上的器	坏	(12.0)	(6.4)	3.0	36	30%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
		2	授点: (P-8) 他	上海器	坏	(11.0)			23		外) ナデ、(下半欠)	暗赤褐色: 5 Y R 3/2 松色: 5 Y R 6/6		
		3	カマド内 (P-7) カマド内 (P-6)	上6625	坏	(13.0)			6		外) ナデ、(下半欠) 外) ナデ、(下半欠)	配色:5YR6/6 にぶい黄褐色:10YR5/4		
		4	カマド州 (P-6)	上師器	坏	(12.8)	- 51	ᆜ	29 50		外) ナデ、(トキ欠) 外) ナデ、成) 糸切り	にぶい黄褐色: 10 Y R 5 / 4		
	*	5		上師器	高足高台付坏	14.0	5.1		246	95%	外) ナデ (4) 未切り	明构色: 7.5 Y R 5 / 6		脚部打欠き
-	*	6	製土: (P-25他)	上海器		14.0			246 42	10%	外)ナデ			PALEALI V C
		7 8	現土 (P-17) 関土 (P-19)	灰釉陶器	高足高台付坏	14.8	-	6.0	196	85%	袖ツケガケ、付け高台	松色: 7.5Y R 6 / 6 以1色: 5 Y 7 / 2		見込みに煤付着
-	7 16 <sup>1</sup> }():	1	製工 (P-19) 製土: (P-5)	上師器	111L	(7.8)	6.4	0.0	196		外)ナデ、(ド半欠)	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		
	10*#11:	2	NULL: (P-9)	北師器	011	(7.9)	(4.6)	1.6	18	35%	外)ナデ、底)糸切り	和色: 5 Y R 6 / 6		
		3	版床下 (P-1)	北師器	高足高台小环	16.0			163	60%	外) ナデ	にぶい赤褐色;5YR4/4		脚部打欠き
		-					(5)				<del></del>	外) 思色: 10 Y R 2 / 2		
3749f×I	175}(È	1	カマド内 (P-2)	比師器	坏	(13.7)	(6.0)	4.1	52	40%	外)ナデ、底)糸切り	内) 黑色:10YR2/1		「無色土器」
~	"	2	床下上坑他	上師器	坏	12.4	4.8	4.1	108	90%	外) ナデ、底) 糸切り	明标製色: 2.5 Y R 5 / 6		
"	~	3	RE: (P−28)	上师器	011	12.2	6.8	2.8	100	100%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
	,	4	双1: (P-15他)	上師器	811	12.2	5.8	2.2	87	95%	外)ナデ、底)糸切り	稅位:5YR6/6		
"		5	贴床下 (P-3)	上師器	<b>邦</b>	(10.4)			8	< 5 %	外) ナデ、(ド半欠)	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
"	*	_	カマド内 (P-2)	領地器		(13.4)	6.5	3.2	18		外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10YR5/4		
-	*	7	カマド内 (P-5)	北海影	4		(5.0)		20	10%	外・底) ヘラケズリ	₩位:5YR6/6		
"	*	-	程点 (P-23)	上師器	费	-		_=	178	<10%	外) タタキメ	黄灰色: 2.5 Y 6 / 1		転用観か
-	*	9	カマド内 (P-8他)	30.825 1.45m	羽笼	(18.3)			230	10%	外・内) ハケメ	赤褐色:5 Y R 4 / 6		
*	*	10	カマド内 (P-5)	上師器	羽笼	(20.5)	_		131	<10%	外・内) ハケメ	暗赤褐色: 5Y R 3 / 4	\ d\#/#	推定地、残仔半の<5%は5%未満
												1 1(t · R5(£0) (	・ PARAMETERS AND AND THE	range are. YYT CYSVIC 5 %は5 %水池

11括・底径の( )内数値は反転による推定地、残存率の<5%は5%未満

第5表 土器類観察表(3)

							第	5 表	=	上器	類観察表(3)			
桶倒 番号	遺構名	No.	78.1:(02)Y	極別	器 桶	口能 (==)	(51K	器 ()	重き	残化半	技法・形態の特徴	<u>с</u> "и	胎 1:	節 考
-	173}(E	11	援け: (P-29)	土)师器	小型獎	(rm) (16.6)	(cm)	(ca) —	(g) 29	< 5 %	外・内) ハケメ	明赤褐色: 5 YR 5/6	<u> </u>	体部外面媒件着
,,		12	カマド 4 (P-10)	上师器	授	(8.6)		_	52	<5%	外)ハケメ、内)ナデ、底)	にぶい赤褐色; 5 Y R 5 / 4		
-					提		_		349	15%	木葉斑 外・内) ハケメ			
$\vdash$	185/fE	1	カマド内 (P-1) 他 関 l: (P-17他)	北神器	<b>и</b>	4.1	3.1	_	98	100%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい赤褐色: 5 Y R 5 / 4 松色: 7.5 Y R 6 / 6		
	*	2	拠上 (P−18他)	北解器	坏	4.1	3.0	_	55	60%	外)ナデ、成)糸切り	におい祝色:7.5 Y R 6 / 4		K:cı
"	"	3	カマドIA (P-3)	上伸器	III		4.2		28	30%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
		4	カマド内 (P-10)	上師器	TEIL		3.4	-	20	30%	外)ナデ、底)糸切り	税伍:7.5YR6/6		
"	*	5	カマド内 (P-2他)	北師器	坏系鉢	21.7	10.6	8.0	420	75%	高台付き	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
"		6	カマド内 (P-22)	北師器	授	(24.6)	(12.7)		224	20%	外・内) ナデ	暗赤褐色: 7.5Y R 3/2		
% 3750⊠	19\$}{£	7	カマド内 (P-11) 他 カマド内 (P-1) 他	上師器	<b>发</b>	(34.6)	(4.7)	4.6	2950 48	40%	外・内) ナデ 外) ヘラミガキ、内) 暗文	暗赤褐色;7.5 Y R 3 / 2 明赤褐色;2.5 Y R 5 / 8		
######################################	"	2	NJ i: (P-2 他)	上師器	坏	(11.6)	_		18	10%	外) ヘラミガキ、内) 暗文	明赤褐色;5YR5/6	**	
*	,,	3	縦: (P-5)	灰釉陶器	环状斑	_	5.6	-	36	<10%	(411484)	灰白色: 5 Y 7 / 1		
~	21号任	1	说 i: (P-18)	上師器	坏	12.1	6.0	4.2	102	50%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 2.5Y R 5/8		
~	*	2	カマド内 (P-32)	七种器	坏	(12.6)	-	_	17	20%	外)ナデ、(下半欠)	稅位;5YR6/6		
*		3	N1: (P-27~29)	上角器	811	(11.9)	4.8	3.3	85	60%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色; 5 Y R 5 / 6		1114-94-10
~	223}(1:	2	双上(P-9) カマド内(P-7/8)	上級器	坏	14.2	5.0 3.5	6.2	196	100% 97%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6 にぶい橙色:7.5YR6/4		円柱造り 灯明皿(EI縁部に煤付着)
		3	別(P-20B)	北師器	坏	(11.6)	-	-	20	15%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色: 2.5 YR 5/8		X1-77 III. (1-14611)-1-24 [7-117
-		4	カマド内 (P-36)	上師器	Intl	113	6.8	2.0	66	60%	外)ナデ、底)糸切り	が判色:5YR4/6		基書「儿」(「本部外面一逆)
"		5	双上(P-4)	上師器	坏		(6.6)	-	32	20%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
"	"	6	<b>以上(P-23/25)</b>	上師器	坏		(6.8)	-	51	20%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい判色:7.5YR 5/4		
	"	7	斑: (P-20A)	上師器	011	9.7	4.4	1.7	51	50%	外)ナデ、底)糸切り	和值:7.5YR 6/6		
"		8	関土 (P-18)	上海器	HI 5.01:	(9.7)	(10.6)	1.7	52	40% 10%	外) ナデ、底) 糸切り 外) ナデ、底) 糸切り	税位:7.5Y R 6/6 税位:5 Y R 6/6		
		10	カマド内(P-5/6) 関上 (P-24)	上師器	坏系鉢 高足高台付坏		(10.6)		90 50	10% 45%	外) ナデ、US) 永切り 外・IA) ナデ	税位:5 Y R 6 / 6 料色:7.5 Y R 4 / 6	<del>-</del>	
-	,,	11	版1: (P-29他)	上師器	小型規	(13.0)	-	_	29	< 5 %	外・1/4) ナデ	規也:5YR3/1		
-		12	カマド内 (P-9) 他	上師器	搅	(30.0)	-	-	840	40%	外・内) ハケメ	にぶい赤褐色:5 Y R 4 / 4		
গ্ল্য511খ	245}():	1	関.f: (P-85他)	上师器	坏	12.4	7.2	4.0	113	90%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:2.5Y R 5/6		円柱造り
"	"	2	税 f: (P-2)	上師器	坏	13.6	6.2	3.4	1022	55%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色;5 Y R 5 / 6		咳前に板目板
".		3	関付: (P−8/9)	上師器	1111	11.5	5.4	2.2	80	50%	外)ナデ、底)糸切り	和位:5YR6/6		
		4	カマド内 (P-5) 関土: (P-63/64)	上海器	M		5.8		55	30% 90%	外)ナデ、底)糸切り	税色:5 Y R 6/6 にぶい黄褐色:10Y R 5/4	<del></del>	北明m (忠政に集付着)
		5	カマド(4 (P-9)	北師器 灰釉陶器	高足高台付坏 輪花椀	12.0	5.5	8.2	160	30%	外) ナデ	黄灰色: 2.5Y 6 / 1		A TOURING (SECTION 11)
~	,,	7	カマド内 (P-1)	灰釉陶器	His	13.5	7.2	4.6	169	100%	THE PERSON NAMED IN COLUMN NAM	灰黄色: 2.5Y 6 / 2		口縁部に現底、見込に擦痕
"	*	8	カマド内 (P-3)	土師器	湘笼	(22.4)	-	-	172	<10%	外・内) ハケメ	明製色: 7.5Y R 5 ∕ 6		-
~	~	9	双士: (P-66)	北海器	判签	(22.9)	_	-	155	<10%	外・川) ハケメ	判位:7.5YR4/3		
"	*	10	双:1: (P-60)	上師器	첏		(9.2)	_	115	<10%	外・四 ハケメ	規判位:5 Y R 2 ∕ 2		
~	251HE	1	以1: (P−252仙)	<b>北師器</b>	坏	14.5	6.2	4.6	211	85%	外・試)ヘラケズリ	明赤褐色:5YR5/6		
	.,	3	製土 (P-238他) 製土 (P-132他)	北部器	瓜	12.9	5.2 4.3	3.9 2.7	60	80% 80%	外・底) ヘラケズリ 外・底) ヘラケズリ	にぶい赤褐色: 5 Y R 5 / 4		
-		4	製土 (P-152他)	上師器	坏	(14.0)	7.8	4.0	31	40%	外)ケズリ、底)糸切り	にぶい赤褐色: 5 YR 5/4	-	
-		5	照 l: (P-342)	上師器	坏	(15.0)	5.6	4.8	72	45%	外・底)ヘラケズリ	和位:5YR6/6		場書「□□」及び場画? (外面)
*	*	6	没上(P-75)	上伸器	坏	(13.9)	_	_	12	<10%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		墨鹊「增」(体部外面一正位)
*	*	7	親士 (P-76)	北師器	IIIL	11.5	4.4	2.2	43	50%	外・眩) ヘラケズリ	稅位:5YR6/6		FI縁部に煤多く付着
- 1	*	8	製1: (P-245他)	土師器	坏	12.6	5.6	4.2	-		外・16() ナデ	₩Œ:5YR6/6		
-		9	カマド内 (P-8) 他	北師器	环	13.4	5.4	4.3	112	100%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい判色:7.5YR 5/3		二次被熱
*		10	援上(P−74他) 援上(P−264)	土師器	坏坏	12.1	5.7	3.5 48	139	70% 100%	外) ナデ、底) 糸切り 外) ナデ、底) 糸切り	税色:5YR6/6 明赤製色:5YR5/6		二次被熱
# #1521श्र		12	NJ: (P-204)	上師器	坏	11.8	4.9	4.1	120	100%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		大印川III、さらに部分的二次被熱
"	,,	13	対: (P-42/47)	1:00%	坏	(12.9)	5.6	3.3	76	65%	外) ナデ'、底) 糸切り	にぶい料色: 7.5Y R 5 / 4		
*		14	祝 l: (P-181他)	1:0429	坏	12.2	(5.0)	4.4	53	40%	外)ナデ、底)糸切り	稅位:5YR6/6		
~	*	15	说 f: (P-72他)	上師器	坏	(13.3)	Ξ	_	29	15%	外) ナデ、(下半欠)	税位:5YR6/6		部分的に二次被熱
*	*	16	程上 (P-216他)	上師器	ы; 		5.1	-	52		外) ナデ、底) 糸切り	桁位:2.5Y R 6 ∕ 6		
-		17	以上 (P-22他)	上師器	坏		5.4	-	55		外) ナデ、底) 糸切り M) ナデ 底) 糸切り	にぶい黄税色:10YR 6/4		二次被熱
		18	程: (P-156他) 程: (P-82他)	上師器	坏坏	=	(6.4)	<del>-</del>	34 52	20% 50%	外) ナデ、底) 糸切り 外) ナデ、底) 糸切り	税色:7.5YR6/6 にぶい赤褐色:5YR5/4		二次被熱
,		20	以上(P-195)	上師器	liii.	11.8	5.1	2.5	92	100%	外) ナデ、成) 糸切り	赤褐色: 5 Y R 4 / 6		二次被熱
-	,	21	程 : (P-169)	上師器	INL	11.4	4.3	2.8	89	-		和位:5YR6/8		
~		22	関 f: (P−78)	上師器	Ш	12.1	4.8	2.6	80	80%	外) ナデ、底) 糸切り	稅伍;5YR6/6		
	*	23	関1: (P-210)	上師器	DIIL	12.5	5.7	2.5	71	-		赤褐色:5YR4/6		二次被熱
-		24	NJ 1: (P-266)	上師器	DIL	(11.4)	(5.4)	2.1	31	35%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい料色:7.5YR 5/4		二次被熱
"	*	25	以i: (P-150他)	1:0027	圻	12.2	5.6	4.1	91	70%	外)ナデ、底)糸切り	外)にぶい赤褐色: 5 Y R 5   / 4  内) 黒色: 7.5Y R 2 / 1	"赤色粒子、椒密"	「無色主器」
"		26	<b>照行: (P-308)</b>	上師器	埓	-	_		1	< 5 %	外)ヘラケズリ	明赤褐色:5YR5/6	級密、赤色粒子目立つ	墨書「□」(/本部内面)
"	,	27	X(1: (P-324)	上师器	坏		Ξ	Ξ	1	-	底) 糸切後ヘラケズリ	にぶい桁色: 7.5Y R 6/4		基專「□」(軽部外面)
-		28	程 f: (P-209他)	上師器	高温高台中中	14.6			113	_		にぶい料色: 7.5Y R 5/4		高台打ち欠き
"	*	29	划士(P-114他)	須恵器	「磁G」 競		(4.4)	<del>  -</del>	138		底) 糸切り 外) タクキメ、内) 当具痕	黄灰色: 2.5Y 6 / 1 黄灰色: 2.5Y 4 / 1		転用規?
1 1	,		製 l: (P-70)	須恵器	J 74C	_	<del>_</del> _	<u> </u>	-	_				DAYLING I
	"	30		经期限率	lati	11 7	86	A 1	63	55%	1付け協台	オリーブ灰色:10Vォノ?	1	1
$\vdash$		31 32	関土 (P-134他) カマド内 (P-26) 他	経釉陶器 上創器	婉	11.1	6.6	4.1	1102	<del>                                     </del>	付け高台 外・内) ハケメ	オリーブ灰色:10Y4/2 にぶい赤褐色:5YR4/4		
"	,,	31	祝上: (P-134他) カマド内 (P-26) 他			_	6.6	4.1	-	<del>                                     </del>	外・内) ハケメ 外・内) ハケメ			

第6表 土器類観察表(4)

							<i>ऋ</i>	<b>b</b> 38	_	上位的	<b>規観祭衣(4)</b>			
柳树	遺構名	No.	8 1627	AN 521	器利	LILE	PEIE	254	低さ	残化半	技法・形態の特徴	(C ,34	Wi I:	(情) 考
番号						(cm)	(cm)	(നു)	(g)			11111111111111111111111111111111111111		
33521A	251}(1):	34	製土: (P-2/151)	上師器	授	(25.2)	-		91	< 5 %		黒胸色: 5 Y R 3 / 1		
ক্য531শ	261}(1):	1	程: (P-31/43)	1:師器	<b>坏</b>	12.6	4.9	4.1	92	70%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色: 5 Y R 4 / 8		
		2	製土 (P-39)	上師器	<b></b>	11.8	6.0	3.4	81	80%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10YR5/4		
~	*	3	程 f: (P-28)	比師器	坏	13.2	3.3	6.4	98	65%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい初色: 7.5Y R 5/4		
	~	4	カマド内 (P-8) 他	上師器	坏	-	6.0	_	33	20%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい位色: 7.5Y R 6/4		乾値に板目板
*	~	5	以上 (P−5)	上師器	坏		6.0		18	20%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい初色:7.5YR5/4		
*	*	6	カマド内 (P-11)	t:師器	坏		(6.0)		24	20%	外)ナデ、底)糸切り	赤枫色:5 Y R 4/6		
*	*	7	製土 (アー15)	比的器	規	(23.5)			68	<10%	外・内) ハケメ	暗构色:7.5YR3/4		
		8	双上: (P-26)	上師器	堤	_	9.0	_	271	30%	外) ナデ、内) ハケメ、	!!!判值:7.5Y R 3 ∕ 1		
											底) 木葉仔			
	283}(1:	1	製土 (P-8他)	比師器	坏	(13.5)	-	-	16	15%	外)ヘラケズリ、(下半欠)	にぶい初色: 7.5Y R 5/4		
*	**	2	双上 (P-110他)	北師器	坏	(13.2)	(6.6)	(3.0)	23	15%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
	~	3	双上: (P-108)	比師器	坏	-	(4.4)	_	21	15%	外)ヘラケズリ、	黒褐色: 7.5Y R 3 / 1		
			1 - v-t- (1) - 1 \ At-			(40.0)					底) 糸切り	W.C. SEVEL (C		
~	*	4	カマド内 (P-1) 他	上師器	Ш	(12.9)	_		29	30%	外)ナデ、(下半欠)	判位:7.5YR4/6		man foot assembles
*	*	5	程 1:	上師器	坏		-		2	<5%	底) 糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		場書「□」(底部外面)
*	291}fE	1	関土: (P−54)	上師器	坏	(14.9)	7.6	(3.5)	39	40%	外)ナデ、底)糸切り	和位:5YR6/6		
*	~	2	程上 (P−392)	上師器	Ш	8.6	3.9	2.2	46	98%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色:5 Y R 5/4		
*	*	3	カマド内(P-1)	七种器	Ш	9.9	4.5	2.4	89	100%	外)ナデ、底)糸切り	Kt色:5YR6/6		灯明Ⅲ(僅かに芯痕煤付着)
*	*	4	カマド内 (P-53他)	上師器	ш	(9.0)	4.5	2.3	25	50%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色:5YR5/4		
*		5	カマド内 (P―47) 他	上師器	ш	(9.5)	4.6	2.0	25	50%	外) ナデ、(な) 糸りり)	にぶい赤褐色: 5 Y R 5 / 4		
~		6	暖:l; (P-394)	上師器	高足高台付坏	9.6	5.8	3.5	83	90%	外) ナデ	明// 報色:5YR5/6		
•	,	7	程上 (P−393)	上師器	高足高台付坏	_	5.2	_	43	50%	外) ナデ	にぶい初色: 7.5Y R 5 / 4		見込みに二次被熱
		8	划1: (P-188他)	上師器	高足高台付坏	_	_		61	30%	外) ナデ	によい祝佐: 7.5Y R 6 / 4		
		9	程上(P-380他)	上師器	高足高台付坏	<del>  -</del>	_		47	30%	外) ナデ	赤褐色:5YR4/6		
-		-		-		(22 1)	<u> </u>							
	-	10	程: (P-50)	1:師器	規	(32.4)			88	< 5 %	外・内) ナデ	以他:7.5Y R 2/1		
-	*	11	カマド内 (P-40) 他	上師器	搜	(33.4)			920	30%	外) ナデ、内) ハケメ	灰褐色: 7.5Y R 4 / 2		
- "	*	12	カマド内 (P-61他)	上師器	提	-	13.4		1860	40%	外) ハケメ、内) ナデ	赤褐色:5YR4/6		
গ্ল্যা54ার	30号任	1	援:f: (P-135)	上師器	坏		3.8		32	15%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
"	*	2	閥上 (P−121他)	上師器	坏采鉢	23.6	11.4	7.0	74	20%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		底面に板目痕
*		3	双山: (P-105他)	比師器	高足高台付坏	(17.0)	-	-	178	35%	外)ナデ	初色: 7.5Y R 4 / 3		見込みにタール付行
*	*	4	復士: (P-123他)	北師器	高足高台付坏	_	_	_	1.10	80%	外) ナデ	明赤褐色;5 Y R 5 / 6		
*	^	5	₩1: (P-131)	上師器	高足高台付坏	15.3	-	_	328	90%	外) ナデ	にぶい初色: 7.5Y R 5 / 4		体部内外面にタール付着
		6	程上 (P-130)	灰釉陶器	Rii	(15.9)	(7.0)	5.6	79	35%	釉ハケガケ、付け高台	灰白色: 7.5Y 7/1		
		7	カマド内 (P-4他)	上師器	投	(28.4)	_		160	5 %	外・内) ハケメ	暗赤褐色: 7.5Y R 3/2		
-,-	315/16	1	殺土 (P−199他)	:E:師器	坏	15.1	4.3	6.8	82	60%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい程色: 7.5Y R 6/4		底面に板目痕
	31711:	2		1:00%	ъ.				69	70%	外) ナデ、底) 糸切り			92 mir - 100 1 100
		<u> </u>	製土 (P-127他)	LINES	14"	12.5	3.6	5.6	09	70%		明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		
*	*	3	双北 (17-141)	上師器	坏	-	(6.0)	_	14	15%	外)へラケズリ、内)暗文、   弦)糸切後周囲へラケズリ	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		派人
	~	4	カマド内 (P-24)	1:0425	坏	(16.2)	-	_	31	10%	外) ヘラケズリ、(下半欠)	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
		5	カマドI4 (P-15)	1:06 20	坏	(17.0)	_	_	32	30%	外) ナデ、(下半欠)	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
	,	6	双上: (P-213他)	上師器	坏	16.8	7.1	3.7	174	70%	外)ナデ、底)糸切り	拟位:7.5YR4/3		体部の3ヵ所に貫通少孔あり
-		7	版上: (P-215)	上師器	坏	10.6		3.1	53	50%	外)ナデ、底)糸切り	が初色: 2.5Y R 4/8		14-191-7 3 # 1411-1 (A9-71-10-1)
,		<del>                                     </del>			埓		5.9				外)ナデ、底)糸切り			10 Alia Hill Late
		8	程士: (P-82)	上師器	-		4.9		45	25%		赤褐色:5 Y R 4 / 8		55.前に板上形
	*	9	程1: (P-83)	上的器	坏		5.6	_	32	20%	外) ナデ、底) 糸りり	にぶいが製色:5YR4/4		
	-	10	程上(P-22)	上師器	高足高台付坏	-	-		79	30%	外) ナデ	№位:5YR6/6		
*	~	11	糉土: (P−18)	<b>北師器</b>	沢カマド	_	-	-	102	< 5 %	外・内) ハケメ	暗赤枫色:5 Y R 3/2		
*	٠	12	関土 (P−57/58)	士師器	发	(24.0)	-	-	78	< 5 %	外・内) ハケメ	赤褐色:5YR4/8		
গ্যহহার	3257fE	1	カマド内 (P-26他)	上師器	埓	(12.4)	5.0	3.4	73	40%	外)ナデ、底)糸切り	切赤褐色:5YR5/6		
*	*	2	覆上: (P−75)	上師器	坏	(13.9)		-	5	5 %	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色:5YR5/6		
~		3	製土 (P−41)	上師器	坏	(11.9)	-	-	12	10%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色:5YR5/6		
	*	4	双上 (P-124他)	上師器	坏	-	(6.0)	_	20	10%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		
~		5	程上: (P-234)	上師器	坏	-	4.4		53		外)ナデ、KS)糸UJI)	にぶい初色: 7.5Y R 5 / 4		
		6	カマド内 (P-24)	上師器	高足高台付坏	-	_	_	50	10%		判值:7.5YR4/6		高台を探って再綱整
,		7	NU.1: (P-77)	灰釉陶器		_	_	_	108		外・内) ロクロナデ	灰オリーブ色:5 Y 5/2		
		8	カマド内 (P-7) 他	上師器	龙	(30.2)		_	738		外) ハケメ、内) ヘラ	にぶい赤褐色:5YR4/4		
							<u> </u>	-	-					
	331}():	1	カマド内 (P-61)	上師器	坏	12.4	3.9	4.0	90		外・底) ヘラケズリ	にぶい判位:7.5YR5/4		
~	*	2	カマド内 (P-14他)	上師器	坏	(12.2)	4.9	3.5	45		外・底) ヘラケズリ	赤褐色: 5 Y R 4 / 6		
~	*	3	双.l: (P-159)	上師器	坏	(13.0)	(4.1)	3.2	40	40%	外・眩) ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5 Y R 4 / 4		
		4	援击: (P−130)	七師器	坏	(13.0)	(3.2)	3.3	29	40%	外・底) ヘラケズリ	暗赤褐色: 7.5YR 3/2		
"			製土 (P-54)	1.75599	坏	-	(4.7)		19	20%	外一版)ヘラケズリ	にぶい製色:7.5Y R 5 / 4		
*	*	5	18.1. (1 04)	上師器				_	35	30%	外一底)ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5 Y R 4 / 4		
		5 6	₩上 (P-63他)	土師器	环	-	4.2							
,					析	(11.7)	5.0	2.3	33	50%	外・底)ヘラケズリ	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
	*	6	₩上 (P-63他)	土种器				2.3 2.1	23	_	外・底) ヘラケズリ 外・底) ヘラケズリ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6 暗褐色: 7.5Y R 3 / 3		W-19-19-19-19-19-19-19-19-19-19-19-19-19-
"	*	6 7	程上 (P−63他) 程上 (P−74)	土師器	Ш	(11.7)	5.0	_		_	外・6岁) ヘラケズリ			
"	**	6 7 8	度上 (P-63他) 双上 (P-74) 双土 (P-50他) 双上 (P-69他)	土師器 土師器 土師器	III	(11.7)	5.0 4.5 4.4	2.1	23 33	40% 40%	外・8℃) ヘラケズリ 外一窓) ヘラケズリ	暗视位:7.5YR3/3 赤褐色:5YR4/6		Min [□ (]3+)1 (seastry)
" " " " " " " " " " " " " " " " " " " "	**	6 7 8 9	照上 (P-63他) 親士 (P-74) 親士 (P-50他) 親士 (P-69他) 親士 (P-126)	土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	INII.	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0)	5.0 4.5	2.1	23 33 19	40% 40% 20%	外・底)ヘラケズリ 外~底)ヘラケズリ 外・底)ヘラケズリ	暗褐色:7.5YR3/3 赤褐色:5YR4/6 松色:5YR6/6		場書「□(足カ)」(底部外面)
19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 1	~	6 7 8 9 10	報主 (P-63他) 報主 (P-74) 報主 (P-50他) 報主 (P-69他) 報主 (P-126) カマド内 (P-50他)	土師器 土師器 土師器 上師器 上師器 上師器		(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3	5.0 4.5 4.4	2.1	23 33 19 670	40% 40% 20% 40%	外・65) ヘラケズリ 外一般) ヘラケズリ 外・65) ヘラケズリ 外・64) ハラケズリ	暗判色: 7.5Y R 3/3 赤判色: 5 Y R 4/6 松色: 5 Y R 6/6 哈赤利色: 5 Y R 3/2		以書「□ (足カ)」(底部外面)
10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	**	6 7 8 9 10 11	報主 (P-63他) 報主 (P-74) 報主 (P-50他) 報主 (P-69他) 報主 (P-126) カマドパ (P-50他) 報主 (P-7/83)	土師器 土師器 土師器 土師器 上師器 土師器 土師器	III III III III 小型獎	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0)	5.0 4.5 4.4	2.1	23 33 19 670 45	40% 40% 20% 40% <10%	外・65) ヘラケズリ 外-65) ヘラケズリ 外・65) ヘラケズリ 外・14) ハケメ 外・14) ハケメ	暗知色: 7.5Y R 3/3 赤褐色: 5 Y R 4/6 松色: 5 Y R 6/6 暗赤褐色: 5 Y R 3/2 にぶい赤褐色: 2.5Y R 4/3		思書「□ (是カ)」(乾部外面)
72	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	6 7 8 9 10 11 12	照上 (P-63他) 照上 (P-74) 照上 (P-50他) 配上 (P-69他) 配上 (P-126) カマド/4 (P-50他) 配上 (P-7/83) カマド/4 (P-22)	土种器 土种器 土种器 土种器 土种器 土种器 土种器	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0) (27.0)	5.0 4.5 4.4	2.1	23 33 19 670 45 241	40% 40% 20% 40% <10%	外・6℃ ヘラケズリ 外-6℃ ヘラケズリ 外・6℃ ヘラケズリ 外・6℃ ハラケズリ 外・14) ハケメ 外・14) ハケメ 外・14) ハケメ	暗視色: 7.5Y R 3/3 赤褐色: 5 Y R 4/6 松色: 5 Y R 6/6 暗赤褐色: 5 Y R 3/2 にない赤褐色: 2.5Y R 4/3 赤褐色: 5 Y R 4/8		場書「□(是カ)」(乾部外面)
12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1	**	6 7 8 9 10 11 12 13	照上 (P-63他) 照上 (P-74) 照上 (P-50他) 照上 (P-69他) 既上 (P-126) カマド村 (P-50他) 照上 (P-7/83) カマド村 (P-22) カマド村 (P-22)	上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	III III III III 小型獎	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0)	5.0 4.5 4.4	2.1	23 33 19 670 45	40% 40% 20% 40% <10% 10% 25%	外・総) ヘラケズリ 外~総) ヘラケズリ 外・総) ヘラケズリ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ	明拠色:7.5YR3/3 赤拠色:5YR4/6 校色:5YR6/6 時赤製色:5YR3/2 にぶい赤製色:2.5YR4/3 赤拠色:5YR4/8 にぶい赤製色:5YR4/4		思書「□(是カ)」(歌部外面)
72 74 74 74 74 74 74 74 74 74 74 74 74 74	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	6 7 8 9 10 11 12	照上 (P-63他) 照上 (P-74) 照上 (P-50他) 照上 (P-69他) 既上 (P-126) カマドは (P-50他) 限上 (P-7/83) カマドは (P-22) カマドは (P-24) カマドは (P-24)	土种器 土种器 土种器 土种器 土种器 土种器 土种器	III III III III III III III III III II	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0) (27.0)	5.0 4.5 4.4	2.1	23 33 19 670 45 241	40% 40% 20% 40% <10% 10% 25%	外・6℃ ヘラケズリ 外-6℃ ヘラケズリ 外・6℃ ヘラケズリ 外・6℃ ハラケズリ 外・14) ハケメ 外・14) ハケメ 外・14) ハケメ	暗視色: 7.5Y R 3/3 赤褐色: 5 Y R 4/6 松色: 5 Y R 6/6 暗赤褐色: 5 Y R 3/2 にない赤褐色: 2.5Y R 4/3 赤褐色: 5 Y R 4/8		以出 「□(足カ)」(は後外面)
72	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	6 7 8 9 10 11 12 13	照上 (P-63他) 照上 (P-74) 照上 (P-50他) 照上 (P-69他) 既上 (P-126) カマド村 (P-50他) 照上 (P-7/83) カマド村 (P-22) カマド村 (P-22)	上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	Ⅲ Ⅲ Ⅲ / 川 / 川 / 川 / 川 / 川 / 川 / 川 / 川 /	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0) (27.0) (24.0)	5.0 4.5 4.4	2.1 2.5 - -	23 33 19 670 45 241 410	40% 40% 20% 40% <10% 10% 25% 5 %	外・総) ヘラケズリ 外~総) ヘラケズリ 外・総) ヘラケズリ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ	明拠色:7.5YR3/3 赤拠色:5YR4/6 校色:5YR6/6 時赤製色:5YR3/2 にぶい赤製色:2.5YR4/3 赤拠色:5YR4/8 にぶい赤製色:5YR4/4		場計「□(是カ)」(終部外面)
** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	6 7 8 9 10 11 12 13 14	照上 (P-63他) 照上 (P-74) 照上 (P-50他) 照上 (P-69他) 既上 (P-126) カマドは (P-50他) 限上 (P-7/83) カマドは (P-22) カマドは (P-24) カマドは (P-24)	上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	III III III III III III III III III II	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0) (27.0) (24.0) (26.4)	5.0 4.5 4.4 (4.8) ————————————————————————————————————	2.1 2.1 2.5 — —	23 33 19 670 45 241 410	40% 40% 20% 40% <10% 10% 25% 5 % 5 %	外・総) ヘラケズリ 外・総) ヘラケズリ 外・総) ヘラケズリ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ	明拠色:7.5YR3/3 赤拠色:5YR4/6 校色:5YR6/6 時赤製色:5YR3/2 にぶい赤製色:2.5YR4/3 赤拠色:5YR4/8 にぶい赤製色:5YR4/4 製色:7.5YR4/6		場計「□(込か)」(終滞外面)
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	限主 (P-63他) 限主 (P-74) 限主 (P-50他) 限主 (P-60他) 関土 (P-126) カマド内 (P-50他) 取土 (P-7/83) カマド内 (P-22) カマド内 (P-24) カマド内 (P-24) カマド内 (P-26) 他 カマド内 (P-27)	上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	(11.7) 11.8 (12.4) (12.0) 18.3 (18.0) (27.0) (24.0) (26.4) (30.0)	5.0 4.5 4.4 (4.8) ————————————————————————————————————	2.1 2.5 - - - -	23 33 19 670 45 241 410 40 68	40% 40% 20% 40% <10% 10% 25% 5 % 10%	外・総) ヘラケズリ 外・総) ヘラケズリ 外・総) ヘラケズリ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ 外・(4) ハケメ	明拠色:7.5YR3/3 赤拠色:5YR4/6 配色:5YR6/6 町赤製色:5YR3/2 にぶい赤製色:2.5YR4/3 赤拠色:5YR4/8 にぶい赤製色:5YR4/4 製色:7.5YR4/6 赤製色:5YR4/6		思書「□(込カ)」(底部外面)

第7表 土器類観察表(5)

							弗	/ 衣 			規観祭衣(5)			
排図 番号	遺構名	No.	AS ESTATE	网 网	器桶	LHE (cm)	底径 (cm)	කිසි (cn)	紙さ (g)	残存率	技法・形態の特徴	<u>е</u> "	胎止	爺 考
335613j	3457(1)	1	カマド内 (P-45) 他	上師器	坏	(12.7)	5.9	3.3	65	70%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		灯明皿 (僅かに芯痕煤付着)
"	. "	2	カマド内 (P-47) 他	北師器	坏	(13.8)	6.7	4.9	83	70%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい料色: 7.5Y R 5/3		15時に被目症
"	"	3	カマド内 (P-4)	土師器	坏	-	6.4	-	33	30%	外) ナデ、底) 糸切り	稅伍: 5 YR 6∕6		底原に板目取
	*	4	製土 (P-27)	<b>北師器</b>	DIL .	12.2	5.1	2.7	93	100%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
"		5	カマド内 (P-38)	北柳器	IIII ?	7.6	5.2	0.9	37	80%	外) ナデ、底) 糸切り	紀位:5YR6/6		見込みに2つの小孔
*		6	関土 (P-42)	北師器	坏系鉢	22.5	11.0	7.1	544	100%	外) ロクロナデ、底) 糸切り	にぶい判色:7.5YR5/4		底~体部に二次被熱
		7	関∃: (P-42)	土師器	<b>坏采鉢</b>	(23.6)	11.4	8.0	405	60%	外) ロクロナデ、底) 糸切り	明赤岗色:5YR5/6		底面に板目痕
*	"	8	関土 (P−43)	法師器	羽笼	(28.0)			82	<10%	外・内) ハケメ	赤褐色:5YR4/6		
~	*	9	カマド内 (P-26他)	北師器	羽签	(24.0)			430	30%	外・内) ハケメ	稅位:5YR6∕8		
"	*	10	カマド内 (P-39他)	上師器	刺签	(00.0)			633	20%	内) ハケメ	明赤褐色:5YR5/6		
*		12	カマド内 (P-12) 他 カマド内 (P-60)	北師器	選カマド	(28.0)	_		420 225	10%	外・内) ハケメ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6 黒褐色: 5 Y R 2 / 2		
3157t≥l	3547ft:	1	ガマドリ (ドー60) 短上 (Pー14他)	北師器	」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「	(14.4)	6.5	4.0	99	< 5 % 40%	外・四) ハケメ 外) ナデ、底) 糸切り	知色: 7.5Y R 4/6		
**************************************	33·71E	2	製土 (P-3他)	上師器	坏	12.1	5.8	3.8	122	80%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤树色: 5 Y R 5 / 6		医前に板目板
,	,	3	ML: (P-63)	上師器	耳:	(12.0)	5.6	4.0	41	30%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい知色: 7.5Y R 5/4		O A A A A A A A A A A A A A A A A A A A
~	,,	4	製土 (P-15他)	北師器	<b>ы</b> :	15.0	5.8	4.1	102	75%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色;5YR5/6		
~	,,	5	<b>拟</b> 主. (P-56)	上師器	坏	(11.2)	6.4	3.8	38	45%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~		6	カマド内 (P-9) 他	上師器	m	(11.6)	4.8	3.1	64	50%	外) ナデ、底) 糸切り	赤褐色: 2.5 Y R 4 / 6		
*	"	7	カマド内 (P-17)	上的器	羽签	(22.2)	_	-	190	<10%	内) ヘラナデ	拟色: 7.5Y R 4 ∕ 3		
~	"	8	カマド内 (P-2) 他	上的器	雙	(27.0)	_		105	<10%	外・内) ハケメ	□		
	. "	9	カマド内 (P-6) 他	北師器	授	(28.4)		_	810	30%	外) ハケメ、内) ヘラナデ	明赤褐色:5YR5/6		
	~	10	カマド内 (P-13) 他	上師器	焽	(41.2)	_		110	<10%	外・内) ハケメ	暗赤褐色;7.5 Y R 3 / 2		
"	365}(1:	1	<b>阅</b> 土 (P−34)	北師器	坏	14.0	5.7	3.9	175	90%	外)ナデ、底)糸切り	明判色: 7.5YR 5/6		灯明間 (芯痕に煤付着)
~	- "	2	製土: (P-38他)	上創器	坏	14.6	6.0	4.3	162	90%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色;10YR 5/4		
*		3	划:	上師器	坏		7.2		48	50%	外)ナデ、底)糸切り	N位:7.5YR4/6		
~	"	4	カマド内 (P-5) 他	北師器	m	10.7	5.0	2.7	78	70%	外)ナデ、成)糸切り	和色: 7.5Y R 6 / 6		
"	37号住	1	カマド内 (P-31他)	北師器	坏	_	5.5		66	30%	外)ナデ、底)糸切り	税值:7.5Y R 6 / 6		
-"	- "	2	双土: (P-60)	北師器	坏			-	56	20%	战 糸切り	刊色: 7.5YR4/6		
-"		3	カマド内 (P-24他)	上師器	Щ	11.2	5.5	2.4	78	70%	外) ナデ、成) 糸切り 外) ナデ、(下半欠)	にぶい紀色: 7.5Y R 6/4		
	*	4	カマド内 (P-25)	北海器		(15.6)	- 00		33	20% < 5 %		にぶい位色: 7.5Y R 6/4		<del></del>
	-,	6	カマド内 (P-34) 製土 (P-28)	上師器	小型要 要	(28.2)	8.6	<u> </u>	120	<10%	外)ハケメ、内)テデ	庆祝色: 7.5 Y R 4 / 2 庆祝色: 7.5 Y R 4 / 2		
3158M	385313:	1	カマド14 (P-9) 他	上師器	坏	13.7	5.1	3.8	77	60%	外・底) ヘラケズリ	税色: 5 Y R 6 / 6		
W.000E4	30-71E	2	发生 (P-170他)	上師器	坏	14.7	6.7	5.1	190	95%	外)ナデ、底)糸切り	利位:7.5YR4/4		底面に板目痕、二次被熱
"	,,	3	W上: (P-375他)	上師器	坏	(12.9)	5.3	3.8	68	50%	外)ナデ、底)糸切り	明/和色:5YR5/6		24.574.254
"	,,	4	製:1: (P−30仙)	上師器	坏	(13.8)	(6.0)	(3.5)	33	25%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい赤褐色; 5 Y R 4 / 4		底面に板目痕
	,	5	版:1: (P-193)	上師器	坏	-	(5.2)	_	27	30%	外) ナデ、底) 糸切り	判值:7.5YR4/6		
~	~	6	双:): (P-138)	上師器	坏	-	(4.8)	_	23	15%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/6		
~	"	7	斑士: (P-224)	::師器	坏	-	(6.0)	-	20	20%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
"	"	8	划士: (P-431)	北師器	па	(11.8)	4.1	2.1	50	40%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色; 5 YR 5/6		<b>康斯尼极目线</b>
	*	9	双:1:	上師器	坏	(9.6)	-	_	3	<5%	外) ナデ、(下半欠)	赤褐色:5YR4/6		場部「□ (八カ)」(体部外面一正)
	,	10	関上 (P-348他)	上師器	坏系鉢	(23.2)	_	-	18	5 %	底) ヘラケズリ	外) 製色: 7.5Y R 4/4 内) 黒色: 7.5Y R 1.7/1		片口、「从色土器」
		11	覆土: (P−427)	須恵器	坏		(6.0)		32	20%	成) 糸切り後ナデか	灰色: 5 Y 5 / 1		大岸あり
,	,	12	82.1; (P-46)	<b>須包器</b>	·養G	-	-	_	6	< 5 %	外・川) ロクロミズビキ	灰色:5Y4/1		
	,	13	设:): (P-242)	灰釉陶器	m	(8.2)	_		6	< 5 %	釉ツケガケ	灰黄色;2.5Y 7/2		
,,			カマド内 (P-5)	灰釉陶器	艇	-	(9.6)	_	97	<10%	付け高台	灰色:5 Y 5 / 1		
~	-,	$\overline{}$	双士: (12-377)	経動陶器	<b>M</b> ienn	14.7	7.2	3.1	152	95%	高台内に三叉トチン棋	<b>妖オリーブ色:7.5Y 5 ∕ 3</b>		Cは家部の一部にタール付着
.,	-,	16	カマド内 (P-3)	上師器	焽	_	9.2	_	173	<5%	外) ハケメ、内) ナデ、	以位:7.5YR2/1		
						toc =	5.2				底) 木葉旗			
	-	17	関土: (P-45)	上師器	規	(29.8)			123	_	外・内) ハケメ	暗赤製色:7.5YR3/2		
~	*	18	W:L: (P−398)	上師器	授	(32.6)		37	69	< 5%	外) ナデ、内) ハケメ	暗赤褐色:7.5Y R 3 / 2		耳皿状に歪みをもつ、体部内外面
"	39号住	1	阅止: (P-416)	土角器	坏	12.4~ 13.7	4.8	3.7~ 4.2	100	95%	外一般)ヘラケズリ	明赤褐色:5 Y R 5 / 6	[	ロール付着 にタール付着
~	~	2	製土: (P−145他)	北師器	坏	(13.3)	4.6	4.2	71	65%	外~6%) ヘラケズリ	明赤褐色: 2.5Y R 5/6		
	*	3	程士: (P-417)	上師器	坏	(14.0)	5.0	4.4	50	40%	外一眩)ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5YR5/4		
٠	*	4	设士: (P-327)	上師器	坏	(14.0)	(4.1)	4.1	33	25%	外) ヘラケズリ	赤褐色:2.5 Y R 4 / 6		
*	,	5	段士: (P-435他)	土師器	坏	14.8	6.2	4.5	149	95%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		底部円柱づくり、胎土に初度
*	*	6	関上 (P−278)	上師器	BIL .	(12.6)	(3.2)	2.5	19	25%	外~底) ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5YR5/3		
	*	7	製土 (P-181)	須地器	坏	(15.1)	_	_	5	< 5 %		灰黄色: 2.5 Y 6 / 2		火襷あり
~	*	8	拟土 (P−124他)	庆釉陶器	斑	(10.5)			39	_	外・内) ロクロミズビキ	戻オリーブ色;5 Y 6 ∕ 2		
*	*	9	製土 (P-276)	北師器	小型键	(15.8)			21	< 5 %	外・内) ハケメ	暗赤褐色;5 Y R 3 ∕ 3		
"	-	10	関土 (P-412他)	土師器	搜系針	(33.6)			167		外・内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
3159[XI	,	11	製土 (P-388他)	上師器	授	(27.0)			95	< 5 %	外・内) ハケメ 外・内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4 黒褐色: 5 Y R 3 / 1		
"	"	12	Aカマド内(Pー6他)	上的器	規	(36.0)			215	<10%	外・MJ ハケメ 外)ナデ、M) ハケメ、			
~	~	13	製土: (P−418)	上師器	授		(8.6)		82	<10%	が) がず、[4] ハゲメ、 底) 木葉痕	<b>灰褐色:5YR4/2</b>		
"	"	14	程:1: (P-245)	おかい 高利力	變	-	(8.4)	_	63	<10%	外・内) ハケメ、底) 木築良	赤褐色:5YR4/6		
	405計	1	製土 (P−112)	土師器	坏	10.9	6.4	3.9	99	80%	底) ヘラケズリ、兄込) 暗文			場所「三」
~	*	2	製土 (P−19)	北師器	坏	10.4	5.8	4.4	109	100%	底) ヘラケズリ、見込) 暗文			場門「大」(底部外面)
~	*	3	関土 (P−111)	北角器	坏	11.4	6.7	4.5	133	95%	底) ヘラケズリ、見込) 暗文			場得「有」(底部外面)、漆?付着
			預士: (P-89他)	上炉器	坏	(11.0)	(4.8)	4.1	45	45%				場書「行 (カ)」(体部外面一正)
*	*	4				<del></del>								1
	*	5	援土: (P−12) 援土: (P−45他)	北師器	诉 遊A	(12.2) 12.0		3.0	78	25% 85%	内) 暗文 外・内) ロクロミズビキ	明赤関色: 5 Y R 5 / 6 灰色: 5 Y 4 / 1		

口径・底径の( )内数値は反転による推定地、残存率の<5%は5%未満

第8表 土器類観察表(6)

							弗	8 表	=		<b>賏觀祭表(6)</b>			
柳刻	遺構名	No.	11\t1\t27	F4 94	高 利	口径 (cm)	lišíř (cm)	25/45 ()	ilità (a)	残化半	技法・形態の特徴	色 瀬	N/a t:	館 考
番号 Weakst		7		須思器	ь	(15.5)	(cm)	(cm)	(g) 48	30%	外・ 4  ロクロミズビキ			
3759tA	405}{]:	8	製土: (P-92他) 製土: (P-37他)	領地器	diG	(10.5)	<del>-</del>		118	40%	外・内) ロクロミズビキ	黄灰色:2.5Y 5/1		
3160131	425 HE	1	カマド内 (P-2) 他	上師器	坏	(14.6)	5.2	4.1	58	35%	外・底) ヘラケズリ	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		見込みにタール付着
"	~	2	程計: (P-85)	上師器	坏	(14.1)	5.7	4.1	100	60%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 2.5YR 5/6		
	,	3	カマド内 (P-13) 他	上師器	坏	12.9	6.0	3.2	87	70%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色: 5 Y R 5 / 4		底面に板目框
	-	4	製土 (P−75他)	1:師器	坏	14.6	7.0	4.2	122	70%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい黄拠色: 10YR 5/4		見込みにタール付着
_	-,	5	カマド内 (P-6) 他	上海器	坏	16.9	7.1	5.8	280	90%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色: 2.5Y R 5/6		底面に板目痕
		6	NJ: (P-76)	上師器	坏	12.4	6.0	3.6	110	95%	外)ナデ、底)糸切り	判位:7.5YR4/3		底面に板目痕
-		7	カマド内 (P-1) 他	1:師器	坏	12.2	5.0	4.0	109	80%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色: 2.5 Y R 4 / 4		DSMic Hill 188
		8	税比 (P-1)	北師器	环		6.5		48	30%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい判色: 7.5 Y R 5/3		<b>透前に検打損</b>
		9	版上 (P-33仙)	北師器	坏	_	5.7		43	35%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色: 5 YR 5/6		底面に板目痕
		10	別上 (P-82仙)	上師器	SIL .	11.9	4.4	2.1	86	80%	外) ナデ、底) 糸切り	赤褐色: 2.5Y R 4 ∕ 6		DSHITE HELDTE
,,	*	11	程上 (P−93他)	上師器	RIL .	(11.4)	4.9	2.6	73	60%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/8		成面に板目盤
,,		12	划士: (P-26他)	上師器	UII.	(11.0)	(5.3)	1.9	40	45%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい利色: 7.5Y R 5 / 4		
	*	13	製土 (P−81)	上師器	m	_	5.0		54	35%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 2.5 Y R 5 / 6		透前に板目低
		14	₩上 (P-84位)	Lefa	小型獎	(14.5)	7.0	13.1	428	55%	外・内) ハケメ、眩) 木葉瓜	<b>暗构色:7.5YR3/4</b>		体部外面に煤付着顕著
,,		15	製土 (P−7)	上師器	小型變	(22.4)			78	20%	外) ハケメ、内) ナデ	暗褐色: 7.5Y R 3/3		
-										_	外) ヘラ?、内) ハケメ、			
"	*	16	カマド内 (P-20)	上師器	授	_	8.1	1	120	20%	底) 木柴瓜	判色:7.5YR4/3		
"	*	17	カマド内 (P-22) 他	北師器	焽	(28.8)	_	-	368	15%	外・内) ハケメ	判位:7.5YR4/3		
"	435}(E	1	製土: (P-33他)	上師器	坏		(5.6)		29	25%	外)ヘラケズリ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		見込みに刻書 (?)
"		2	製土: (P−6)	灰釉陶器	椀		6.2		38	20%	成) 糸切り後、付け高台	浅黄色: 2.5 Y 7/3		
~	"	3	₩.i: (P-30)	灰釉陶器	斑	_	(6.6)	-	42	<10%	付け高台 (刺落)	灰色:5Y6/1		
"	~	4	製土: (P−1)	上師器	翅		9.8	-	160	<10%	外・内) ナデ	暗褐色:10YR3/3		<u> </u>
						Ī					外~6℃) ヘラケズリ、	外) 赤褐色:5 YR4/6		Legation ( the land a sec
গ্ল্য61খ্ৰি	4453fE	1	<b>昭</b> 士: (P-245)	上師器	坏	(14.5)	5.7	5.0	83	50%	見込) 暗文	内) にぶい黄製色: 10Y R 4 /3	}	大明川 (芯段に煤付着)
	,	2	カマド内 (P-30) 他	上師器	坏	12.4	5.0	4.0	83	90%	外~底)ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5YR4/4		底部円柱づくり
		3	カマド内 (P-21) 他	上師器	14	14.2	5.6	4.5	70	50%	外~65) ヘラケズリ	判位:7.5YR4/6		
-,-	-,-	4	別士: (P-307)	上師器	坏	(14.7)	5.7	4.5	103	80%	外一成)ヘラケズリ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
-,-		5	Wii: (P-308)	上師器	坏	12.2	5.2	4.5	135	100%	外・底)ヘラケズリ	₩Œ:5YR6/6		底部円柱づくり
,,	-	6	程:1: (P-241)	上師器	坏	15.4	6.6	4.4	111	98%	外一郎) ヘラケズリ	灰拠色: 7.5Y R 4/2		底部門柱づくり
-		7	程上 (P-147他)	上師器	坏	12.3	-	3.7	82	70%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 8		ESSETTIL 2 CO
	-	_	カマド内 (P-1)	北師器	坏	13.7	5.6 6.3	4.0	145	100%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		底部円柱づくり、底面に板田底
-		9	ガマドス (P-1) 程上: (P-282他)	上師器	坏		-				外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		底前に板目接
					坏	(13.1)	4.9	4.2	65	40%				底部円柱づくり、底面に板目痕
	,,	10	カマド内 (P-3) カマド内 (P-2)	上師器	坏	13.7	5.9	3.2	162	100%	外)ナデ、底)糸切り 外)ナデ、底)糸切り	税色: 7.5 Y R 6 ∕ 6 明拠色: 7.5 Y R 5 ∕ 6		BSGPTHE 2 C 9 . BSMIC-TX EE SE
-"		_		北師器	III.	_	4.7		108		外)ナデ、脳)糸切り	税位: 7.5Y R 6 / 6		<b>欧斯仁板 </b>
,		12	製土 (P-328他) 製土 (P-51他)	上海器	坏	(12.7)	6.2	3.9	29	55% 30%	外)ナデ、底)糸切り	思題: 7.57 R 3/1		BZHIN-DZ LEGS
			製土 (P-223)		坏			3.8	68	35%		赤褐色: 5 Y R 4 / 6		
		14	MI (F-223)	上師器	7	(12.2)	4.3	3.2	- 00	3376	外)ナデ、底)糸切り	外) 明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
~	. "	15	覆± (P−214他)	上師器	坏	(14.7)	6.4	5.1	138	60%	外) ナデ、殴) 糸切り	内) 黒色: 7.5Y R1.7/1		「黒色土器」
	,	16	划上 (P-310他)	上師器	坏	_	5.2		73	60%	外~6℃ ヘラケズリ	外) 紀色:7.5YR6/6		「黒色土器」
		10	MEL (1 STORE)	1.19900					/3	0070	77-457 17727	内) 黒色: 7.5Y R1.7/1		11 M.C. 1.60)
	~	17	NU.1: (P−110)	上師器	坏		5.3		39	30%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/6		
~	~	18	カマド内 (P-8他)	上師器	坏		6.3		87	40%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
*	*	19	関土 (P−228他)	北師器	IIIL	12.8	5.4	2.8	93	75%	外)ナデ、底)糸切り	判色: 7.5Y R 4/3		
		20	程上 (P-200他)	上師器	All	13.4	5.9	2.5	70	90%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色: 5 YR 4/6		
	~	21	カマド内 (P-35)	上師器	00	(11.3)	(5.8)	2.5	49	40%	外) ナデ、底) 糸りり	明赤褐色:2.5YR5/8		
	*	22	製土 (P-30他)	北師器	DIL.	12.0	5.0	2.7	75	80%		明赤褐色:5YR5/6		
"	*	23	观f: (P-47)	北師器	III	(12.0)	(5.8)	2.5	37	30%		無利色: 7.5Y R 3 ∕ 1		底面に板目痕
"	~	24	观:l: (P-80)	上師器	坏	(14.6)			7	< 5 %		明赤褐色:5YR5/6		場書「□ (禾カ)」(体部外面一逆)
~		25	<b>阅:</b> 比 (P-270)	北師器	坏		5.2		2		外) ヘラケズリ	赤拠色:5YR4/6		県書「□ (禾カ)」(体部外面ー逆)
	"	26	製土 ————————————————————————————————————	上師器	坏		_	_	2	< 3 %	外) ナデ	₩低:5YR6/6		場書「□」(体部外前一個)
	*	27	閥上: (P−158)	土師器	坏?				3	< 3 %	底) 糸切り後ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5 Y R 5 / 4		場所「□」(政部外面)
*	. "	28	程上(P-38)	北師器	高足高台付坏	-			32	30%	外) ナデ	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
"	~	29	復士: (P-25)	上師器	高足高台付坏	_	=		53	20%	外) ナデ	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
~	*	30	閱:1: (P−23)	上師器	高足高台小坏	_	_		40	20%	外) ナデ	にぶい黄褐色;10YR 5 / 4		
		31	カマド内 (P-10他)	上師器	高足高台付坏			=	35	20%	脚接合部外面へラ調整	紀位:7.5Y R 6/6		二次被熱
ऋ62 श	~	32	程上 (P−309)	灰釉陶器	椀		8.8	-	158	25%	付け高台	灰黄色: 2.5Y 6/2		転用砚?
	"	33	F91: (P-242)	灰釉陶器	瓶		9.2		618	30%	外下) ヘラケズリ、付け高台	黄灰色: 2.5 Y 6 / 1		鍋に転用か
~		34	関士: (P-295)	灰釉陶器	斑	1	8.6		102	15%	外下) ヘラケズリ、付け高台	黄灰色: 2.5Y 6 / 1		
"	"	35	閥士 (P−234)	北師器	利签	(24.8)	=I		231	<10%	外・内) ハケメ	にぶい製色:7.5YR 5/4		
-	*	36	カ7ド1内 (P-29) 他	上師器	授	(27.0)			188	<10%	外・内) ハケメ	暗赤褐色:5YR3/2		
~	~	37	<b>划上 (P-36)</b>	上師器	搜	(32.1)	_	Œ	61	< 5 %	外・内) ハケメ	暗褐色: 7.5Y R 3 / 4		
~	"	38	カマド内 (Pー4他)	上師器	提	(29.3)			360	20%	外・内) ハケメ	暗赤褐色: 5 YR 3/2		
~	455分注	1	復生: (P-415他)	上師器	坏	12.3	4.7	3.4	51	60%	外・底) ヘラケズリ	紀位:7.5 Y R 7/6		
,,		2	能: (P-419)	上師器	坏	(12.4)	(4.6)	3.7	25	25%	外・底) ヘラケズリ	稅位:5YR6∕6		
"	"	3	程上: (P-239他)	上師器	坏	(13.6)	(4.4)	3.5	58	30%	外・底)ヘラケズリ	稅位:2.5Y R 6 ∕ 8		
-	*	4	カマド内 (P-11)	上師器	坏	(14.2)	_	-	30	25%	外) ナデ	無料色:5 Y R 3 ∕ 1		
	~	5	凝止 (P-423他)	上師器	坏	-	(4.0)	-	27	30%	外・取)ヘラケズリ	明赤褐色; 2.5Y R 5 / 6		
!	+	6	程止 (P-182他)	上師器	4:		(5.4)		30	20%	外・底) ヘラケズリ	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		
	*	١٧							-					
-	*	7	₩.l: (P−130他)	上師器	ы;	-	4.0	-	50	35%	外一郎) ヘラケズリ	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		

### 第9表 土器類観察表(7)

							弗	9 表		上都	類観察表(7)			
相対 番号	迎樽名	No.	B 1:0283	FO 501	23 M	l life	nzir.	84	ff č	残存率	技法・形態の特徴	四, 20	胎 1:	備考
3562t4	45 <sup>1</sup> 31E	9	程1: (P-383他)	上師器	坏	(c#i)	(cm) 4.9	(cm)	(g) 31	40%	外・底) ヘラケズリ	明赤褐色; 5 Y R 5 / 6		
770214	, and a	10	カマド内 (P-15)	上師器	01	12.6	4.5	2.6	101	98%	外・眩) ヘラケズリ	にぶい赤褐色:5 Y R 4 / 4		
~		11	カマド内 (P-422)	比解器	en.	12.6	4.8	2.1	56	70%	外・眩) ヘラケズリ	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		
-	~	12	<b>程</b> i: (P-139他)	比師器	m.	(13.4)	-	_	24	25%	成) ヘラケズリ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6	1	
		13	照 i; (P-64)	上師器	坏	(12.7)	-	_	24	10%	外) ヘラケズリ	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 8		   場合「前」(体部外前一例)
"	~	14	カマド内 (P-69)	比种器	坏	(12.2)	-1	_	15	<10%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 8	I	場書「□」(体部外面一道)
		15	カマドIA (P-2) 他	上师器	坏	(15.7)	-	_	10	5%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色: 2.5 Y R 5 / 8	-	場等「□ (行力)」(体部外面一逆)
~	"	16	KU I; (P−408)	上師器	小型援	(19.6)	-1	_	41		外) ナデ、内) ハケメ	暗赤褐色;5 Y R 3 ∕ 4		THE TO THE PERSON ALT
-	~	17	双十. (P-206)	上師器	搅	(27.0)	-	_	71		外・内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
,		18	N. I: (P-431他)	I AEIRI							外) ナデ?、14) ハケメ、		-	
		18	N( I: (P = 43118)	上師器	授	_	8.4		178	10%	底) 木葉展	!!!NAO: 7.5 Y R 3 ∕ 1		
<b>স্ট63া</b> শ	465州:	1	カマド内 (P-4) 他	上的器	坏	(12.4)	7.0	3.8	133	55%	外)ナデ、比)糸切り	稅伍:7.5YR6/6		
"	~	2	カマド内 (P-1) 他	上師器	an.	8.8	4.4	2.6	71	75%	外)ナデ、底)糸切り	税值:7.5YR6/6		
*	47号住	1	カマド内 (P-5) 他	上師器	坏	12.6	6.5	3.4	108	90%	外) ナデ、底) 糸切り	明製色: 7.5YR5/6		底部円柱づくり、底面に板目痕
~	~	2	カマド内 (P-27)	1:師器	坏	11.6	6.2	3.6	101	95%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		6%前に根廷日孫
~		3	NUI: (P-46他)	化伸带	坏	(15.0)	6.4	4.0	111	55%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10 Y R 5 / 4		底部円柱づくり、底面に板目痕
- "		4	<b>利</b> : (P-21)	上師器	坏 .	(13.8)	(5.6)	3.6	45	25%	外)ナデ、底)糸切り	稅位:7.5Y R 6 ∕ 8		
"	"	5	<b>利</b> 士(P-52)	上師器	ш	12.0	6.0	2.8	112	100%	外) ナデ、底) 糸切り	明製色: 7.5 Y R 5 ∕ 6		終部円柱づくり
		6	双 I: (P-66他)	上師器	M	12.0	5.8	2.6	124	80%	外)ナデ、底)糸切り	明黄褐色:10YR6/6		底面に板目が
-	*	7	祝 J: (P-29他)	上師器	高足高台付坏	12.6	7.2	5.6	172	90%	外) ナデ	税值:7.5YR6/6		脚端打欠き
"	~	8	カマド内 (P-23)	1:師器	授	-	(8.0)	-	88	< 5 %	外)ナデ、内)ハケメ、 眩)木葉服	県間色:7.5 Y R 3 ∕ 2		9 と同一関係か
"	~	9	カマド内 (P-1)	比師器	搅	(35.4)	_	_	977	35%	外) ナデ、内) ハケメ	<b>暗褐色: 7.5Y R 3 ∕ 4</b>		
"	485}(1:	1	Bカマド内(P−1他)	上師器	坏	(9.4)	4.1	2.9	55	65%	外) ナデ、底) 糸切り	明构值:7.5YR5/6		刻書「□ (女カ)」(見込み)
~	,	2	Bカマド内(P-17他)	上伸器	羽笼	(24.0)	-1	<u>-</u> i	460	15%	外) ハケメ、内) ナデ	判值:7.5YR4/4		
-	495HE	1	<b>税</b> i: (P-161)	上師器	坏	_	-		5	< 5 %	底) ヘラケズリ、見込) 暗文	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		現4 [□] (底线数钟型)
"	"	2	KQ I:	比种器	坏か		-1	-	2	< 3 %	外) ヘラケズリ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		!現背「□」((本部外面))
গ্য641ৰ	501}(E	1	カマド内 (P-3)	1:00%	坏	(12.0)	(6.8)	3.8	32	30%	舷) ヘラケズリ、見込) 暗文	にぶい赤褐色: 5 Y R 5 / 4		場合[□] (政部外前)
"	*	2	KU t.	上師器	坏	-	5.6	-	31	20%	底) ヘラケズリ、見込) 昨文	紀位: 2.5Y R 6 / 6	-	場書 [1:] (底部外面)
~	~	3	阅  : (P-240他)	上師器	坏	-	6.6	-	30	20%	底) ヘラケズリ、見込) 哨文	明赤褐色: 2.5YR5/6	_	
"	~	4	程 i: (P-230)	上師器	坏	-	6.2	- 1	83	70%	底) ヘラケズリ、見込) 時文	明赤褐色;2.5Y R 5 / 6	-	
"	"	5	程 i: (P-263)	1:00器	坏	(11.8)	-	-	18	10%	見込) 暗文	桁值:5YR6/6		
"	~	6	₩ I: (P-239他)	犯此器	坏	11.6	6.5	4.3	127	85%	外・内) ナデ、底) 糸切り	浅黄色: 2.5 Y 7 / 3		
"	~	7	カマド内 (P-1) 他	<b>深地器</b>	坏	10.9	5.8	3.8	88	60%	外・内)ナデ、底)糸切り	浅黄色: 2.5Y 7/3		底面に板目痕
~	"	8	和: (P-254他)	STATES	坏	11.8	6.8	4.2	68	40%	外・内) ナデ、底) 糸切り	灰オリーブ色: 5 Y 5 / 2		<b>医面に板目接</b>
~	"	9	カマド内 (P-4) 他	深速器	坏	11.2	5.8	4.2	109	50%	外・内) ナデ、底) 糸切り	浅黄色: 2.5 Y 7 / 3		太月明日日(花紅食に煤(十省)
~	~	10	和 I: (P-278) 他	上的器	搅	(23.6)	10.0	-	618	35%	外・内) ハケメ、底) 木葉痕	にぶい赤褐色:5 Y R 4 / 4		
~	51号住	1	程 J: (P-31他)	1:師器	坏	(13.4)	4.7	3.4	69	60%	外) ナデ、底) 糸切り	₩ : 7.5Y R 6 / 6		b'Siffic Hall life
"	"	2	程 i: (P-1)	化砂器	坏	11.0	3.4	3.1	128	98%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい初色: 7.5 Y R 5 / 4		灯明皿、底面に板川旗
"	"	3	版 i: (P-8)	高帆:	OIL OIL	10.0	4.1	2.6	55	85%	外) ナデ、底) 糸切り	稅色:5YR6∕6		
~	525}fE	1	%( i: (P-4)	1:師器	坏	_	(7.4)	-	7	<10%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい初色:7.5Y R 5 / 4		
"	"	2	₩ i: (P – 9)	<b>(公和:1</b>	坏	-	(5.2)	-	12	<10%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい税色:7.5 Y R 6 / 4		
~	53号(注	1	カマド内(P-1)	1:0025	坏	10.7	4.9	3.4	97	60%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色;5YR4/4		
"	~	2	双1: (P-57)	1:師器	高足高台付坏	_	9.3		152	40%	外) ナデ	にぶい判色: 7.5Y R 5 / 4		
-	~	3	双1:	灰釉陶器	₩i	-	(3.4)		22	10%	釉ハケガク、付け高台	灰白色: 2.5Y 7/1		
-	~	4	KQ i: (P −58)	灰釉陶器	ŵ.	-	(14.0)	-	238	15%	付け高台	灰黄色; 2.5 Y 6 / 2		
अ:65f4	543}fE	1	双 i: (P-116) 他	比師器	坏	12.5	4.0	3.1	101	90%	外・底)ヘラケズリ	が判色:5YR4/6		
~	*	_	120 l: (P−114)	おかる	<b></b>	11.2	4.2	3.4	50	50%	外・底)ヘラケズリ	灰褐色:5 YR 4/2		
"	*	3	XI I:	1:師器	坏		(5.2)		24	20%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~		4	カマド内	1:0625	an	(12.6)	(5.6)	2.3	45		外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/6		底面に板目供
~		5	カマド内	比師器	坏	(19.9)	-	-	27	20%	外) ナデ、(下半欠)	粒位;5YR6/8	1	1
- "	*	6	双 f. (P —97他)	1.64器	高足高台付坏		-		51		外) ナデ	稅位:5YR6/8		
	*	7	カマド内	上海器	規		(7.8)		72	20%	外・内) ハケメ、底) 木栗原	庆黄褐色:10YR4/2		
- "	5513/E	1	₩ i: (P – 36)	上師器		- (10.1)	3.6		18		外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 YR 5/6		
"		2	双 f: (P-44他)	ESPEC	COIL COIL	(10.1)	3.7	2.2	32	40%	外)ナデ、底)糸切り	明初色: 7.5Y R 5 / 6	1	<u> </u> 
"	.	3	%(I: (P−45)	1:何器	an and his	10.9	4.0	2.5	63		外)ナデ、底)糸切り	明初色: 7.5Y R 5 / 6	<u> </u>	<u> </u>
- "		4	₩ I; (P-46)	上師器	高足高台付坏	(10.0)	- (c o)	-	53	_	外) ナデ	明製色: 7.5Y R 5 / 6	<u> </u> 	<u> </u> 
		5	₩ I: (P-33)	灰釉陶器 1:05.25	梯	(00.0)	(6.9)	- I	21		付け高台	庆黄色: 2.5 Y 6 / 2		
		6	税 I: (P-69) 税 I: (P-49)	上師器	搜	(29.0)			31		外・内) ハケメ 外・内) ハケメ	製色:7.5Y R 4 / 4 にぶい赤製色:5 Y R 4 / 4	<u> </u>	<u> </u>
		7		上面器	坂	(26.0)	-	- <u> </u>	33	_			<u> </u>	<u> </u> 
"     "	5653(1):	2	親 i: (P-15) 親 i: (P-20)	上師器 灰釉陶器	好皿	(10.6)	-		10		外) ナデ、(下半欠) 釉ハケガク	明赤褐色; 5 Y R 5 / 6   灰黄色; 2.5Y 7 / 2	<u>r</u>	1
		3	Ref: (P-37)	上師器	坏か	(13.0)			2	< 5 %	外)ヘラケズリ	成員世、2.51 7/2 にぶい初色: 7.5Y R 5/4		場書「□」(体部外前一逆)
		4	RI: (P-37)	上師器	ガル	(34.4)			232	10%	外) ナデ、内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		Control (E)
-	575}(E	1	双 f. (P-8他)	上師器	獎	(32.4)	_	_	250	10%	外) ナデ、内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
3366txl	585/11:	1	版 i: (P-5)	1:0423	坏	(13.6)	5.2	4.2	19	20%	外・底) ヘラケズリ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
3300E	30'313:	2	カマド内 (P-114) 他	上師器	坏	(14.0)	(6.4)	(4.6)	70		外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		trojum, osmica deli de
-	"	3	カマド内 (P-101他)	上海器	坏	(16.0)	_	-	48	45%	外) ナデ、(ド半欠)	赤褐色: 5 Y R 4 / 6	1	見込みにタール付着
-	~	4	80 i: (P -33)	上師器	坏	-	(6.0)	_	39		外)ナデ、底)糸切り	赤褐色: 5 Y R 4 / 8		
~		5	₩ I: (P-35)	1:04%	OCL	(11.4)	(5.6)	2.1	28	20%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~	*	6	程 i: (P-105)	上師器	高足高台付坏	-	(9.7)	-	38	_	外) ナデ	赤褐色: 5 Y R 4 / 6		脚内にタール付着
~		7	<b>श्चि ।</b> :	灰釉陶器	椀	(11.6)	-	_	5	10%	袖ハケガク	庆黄色: 2.5Y 6/2		
~	~	8	カマドIA (トー23)	上師器	羽笼	(15.4)	-	-	150	10%	外)ナデ、14)指頭膜	製色:7.5YR4/6		
-,-	*	9	カマド内 (P-117)	1.种器	料签	(25.2)	-	-	103		外・内) ハケメ	暗赤褐色; 5 YR 3/6		
							لــــــا		-			l lif - hkifo) (		

1 川台・6名(60) ( ) 内数(6は反転による推定地、残行率の)<5%は5%未満

## 第10表 土器類観察表(8)

			·			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ऋ	103	_		規観祭表 (δ <i>)</i>			·
利利 番号	遺構名	No.	出土体置	植物	器 種	liife (cm)	lšíž (cm)	(cn)	(( č (g)	残化率	技法・形態の特徴	6 M	Mi l:	備 考
31661×1	585}():	10	カマド内 (P-15) 他	上師器	小型燙	(16.4)	- (CIII)	- ((11)	170	10%	外・内) ハケメ、底) 木葉痕	にぶい赤褐色:5YR4/4		
,,		11	₩ I: (P-32)	1:00 23	小型獎	(15.0)			82	10%	外・内) ハケメ	暗赤褐色: 5 Y R 3 / 3		
				1.4500			()				外) ナデ、川) ハケメ、			
	~	12	カマド内 (P-7)	上師器	搅	_	(6.6)		53	<10%	底) 木葉斑	暗判色:7.5Y R 3 ∕ 3		
-	~	13	双.i: (P-8他)	北師器	規	(20.2)	_		56	<10%	外・四)ハケメ	にぶい赤褐色:5YR4/4		
*	~	14	カマド内 (Pー5他)	北師器	뷨	(24.8)	_		252	15%	外・内) ハケメ	にぶい赤褐色:5 Y R 4/4		
"	59号住	1	双1: (P-39) 他	上師器	坏	(10.0)	-		24	15%	外) ナデ、(下半欠)	にぶい赤褐色:5YR5/4		
_*	~	2	カマド内 (P-1) 他	上师器	坏系鉢	(24.4)	-		202	40%	外) ナデ、(下半欠)	明判色: 7.5Y R 5 / 6		口縁部内外に煤付着
"	_ ~	3	X(.l: (P−3)	上师器	高足高台付坏	_	6.0	-	52	20%	外) ナデ	にぶい祝色:7.5YR6/4		脚端を部分的に打欠き
*		4	双上: (P-51他)	須惠器	ži	-	-	-	36	15%	外)ヘラケズリ	灰色:10Y6/1		
	60号(主	1	₩.f. (P-98)	上師器	坏	17.5	7.0	4.7	275	100%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色; 5 Y R 5 / 6		DESTRICTED ENTRE
*		2	双:f: (P-91他)	上師器	坏	(17.7)	(6.0)	4.9	43	10%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色: 10Y R 5/4		
"	"	3	双寸: (P-56他)	上師器	坏	(18.4)	_	-	30	10%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色:5 Y R 5 ∕ 6		
-	*	4	カマド内 (P-8)	上師器	坏	_	5.2	1	53	40%	外)ナデ、底)糸切り	明判位:7.5YR5/6		底面に板目旗
"	~	5	カマド内 (P-9他)	上師器	村:		6.8	-	72	20%	外)ナデ、底)糸切り	稅伍:5YR6∕6		
~		6	双:f: (P-89)	上師器	坏	_	4.0	-	22	30%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		底型に校口様
"	~	7	X(1: (P-55)	上師器	坏	_	5.5	-	56	35%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 ∕ 6		
গ্য6714	~	8	X(1: (P-59)	1種器	EIII	10.7	3.8	2.7	68	100%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		底面に板目接
*	~	9	W.E (P-60)	七師器	im	10.7	5.0	2.7	83	99%	外) ナデ、底) 糸切り	判位:7.5YR4/3		底前に板目鉄
"	~	10	関上 (P-52)	上海器	liit	10.3	4.0	2.2	57	70%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい判価:7.5YR 5/4		修而に板目紙
*		11	说: (P-7)	灰釉陶器	椀		(8.1)	-	11	<10%	釉ツケガケ、付け高台	灰白色: 2.5Y 7/1		
~		12	程 i: (P-34)	灰釉陶器	椀			_	16	5 %		灰白色: 2.5Y 7/1		
"	~	13	阅f: (P-101他)	上師器	嫂	(20.6)	-	-	48	5 %	外・内) ハケメ	灰褐色: 7.5Y R 4 / 2		***************************************
"	"	14	カマド内 (P-25他)	北師器	墁	-	(11.0)	_	122	<10%	外・14) ハケメか	暗赤褐色: 5 Y R 3 / 2		
"	615沿生	1	程1: (P-91他)	上師器	坏	14.4	5.2	4.0	131	95%	外~底) ヘラケズリ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4/3		
	~	2	器 i: (P−112他)	北師器	坏	(13.1)	4.2	4.3	67	60%	外・底) ヘラケズリ	暗赤褐色:5YR3/3		
~	~	3	殺 l: (P-68他)	上师器	坏	(14.3)	6.6	3.8	92	70%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色; 5 Y R 5 / 6		底面に板目旗
~		4	视.l: (P−107他)	上师器	坏	13.1	5.0	3.9	62	95%	外) ナデ、底) 糸切り	暗褐色:7.5 Y R 3 / 3		外面にタール付着、内面に付着物
,,	*	5	划上: (P-37他)	上師器	坏	(13.0)	-		56	55%	外)ヘラケズリ、(下半欠)	明赤褐色:5YR5/6		
	*	6	程:i: (P-109)	上師器	坏	(13.2)	(5.2)	2.9	31	30%	外・底) ヘラケズリ	無利色: 7.5Y R 3 ∕ 1		
~		7	報: (P-112)	上师器	坏	(16.5)	(6.7)	3.8	46	30%	外・底)ヘラケズリ	配位:5YR6/6		墨書「□」(体部外面一正)
"		8	划士 (P-25)	上師器	坏	-	5.9	-	31	25%	外) ナデ、底) 糸切り	赤褐色:5YR4/6		底面に板目形
,,	*	9	FQ:1: (P-110)	北師器	坏	-	5.4	-	31	25%	外)ナデ、底)糸切り	赤袍色:5 YI ₹ 4 / 6		
		10	図:1: (P −75他)	上師器	坏				07	200/	外・底) ヘラケズリ、	外) 明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		「黒色土器」
		10		1.8966	4	_	5.7		27	30%	内) 暗文	内) 黑色; 5 Y R 1.7/1		TANELCA)
	~	11	版: (P-83他)	上師器	811	12.8	5.9	2.0	78	90%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/8		OSINICHELLUL
	*	12	和上 (P-108)	上師器	OII .	12.3	4.3	2.7	86	100%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/8		咳而に板口痕
*	*	13	XL1: (P-82)	上師器	DIL	12.6	5.8	2.9	115	100%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色;5 Y R 5 / 6		
*	~	14	製土 (P−53他)	灰釉陶器	斑	-	9.0		202	15%	糸きり後、付け高台	黄灰色: 2.5Y 6/1		
*	_ ^	15	カマド内 (P-18他)	上師器	授	(29.0)	-		297	20%	外・内) ハケメ	にぶい赤褐色:5YR4/4		
~		16	関1: (P-88)	<b>治師器</b>	授	(31.0)		-	97	<5%	外・内) ハケメ	暗褐色:7.5Y R 3 ∕ 4		
*	~	17	製土: (P-15他)	出籍器	焽	(27.4)	-	-	832	40%	外・川) ハケメ	暗褐色: 7.5Y R 3 ∕ 3		
	~	18	カマド内 (P-27)	上师器	授	(32.4)	_		68	5%	外・内) ナデ	<b>刈色:7.5Y R 4 / 4</b>		
গ্ন্য68াশ্ৰ	625/fE	1	製土: (P−17)	比師器	COL	12.3	5.6	2.1	96	100%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		底面に板目痕
"	~	2	视上: (P-45)	上師器	III	11.8	4.6	2.6	97	100%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/6		底部川柱づくり
*	~	3	阅止 (P-14)	出師器	EEL .	11.0	5.0	2.6	68	60%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/6		底面に板目痕
~	*	4	和: (P-69)	上師器	811	10.8	4.3	2.6	55	55%	外) ナデ、底) 糸切り	判位:7.5YR4/6		
"	•	5	程士: (P-18)	上師器	m	12.1	4.7	2.4	94	100%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/6		底部円柱づくり
"	**	6	划士 (P-10他)	上師器	(III	11.0	5.0	2.5	63	55%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色: 5 Y R 4 / 6		
,	*	7	援上 (P−16)	衛帯	m	11.3	4.6	2.2	73	60%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色;5 Y R 5/6		底面に板目痕
~	*	8	双上: (P-42他)	北師器	坏采鉢	19.8	(10.4)	7.1	473	90%	外)ナデ、底)糸切後高台	にぶい製色:7.5YR5/4		
"	*	9	カマド内 (Pー5) 他	上師器	提	(31.6)		-	484	25%	外・内) ナデ	赤褐色:5YR4/6		
"	635H±	1	₩.i: (P-146)	上師器	坏	13.5	6.0	3.7	118	80%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい褐色:7.5YR5/4		
"	*	2	划上: (P-82位)	1:師器	坏	14.3	5.4	4.1	135	80%	外)ナデ、底)糸切り	₩2位:7.5YR6/6		底面に板目紙
	~	3	覆1: (P−139)	上師器	坏	11.3	4.1	3.1	95	100%	外) ナデ、底) 糸切り	橙色:7.5Y R 6 ∕ 6		灯明皿 (芯銀に煤付着)
~	*	4	程上 (P-155)	上師器	m	(11.0)	4.5	2.6	62	55%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい例色:7.5YR5/4		底面に板目痕
	*	5	₩.f. (P-110)	上師器	1011	11.8	4.6	2.9	78	80%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい判色:7.5YR5/4		底面に板目痕
"	*	6	双上: (P-68)	i.饰器	fill	(13.0)	5.5	3.3	80	50%	外) ナデ、底) 糸切り	明判位:7.5YR5/6		底面に板目痕
~	~	7	双上 (P-179)	上師器	IRI	(11.4)	5.5	2.2	77	60%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~	*	8	说:t: (P-138)	上師器	ш	11.0	4.0	2.6	84	100%	外) ナデ、底) 糸切り	和位:5YR6/6		
"	*	9	双.f; (P-53)	上師器	高足高台付坏	9.5	5.8	4.8	108	95%	外) ナデ	明赤褐色:5YR5/6		
~		10	双月; (P-119)	灰釉陶器	輪把棚	(15.2)	6.6	6.5	163	50%	付け高台	灰白色: 2.5Y 7 / 1		
~	_ ~	11	FUL: (P-159)	灰釉陶器	Bi	_	8.2	-	101	30%	釉ツケガケ、付け高台	灰白色: 2.5Y 7 / 1		
~	~	12	関Ⅰ: (P-178他)	上師器	羽签	(28.0)	-	-	230	10%	外・四 ハケメ	赤褐色: 5 YR 4/6		
	*	13	双上: (P-18他)	上師器	费	(27.6)	-	-	280	10%	外・内) ハケメ			
-	*	14	₩.i. (P-154)	上師器	授	(29.4)	-	-	340	10%	外・四 ハケメ			
*		15	阳 i: (P —70他)	上師器	投采鉢	(27.8)	_		508		外・内) ハケメ	判位:7.5YR4/6		
-	~						(9.5)	-	224	10%	外・内) ハケメ、眩) 木葉痕			-
	*	16	カマド内 (P-8他)	上師器	搜系鉢	-	(0.07)							
		_	カマド内 (P-8他) カマド内 (P-36) 他	上師器	搜系針 坏	(13.4)	5.8	3.6	43	30%	外~底)ヘラケズリ	明赤褐色:5YR5/6		
	*	16				(13.4)	-	3.6 4.4	43 130		外~底)ヘラケズリ 外)ナデ、底)糸切り	明赤糾色: 5 Y R 5 / 6 橙色: 7.5 Y R 6 / 6		底面に板目挺
	7 6457 (E	16	カマド内 (P-36) 他	上師器	坏		5.8			80%				BSinit= 校日 #E
  316914 	。 64号住 。	16 1 2	カマド内 (P-36) 他 関上 (P-10他)	上師器	坏	13.1	5.8		130	80% 15%	外) ナデ、底) 糸切り	稅伍:7.5YR6/6		úšini ta Há 🗆 stá

第11表 土器類観察表(9)

							弗	11表	-	二石6	<b>與觀祭表(9)</b>			
都関係	遺構名	No.	85 E608C	稱 別	23 40	山雀	PRIS	2846	重さ	残化率	技法・形態の特徴	(C 34	lifi t:	笳 与
<sub>}}</sub> अक्राध्य	6433 (E	5	<b>双上</b> (P-75)	上海器	OII	(cm) 12.8	(cm) 5.4	(cm) 3.3	(g) 101	100%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色;5 Y R 5 / 6		大明田、底面に板目板
#1051A	04-71E	6	税上(P-97他)	上師器	011	(12.3)	4.8	2.4	31	40%	外一眩)ヘラケズリ	明赤褐色:51K5/6		Aligha Canal And Inc
,,	-,-	7	程上(P-NO無)	上師器	坏	(12.3)	(4.0)	- 2.4	11	< 5 %				場下□」(底部外面)
,	,	8	程上(P−NO無)	上師器	坏か	_	- (4.0)	_	3	< 3 %	外) ナデ	赤褐色: 5 Y R 4 / 6	<u> </u>	場(15 □ ) (体部外面)
	-	_		上師器	坏か				_					場内「□」(体部外面)
*		9	図上(P-NO無)	_		_			6	< 3 %	外) ナデ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 3		
		10	程士 (P-NO無)	上师器	坏か	-			1	< 3 %	外) ナデ	明赤枫色:5YR5/6		場書「□」((本部外面)
	*	11	双上 (P-NO無)	上海器	坏		(4.0)	_	7	< 5 %	外) ナデ	明赤褐色: 2.5 Y R 5 / 6		以4 「□」(体部外面)
*	*	12	和上(P-61)	灰釉陶器	ŵ.	(18.1)		-	73	<10%	外・内) ロクロナデ	灰白色: 5 Y 7/1		
*	*	13	カマド内 (P-23) 他	1:06%	料签	(22.0)	-	-	83	<10%	外・内) ハケメ	にぶい赤褐色;5 Y R 4 / 4		
*	~	14	カマド内 (P-1) 他	上師器	小型變	(17.5)	-	-	96	15%	外・川) ハケメ	判位:7.5 Y R 4/6		15と同・個体か
"	*	15	カマド内 (Pー3他)	上師器	小型雙	-	8.8	_	283	35%	外・内) ハケメ、底) 木葉展	判位:7.5YR4/6		
*	*	16	カマド内 (P-10) 他	上師器	搜	(30.3)	_	_	507	30%	外・内) ハケメ	においが製色:5YR5/4		
~	65号(E	1	双 1:	上師器	坏	-	4.4	_	20	30%	外・眩) ヘラケズリ	明赤褐色:5YR5/6		
*	~	2	双土 (P-94)	上師器	坏	-	(6.6)	-	20	15%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		見込みに線刻画
*	*	3	覆比 (P−13他)	上師器	坏	-	6.0	_	35	30%	外) ナデ、底) 糸切り	₹0.6 : 7.5 Y R 7 / 6		磁航に板目痕
	*	4	段上 (P-177)	1:00%	ш	9.2	4.4	2.3	67	95%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい初色: 7.5Y R 5/4		
~	"	5	<b>双土</b> (P-144)	上師器	DA	(10.0)	(5.0)	2.5	11	15%	外) ナデ、底) 糸切り	にぶい黄褐色:10YR5/4		
	,,	6	<b>双計</b> (P-51他)	1:0625	OIL OIL	-	5.6	_	40	40%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
,,	*	7	80.t.	1:00%	坏か		_		1	< 3 %	外) ナデ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		以背 [□] (体部外面)
	,,	8	82:1: (P−25)	上師器	高足高台付坏	_	_	_	60	20%	外) ナデ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
		9	関土 (P-50)	30.002)	发	_	(14.0)	_	90	< 5 %	外)タタキメ	灰色:10Y5/1		
		10	80 L	30.03	授	<del>-</del>	- 14.07		163	<5%	外) タタキメ	灰色:1013/1		<b></b> 统用规?
-,	- "	11	製上 (P-15)	1:00器	拟笼	(20.0)		<del>-</del>	87	<10%	外・内) ハケメ	赤褐色:5YR4/6		
,		12	現 (P-18他)	上師器		(21.6)		_	120		外・内) ハケメ 外・内) ハケメ	赤砂色 : 5 Y R 4 / 6   にぶい赤褐色 : 5 Y R 4 / 4	<u> </u>	1
		-			羽笼 小FORE	(21.6)	-	_						
		13	双士 (P-4他)	上師器	小型變		. 6.3		142		外・内)ナデ、底)糸切り	明构色:7.5YR5/6		l 
3770t4	*	14	程士 (P-57他)	上海器	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(22.0)			102		外・内) ハケメ	にない赤褐色:5 Y R 4 / 3		
	~	15	程士: (P−46)	t.師器	小型變	(13.7)			30	<10%	外・内) ハケメ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 4		
~	"	16	程士 (P−129)	上師器	焽	(26.0)			121	<10%	外・内) ハケメ	判位:7.5YR4/6		
*	6633(E	1	<b>製土 (P−28他)</b>	土師器	坏	(13.0)	6.0	3.9	100	70%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10YR5/4		
~	*	2	双士(P-94他)	上師器	坏	10.8	4.5	3.1	73	60%	外)ナデ、底)糸切り	明製色: 7.5Y R 5 / 6		底部円柱づくり
"	*	3	双上: (P-83)	上師器	坏	10.8	4.6	2.9	70	60%	外) ナデ、底) 糸切り	稅位:7.5YR6/6		
~	*	4	カマド内(P-37他)	上的器	坏	(16.6)	-	_	141	50%	外)ナデ、(ド半欠)	にぶい黄褐色:10 Y R 5 / 3		
*	~	5	親上 (P-53)、床直	上的器	坏	(11.2)	-	_	29	20%	外)ナデ、(下半次)	にぶい税色: 7.5Y R 6/4		
*	*	6	双 i: (P-10他)	上师器	坏	_	5.4	_	35	15%	成) 米切り	にぶい黄褐色:10Y R 5 / 3		終前に板目挺
*	*	7	覆止 (P-23)	上師器	坏	-	6.1	-	65	20%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい製色: 7.5Y R 5/3		
"	~	8	双士: (P-65)	上師器	高足高台付坏	-	5.7	_	88	70%	外) ナデ	桁位:7.5YR6/6		脚端打欠き
~	*	9	粉土 (P-3他)	上師器	高足高台付坏	_	6.2	-	52	30%	外) ナデ	明褐色: 7.5Y R 5 / 6		
		10	双击 (P-99他)	1:師器	高足高台付坏	-	-	-	130	30%	外) ナデ	₩ 6 : 7.5 Y R 6 / 6		
		11	双士: (P-88)	1:06%	高足高台付坏	_	8.4	_	109	40%	外) ナデ	にぶい初色: 7.5 Y R 5 / 4		
		12	82 E (P-85)	比師器	蓋	_	_	_	4	< 5 %	外・内) ナデ	明构色: 7.5 Y R 5 / 6		
.,	~	13	双上 (P-40他)	灰釉陶器	椀	(15.5)		_	20	15%	釉ハケガケ	灰门色: 2.5 Y 7 / 1		
-		14	カマド内 (P-17他)	f:師器	非签	_			51	10%	外) ヘラ、(4) ナデ	県製色:5YR3/1		
	~	15	糉土 (P−6他)	上師器	<b>搜系鉢</b>	(41.8)	<u> </u>	_	1760	25%	外・内) ナデ	判位:7.5YR4/3	_	
		16	カマド内 (P-38)	上師器	投	(41.8)	9.0	_	255	<10%	外・内) ナデ、底) 木柴真			
		17		1:0023				_		20%		判位:7.5YR4/3		<u> </u>
,			カマド内 (17-20) 他		授	(00.0)	12.0		414		外・内) ナデ、底) 木葉旗	暗赤褐色: 5 Y R 3/4		
_		18	カマド内 (P-28)	1.0678	搜	(33.2)		_	70		外・内) ナデ	にぶい赤褐色: 5 Y R 4 / 3		 
"	"	19	カマド内(P-11他)	上 体器	搜	(30.0)			462		外) ヘラ、内) ハケメ	赤褐色; 5 Y R 4 / 6	· ·	
**************************************		20	程上 (P-25他)	上.种器	搜	(29.0)			420		外・内) ハケメ	判位:7.5YR4/3		
3171⊠	6757E	1	双北 (P-15他)	北神器	坏	(13.5)	(5.6)	3.2	43		外)ナデ、底)糸切り	にぶい赤褐色; 5 Y R 4 / 4		
~	*	2	<b>製土 (P−2他)</b>	1:師器	坏	(14.8)		-	45		外) ナデ	明製色: 7.5Y R 5 ∕ 6		
*		3	カマド内 (P-1)	上海器	坏	_	5.8	-	60	30%	外)ナデ、底)糸切り	桁值:7.5YR 6 ∕ 6		
*	"	4	<b>双</b> f: (P-1)	上師器	ш	11.2	5.7	2.2	77	100%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色;5 Y R 5 / 6		
~	~	5	カマド内 (P-10) 他	上師器	高足高台付坏	(15.7)	-	_	54	30%	外) ナデ	にぶい赤褐色;5YR4/4		体部内外面にタール付着
*	"	6	糉∄. (P−5)	上師器	高足高台付坏	_	-		38	40%	外) ナデ	料色:10YR4/6		体部内外面にタール付着
"	"	7	₩上 (P-14)	上伸器	高足高台付坏	-	-	-	19	<10%	外) ナデ	明赤褐色:5YR5/6		
*	*	8	₩±. (P-18)	上師器	高足高台計中	-	-	-	28	10%	外) ナデ	判位:7.5YR4/4		
,,	,,	9	関上 (P−18)	上師器	獎	-	(7.8)	-	50		外・内) ハケメ、ほり 木葉痕	炽褐色:5YR2/2	<u> </u>	
~	68号任	1	覆 f: (P−169他)	1:師器	坏	11.9	5.8	3.5	140		外) ナデ、底) 糸切り	にぶい赤褐色;5YR4/4		
		2	覆1: (P−21他)	灰釉陶器	柳	16.2	8.0	5.5	239	65%	付け高台	妖门位:7.5Y 7/1		大明皿 (芯痕に煤付着)
~		3	<b>双</b> 计: (P-1)	上師器	羽笼	(23.6)	_	-	153	10%	外・内) ハケメ	庆初色:5YR4/2		
	* .	4	<b>覆上 (P−210他)</b>	上伸器	小型要	(14.8)			53	_	外) ハケメ、内) ナデ	赤褐色:5 Y R 4/6		
		5	製土 (P-195他)	上師器	鬼	(35.2)	_		235	15%	外・内) ハケメ	<b>明</b> 赤褐色: 5 Y R 5 ∕ 6	<del> </del>	
	691}(1:	1	税上 (P-31)	1:00%	111	11.7	5.2	2.1	78		外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
	09-711:	2	報士 (P-32)	上師器	坏	11.7	(5.0)	-	12	5 %	外) ナデ	にぶい程色: 7.5Y R 6/4	<u> </u>	   見込みに線刻 (描鉢か)
		_	程士 (P-309)	七种器				_					<del>                                     </del>	元元の一年の (1887年かり
		3			羽笼	(23.0)	_		192		外・内) ハケメ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6	 	I I
"	705113	4	程士 (P-1)	1:6628	授	(31.4)	-	-	192		外) ハケメ、内) ナデ	オリーブ科色: 2.5 Y 4 / 4	<u> </u> 	LYANGE BILLEY
3372t×1	705}{E	1		上師器	环 WHY ALLEY	11.0	5.4	3.0	123		外)ナデ、底)糸切り	明构色:7.5YR5/6	<u> </u>	統領に被目形
	~	2	カマド内 (P-1)	上/师器	高足高台付坏	-	(8.8)		40		外) ナデ	明赤製色:5YR5/7		脚端打欠き
"		-							70	25%	外) ナデ	明褐色: 7.5Y R 5 ∕ 6	1	l .
"	,	3	税上: (P-43)	七個器	高足高台付坏	-			-					
"	*	3 4 5	短上 (P-43) 程士 (P-55) 程士 (P-40)	上師器 灰釉陶器 上師器	高足高台付坏 段Ⅲ 雙	(12.6)	(7.2)	2.2	34 51	25%		灰黄色: 2.5 Y 6 / 2 赤褐色: 5 Y R 4 / 6		

第12表 土器類観察表(10)

							第	12表	=	上器	類観察表(10)			
相対 番号	遺構名	No.	出土位置	和 別	<b>8</b> M	111± (cm)	lišif: (cm)	26/4 (ca)	∬(ද් (g)	残化半	技法・形態の特徴	G M	胎 :1:	假i 考
3372H	70号佳	6	製土 (P-16他)	上師器	搜	(28.0)	-	(ca)	51	< 5 %	外) ハケメ、(4) ナデ	初位: 7.5Y R 4 / 3		
~	*	7	双J: (P-56)	上師器	焽	(23.8)	_	-	55	<10%	外・四) ハケメ	にぶい判位:7.5YR5/4		
	71号住	1	カマド内 (P-1)	緑釉陶器	11mi		_	-	12	< 5 %		<b>炭オリーブ色:10Y 6 ∕ 2</b>		
_	725fE	1	カマド内 (P-1)	上師器	焽	(28.0)		<del>  -</del>	393	25%	外・内) ハケメ	明赤褐色:5YR5/6		
-	735HE	1	ガマドリ (F-1) 擬山: (P-2b)	上師器	坏	(20.07	5.6	_	21	25%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		
~		2	阅:f: (P-2 a)	上師器	CHIL	(12.0)	5.5	1.5	38	35%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~	,	3	设注 (P-7他)	土師器	na	(9.2)	4.6	2.2	64	80%	外)ナデ、底)糸切後ナデ	明拠位:7.5YR5/6		
~	*	4	カマド内 (P-4)	上師器	BIL	8.6	5.6	2.4	98	90%	外) ナデ、底) 糸切り	判位:7.5YR4/4		
~	*	5	程力: (P-91)	上師器	柱状高台付皿	10.0	5.8	3.3	146	90%	外)ナデ、底)糸切り	明製色: 7.5Y R 5 / 6		
~	~	6	和.i: (P-9)	灰釉陶器	瓶	-	(7.4)	_	21	< 5 %	付け高台	灰色:5 Y 6 / 1		A CHINI O
*		8	税上 (P-14) 税上 (P-1)	領地器 領地器	提	H	<u> </u>	-	263 163	< 5%	外) タタキメ 外) タタキメ	黄灰色: 2.5Y 5 / 1 黄灰色: 2.5Y 6 / 1		転用視?
		9	祝上 (P-60他)	土師器	#1號	(3(),0)	-	<u> </u>	270	<10%	内ハケメ	にぶい赤褐色:5 YR 4/3		47.1110C 1
~	~	10	18 <u>1</u> 1:	上師器	羽笼	(24.0)	_	-	102	15%	外・内) ハケメ	赤褐色: 5 Y R 4 / 6		-
	~	11	カマド内 (Pー3)	上師器	小型變	(14.5)	_	-	12	< 5 %	外・14) ハケメ	にぶい赤褐色:5 Y R 4/4		
	~	12	カマド内 (P-1)	上師器	搜	(30.6)		-	52	< 5 %	外・川)ハケメ	無利色:5YR3/1		
3173I¥I	74号(主	1	阳上: (P-2)	上師器	坏	_	4.8		50	30%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10Y R 5 / 4		
"	"	2	<b>双</b> t:	土師器	坏		4.7		33	20%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
"	*	3	製土 (P-18)	上師器	高足高台付坏	_	(4.6)	-	39	10%	外) ナデ	明赤褐色:5YR5/6		脚端打欠き
-	~	4	カマド内 (P-18)	上師器	高足高台付坏	-	<u> </u>	_	332	30%	(紫) 糸切り後脚付け 外・内) ヘラミガキ、付け高	判位:7.5YR4/6		体部周辺と脚端を再調整
*	~	5	双止 (P-69他)	土師器	坏	14.3	8.0	6.1	82	55%	ガ・内) ヘラミガキ、同け値 台	稅伍:7.5YR6/6		体〜底部外面にタール付着
"	~	6	划1: (P-65)	灰釉陶器	椀	(15.7)	E	-	12	<10%	外下)ヘラケズリ、(底欠)	灰色:5 Y 6/1		
-	~	7	X( f: ( P-45他)	上師器	发	(26.6)		· -	130	15%	外・内) ナデ	無報色:10YR3/1		
*	~	8	カマド内 (P-13) 他	上師器	規系鉢	36,7	9.0	22.0	3440	85%		赤枫色:5YR4/6		<u> </u>
*	*	9	製土. (P-68他)	上師器	<b>搜采外</b> 。	(39.2)		-	453		外・内) ハケメ	刊色:7.5Y R 4/6		0 614 .09/64
,	*	10	双上 (P-52他) 双上 (P-71他)	上師器	規 規系針	34.2	(10.0)	-	2020 121	70% 10%		赤褐色: 5 Y R 4 / 6 灰黄褐色: 10 Y R 5 / 2		9と同一個体か
3374[3]	755分往	1	程1: (P-38他)	上師器	坏	13.7	4.8	4.0	127	70%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
*	70-712	2	₩.i: (P-48)	上師器	坏	14.4	4.8	4.2	139	80%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		P21111-1111105
~		3	Nd:: (P-4)	上師器	坏	10.1	4.1	3.2	72	97%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい初色: 7.5Y R 5/4		
~	~	4	<b>税上 (P-47)</b>	上師器	坏		7.5		106	30%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10YR5/4		
~	~	5	<b>製</b> 比 (P−24)	上師器	坏	-	8.0	-	173	30%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい判色: 7.5Y R 5 / 4		
		6	以.i: (P-53)	上師器	坏	_	(6.0)	_	30	20%	外)ナデ、底)糸切り	判色:7.5YR4/6		
,,	.	7	カマド内 (P-10他)	上師器	坏		4.7		72	70%	外)ナデ、底)糸切り	₩Œ:5YR6/6		
,		8	双上: (P−23他)	上師器	III	11.4	4.6	2.8	73	80%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5 YR 4/6		
		9	版上(P-3)	上師器	ш	10.8	5.9	2.5	72	85%	外)ナデ、底)糸切り	明制值:7.5YR5/6		
~	~	10	税上 (P-40)	上師器	EII	10.6	4.3	2.5	70	97%	外)ナデ、底)糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~		11	製土 (P-2)	上師器	mı.	10.4	4.5	2.5	65	85%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
~	"	12	双上 (P-6)	上師器	on.	10.6	4.6	2.5	80	100%	外) ナデ、底) 糸切り	明赤褐色:5YR5/6		
*	*	13	カマド内 (P-9他)	:比師器	an	(10.4)	4.5	2.5	50	50%	外) ナデ、底) 糸切り	稅伍:5YR6∕6		
~	*	14	W.f. (P-1)	上師器	高足高台付环	10.6	5.9	3.7	80	70%	外) ナデ	明赤褐色:5 Y R 5 / 6		
*	*	15	双 i: (P-39)	北部器	高足高台付坏	(45.0)	5.9	_	49	45%	外) ナデ	明赤褐色: 5 Y R 5 / 6		-
*	765HE	16	税: (P-14) 税: (P-15)	灰釉陶器 上師器	廃	(15.2)	5.6		11 48	<10%	成)ヘラケズリ、5心人)暗文	灰白色: 5 Y 7/1		混人
	70-31E	2	カマド内 (P-13) 他	上師器	坏	15.6	6.0	4.3	194	90%	外)ナデ、底)糸切り	にぶい黄褐色:10YR5/4		底面に板目痕
*		3	カマド内 (P-9他)	上師器	坏	11.8	6.1	3.5	102	75%	外)ナデ、底)糸切り	赤褐色:5YR4/8		底部川柱づくり
~		4	カマド内 (P-12)	上師器	坏	(13.9)	(7.0)	4.1	53	45%	外)ナデ、底)糸切り	和色: 7.5Y R 6/6		DEMINE HE 13 ME
	"	5	₩1: (P-5) 他	上師器	ш	12.7	5.9	2.1	76	80%	外) ナデ、底) 糸切り	別赤褐色:5YR5∕6	_	
"	~	6	カマド内 (P-11他)	北師器	焽	(30.7)	_	_	805	30%	外・円) ハケメ	暗赤褐色: 7.5Y R 3 / 2		
"	*	7	划土 (P−21)	上師器	搜	(27.0)		_	50	<10%	外) ヘラ、内) ハケメ	明赤褐色:5 Y R 5 ∕ 6		
3375131	116号 土坑	1	糉士: (P-83∕88)	上師器	an	13.1	4.9	2.4	108	65%	外下) ヘラケズリ、 成) 糸切り	明赤褐色; 2.5Y R 5 / 6		
,	.1.71	2	划:: (P-71)	上師器	坏	(14.6)	_	_	28	20%	外) ナデ、(下半欠)	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		
,	1号	3	KU I:	上師器	坏	(14.1)	6.6	4.0	90	50%	外)ナデ、底)糸切り	₩: 5 Y R 6 / 6		
	特殊小坑													
-	2号ピット群	4	<b>双士</b>	上師器	<b>小</b>	(12.0)	(4.6)	3.5	53 425	45% 30%	外) ナデ、底) 糸り川 外・内) ハケメ	明黄褐色:10YR7/4		<b>底面に板目形</b>
_	2号操制域 6号上坑	6	NUT. NUT: (P-3)	古 中 上 日 日 日 日 日	卵敏	(15.1)	_		10	< 5 %	新・14) ハケメ 鎖連弁文	にぶい初色:7.5 Y R 5/4 灰オリーブ色:5 G Y 6/1		能泉窯か
-	1号道路					(13.1/								
	状退構	7	N(上(P-31)	青磁	魔	_		_	8	< 5 %	籍連弁文	<b>炭オリーブ色:2.5G Y 6 ∕ 1</b>		龍泉窯か
_	305分比坑	8	程 i:	内耳主器	均均	(26.0)	(24.0)	4.4	51	<10%		にぶい校:7.5Y R 6/4		
_	15号土坑	9	设计: (P-2)	縄文上器	深外 諸磯B	_			53	< 3 %		明赤製色: 2.5Y R 5 / 6		
*	*	10	<b>以</b> ± (P−3) 以± (P−4)	~		_		-	25	< 3 %		明赤製色:2.5YR5/6		
-	~	12	親主 (P-4) 親士 (P-1)	*		_	=		18	< 3 %		明赤褐色: 2.5Y R 5/6 明赤褐色: 2.5Y R 5/6		
				比師器	<b>坏</b>	(11.5)	6.2	4.8	140		底) ヘラケズリ、見込) 暗文	明赤褐色: 2.5Y R 5 / 6		場合「七門」カ (底部)
	遊構外	1	【−11グリッド 】				-	2.2	65	55%	外)ナデ、底)糸切り	明赤枫色: 5 Y R 5 / 6		底順に概目度
	2 遺構外 遺構外		I −11グリッド H−8グリッド	上師器	mu .	(11.2)	4.9				1			
,	遺構外	1			III 섓	(11.2)	4.9	-	105	< 5 %		灰色;7.5Y 5 / 1		転用観か
"	追構外 遺構外	2	H-8グリッド	500.七		(11.2) - -	4.9	1 1	105 22	< 5 % <10%	外) ハケメ	灰色;7.5Y 5/1 粒:5YR 6/6		転用観か
"	追構外 適構外 適構外	2	H - 8 グリッド G - 8 グリッド	器00.1 器见影	쒓	-	4.9 -				外) ハケメ 外) ヘラミガキ			転用ぬか 垂節様に周辺加工・穿孔あり
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	追構外 遺構外 遺構外 遺構外 遺構外 遺構外	1 2 3 4 5 6	H - 8 グリッド G - 8 グリッド J - 9 グリッド K - 5 グリッド J - 11 グリッド	上	受 台付援か 遊 台付援か	-			22 6 9	<10% <3% <3%	外) ヘラミガキ 外) ハケメ	税:5YR6/6 税:7.5YR6/6 にぶい製色:7.5YR5/4		
, ,	追橘外 遺橘外 遺橘外 遺橘外	1 2 3 4 5	H - 8 9 9 7 F G - 8 9 9 7 F J - 9 9 9 7 7 F K - 5 9 9 7 7 F	上師器 須惠器 上師器 上師器	授 台付援か 遊	-		1 1 1	22 6	<10% <3% <3% <3%	外)ヘラミガキ	K1: 5 Y R 6 ∕ 6 K2: 7.5 Y R 6 ∕ 6		

口径・底径の( )内数値は反転による推定地、残存率の<5%は5%未満

## 第13表 土器類観察表(11)

相材 番号	遺構名	No.	av Eddag	FA NA	器桶	l lífe (cm)	uzif (cm)	<b>2</b> 編集 (cm)	ர்(さ (g)	残化性	技法・形態の特徴	色 淵	Hi	t:	備考
3775t4	遺構外	9	1-20グリッド	t:師器	手捏上器	(3.4)	2.5	2.6	25	80%	手捏ね成形	にぶい黄橙色:10 Y R 6 / 4			
	遺構外	10	K - 19グリッド	上師器	科星上器	2.5	-	2.1	15	100%	手捏ね成形	にぶい明赤褐色:2.5 Y R 4 /4			
"	遺構外	11	K -14グリッド	青髓	碗	-	-	_	9	< 3 %	编进作文	妖オリーブ色: 2.5 Y 6 ∕ 2			龍泉窯か
*	遺構外	12	J−21グリッド	青髓	碗	-	-	-	9	< 3 %	编述介文	縁灰色: 7.5GY 6 ∕ 1	ĺ		龍泉窯か
~	遺構外	13	G-10グリッド	小提	碗	-	-	-	12	< 3 %	鎮連介文	妖オリーブ色;10Y 5 ∕ 2			龍泉窯か
~	迎構外	14	K-11グリッド	1,166	碗	-	-	-	3	< 3 %	箱連介文	明灰オリーブ色: 2.5G Y 7 /1			能泉窯か
~	遺構外	15	I −14グリッド	青睐	ρέ	-	_	-	4	< 3 %	箱連弁文	妖オリーブ色:10Y 6 ∕ 2			龍泉窯か
*	遺構外	16	J−21グリッド	青髓	碗	-	-	-	36	< 3 %	箱連介文	妖オリーブ色:10Y 6 ∕ 2			龍泉窯か
	遺構外	17	K -15グリッド	北班	碗	-	-	-	23	< 3 %	箱連弁文	妖オリーブ色;2.5G Y 6∕1	Ì		龍泉窯か
*	遺構外	18	K -6グリッド	(16E	₩.	(9.6)	-	-	20	< 5 %		灰色: 5 Y 7 / 2			
~	遺構外	19	C-20グリッド	陶器	en	(11.0)	_	-	8	5 %		灰色: 5 Y 8 / 1			志野境・長石釉
	遺構外	20	F-10グリッド	陶器	碗	(5.0)	-	-	16	20%		にぶい赤褐色:5 Y R 4 / 3			鉄釉
**	遺構外	21	A-17グリッド	磁器	簲	(10.2)	-	-	21	20%					瀬戸美濃・くずれ網目文
,,	遺構外	22	K - 13~14 グリッド	内耳上器	銷	(22.8)	-	-	32	<10%		にぶい黄褐色:10Y R 5 / 3			
	遺構外	23	J−18グリッド	MZ)	燓	(33.6)	-	-	148	< 5 %		暗赤褐色;10R3/2			常滑燒
~	遺構外	24	H-19グリッド	1:98%	人形	-	_	-	0.8	100%		₹2:2.5 Y R 7 / 8			大黒天か
*	迎構外	25	C-12グリッド	1:30%	人形	-	_	-	3	20%		明赤褐色:5YR5/6			大黒天か

## 第14表 瓦類観察表

図	Na	出土遺構等	出土位置	種 別	重量 (g)	焼成	色 調	備	考
第76図	1	1 A 号住居跡	糉土.	丸瓦	32	良	暗灰黄色;2.5 Y 5 / 2		
"	2	7号住居跡	覆土 (B区画)	丸瓦	29	良	にぶい黄褐色;10Y R 5 / 3		
"	3	8 号住居跡	<b>製土:</b> (P−14)	平瓦	179	良	黄橙色;10YR8/6		
"	4	8号住居跡	カマド内 (P-2)	軒平瓦?	137	やや不良	橙色;5YR6/6		
"	5	11号住居跡	双北 (P-28)	丸瓦	196	良	にぶい黄褐色;10Y R 5 / 3		
"	6	22号住居跡	<b>製土(P-2)・カマド内(P-40)</b>	平瓦	532	良	灰褐色: 7.5YR5/2		
"	7	34号住居跡	カマド内 (P-62)	平瓦	220	良好	灰~暗灰色; N 3~4/0		
"	8	39号住居跡	<b>複</b> 土	丸瓦	48	良	灰黄色; 2.5 Y 6 / 2		
"	9	45号住居跡	糉土: (P-457)	丸瓦	130	良好	にぶい赤褐色;2.5 Y R 5 / 4		
"	10	48·65·73号住居跡	观:1: (P-109)	丸瓦	482	良好	にぶい橙色 : 7.5 Y R 6 / 4		
第77図	11	48号住居跡	覆土: (P-252·265)	丸瓦	933	良好	にぶい橙色: 7.5 Y R 7 / 4		
"	12	50号住居跡	粉止	丸瓦	2419	良	にぶい橙色: 7.5 Y R 6 / 4		
"	13	54号住居跡	<b>双</b> 止	丸瓦	431	良	にぶい橙色: 7.5 Y R 6 / 4		
第78図	14	64号住居跡	覆土 (P−10)	平瓦	189	良好	灰黄褐色;10Y R 5 / 2		
"	15	65号住居跡	製土 (P−156)	平瓦	115	良好	褐灰色; 7.5 Y R 4 / 1		
"	16	65号住居跡	覆土 (P−3)	平瓦	139	良	褐色: 7.5 Y R 4 / 4		
"	17	65号住居跡	覆土(カマド付近、P−3)	丸瓦	140	良好	橙色:5YR6/6		
"	18	65号住居跡	糉土 (P−34)	丸瓦	101	良好	橙色:5YR6/6		
"	19	65号住居跡	<b>製土 (P−38)</b>	丸瓦	73	良好	にぶい橙色: 7.5 Y R 6 / 4		
"	20	65号住居跡	覆土 (P−54)	丸瓦	83	良	にぶい黄橙色;10Y R 6 / 4		
"	21	68号住居跡	カマド内 (P-55)	丸瓦	48	良	にぶい橙色;7.5YR6/4		
"	22	65号住居跡	糉土: (P22·31·87)	丸瓦	482	良	橙色;2.5YR6/6		
~	23	68·73号住居跡	68住 双土·73住 双土(P-5)	平瓦	211	良好	褐灰色; 7.5Y R 4/1		
第79図	24	68号住居跡	カマド内	丸瓦	176	良	にぶい橙色:7.5YR6/4		
"	25	69号住居跡	カマド内(Pー5)・Iー8グリッド・試掘	平瓦?	615	良好	褐色;7.5YR4/6		
"	26	69号住居跡	カマド内 (P-10·13)	丸瓦	400	良	橙色;2.5YR7/6		
"	27	62号土坑	观土	丸瓦	168	良好	にぶい赤褐色; 5 Y R 5 / 4		
"	28	H -11グリッド	グリッド内一括中	平瓦	90	やや不良	灰黄褐色;10YR5/2		
"	29	I −24グリッド	1日 層中	丸瓦	106	良	灰オリープ色; 5 Y 6 / 2		
"	30	J-3グリッド	グリッド内一括中	丸瓦	89	良	橙色;5YR7/6		
"	31	K -13~14グリッド	グリッド内一括中	丸瓦	151	良	灰黄褐色;10YR6/2		
"	32	表採	表面採集資料	平瓦	90	良好	褐灰色;7.5YR5/1		

## 第15表 鉄製品観察表

挿図番号	No.	出土遺構等	種別	長さ(cm)	幅 (cm)	Ef ()	重さ(g)	dr. 1. 7 5593		Ut.		
第80図	1	2号住居跡	刀子	_			_ 1,7			備	考	
#100E4		6号住居跡	刀子	12.0	1.6	0.4		カマド内 (F-1)				
,	3	4号住居跡	釘か	7.2	1.3	0.3	<del> </del>	覆土 (P−21)				
		6号住居跡		4.0	1.3	0.8	7	製土:				
	4		卸入式加入日	2.0	0.6	0.4	1	複士 (P−19)				
"	5	試掘19号トレンチ	用途不明金具	3.1	1.3	5.5		トレンチ内一括中				
	6	8号住居跡	鎌	18.8	3.0	0.5		糉土. (F−1)				
	7	24号住居跡	扉の金具?	7.3	2.2	0.6		覆土 (F−1)				
*	8	25号住居跡	鉄鏃	9.9	2.7	0.8	12					
"	9	25号住居跡	用途不明金具	3.2	2.8	0.6	4	糉土.				
,"	10	31号住居跡	刀子	12.8	1.5	1.2		覆土 (F−238)				
"	11	30号住居跡	用途不明金具	9.7	5.4	0.5	49	覆土 (F−1)	No. 10856			
"	12	44号住居跡	刀子	9.0	1.7	0.7		<b>親土 (P-300)</b>				
	13	44号住居跡	釘	8.2	1.1	0.5	8	<b>漫土 (P-31)</b>				
"	14	48号住居跡	釺?	8.3	0.8	0.7	7	覆土 (F−1)				
"	15	49号住居跡	<b>新</b> ?	10.7	1.6	0.8	8	覆土 (F−2)				
"	16	62号住居跡	鉄斧	12.9	5.3	3.0	365	関土(F-5)				
"	17	62号住居跡	用途不明金具	5.3	5.5	0.8	24	製土 (F−1)				
"	18	62号住居跡	用途不明金具	6.0	2.3	1.0	32	覆土 (F−2)				
"	19	62号住居跡	用途不明金具	13.7	1.1	0.7	9	製土 (F-4)		_		
"	20	63号住居跡	用途不明金具	8.5	1.2	0.7	13	製土 (F−1)				
"	21	64号住居跡	釗	7.3	1.1	0.6	6	糉土				
"	22	64号住居跡	用途不明金具	5.3	4.2	0.7	17	覆土 (P−24)				
"	23	64号住居跡	刀子?	16.8	1.8	0.7	21	糉土:				
"	24	66号住居跡	釘?	7.5	0.9	0.7	12	製土 (F-2)				
,,	25	66号住居跡	用途不明金具	8.0	1.7	1.1	11	<b>糉土 (F−4)</b>				
"	26	67号住居跡	用途不明金具	5.1	2.3	1.1	13	覆上 (F−2)				
"	27	74号住居跡	刀子	11.3	1.8	1.5	17	製土 (F−2)				
"	28	5 B 号住居跡	刀子	13.6	1.8	0.8	19	製土 (F−1)	No. 10492			
"	29	E-6グリッド	用途不明金具	5.5	0.6	0.3	3	グリッド内一括中	No. 10490			
"	30	2 号住居跡	<b>到</b>	12.3	1.6	0.9	23	製土 (F−1)	No. 10491			
"	31	sx-02	釘?	9.1	0.9	0.7	8	製土 (F−6)				
"	32	sx-05	用途不明金具	6.4	1.7	1.0	5	製土 (F−5)				

## 第16表 羽口観察表

図	Na	出土遺構等	種別	長さ(cm)	外径(cm)	内径(cm)	重さ(g)	形状・材質等	出上位置	備考
第81図	1	45号住居跡	羽口	(5.7)	(11.0)	(2.6)	60		覆土 (P−421)	
- "	2	74号住居跡	羽口	(5.5)	(9.2)	(2.4)	53		拟土	
"	3	H-12グリッド	羽口	(5.2)	(5.9)	(1.5)	20		双士:	

## 第17表 鉄滓・石製品観察表

×	No	出上遺構等	種別	長さ(cm)	姚 (cm)	厚 (cm)	重さ(g)	形状・材質等	出土位置	備考
第81図	4	13号住居跡	鉄滓	9.5	8.8	3.5	153	椀形	製土 (S-2)	
"	5	12号住居跡	鉄滓	7.0	3.5	2.4	56		製土	
"	6	2 号溝	磨り石	10.6	4.4	2.8	160	粘板岩	糉土	
"	7	26号住居跡	石杵	19.3	4.7	4.8	620	硬質砂岩	閥土 (S−1)	

## 第18表 銭貨観察表

図	Na	出土遺構等	出上位置	銭 種	外径(cm)	内径(cm)	重さ(g)	线極情報	備考
第81図	8	試掘14号トレンチ	トレンチ内一括中	治平元寶	2.3	0.7	4.0	北宋・治平元(1064)年初鋳 篆書	
"	9	8 号住居	糉土:	熙寧元寶	2.3	0.7	4.0	北宋・煕寧元(1068)年初鋳 真書	
"	10	1号道路状遺構	糉土	元豐通寶	2.3	0.7	2.0	北宋・元豊元(1078)年初鋳 行書	
"	11	F-23グリッド	グリッド内一括中	型宋元寶	2.4	0.8	4.0	北宋・建中靖国元(1101)年初鋳 篆書	
"	12	96号土坑	閥上	寛永通寶	2.3	0.7	2.0	江戸・寛永13(1636)年初鋳	
"	13	G -21グリッド	グリッド内一括中	天型元寶	2.4	0.8	3.0	北宋・天聖元(1023)年初鋳 篆書	
"	14	K-14グリッド	グリッド内一括中	皇宋通寶	2.4	0.8	3.0	北宋・寶元元(1038)年初鋳 篆書	
"	15	9 号住居	糉土.	至和通賓	2.4	0.8	2.0	北宋・至和元(1054)年初鋳 篆書	

### 第19表 砥石観察表

挿図番号	No.	出土遺構等	出土位置	長さ(cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重さ(g)	色 調	石材	備	考
第82図	1	13号住居跡	<b>製土</b> (S−1)	11.1	5.2	11.4	230	にぶい黄褐色;10Y R 5/4	砂岩		
"	2	22号住居跡	覆土: (P−7)	9.7	4.5	2.7	140	にぶい黄橙色;10Y R 7 / 4	砂岩		
"	3	25号住居跡	双土	11.4	4.5	4.5	263	褐灰色; 7.5Y R 4 / 1	凝灰岩		
"	4	31号住居跡	閥土 (S−188)	10.5	4.7	3.8	235	明黄褐色;10YR7/6	砂岩		
"	5	35号住居跡	閥土 (P−69)	8.7	3.4	4.6	220	にぶい黄橙色:10YR 6/4	砂岩		
"	6	35号住居跡	<b>双</b> 土	12.9	5.6	6.2	510	にぶい黄橙色;10Y R 7/4	砂岩		
"	7	39号住居跡	糉土 (S−1)	6.6	4.6	3.1	108	灰オリーブ色; 5 Y 5 / 2	緑色凝灰岩		
"	8	40号住居跡	<b>双</b> 土	7.7	4.7	4.5	187	灰白色; 2.5 Y 8 / 2	花崗岩類		
"	9	45号住居跡	<b>糉土(S−2)</b>	10.5	5.5	2.2	150	黄橙色;10YR8/6	砂岩		
"	10	43号住居跡	糉土 (P−11)	7.1	3.3	1.7	38	黄橙色;10YR8/6	砂岩		
第83図	11	47号住居跡	製土 (S−3)	12.0	9.0	4.8	565	褐色; 7.5 Y R 4 / 3	砂岩		
"	12	53号住居跡	糉土 (S−1)	6.5	3.3	4.4	95	にぶい褐色;7.5Y R 6/3	砂岩		
"	13	58号住居跡	カマド内(P-3)	8.9	4.1	4.0	140	浅黄橙色:7.5YR8/4	砂岩		
"	14	59号住居跡	糉土 (S−1)	8.2	4.0	5.6	210	にぶい橙色; 7.5 Y R 7 / 4	砂岩		
"	15	66号住居跡	糉土(砥石-1)	11.3	5.2	5.5	250	にぶい黄橙色;10Y R 7/4	砂岩		
"	16	66号住居跡	糉土(砥石-2)	11.4	4.7	4.7	260	にぶい黄橙色;10Y R 7/3	砂岩		
"	17	70号住居跡	覆土 (S−1)	7.0	6.4	3.2	150	にぶい黄橙色;10 Y R 7 / 4	砂岩		
*	18	75号住居跡	覆土 (S−1?)	8.3	4.6	2.9	110	浅黄色; 2.5Y 7/3	緑色凝灰岩		
"	19	K-9グリッド	グリッド内一括中	8.4	6.0	4.6	220	にぶい赤褐色;5YR5/4	砂岩		
*	20	表 採	表面採集資料	9.3	6.1	3.3	194	にぶい黄橙色;10 Y R 7/3	砂岩		

<sup>\*</sup>第19表中の石材の鑑定は(財)帝京大学山梨文化財研究所河西学氏による

# 第20表 石器観察表

挿図番号	No.	出土遺構等	種 別	長さ(cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重さ(g)	石材	出土位置	備	考
第88図	1	包含層 (谷状)	打製石斧	19.8	7.6	3.0	505	砂岩	包含層確認トレンチ内(Na 3)		
"	2	包含層(谷状)	打製石斧	17.0	8.3	2.4	400	砂岩	包含層確認トレンチ内(Na.2)		
"	3	包含層(谷状)	打製石斧	16.6	8.0	2.8	450	砂岩	包含層確認トレンチ内(Na 1)		
"	4	試掘9号トレンチ	打製石斧	8.2	5.2	1.2	50	粘板岩	トレンチ内一括中		
."	5	試掘13号トレンチ	打製石斧	7.5	5.6	1.2	65	粘板岩	トレンチ内一括中		
"	6	H-6グリッド	打製石斧	8.1	5.4	1.2	70	粘板岩	グリッド内一括中		
"	7	H-6グリッド	打製石斧	6.3	4.8	1.1	45	粘板岩	グリッド内一括中		
"	8	G-2グリッド	打製石斧	10.0	4.7	2.0	98	粘板岩	グリッド内一括中		
"	9	J-4グリッド	打製石斧	10.8	3.9	2.1	105	砂岩	グリッド内一括中		
"	10	K -11グリッド	打製石斧	9.3	4.0	1.4	71	粘板岩	グリッド内一括中		
"	11	7号住居跡	打製石斧	11.4	4.8	1.1	68	粘板岩	覆土: (P−31)		
"	12	60号住居跡	打製石斧	8.2	3.8	1.2	40	粘板岩	製土 (S−1)		
"	13	表採	打製石斧	9.7	4.2	1.4	60	粘板岩			
"	14	64号住居跡	打製石斧	7.0	6.0	. 1.2	98	粘板岩	覆土 (S−1)		
"	15	包含層(ピット状)	削器	3.5	2.3	0.8	6	頁岩	包含層 (P-48)		
"	16	68号住居跡	打製石斧	10.8	3.9	1.3	60	粘板岩か	<b>双土</b>		
"	17	74号住居跡	打製石斧	12.9	4.0	1.5	70	粘板岩	閥土 (S−1)		
"	18	包含層(谷状)	石鏃	2.00	(1.40)	0.35	0.8	黒曜石	包含層内一括中		
"	19	E-24グリッド	石鏃	1.50	(0.80)	0.40	0.4	黒曜石	グリッド内一括中		
"	20	I −22グリッド	石鏃	(1.05)	(1.25)	0.35	0.5	黑曜石	グリッド内一括中		
"	21	I −9グリッド	石鏃	2.20	(1.35)	0.30	0.6	黒曜石	グリッド内一括中		
"	22	26号住居跡	石鏃	2.25	(1.65)	0.50	1.5	黑曜石	<b></b>		
"	23	43号住居跡	石鏃	1.95	(1.35)	0.40	0.7	黑曜石	閥土 (S−1)		

### 第2節 遺構外の遺物

前節で見た遺構に伴わない遺構外の遺物のうち主要なものについて報告する。

### (1) 遺構外の縄文時代遺物(第86・87図、第88図4~23)

この時代の遺構外遺物としては、第86・87図に掲載した縄文土器と第88図に掲載した石器とがある。なお、平 安時代住居跡の覆土内から出土した縄文土器・石器も遺構外として扱っている。

まず土器の方だが、第86図52~66は前期諸磯B式段階のもので浮線文系のものと沈線文系のものとがあり、67 も縄文のみだが該期のものと見られる。68~70は十三菩提式に相当すると見られるものである。71~85は中期初等の五領ヶ台式の段階のものである。86・87は勝坂式段階の、88~92は曽利式段階のものである。93~97は縄文のみまたは無文の資料であるが中期のものと認められる。このうち96は手捏ね土器である。98~102は後期前半の段階のものと見られる。103~122は晩期清水天王山式に比定される土器群である。

石器は第88図 4  $\sim$ 23に示したものがそれである。 4  $\sim$ 14および16・17は打製石斧で、 9 が砂岩製である以外は 粘板岩製である。15は頁岩製の削器である。18 $\sim$ 23は黒曜石製の石鏃である。

### (2) 遺構外の古墳時代遺物(第75図4~10)

第75図で遺構外遺物の  $4 \sim 10$ は、基本的には古墳時代遺物と見られる。 4 および  $6 \sim 8$  はいわゆる S 字甕の破片資料である。 5 は壺の頸部の破片資料だが、破片の割れ口を丁寧に研磨し、 2 か所に焼成後両側から穿孔した小孔が見られる。この小孔は破片の二次加工段階のものと推測されるが、そうであれば壺の破片が垂飾のようなものに加工されたものかと考えられる。 9 と10は手捏ね土器であるが、平安時代の可能性も否定しきれない。

### (3) 遺構外の平安時代遺物(第75図1~3)

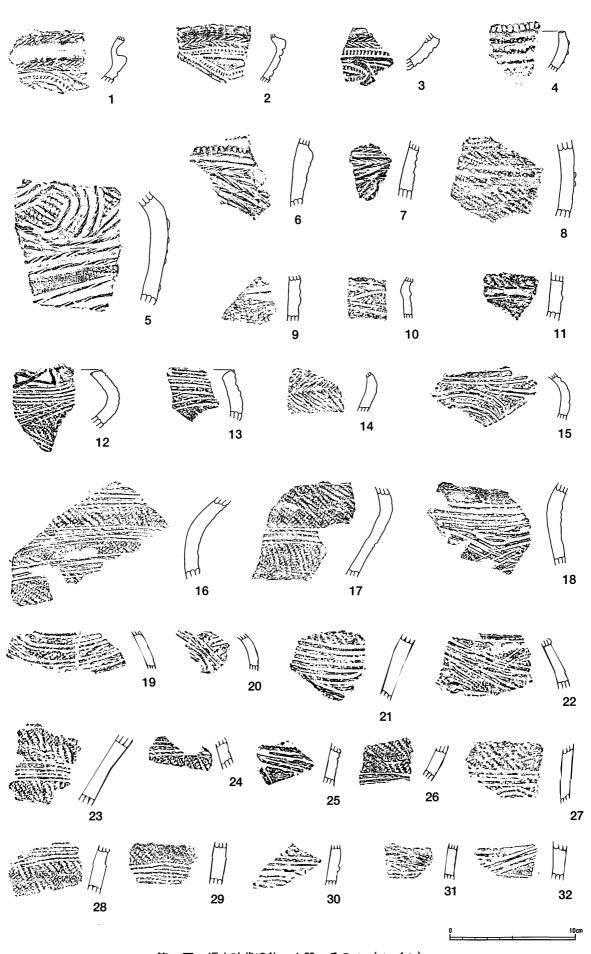
第75図の遺構外遺物の 1 は、I-11グリッド出土の土師器の坏で、底部外面に「上門ヵ」と読める墨書が認められる。 2 は、土師器の最も新しい段階の皿で、H-8グリッドで出土した。 3 は須恵器の甕の破片で、内面に擦り痕が見られる。

### (4) 遺構外の中世遺物(第75図11~20、22・23)

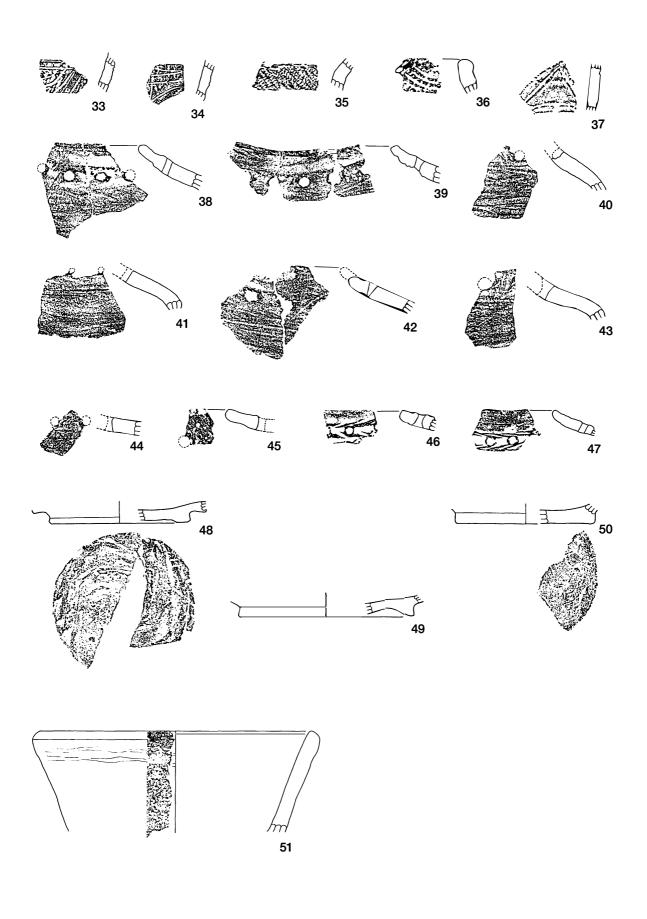
第75図で遺構外遺物の11~17は、龍泉窯系の青磁で蓮弁文のある碗の破片資料である。おのおの接合することなく別々の個体である。18は白磁の壺と見られるものの口縁部付近の破片資料である。19は長石釉がかかる志野焼の皿で、また20は鉄釉の天目茶碗の底部破片である。この19・20は、あるいは江戸期まで下る可能性がある。22は内耳土器の鍋の口縁部破片で、23は常滑焼の甕である。

### (5) 遺構外の近世遺物(第75図21、24~26)

第75図の遺構外遺物の21と24~26は、近世遺物の一部を図化したもので、21は瀬戸美濃の染め付けのよく見られる碗である。24・25は土製の人形である。ともに大黒天かと見られる。26は煙管の吸い口部であるが残りは余りよくない。

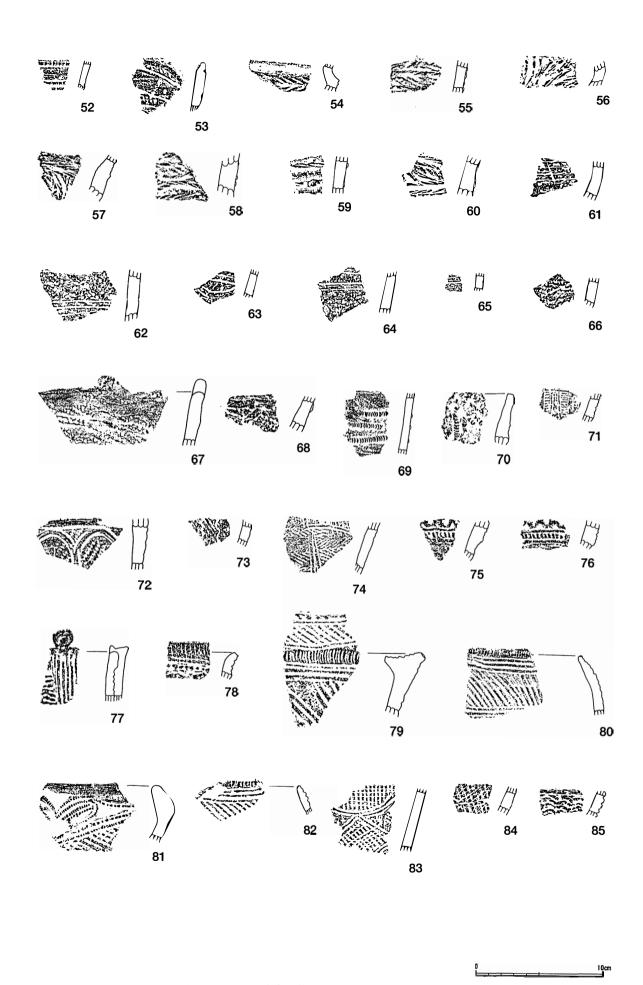


第84図 縄文時代遺物-土器・その1 (1/3)

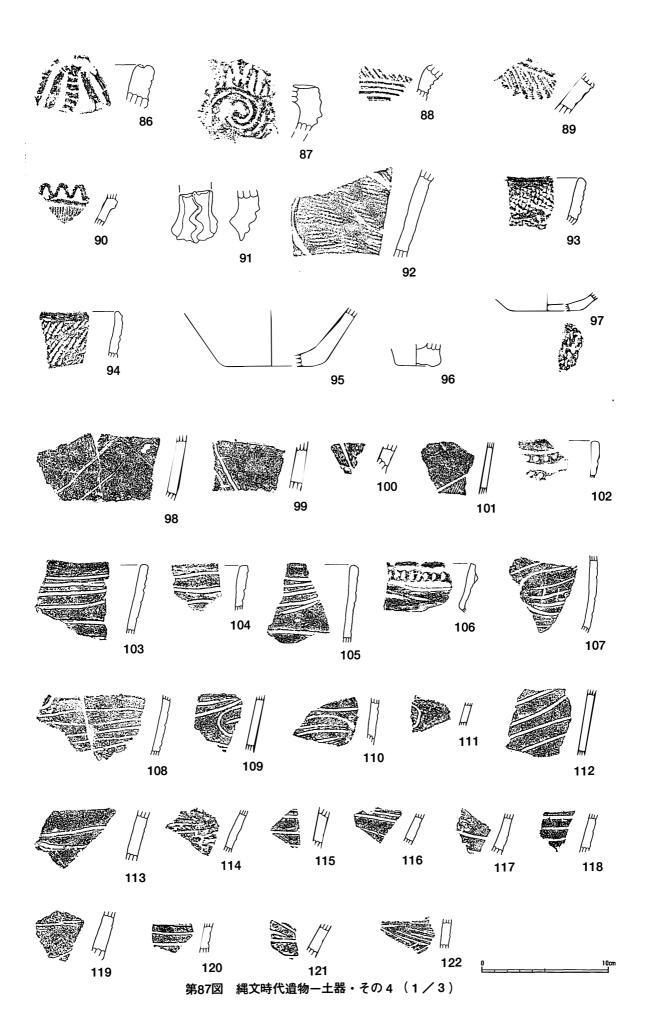


0 10cm

第85図 縄文時代遺物-土器・その2 (1/3)



第86図 縄文時代遺物-土器・その3 (1/3)





第88図 縄文時代遺物一石器(1/4・1/2)

### 第5章 遺構・遺物についての検討

### 第1節 平安時代土器について

今回の北中原遺跡の発掘調査で、主体をなす平安時代の土器について概観すると、土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器の4種類があり、この地域の平安時代遺跡に通例としてみられるように、出土品から見られる生活 什器の主体は土師器であり、本遺跡においてもこの点は例外ではない。

出土した土器は、9世紀から11世紀代にかけてのものである。このうち土師器については、この時期の甲斐地域を分布エリアとして特徴的に存在する「甲斐型土器」として把握されているものと、甲斐型としての特色は消失するものの、その延長上に位置する平安時代後半の土器群に相当する。甲斐地域における平安時代土師器の編年研究は、1990年代にいたって「甲斐型土器」編年研究を機軸に一段と深化し、整備されてきている。

一方で須恵器については、甲府盆地周辺における集落遺跡においては希薄で、その生産や供給については、隣接の関東や東海、信州地方などと比べてもきわめて詳細を欠く状況にあるといえる。また灰釉陶器や緑釉陶器については、生産年代や流通状況について解明が進んでいるが、ここでは須恵器と同様に客体的なあり方といえる状況を確認したにとどまった。

以下、出土土師器を中心に平安時代の土器について、一、二の検討を行いたい。

#### (1) 土師器の器種と年代

ここでは77軒の平安期の住居跡より出土した土師器について、器形の種類、変遷および年代的位置づけ等について整理しておきたい。

今回の調査にかかる土師器の器形としては、坏、高台坏、高足高台付坏、皿、高足高台付皿、柱状高台付皿、 坏系鉢などの坏系のものと、甕、小型甕、甕系鉢、羽釜、置きカマドなどが見られた。

無高台の坏についての特徴を段階的に見ると、つぎのようになる。

- ①口径と底径の比が 2 : 1 程度で、体部外面の下半に斜め方向のヘラ削りが見られ、底部は回転糸切りの後にヘラ削りを行い、体部内面には放射状の暗文が施される。甲斐型の坏の特徴をよく備えている。
- ②底径が口径の 1 / 2 を下回るようになり、体部外面下半のヘラ削りの間隔が開き、底部にはヘラ削りが行われなく回転糸切りがそのまま残り、体部内面には暗文は施されなくなる。例外的に体部内面にまばらに放射暗文が見られる資料がわずかにある。なお同じ形態で体部外面のヘラ削りが行われないものが出てくる。甲斐型の特徴が衰退する。
- ③器形的には大きく変わらないが、ヘラ削りはほとんど行われなくなり、甲斐型が終わり、それが粗雑化した 古代末の土器制作の盛期といえる段階のもの。柱状の粘土の台に、帯状の粘土を巻き付け、回転撫で調整を 行った後、糸切りを行う底部円柱造りの技法(玉口ほか1984)が明瞭に観察されるものが見られる。
- ④つくりがさらに粗雑になり、底部が厚くなる。古代末の土器制作の盛期を過ぎた段階のもの。
- ⑤器壁が全体的に厚味を持ち、小型化したものが多くなる。古代末の土器制作が衰退していく段階のもの。 この土師器の坏に見られる特色の各段階をもって、本遺跡の土師器に 5 つの段階設定し、以下にその変遷を概 観する。

### ①段階

基本的な坏のほかに、削り出し高台をもつ坏、甕があるが、資料的に豊富とはいえない。

甕は、坏と同様に甲斐型の特徴をよく備える。器高が比較的高く、体部外面は縦方向のハケメ調整、内面は横方向のハケメ調整がなされ、口縁は薄口縁型(保坂康夫1992)となる。底部外面には木葉痕が見られる。 土師器以外では、須恵器の坏、坏蓋、「壺G」などがある。

### ②段階

基本的な坏のほかに、皿、坏系の鉢、甕、小型甕、甕系の鉢、羽釜、置きカマドなどがある。

皿においても、坏と同様に、甲斐型の特徴をふまえたへう削りのある土器と、従的な存在だがへう削りのないものがある。また坏系の鉢としたものは、わずかに見られるもので、口径が22cmを越えた、ヘラ削りのない坏を大型化した存在である。甕は、口縁が厚口縁型となる。甕と同じ器面調整を行う羽釜が登場する。置きカマドは1例のみだが確認されている。

須恵器は坏と「壺G」の断片的な資料が見られるのみである。灰釉陶器は瓶類の破片資料が若干あり、緑釉陶器の輪花皿と小破片だが耳皿が見られる。

### ③段階

基本的な坏のほかに、皿、高足の高台を持つ坏、坏系の鉢、甕、小型甕、甕系の鉢、羽釜などがある。

この段階で登場する高足の高台を持つ坏は、坏と脚の接合部の破片資料が多く、そうしたものの観察によれば、大部分の資料が、まず底部円柱造りにより坏部を形成し、その後脚部を接合するという手順で作成されている。この高足高台付き坏については、使用状況も注意される存在である。完形資料は非常に少なく、使用の最終段階で破砕されている可能性が考えられるほどで、とくに脚部の下端は打ち欠きが明瞭に観察されるものが多い。また2次被熱の痕が見られるものの何点かある。おそらく供善用というよりは祭祀のための什器といえるのではなかろうか。なお、1点だけ置きカマドの小破片が見られるが、この段階には置きカマドはすでになく、混入品である可能性もある。また甑が1点あるがこれも同前であろう。

須恵器は甕の破片資料が見られるのみである。灰釉陶器では碗が入ってくる。緑釉陶器についても碗がわずかに入る状況にある。

#### **④段階**

基本的な坏のほかに、皿、高足高台付き坏、高足高台付き皿、甕、小型甕、甕系の鉢、羽釜などがある。 この段階の土師器は、全体的に作りや器面調整が粗雑化していく。高足の高台を持つ土器は前段階の坏的 なものほかに、皿に高足高台がつくものが増加する。

須恵器は急激に減少する。灰釉陶器では碗、段皿などが入る。緑釉陶器は見られなくなる。

#### ⑤段階

基本的な坏のほかに、小皿、柱状高台を持つ皿、甕などがあるが、土器作りの上でかなり衰退の傾向が進んでいく傾向が看取される。

### (2) 須恵器と施釉陶器、および「転用硯」

まず須恵器について、この発掘調査で確認されている器形の種類をあげると、坏、坏蓋、甕、「壺G」などがある。それらのあり方を見ると、つぎの2点に集約される。

まず1つめには、器形を把握しうる良好な資料は、9世紀代前半の北中原①期にのみ存在するということである。具体的に見ると、いずれも完形ではないが、40号住居跡の坏、坏蓋、「壺G」が各1点と、50号住居跡の坏 4点があげられる程度である。

2 つめには、甕はほとんどが北中原②期~④期の土師器に伴う破片資料であるとういこと。さらにその多くは破片の周辺が粗い調整をされた、手のひらくらいの大きさをした体部破片であり、なおかつ内面に一定の範囲で擦り痕が認められるものとなっている、ということである。

この2点目については、近年かなり注目されてきている、いわゆる「転用硯」とよばれているものに相当する。 遺構外資料も含めて図示したものとしては7点ほどであるが、確実に墨痕(朱墨も含めて)が観察されたものは なかった。

また平安期の須恵器にあって、特徴的な器形から、県内でもその確認が進んでいる「凸帯付四耳壺」については、今回は明らかにそれとわかる、すなわち「凸帯」や「耳」がついたものは1点も確認されていない。

つぎに施釉陶器について、灰釉陶器から見ると、器種的には碗・輪花碗が中心で、ほかに皿・段皿や瓶類の破 片資料がある。時期的には北中原②期~⑤期に伴うが、とりわけ③・④期に多く見られる。量的には、残りのよ い該期の住居に1~2点が用いられているといった程度である。形式的にいうなら、確実な同定は行っていない が、黒笹90号窯式(第3型式)、篠岡4号窯式、大原2号窯式(後半期)、新しいところで百台寺窯式(第2型式)、 西坂1号窯式、などと考えられるものがある。

また緑釉陶器については、碗、輪花皿、耳皿などの器種が認められている。内容的には、③期の25号住居跡の碗(第52図31)は深い緑色を呈し、入念な整形で、胎土は白みがかった柔らかめのものである。また②期の38号住居跡の輪花皿(第58図15)は、黄色みがかった緑色をするが、発色は均質でなく、胎土は灰色味を帯びたものである。また高台の内側底面に三叉トチンの痕跡も観察できる。

なお、この輪花皿には口縁部にタール状の付着物が見られ、見込み面には擦り痕がかすかに見られることから、 硯などとして転用された可能性も推定される。また同様なタール状または墨状の付着物が見られ底部内面が摩擦 の痕跡をとどめている状況は灰釉陶器においても、24号住居跡の7の碗や44号住居跡の32の碗など数点確認され ている。また4号住居跡の17の坏のように、墨痕こそないが内面の擦り痕が観察されるものが、土師器の中にも 存在する。

	時期区分	坏	ш 7	高足高台·柱状高台	<b>3</b>	鉢	羽釜 置きカマド	須恵器·施釉陶器	年代	編年区分
	北中原①期	40-1					-	40-6	800	甲斐型VI期
_	∇				50-11			50-8	850	甲斐型VⅢ期 甲斐型IX期
}	▽								900	甲斐型 X 期
第89図	北中原②期	4-2	33-10				4-21			甲斐型XI期
	期		11	34-7	4-23	33-11	The state of the s	34-12	950	甲斐型XII期
出土土器の変遷	北中原③期	25-	25-22	25-28	25-32	25-33	58(IB)-9	25-31		古代末 1期
1	北中原④期	66	63-7	24-5			Attention and a second and a se	63-10	1000	古代末 2期
	期			63-9	66-20	74-l	58(新)-8	24-7	1050	
	北中原⑤期	46-1	46-2	73-5					1100	古代末 4期  古代末 5期  (注)「甲斐型編年」は山下1992に、「古代末編年」は森原1994による

### (3) 墨書・ヘラ書土器について

今回の調査では、第91図に示したように、平安時代の竪穴住居跡から34点、遺構外で 1 点、計35点の墨書および墨痕(以下墨書と一括して扱う)の認められる土師器が確認された。またヘラ書の見られる土師器も 2 点出土している。ここでは、これらの墨書・ヘラ書土器について、いくつかの観点で所見を整理しておきたい。

まず手始めに墨書・へラ書土器を時期的に見ておくと、北中原①期から④期の住居跡から出土しているが、墨書に限って見ると、④期というのは56号住居跡の1点のみである。これについては、墨書された土器の細片が④期の住居跡に混じり込んだもので、墨書そのものは②の土器になされている。よって、墨書の時期は①~③期となるが、①期と②期には半世紀ほどのブランクがあり、これを境に前後二時期、すなわち①期の第一段階と②~③期の第二段階に分けて見ることが適当と考えられる。

なお、県内出土の墨書・刻書土器を集成した平野修の研究(平野1992)によると、墨書は基本的に 8 世紀中頃から10世紀末まで見られ、とくに 9 世紀後半代から10世紀代に盛行するとされている。これに即していえば、北中原遺跡の墨書土器も全体的な傾向によく合致し、ここでの第一段階は甲斐全体での出現~発展期、第二段階が甲斐全体の盛行期に相当する。

へラ書土器については1点が③期、もう1点が④期となり、ヘラ書された土器自体、墨書のものに比べていく ぶん新しい傾向にあることが確認される。

墨書・ヘラ書の見られる資料は、ここでは基本的にこの時期の土師器の坏もしくは皿に限って観察されるのであるが、この後ふれるように、第一段階と第二段階とでは、内容的にいくぶん変化が見られるように思われる。

つぎに35点の墨書の具体的状況についてみると、記載内容は、細片のため確実に言い切れないものもあるが基本的に漢字で、その文字数は、ほぼ確実に 1 文字と認められるものが 5 点(14%)、 1 文字のみと推定されるもの28点(80%)、2 文字のものと 2 文字以上ものがそれぞれ 1 点(3 %)ずつとなっている。

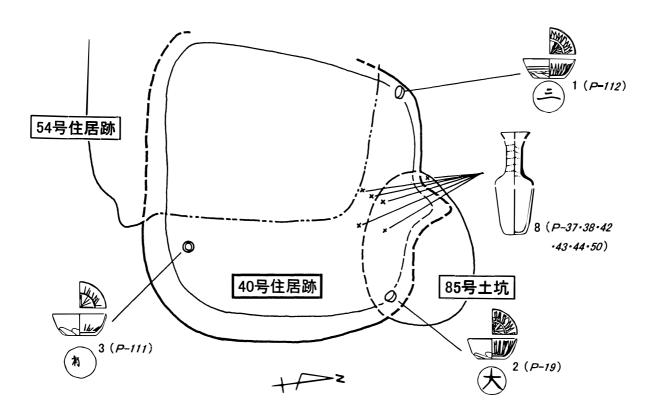
さらに墨書の行われている部位についてであるが、底部外面に行われているもの11点 (31%)、体部外面に施されているもの24点 (69%) となっている。さらに体部外面の記載の向きを細かく分ければ、正位のもの 5 点、逆位のもの 9 点、倒位のもの 2 点で、さらにわずかな墨痕程度のため、いずれとも判別できないものは 8 点を数える。墨書の行われる部位について、時期的なものを加味して見たとき、底部外面への墨書は、その大部分が第一段階のものとなっている、という傾向以外はとくに抽出されない。

これらの墨書の文字の内容であるが、最初の段階には、楷書に近い書体をもって「三」、「大」、「有」(以上40号住居)、「上」(50号住居)などのような、明確に判読される、比較的画数の少ない文字が多い。また「上門ヵ」(I-11グリッド)と2文字のものも存在する。この時期の国分寺周辺も含めた盆地東部の墨書土器について「土師器坏の底部外面に(略)、中心よりはずれたところに、広いスペースのわりには比較的小さく、しかも丁寧に記されていることが特徴」との指摘がある(平野1992)が、体部外面に正位で書かれたものや底部外面にいっぱいに書かれたものなど一部例外的な部分もあるが、基本的にはここでもそうした特徴が首肯されるといえる。

墨書土器の第二段階では、草書的な筆運びの文字が多くなる傾向が見られ、破片資料が多いこともあるが、判 読しがたいものが大部分となる。不確かながら読みが推定できるものに「有ヵ」(4号住居)、「親ヵ」(7号住居)、「几」(24号住居)、「増ヵ」(25号住居)、「是ヵ」(33号住居)、「禾ヵ」(44号住居)、「而ヵ」(45号住居)などがある。また25号住居の土師器坏(5)には体部外面を一周するように多くの文字(一部に記号もしくは絵画的要素を含む可能性がある)が認められるものがあり、欠損部分が多く、また墨の遺存も全体的にかすかなもので、ほとんど判読困難であるが、そうした資料は希少であり注目されるものといえる。読み取り方を工夫し、その記載内容を明らかにすることは今後の課題としたい。

つぎにへう書の認められるもの 2 点についてであるが、 1 点目は48号住居跡から出土の土師器坏で、見込みに 焼成前にへう状工具で、曲線的な流れるような線で 3 画分が書き込まれているものである。「女」という漢字に 近いとも見られるが、とくに漢字と決めてかかる必要はなく、記号的な書き込みかもしれない。当然、出来上が りの坏などに使用段階の書き込みがされる墨書土器とは、だいぶ意味合いがことなるものであり、製造段階での 特定の意味を込めた書き込みと思われるが、その意とするところは現段階では十分に明らかにしえない。 2 点目 のへう書資料は、65号住居から出土の土師器坏の小破片で、その体部内面に絵画的な要素を持つ、焼成前のへう 書が見られる。へう状工具による線の運びは絵画の一部であるとしか思えないが、何分小破片のため何を描いた ものであるのかなど詳細なことはいえない。

以上、概略的に本遺跡における墨書土器とヘラ書土器の在り方について整理を行った。墨書土器はなどは、日常の什器として用いる土師器の坏や皿に一定の意図、目的をもって墨で文字を書き付けたものであるから、その意味するところが問題になる。ほとんどが 1 字程度の断片的な文字情報のため、書かれた文字そのものからそうした意味合いを把握するのはなかなか困難である。あえて考えれば、わずかに I ー11グリッドで確認された「上



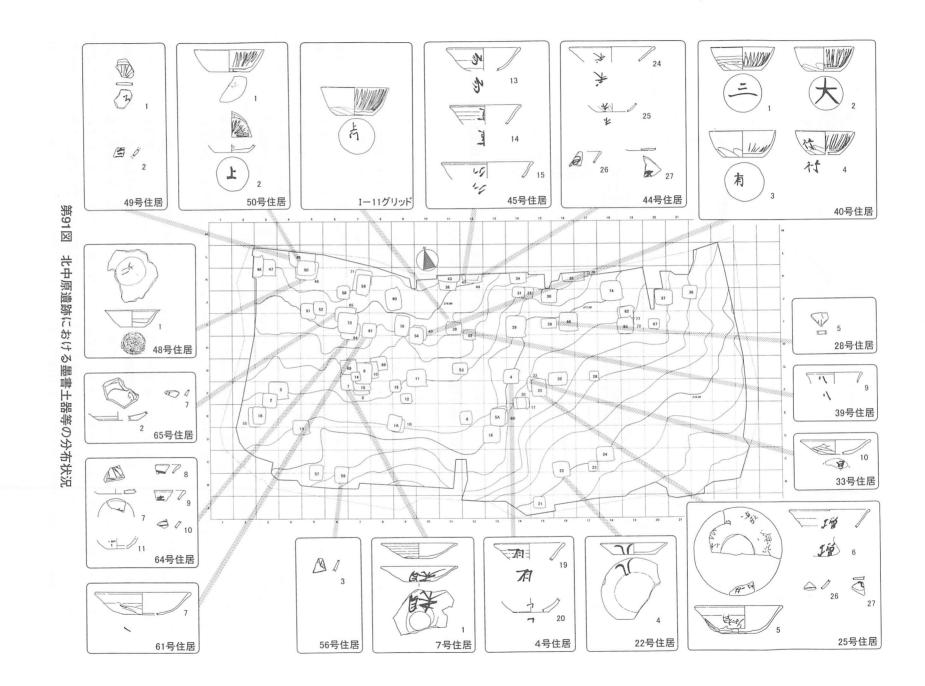
'94.10.27付調査速報『北中原遺跡調査だより 08』掲載図を再構成した 第90図 40号住居跡における墨書土器の状況

門ヵ」と読める墨書などは、2字目が「門」であったとして、上門と呼ばれる施設的なものか、あるいはそれがあった地名などを意味するかとも見られるが、具体的にはよくわからない。

そこでつぎに出土状況なども合わせ見ていくなかで、その在り方に有意性を認められるのではないかとして注目されるのが、40号住居跡における第一段階の墨書土器3点である。第90図にその出土状況を示した。

40号住居跡は、北中原①期の竪穴住居で、確認面からの深さが40数cmと比較的深く、しっかりとした竪穴住居であったが、南西側の上部に③期の54号住居跡が15cmほどの床面レベル差をもって重複し、また北辺東寄りを85号土坑が、40号住居跡の床面から20cmほどまで切り込んでいる状況にあった。どちらの遺構も40号住居跡の床面まで若干の間隔を置いて切り込んでいたので、床面近くに確認された3点の墨書土器は、それらから全く影響を受けずに確認されている。調査段階でまず最初に「大」の墨書のある坏が北東コーナー部で壁にもたれるように内面を上にして斜めに発見された。続いて南東コーナー部でも「有」の墨書坏が、これは壁を離れやや内寄りの位置に正位で検出された。これにより残りの北西、南西の隅を精査したところ、北西コーナー部で「三」の墨書のある坏が、「大」の坏と同様な状態で確認されたが、南西隅では墨書土器はおろか他の遺物も確認されなかった。

このように南西隅を除いて三つのコーナー部から、 3 点の底部外面に墨書の施された坏が見いだされたのであるが、記載された文字とそれぞれの発見された位置との関係や相互の関連などを読みとることはできなかったものの、墨書土器をあえて 3 方向に配したという意図的なものが見られるのでないかと思われる。どのような目的があってこのような配置がなされたのだろうか。単に推測でしかないのだが、竪穴住居を遺棄するときの祭祀の現れではないかと想像される。ほかに同様な、あるいは類似した事例があるのかどうかは、いまのところ確認しきれていない。しかし、こうしたあり方は、文字情報としてはかなりの蓄積になっていても、なかなか具体的な土器への墨書行為の全体像を解明しきれないでいる現状の中で、一定の手がかりとなるのではないかと考えられるものである。



#### 第2節 注意をひいた平安時代遺物

前節では平安時代遺物の中でも中心となる土器について検討したが、つぎには土器以外の資料で注目すべきものをいくつか見ておきたい。

### (1) 古代瓦

竪穴住居内から26点、土坑から1点、遺構外より5点、計32点の瓦を検出している。50号住居跡の完形の丸瓦1点(第77図12)以外は、大部分が破片資料である。住居跡からの出土についても詳細に見ると、カマド内部から出土したものは7点を数え、住居内出土の点数に占める割合は27%で、さらにカマド付近1点というのも加えるとその割合はさらに増すことになる。また複数の住居間で接合したものも2例あることが目をひいた。

種類ごとに見ると、丸瓦21点(66%)、平瓦 9 点(28%)となっており、ほかに軒平瓦の瓦頭部と接合する部位に当たる平瓦部分かと思われるもの 1 点(第76図 4)と、平瓦が変形したような特異なもの(第79図25)が 1 点が確認されている。住居跡よりの出土に限って年代的に見ると、北中原③期と④期の住居跡にほぼ同じくらいの割合となっている。

これらの古代瓦をどう見るかということになるが、今回の調査範囲の中では村落内寺院を想起させるような遺構は見られず、出土した瓦はみな国分寺に供給される目的で作られた物であり、何かの事情でこの国分寺近隣の集落に流れた物と見るのが自然であろう。それにしても小破片が中心ながら結構な量が認められたのであるが、それは本遺跡が甲斐国分寺跡から直線で500mあまりの至近距離にあるために、こうした数が確認されている、というのが第一議的な説明になろうかと思われる。しかし国分寺との空間的な位置関係だけで瓦の存在は説明しきれないのではないか。ほぼ同程度に距離をおいた笠木地蔵遺跡(1980~81年に約1万㎡を調査)や北堀遺跡(1980~81年に約1万㎡を調査)などでは、今回以上に広範囲の調査にもかかわらず量的には本遺跡を下回っていることなどを併せ見ると、国分寺とのかかわり方(時期や関係の深さ)などにおいて一定の事情があったのではないかと推測される。今後さらに詳細な年代的物差しと国分寺周辺遺跡群の出土情報の悉皆確認とによって定量的に分析し、国分寺と周辺集落との関係を浮き彫りにする作業が必要となり、そうした中であらためてここでの瓦のあり方の評価が定まることになろう。

### (2) 鉄製品・砥石・鉄滓・鞴羽口

この調査で確認された鉄製品の豊富さについても注目される。第80図に図示しただけでも32点があり、図化するほどにいたらなかった小片まで含めればさらに多くなる。全体的に見て、これは近隣の遺跡でのあり方と比べても多いといえるのではないかと思われる。その鉄製品について、帰属する住居から年代を推定できるもので見れば、②期から④期にまとまっており、とくにその60%は③期に集中している。

内容的に見ると、刀子・鎌・斧・鉄鏃などの利器や、釘、その他いくつかの性格未詳の形態のものなどがある。それらの中で出土状況の上で注意されたのは、31号住居跡から1点の刀子(第80図10)で、住居北西寄り壁際の貼り床下から検出されたものである。これは豊富な利器のうちの一つを竪穴住居の構築過程で、貼り床の下に埋め込みながら行われた地鎮めの祭祀の跡、と理解されるのではないかと思われる。また30号住居跡の西壁寄りの床面直上から出土した三日月形の板状の鉄製品 1 点(同図11)は、類例の見られない用途未詳のもので、類例の追加を待ちながら性格を考えていくべき資料である。

もとより古代において鉄は貴重で、痛んでも小鍛治などで補修して使い続けたり、打ち直して別な製品とし再利用されたりするものと考えられていて、なかなか簡単に廃棄されるものではないと見られている。ということで、遺跡から出土する鉄製品の量がそのまま当時の鉄の使用量と見ることはできない。こうした前提に立って本遺跡の出土鉄製品を見るれば、あらためて比較的多めの出土のし方に注意が向くのである。

しかし鉄製品の豊富さばかりではなく、利器としての鉄を研ぐのに用いる砥石の量も、図化されたもので20点(第82・83図)という数にのぼっていることも特筆されよう。大部分がにぶい黄橙色をした砂岩製で、ほかに凝灰岩、緑色凝灰岩、花崗岩類などを用いて作られている。総数20のうち18点は住居跡出土で、それぞれの住居の年代によって分析すると、①期から④期に及んでいるが、50%は③期に属し、28%は④期のものとなっている。こうした点は鉄製品のあり方と相関性を持つものと思われる。

つぎにとりあげるのは、鉄滓と鞴の羽口である。まず鉄滓は十分に出土量を把握し切れていないが、住居の覆土中や遺構外に多く散見されている。その中で第81図 4 に実測図を掲出したものは、③期の13号住居跡から出土したもので、碗形をしている。何か取瓶のような容器におさまって固まった状況を想起させるものである。

また羽口は、②期の45号住居跡覆土から1点(第81図1)、④期の74号住居跡覆土から1点(同図2)、遺構外で1点(同図3)の3点が確認されている。

### (3)50号住居跡における「被熱土塊」

50号住居跡は、北中原①期の竪穴住居で、同じ①期でありながら50号住居跡より新しい49号と、これと床面レベルをほぼ同一にしながら切り合う、③期の48号の2軒の竪穴住居の張り床下に確認されたものである。すなわち、重複する2軒の寄り新しい住居に、床面から30cm程度までが封じ込まれた状況が50号住居の検出状況であり、その住居内の東半部の覆土中に、床面に対し間層をそう置くことなく、注目すべき多量の「被熱土塊」(仮称、以下同じ)は存在したのである。伴出した土師器の坏は、9世紀代前半の年代に位置づけられるもので、以下に見る被熱土塊の年代も、平安時代の初め頃の西暦820~30年前後の所産になるものと理解される。

被熱土塊と仮称したのは、発掘調査段階で、スサなど入れながら土を固めて何らかの高熱を扱う施設付近にあり、それがやがて解体され、その施設を構成していたと思われる土のかたまりが、50号住居内に廃棄されとものと予想されていた。しかし、本来どのようなものであったかがまったく想像もつかなかったため、整理調査段階で、つぎに見るような観察要点に基づいて暫定的にその呼称を考えた結果である。当然これは、今後の類例等を検証して適切な名称に改められるべきものであるが、現時点ではここでこの呼称することにより報告を行うことを許されたい。

さて、被熱土塊の検出状況を見ると、住居の東寄りに積み上げられるようにまとまって見られ、一方向から竪 穴内に投棄されたような状況を呈していた。それを覆う土層には、ところどころに焼土が混じっており、伴出遺 物の多くも焼土に紛れていた。

住居覆土に混じて確認された時点で、被熱土塊は、施設の一部として高温下で溶融し冷却後に固まり、結果的にかなりの強度を持ったものも一定の割合で見られたが、多くは脆弱で崩壊しやすい状態であった。いくつかのブロックに分けて取り上げを進めたが、取り上げたばかりの時点では水分が多く、取り上げ後は第一に十分な自然乾燥をおこなった。乾燥の後は、ブラシと写真器材のブロワーでクリーニングし、適宜酢酸ビニル樹脂系の接着剤の水溶液を時間をかけて塗布・含浸させ、固定をはかった。

こうした取り上げ処理の結果、17cm大から 1 cm大まで、大小421点の被熱土塊が確認され、その総重量は29,637 グラムとなった。

これらの被熱土塊を観察すると、つぎのような諸点が認められた。

- ①平らな面を有するもの……………… 26点 (6%)
  - ・しかもそれが平滑な状態のもの………… 13点 (3%)
- ②曲面を有するもの………… 29点 (14%)
- ③指頭による調整痕を有するもの………… 55点 (13%)
- ④溶融面を有するもの………221点 (52%)
  - ・しかもそれにガラス化が見られるもの……… 34点(8%)
- ⑤鉄錆が見られるもの……………… 63点 (15%)
- ⑥スサが入るもの……294点 (70%)
- ⑦スサの入らない被熱土塊…………127点 (30%)

上記の観察要点に対し、あわせて該当する資料の点数および総量に対する割合を示したが、それらは重複カウントされた数字である。

ここで確認されたそれぞれの点について踏み込んでみると、何かの構造体の一部であったことを示す平らな面または局面をもつものが20%程度あること。全体の3%ほどのものに何かの型の一部であったことを窺わせる平滑に仕上げられた状況が見られること。また表面に指頭による整形のための痕跡を有するものが13%あること。ほぼ半分の資料には溶融面が見られ、しかもそのうちの15%ほどのものにはガラス化が認められること。全資料の15%に鉄分の付着が観察されること。7割の被熱土塊にスサの混入が見られること、などが所見としてあげられるのである。

つぎにこれらはいったい何であったのか、を検討すると、最初にいえるのは、何かの構造体(施設)を構成していたものらしい、ということだ。しかも、それはたいへん高い温度を扱うものと見られる。別にまた、資料の一部に型のようなものが存在する、ということも注意される。

調査段階では、土器を焼成する窯のようなものと考え、窯胎が崩されたようなものである可能性を想定して処理を進めたが、クリーニング後の観察により、溶融面にガラス化した部分がかなりの割合で見られることなどから、窯の場合より高い温度を扱った可能性があり、またそうした溶融面に鉄分の付着がまま見られることなど考え合わせると、一概に窯を想定するわけにも行かないと思われようになった。そして結果的にどうかというと、現時点では、性格不明のまま被熱土塊として暫定的な報告となったのである。この段階で性格を見極めることは困難であるが、確実にいえることは、9世紀前半代に、住居の廃絶とともに、近くに存在した施設が解体され、

投入されたということである。

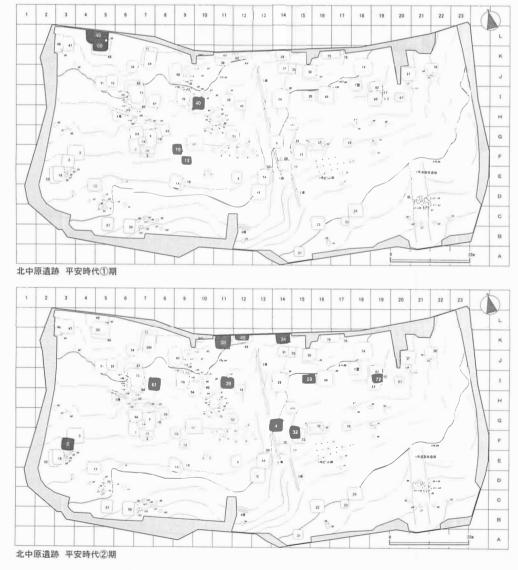
#### 第3節 平安時代集落の変遷と位置づけ

前節まで土器やその他の出土遺物について少々踏み込んで見てきたが、そこでの検討結果を踏まえながら、この遺跡の歴史的な位置づけ、あるいは性格について確認したい。

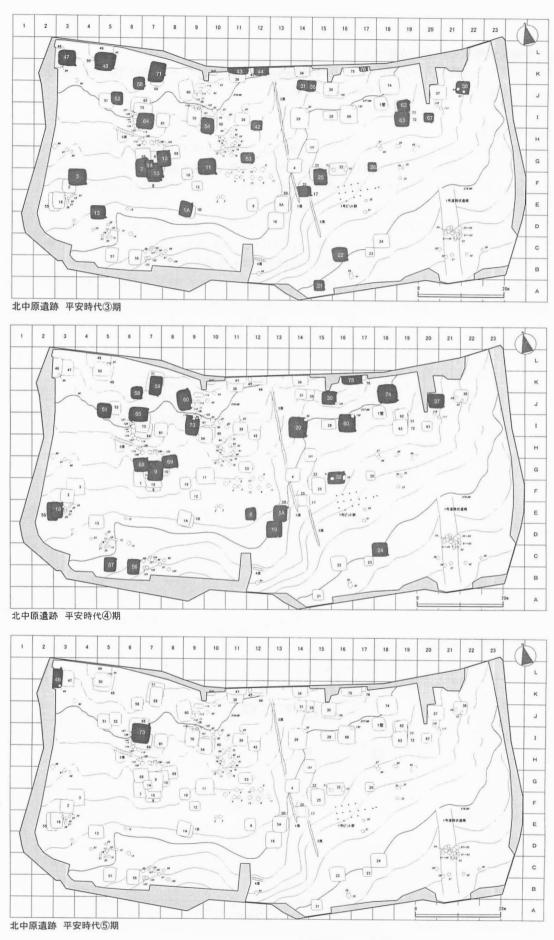
#### (1) 集落内の変遷

今回調査の実施範囲において明らかになった平安集落は、土師器の年代検討から5段階の変遷をたどるものと理解される。なお、住居跡のなかには遺物を伴わないなどで確実な時期を把握しがたいものも若干あるが、それらを除き、北中原①段階から⑤段階までの変遷を、第92・93図に示した。土師器の時期区分は50年単位を目安としており、このため集落の動向の把握には十分とはいえないが、概略の傾向を掴むことができると考える。

既にふれたように①則から②則に移行する間には50年前後のブランクが考えられ、集落としては②期から⑤期にいたる150年余りの消長に中心がある。この間、各期のいくつかの住居の配置にある程度の計画性をうかがえるように見受けられること、特定の場所に継続的に住居が営まれる所があることなどが気付かれる。前者の点に関しては、個々の住居を見たとき、それぞれの設営された場所が、地山の礫層までが深く床面が安定しているものもあるが、地山礫層が生活面近くまで上がっていて、床面に礫の路頭が現れるようなものも多く見られ、そうしたものについては、その背後に、竪穴の掘削に向かない状況でもあえてその場所に設営することを求めた意向が存在した、と推定されるのである。



第92図 北中原遺跡における平安時代住居の変遷 (1)



第93図 北中原遺跡における平安時代住居の変遷 (2)

#### (2)竪穴住居内の礫の問題

今回の調査で確認された竪穴住居の大部分の住居で、覆土内、とくに床面近くに自然礫の存在が認められた。こうした礫の存在については、甲斐国分寺跡周辺の平安遺跡では、かなり一般的に見られるようで、そのためもあってか、その存在意義についてはあまり省みられることはなかった。今回の調査においても、途中までは何ら特別な注意を払うことなく進んだが、26号住居跡の調査段階で、以下ような経過から、礫の詳細観察の必要性を認識するに至った。

26号住居跡は、小振りの竪穴住居であったが、石組みカマドを東壁の南寄りに持ち、その石組みの残存状況は、両サイドの袖石の上に架けられた前後の梁石まで残る、たいへん良好なものであった。

そして、そのほぼ原型をとどめる石組みカマドの前面に床面に接して、礫が積み上げられており、詳細に観察したところ、それらの自然礫の中には煤の付着が見られるものがいくつか認められたことから、カマドを解体した際の、構築材であった礫を投棄したものとの認識を持った。問題は、当該住居のカマドの石組みは、解体を受けずにいるのに、そのカマド前に、ほかの住居から抜き取られたと見られるカマド構築材の礫が積み上げられておれば、その住居は廃棄されたも同前で、これはすなわち複数の住居の廃棄がなされていたことを意味するのか、というものである。

調査段階の当初には、ある程度カマド解体の事例研究のことは念頭にあったが、それは個々の住居の中で完結することがらという程度に認識がとどまっていた。しかしこの26号住居跡を契機に見方が変わった。そうした現象はきわめて特異なものか、それとも現象に程度の差はあれ一般的なことなのか。それによっては集落像の現実への理解がまったく変わってくることになる。このため、それ以後は状況を見て、出来る限り竪穴住居内の礫の存在に注意を払い、調査を進めてきた。

具体的には、①礫の出土位置を平面図に書き込み、②ほぼ全てにナンバーを振り、③レベル等の記録後は、④ 水洗いをして、煤の付着の有無やひび割れ等の被熱の状況を観察した。さらにカマドとの関係が良好なものについては、取り上げを行い、⑤再度洗浄し、⑥実測し、煤の付着状況やひび割れなどの状況を書きとめた。

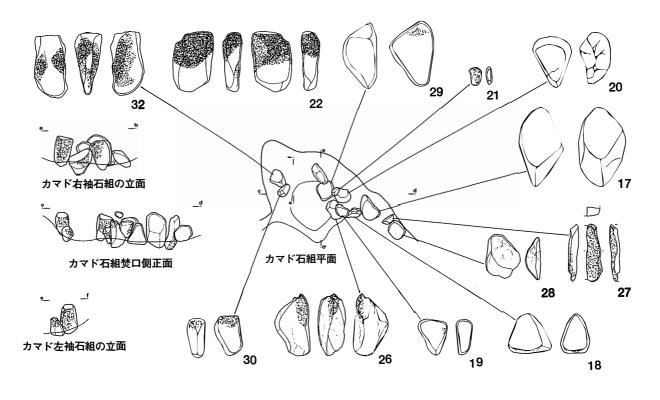
調査行程の後半でこうした観察を進めてきたが、その成果の一部として第94~96図に、34号、37号、42号住居 竪穴住居内での礫の観察結果を示した。それぞれにカマドの石組みにかかる礫と、それ以外の礫とに分けて、形 状や煤の付着状況、ひび割れ等を記録した個々の礫の実測図を、その出土位置と合わせてを示したもので、これ により、先にあげた住居内の礫の問題に迫ってみたい。

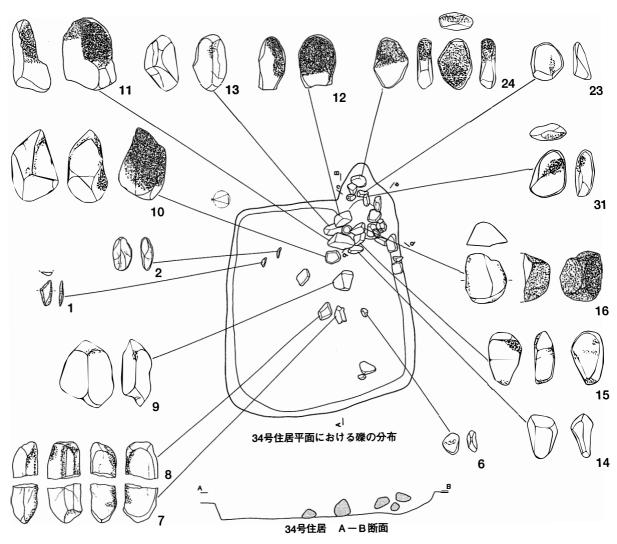
まず34号住居跡(第94図)から見る。礫の番号は調査段階の取り上げ順を示しているもので、欠番もあって多少わかりにくいが、 1 から16までの11点はカマド前面を中心に住居内に残された礫であり、17から32までの15点はカマドの石組みを構成していたものと考えられる。ここでのカマドの石組みは、左側袖石列の前よりの 2 石ないし 3 石と前後の梁石を失っている状態である。一方住居内の礫はというと、 7 と 8 は接合し、その形状からすると明らかにカマド焚き口側の梁石である。26号住居跡などでもそうであるように、焚き口側の梁石は強い被熱のため中央で割れる傾向がある。結論は下せないが 7 と 8 の礫はこの住居のカマドの梁石であったと見ることもできる。  $9\cdot10\cdot11\cdot12\cdot13\cdot15\cdot16$ などはカマドの石組みの袖石に相当する礫である。この住居では、いま見たように欠失する袖石は多く見て 3 個と推定されるので、住居内に分布する袖石と見られる礫は、数の上で多すぎるといえ、多い分は他の住居の石組みカマドから供給されたとの見方が出てこよう。

37号住居跡(第95図)について見ると、これも34号と同様な礫の遺存状況が見て取れる。 1 から19までの15点はカマド付近の住居内に残された礫であり、51から82までの22点は石組みカマドを構成する礫(同図の上段)とやや原位置を離れた石組み関係の礫(同図中断)である。図の上段に見るように、この住居のカマド石組みは焚き口側の梁石を失う程度でかなり良好な遺りといえる。カマド燃焼部に見られる69は支却に相当するものかと見られ、64・67・79などの小さめのものは、石組みの隙間の詰め石であったと考えられる。さて、カマド焚き口前に横たわる55の礫は形状と煤の付着状況から、ここの梁石である可能性が高い。しかし、7と14の礫もやはり焚き口側梁石そのものと見られるので、これだけでも1軒分のカマド部材としては多すぎることがわかる。34号住居跡における袖石の場合と同じように、他の住居からもたらされたものがあることの例示の一つとなろう。

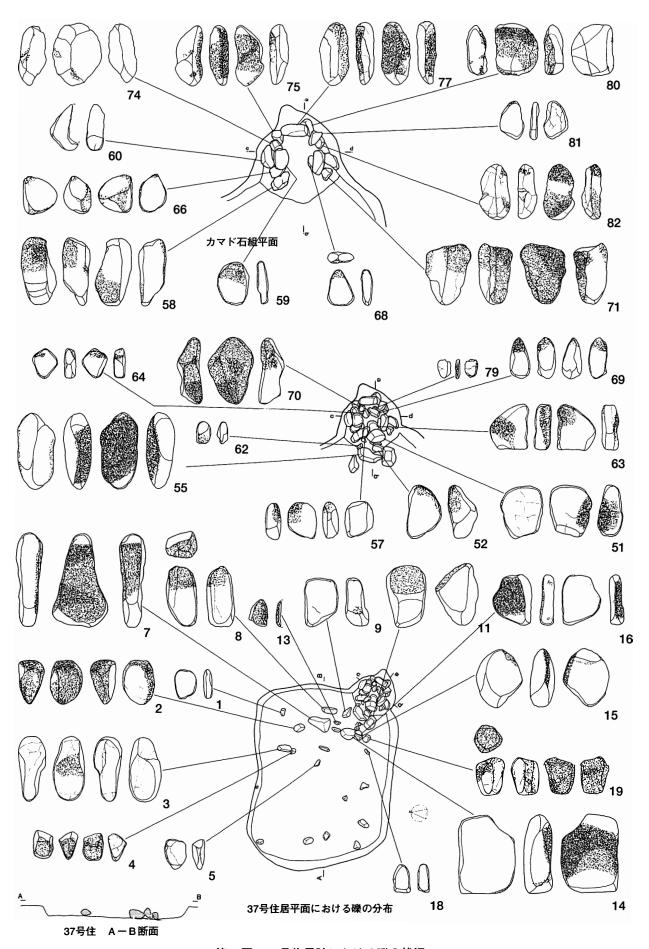
つぎに42号住居跡の場合(第96図)であるが、これはこれまであげた 2 軒とは違い、必ずしも他から礫がもたらされたとは限らない例である。この住居跡の中央には、煤や被熱の痕もなく、一人の力では持ち上がらない大きな礫が床面直上で検出されている。その近くに見られた 4 の礫は焚き口側梁石であり、この住居のカマドのものである確率が高い。

このように 3 軒の状況を見ると、42号住居跡の場合のように、その住居の中でカマド構築材の礫の解体が考えられるケースもあれば、34、37号住居跡の場合のように、他の住居のカマドの解体を前提にしなければ、理解できないような例もあることが理解できよう。こうした見通しは、一歩進めて具体的に集落の動態的把握を進める

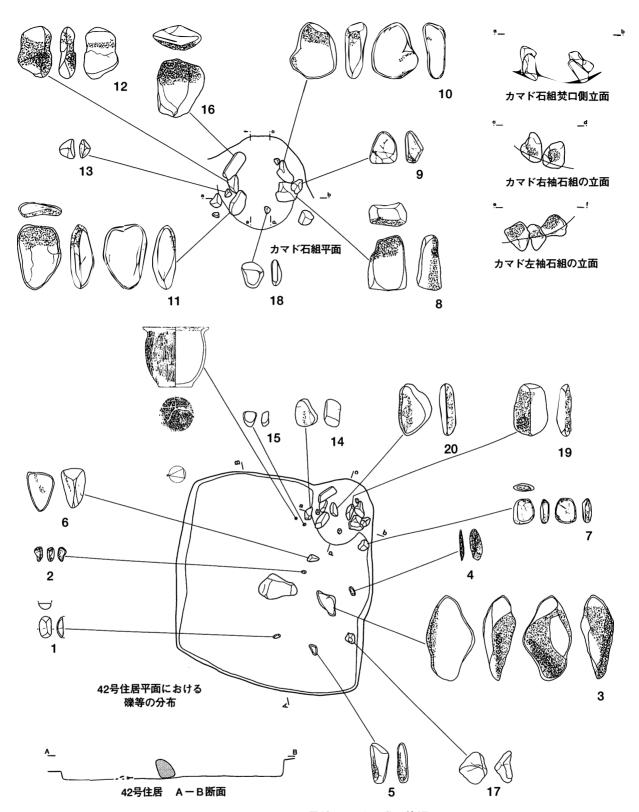




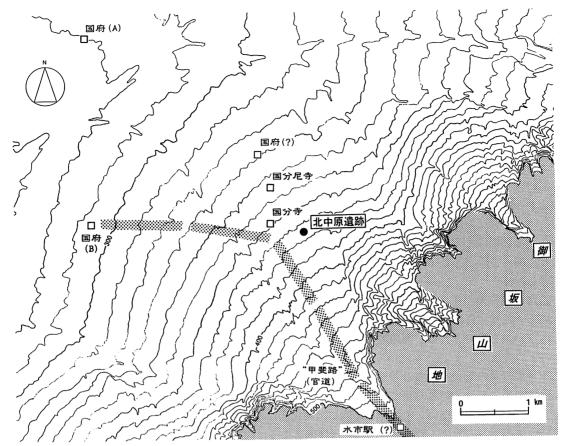
第94図 34号住居跡における礫の状況



第95図 37号住居跡における礫の状況



第96図 42号住居跡における礫の状況



第97図 北中原遺跡周辺の古代情報

材料として有効だと思われるが、さらに検証を必要としていることでもある。

#### (3) 北中原古代集落の位置づけ

これまで、集落の変遷と、その細部に内在する住居の廃絶にかかわる事象としての住居内の礫の問題を見てきた。そこで終わりに、この北中原の平安集落の位置づけを考えておきたい。

細かく見ると①期とした時期については、集落はさらに北側に展開するのではないかと推定され、ここにはその一部が現れていると考えられる。全体的な把握は難しいが、50号住居跡に廃棄された被熱土塊の存在から、この段階の集落の中には、高熱で処理を行う工房が存在していたとの推定もなされる。

また、北中原③期から④期の時期を中心にした段階では、国分寺所用瓦の破損品が集落内に多く持ち込まれる。 また豊富な鉄製品と、それを研ぐ砥石、鞴羽口や鉄滓などが目に付き、活発な生産力をもった集落像が浮かび上 がる。

さらに踏み込んだ詳細な関連性は明確にしがたいが、いずれにしろ甲斐国分寺と有機的な関係の下に存在した、 国分寺周辺集落の一つとして位置づけて間違いない集落であろう。

第97図に平安時代の北中原の歴史的な位置を示した。西方 1 km足らずのところに甲斐国分僧寺が、その北側に国分尼寺が置かれていたことは、第 2 章でもふれたとおりで、この遺跡の位置づけを考える上で、繰り返すまでもない重要なポイントといえる。また、初め北西約 5 kmの春日居町国府に置かれた初期国府は、この時代には西方 3 kmの御坂町国衙に移転していたと考えられている(さらに、国分寺の北方 1 km余りに移転したとする三転説もあるが確証は得られていない)。その後期国府も考古学的に確認されてはいないが、後期国府推定地から国分寺周辺まで、二之宮・姥塚遺跡や大原遺跡、狐原遺跡など、いくつかの重要な集落遺跡が確認されている。これらは古代の甲斐国の中心地域に位置を占める拠点的集落であり、本遺跡のような国分寺周辺に散在する集落群もそれらに含めてとらえることも出来ようが、こちらはとにかく国分寺との少なからぬ関連を第一に重視して見ていく必要があるように思われる。というのは、本遺跡の南と東に隣接して発掘調査が行われた笠木地蔵遺跡や北堀遺跡と対比してみたとき、それぞれの集落の年代が少しずつずれており、集落の位置が徐々に移り変わっているように思われるのである。平安期全体から見てたいへん早い動きといえ、それは時々の国分寺の置かれた状況と結びつくのではないかと推測されるからで、今後この点をさらに深めて見ていく必要があると思われる。

#### 第4節 中世遺構について

今回の調査においては、主体となった平安時代の遺構群に混じって、いくつかの中世の所産と見られる遺構が確認された。ここでは、それらの性格を、遺跡周辺に見られる中世の情報と関連させながら若干の検討を試みる。まずここで関連する成果を再度確かめておくと、明確な遺構としては1号道路状遺構があり、また状況的に中世になると思われるものに1から5号までの溝状遺構と1号竪穴遺構がある。ほかに中世の陶器片等が見られたことなどから中世と判断された土坑が数基ということで、遺物では、蓮弁文の青磁碗の破片や常滑やそれに類似

このうち、もっとも注目されるのは、調査区のやや東寄りのところを南北に、直線的に横切るかたちで確認された、1号道路状遺構である。

する焼き物の断片的資料、若干の北宋銭といったところであった。

その幅約4 mで、長さ約29m分が確認された。南側の延長は調査区外に続くと見られる。北側については途中から確認できなくなったが、おそらく真っ直ぐ北に続いていたものと推定される。部分的に側溝が確認されたが、基本的には浅い皿状の断面形をしており、幅の中程では良好な硬化面が認められたが、両側寄りでは硬化が弱くなるといった状況のものであった。これを道路と見たのは、道路以外の遺構としては考えられないような長さと幅をもち、加えてほとんど平坦な底面に強い硬化面が形成されているからで、積極的に道路跡と呼称してもよいかとも思われる。

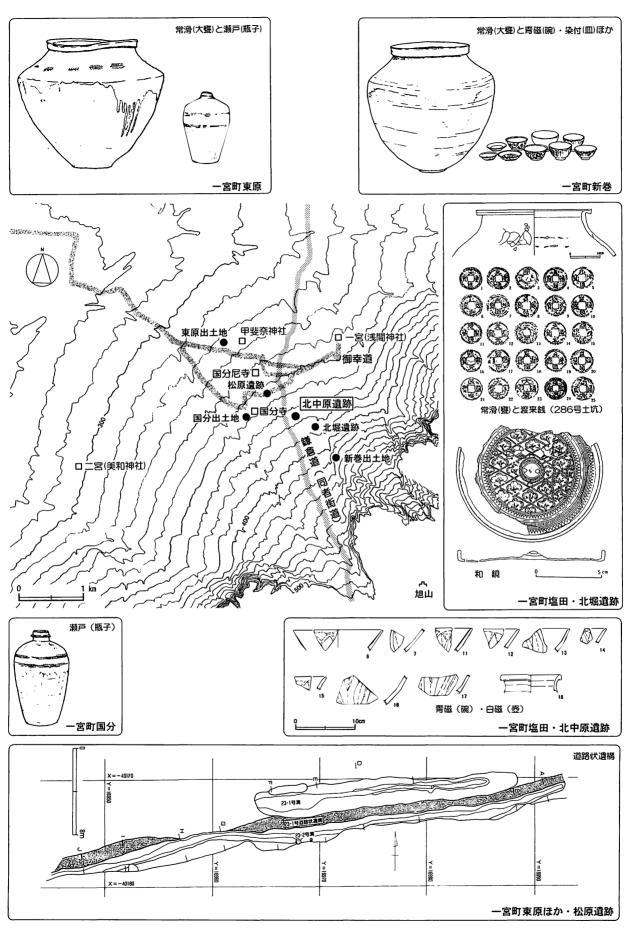
この道路状遺構の年代は、一部で平安末ないし中世の初めと見られる土坑を覆うように造られていることや、硬化面近くで蓮弁文青磁碗片(第74図 7)が出土していることなどから、中世の所産で、細かくは14世紀前後くらいではないかと推定される。周辺地形に合わせて南から北に傾斜を持つものの、直線的に通過していく点に特徴があるといえよう。

また1号溝(その延長である3号溝も含めて)と2号溝は、平面的にのみ見ると相互に、道路の側溝に当たるような位置関係にある。両者の間には2号が高く1号がやや低いという若干の高低差があるが、道路の両側側溝との推定を阻むほどではない。二つの溝の間には硬化面などの確認はなく、この点に関していえば直ちに道路遺構とはいい難いが、方向は1号道路状遺構とほぼ同じようになる。

この周辺で道路の遺構というと、地元の一宮町教育委員会が1991年に調査した松原遺跡での調査例が参考になる。これも出土遺物などの状況から中世の所産で、そこでは東西方向に延びる幅約1 m、長さ約49mにわたる硬化面が検出されている(一宮町教委ほか1992)。幅1 mとういのは調査が道路の拡幅に係る細長い調査区であったことや並行するより新しい溝状遺構に切られていたためで、本来はそれ以上の幅があった本格的な道路遺構であったと見られている。報告ではこの道路遺構について、確証はないながらも「御幸道」との関連を想定している。御幸道は、甲斐一宮浅間神社から川鎮め祭礼の折りに御輿が御幸する道路で、1967年に刊行した『一宮町誌』や、山梨県教育委員会が1980年代に調査を行い『山梨県歴史の道調査報告書』として刊行した成果を参考にすると、松原遺跡の道路状遺構については、その蓋然性が高いと思われる。本遺跡の道路状遺構も同じように考えると、こちらは現在本遺跡の西側を掠めるように通過している「同者街道」に沿ったものもであり、より古い段階にはこれが同者街道であったと考えることが出来ないだろうかと考えられる。同者街道とは、秩父方面あるいはその先の北関東からの富士講の行者(同者)が通ったと伝えられている古道で、「鎌倉道」の支道の一つである。もっとも中世の前半に「御幸道」とか、「同者街道」などと呼ばれ、あるいは名称の由来となるような道路の性格が定まっていたかどうかはわからない。それぞれの古道が一定の性格づけによる位置づけが定まってきたのは中世後半のことではないかとみられるからで、だが、名称はともかくとして中世前半から往来の固定は民間ベースで進んでいたことは想像に難くない。すなわち第98図に示したような状況が推定で復元される。

ところで、この北中原遺跡の所在地は、中世では塩田郷の中にあり、古代末から中世にかけて、かなり活発な歴史的展開があったものと考えられ、それを物語る "塩田の長者" 伝説というのがよく知られている。よくいわれることだが伝説はそれそのものが事実ではないことが一般的だが、伝説の成立する背景にはおおかた実際に存在した事象が底流に横たわっているのであり、塩田長者伝説に関しても、国分寺に隣接して繁栄した古代集落の展開を下敷きに、つぎの中世の枠組みの中でも新しい流れに乗った勢力がこの地域に隆盛したことを示唆するものと考えられる。第98図に古道の展開と合わせてまとめたように、この周辺に中世の遺物が比較的まとまって見られることはよく知られている。

今回の発掘調査では、初めに課題づけられた平安期の遺構の把握に主眼がおかれ、中世の遺構や遺物の把握には焦点が定まらないまま進められてきたので、道路状遺構にしても、その他の遺構・遺物にしても、今ふれた中世塩田郷の実像に迫るにはなお不十分な成果であるが、当時のこの地域の隆盛に直接結びつくと考えられる内容がこれでまた一つ追加されたことは間違いないと思われる。



第98図 北中原遺跡周辺の中世情報

#### 第6章 調査のまとめ 一問題点と課題ー

県営住宅建設に起因しての 2 年次にわたって発掘調査が実施された北中原遺跡は、試掘調査以前にもたれていた当初の見込みをはるかに上回るものとなった。というのは、甲斐国分寺跡の近傍でありながら、周知の遺跡として把握されていなかったこともあり、こうした重要な中身をもつ遺跡が表面観察では、なかなか把握し得ないという限界があったためである。そうしたなかで、関係者の調整の末、記録保存の措置がとられ、結果的に大きな成果を得られたことは幸いであった。

調査成果の中心は、何と言っても平安時代の集落跡の状況がまた一つ具体的に明らかとなったことにある。 9世紀代から11世紀代までの77軒の竪穴住居からなる古代の集落は、地域の歴史の変化をつぶさに反映したものといえ、 9世紀の前半にわずかな竪穴住居がこのエリアに登場し、半世紀ほどの空白期をおいて、10世紀から11世紀半ば頃まで全面的な展開が見られた。しかし、11世紀後半にはエリアの中の集落は急速に衰退していく。その消長には何らかの歴史の必然性が込められているのであろうが、今回の調査とその成果報告の中だけでは明らかにし得なかった問題であり、今後の課題といえる。

出土土器については、土師器坏を中心にその変遷を5段階に設定してみた。さらに詳細な段階設定が求められようが資料的にまた時間的にそれ以上は出来ずに終わっている。墨書土器については甲斐での出現~発展期に当たる第一段階と盛行期に当たる第二段階の資料が確認されているが、その判読については課題を残すものもある。また土器以外にも国分寺所用瓦が比較的多く見られたり、鉄製品そのものや砥石、さらに鉄滓や鞴羽口など、盛んな鉄の利用をうかがわせる資料も豊富に出土しているなど、この遺跡の性格を考える上で注目されるデータが多く得られているが、それらを注意深く分析し、十分な歴史的位置づけを行うことも今後に残された。

今回の調査では、主体となった平安時代の遺構群に重複して、いくつかの中世の遺構が確認され、また将来品と見られる青磁碗の破片資料なども併せ見て、伝承される中世塩田郷の隆盛の一端を物語るものと考えたが、とりわけ南北に延びる道路状遺構は、現状でなかなか把握しえていない状況にある中世の遺構を見定めていく上で注目されよう。だが、ここでも多くをこれからの該期の調査研究にゆだねる結果となっている。

調査では多くの知見が得られたが、またそこから多くの課題をかかえたことを確認して結びにかえたい。最後に、調査に関しご支援ご協力頂いた多くの方々に感謝の意を表し、内容的に十分とはいえないまでもこの報告が各方面に利用され、地域の歴史理解の一助となること願って報告を閉じることにしたい。

(参考文献)報告に当たって多くの文献を参考にしたが、基本的なもののみの掲出とする。

一宮町教育委員会ほか 『松原遺跡』 1992

猪股喜彦 「山梨県における出土硯をめぐる現状と課題」『山梨県考古学協会誌』第6号 山梨県考古学協会 1992

上野晴朗ほか 『一宮町誌』一宮町誌編纂委員会 1967

瀬田正明 「甲斐型土器の年代」『甲斐型土器ーその編年と年代ー』甲斐型土器研究グループ・山梨県考古学協会 1992

巽淳一郎ほか 『古代の土器研究ー律令的土器様式の西・東3 施釉陶器』古代の土器研究会 1994

玉口時雄・小金井靖 『土師器・須恵器の知識』東京美術社 1984

中世土器研究会編 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995

萩原三雄 「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨考古学論集』I 山梨県考古学協会 1986

平野 修 「山梨県内出土の墨書土器と線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第4集 帝京大学山 梨文化財研究所 1992

保坂康夫 「山梨県下の平安時代鍛冶遺構の様相」『山梨県考古学協会誌』第5号 山梨県考古学協会 1992

保坂康夫 「甕」『甲斐型土器ーその編年と年代ー』甲斐型土器研究グループ・山梨県考古学協会 1992

森原明廣 「山梨県地域における古代末期の土器様相―「甲斐型土器」の消滅とその後察」『丘陵』第14号 甲 斐丘陵考古学研究会 1994

山下孝司 「坏」『甲斐型土器ーその編年と年代ー』甲斐型土器研究グループ・山梨県考古学協会 1992

山梨県教育委員会 『御幸道』山梨県歴史の道調査報告第17集 1988

山梨県教育委員会 『鎌倉道』山梨県歴史の道調査報告第18集 1988

山梨県教育委員会ほか 『北堀遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第7集 1985

山梨県教育委員会ほか 『笠木地蔵遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第12集 1985

# 図 版



発掘調査前の状況(北西から)



試掘調査作業状況



試掘調査実施状況

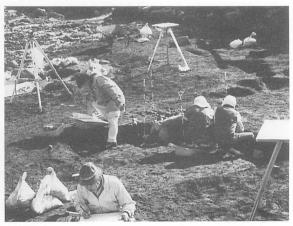


第一次調査全景 (北から)

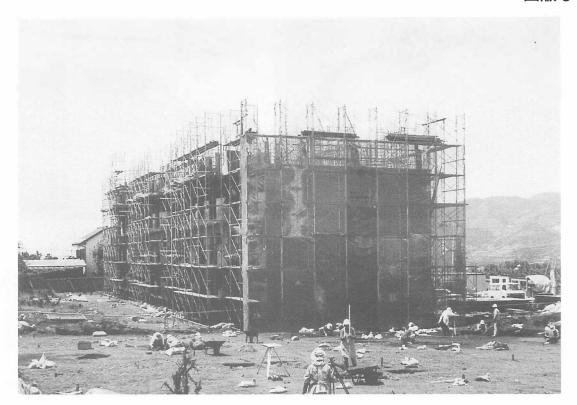


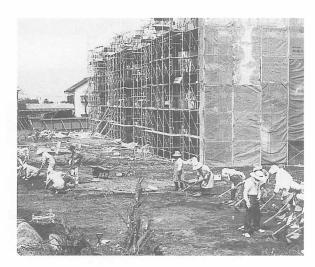






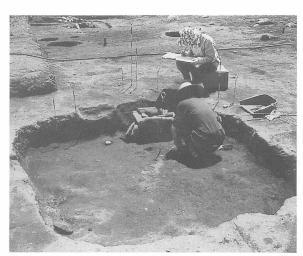
第一次調査の状況





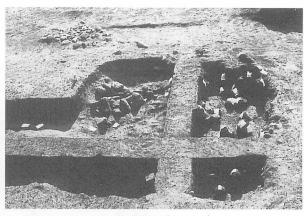




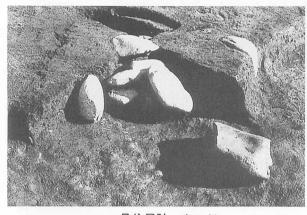


第二次調査の状況





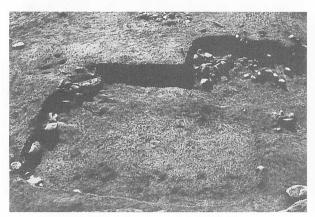
2号住居跡(北から)



1 A号住居跡 カマド



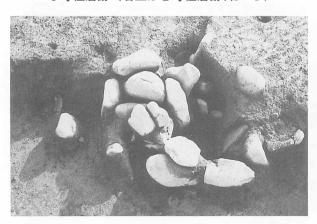
2号住居跡 カマド



3号住居跡(右上は2号住居跡、北から)



2号住居跡 鉄製品・釘



3号住居跡 カマド



18・2・3号住居跡(右より、南東から)



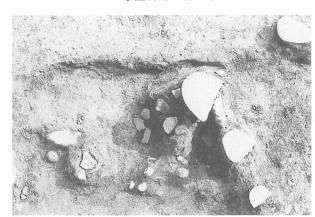
4号住居跡(東から)



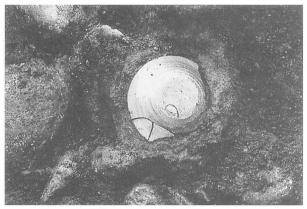
4号住居跡 カマド



5 A・5 B号住居跡(東から)



5 A 号住居跡 カマド



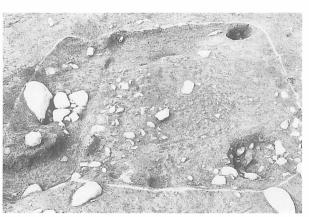
5 A 号住居内土坑 土師器・皿(3)



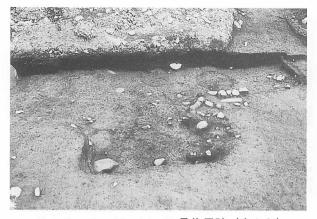
4~6号住居周辺の調査状況 '93.11.25



6号住居跡カマド周辺



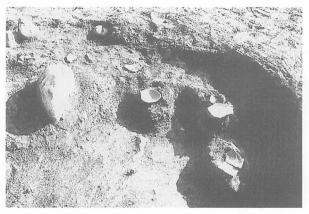
6号住居跡(北から)



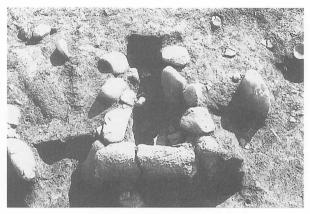
7 ・8 ・9 ・10・14・15号住居跡 (南から)



15号住居跡周辺の床面下部の土坑



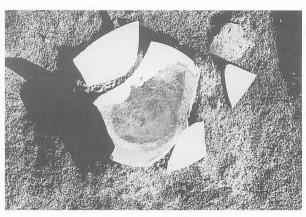
8号住居跡 カマド



15号住居跡 カマド



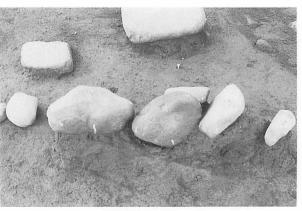
8号住居跡 鉄製品・鎌



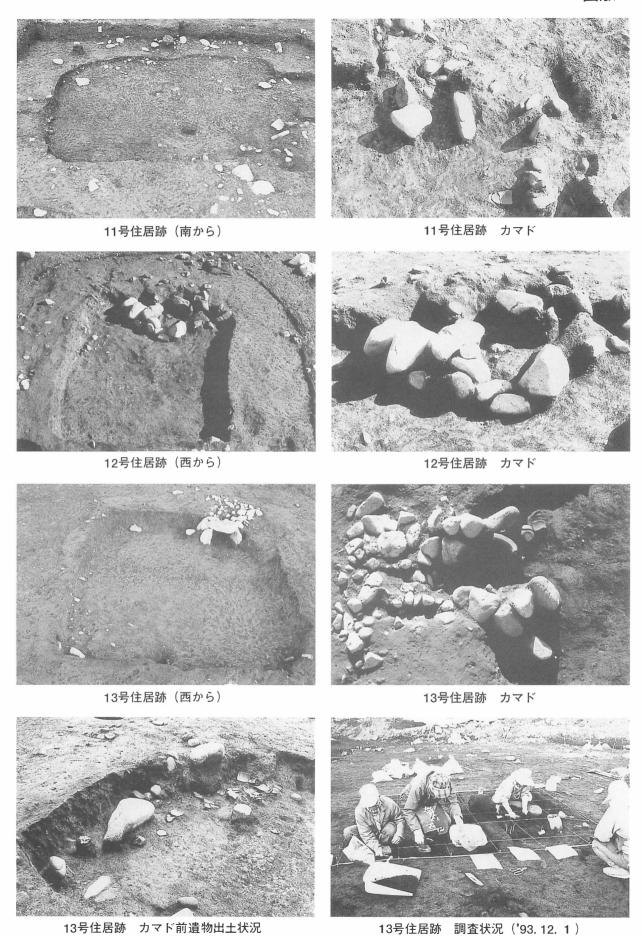
15号住居跡 灰釉陶器・椀

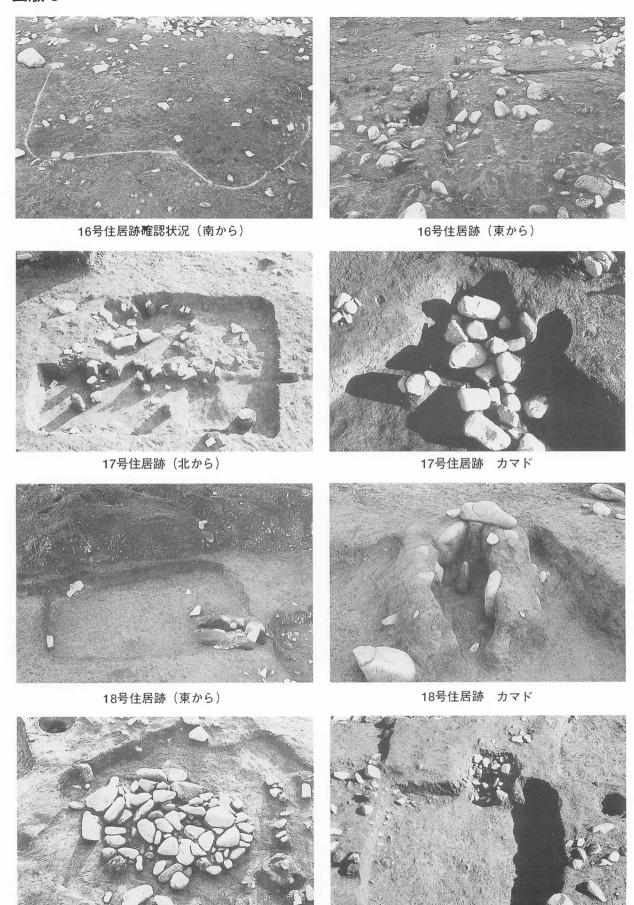


10号住居跡 カマド



14号住居跡 カマド





19号住居跡(西から)

19号住居跡(北東から)



21号住居跡 (西から)



手前左より21・22・23・24号住居跡(南から)



22号住居跡 (西から)



22号住居跡 カマド周辺



24号住居跡(東から)



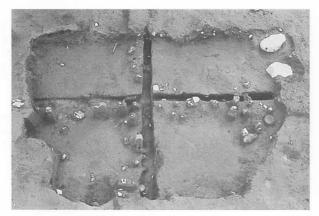
24号住居跡(北から)



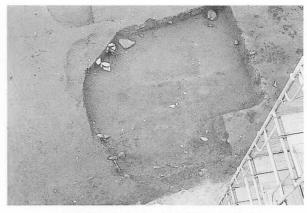
24号住居跡 カマド



24号住居跡 灰釉陶器・椀など



25号住居跡 遺物出土状況(東から)



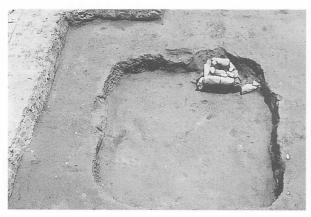
25号住居跡および33号住居跡(西から)



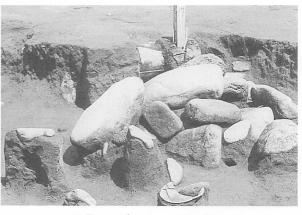
25号住居跡 カマド前の状況



25号住居跡 カマド



26号住居跡 (西から)



26号住居跡 カマド前の状況



26号住居跡 カマド



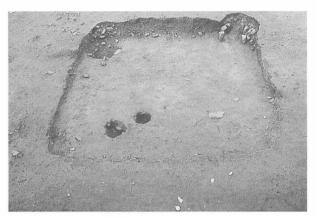
26号住居跡 調査状況



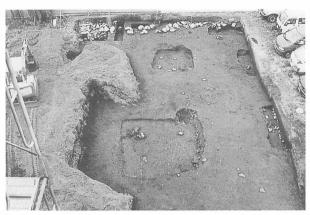
28号住居跡(東半、北から)



28号住居跡(西半、西から)



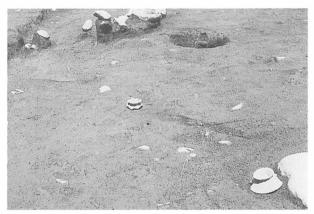
29号住居跡(西から)



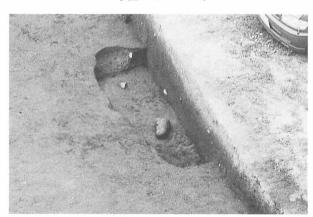
29 (中央) ・31 (中央奥) ・28 (右手前) ・30 (右奥) 号住居跡



29号住居跡 カマド



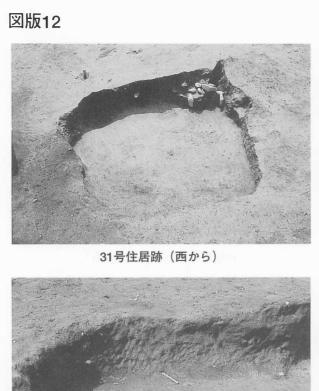
29号住居跡 遺物出土状況



30号住居跡(西半、南西から)



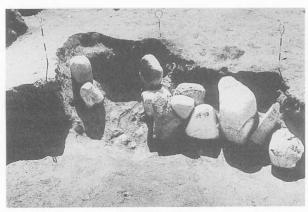
30号住居跡(東半、南から)



31号住居跡 鉄製品・刀子



34号住居跡 (西から)



34号住居跡 カマド



31号住居跡 カマド



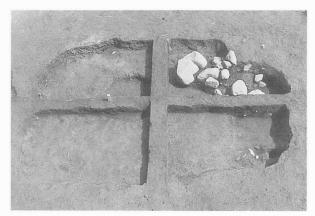
31 (中央)・34 (左奥)・35 (右) 号住居跡 (南から)



34号住居跡 カマド前の状況



35号住居跡 カマド



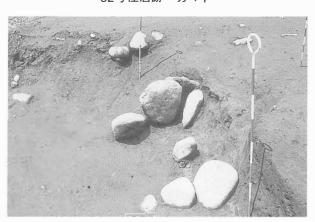
32号住居跡(南から)



32号住居跡 カマド



33号住居跡(25号住居跡と重複、西から)



33号住居跡 カマド



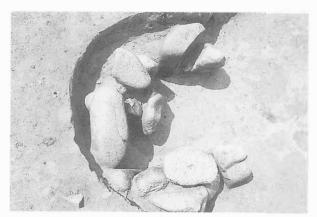
36号住居跡(北から)



36号住居跡 カマド



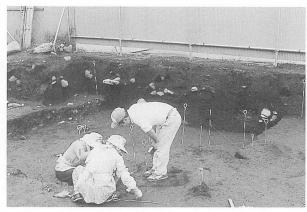
37号住居跡(東から)



37号住居跡 カマド



38号住居跡(右)・43号住居跡(左)(西から)



30号住居跡 カマド調査状況 ('94.9.28)



38号住居跡 カマド



38号住居跡 緑釉陶器・輪花皿



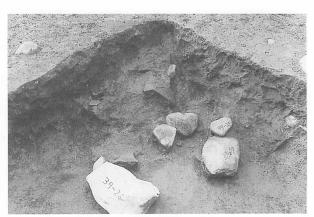
43号住居跡の土層と床面上の礫



43号住居跡 カマド



39号住居跡(西から)



39号住居跡 Aカマド



40・54号住居跡 (東から)



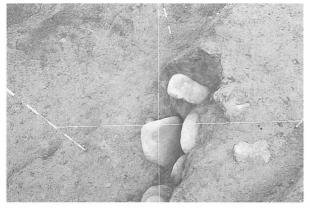
40号住居跡 カマド



40号住居跡 須恵器・坏盃



40号住居跡 土師器・坏



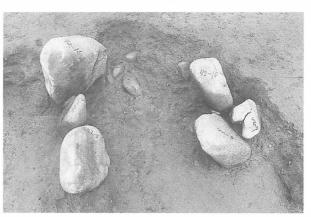
54号住居跡 カマド



39・40・42号住居跡周辺(南から)



42号住居跡(北から)



42号住居跡 カマド



44・45号住居跡(南東から)



44号住居跡 カマド周辺遺物出土状況



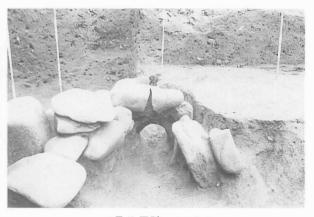
44号住居跡 カマド



45号住居跡 カマド



47号住居跡調査状況(右手前は46号住のカマド、北から)



46号住居跡 カマド



47号住居跡 カマド前の状況



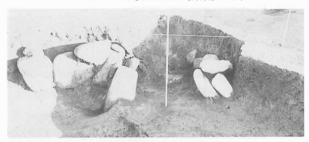
47号住居跡 カマド



48・49・50号住居跡周辺(南から)



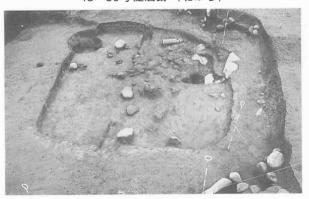
48・49・50号住居跡(東南から)



48号住居跡 Bカマド



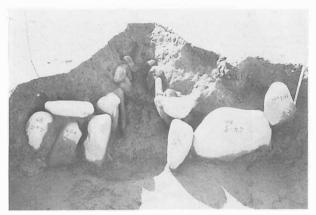
48・50号住居跡(北から)



50号住居跡(西から)



48号住居跡 Aカマド



48号住居跡 A カマド



50号住居跡 調査状況



50号住居跡 丸瓦および被熱土塊



51(右)・52号住居跡(北から)



51·52号住居跡 調査状況



53号住居跡周辺(南から)



53号住居跡 (北から)



53号住居跡 カマド



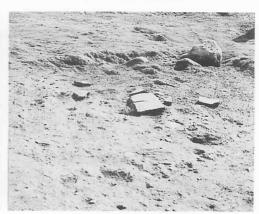
53号住居跡 調査状況



55号住居跡 調査状況



53号住居跡(南から)



56号住居跡 (西から)



57号住居跡(中央上方、東から)



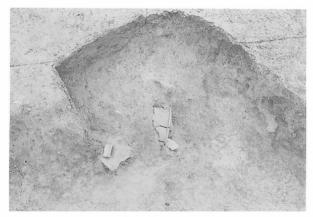
58号住居跡 (南から)



58号住居跡 A カマド



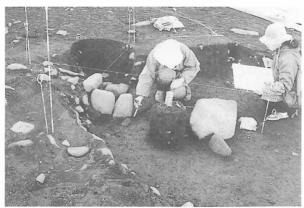
58号住居跡 Bカマド調査中



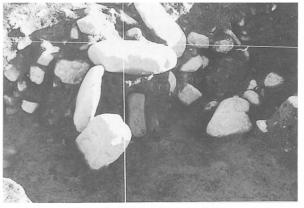
58号住居跡 Aカマド



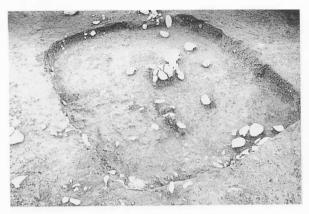
58号住居跡周辺調査状況



60号住居跡 礫の状況



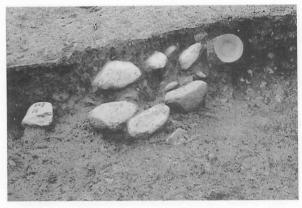
60号住居跡 遺物出土状況



60号住居跡(南から)



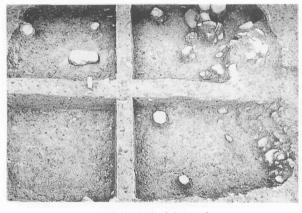
60号住居跡 礫の状況



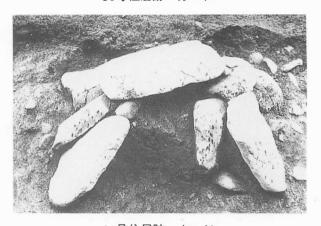
60号住居跡 遺物出土状況



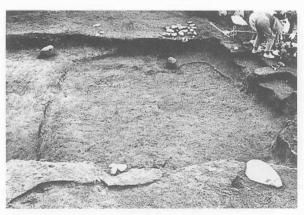
60号住居跡 カマド



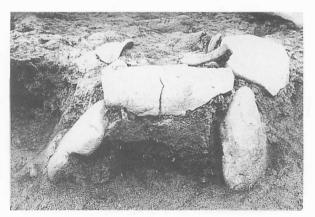
61号住居跡(東から)



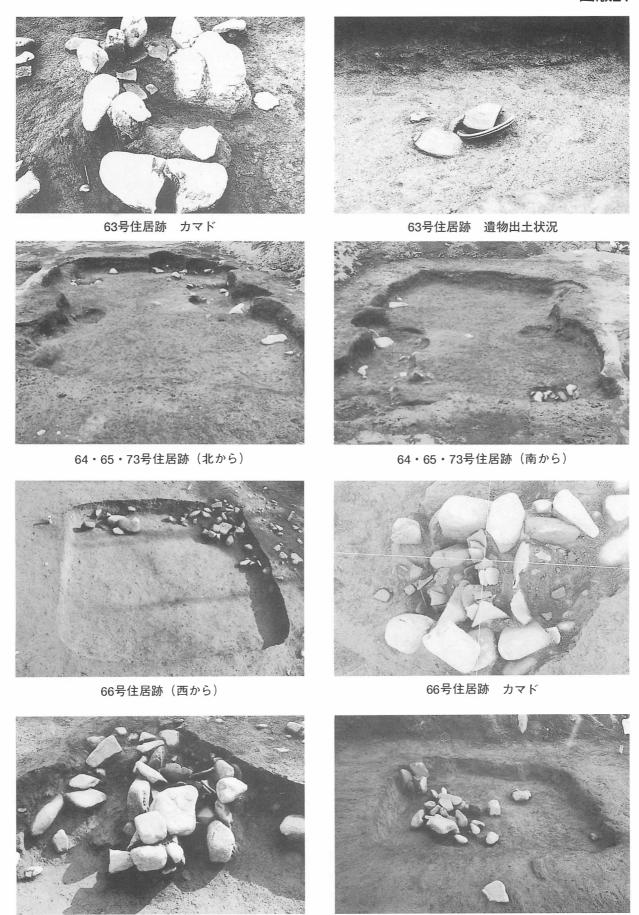
61号住居跡 カマド



62号住居跡(東から)

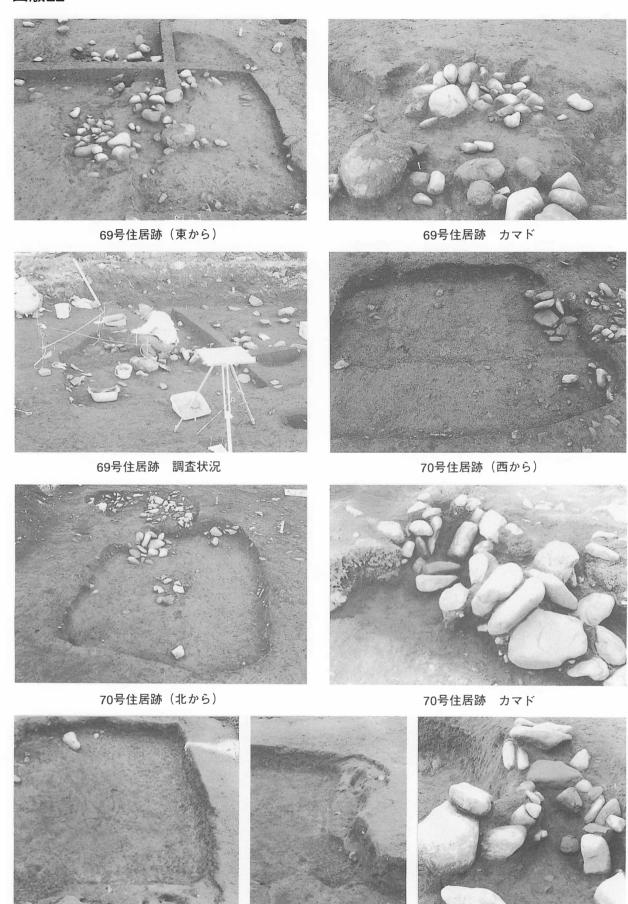


62号住居跡 カマド



66号住居跡 カマド

67号住居跡(北から)



65・73号住居跡(東から)

73号住居跡 カマド付近

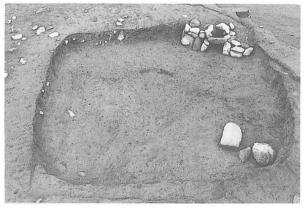
73号住居跡 カマド



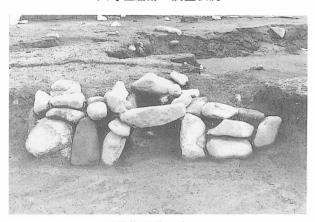
62・74号住居跡 周辺



74号住居跡 調査状況



74号住居跡(西から)



74号住居跡 カマド



75・76号住居跡 カマド



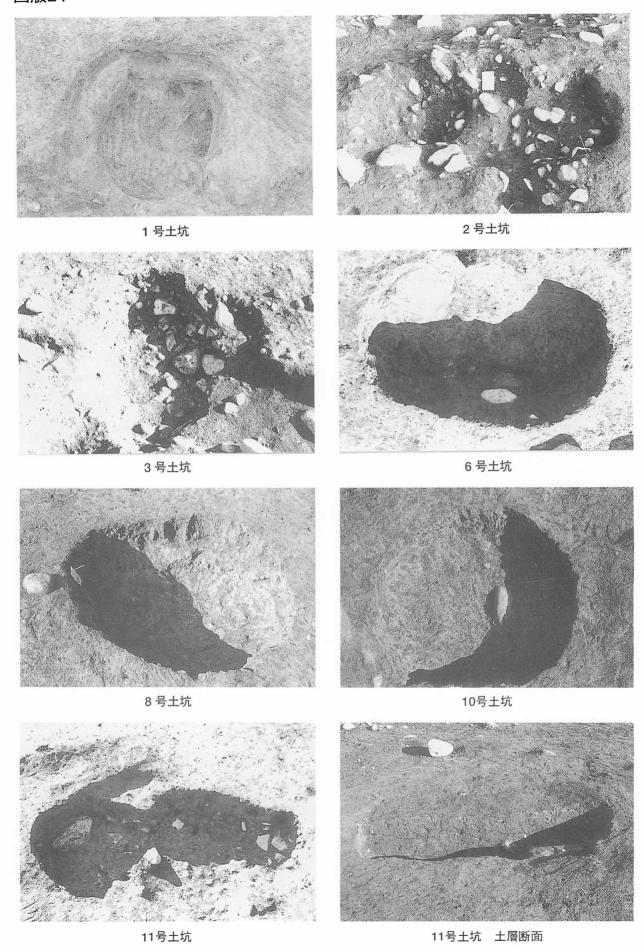
75・76号住居跡 調査状況

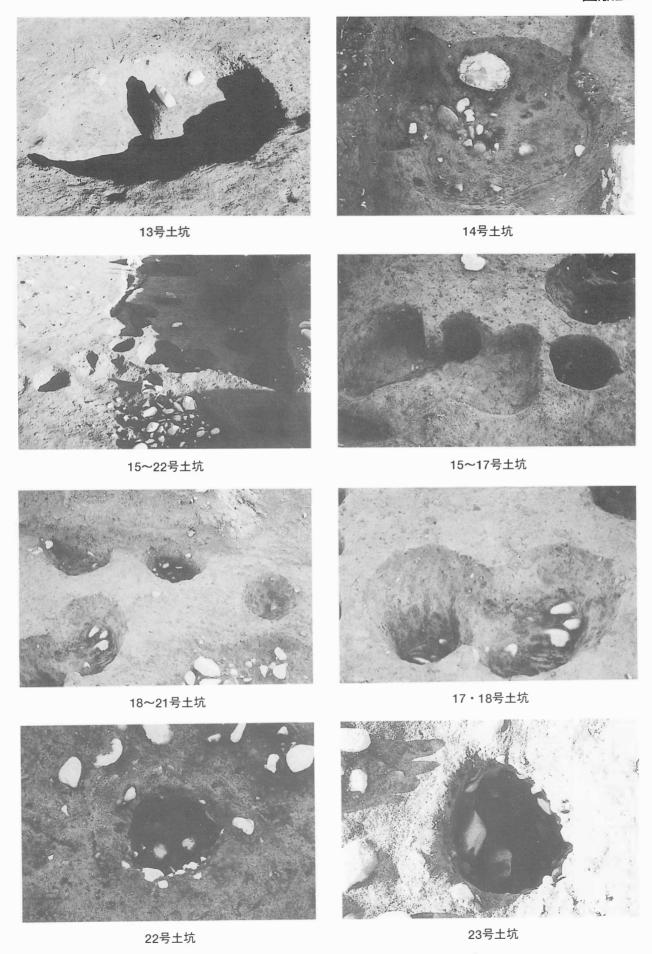


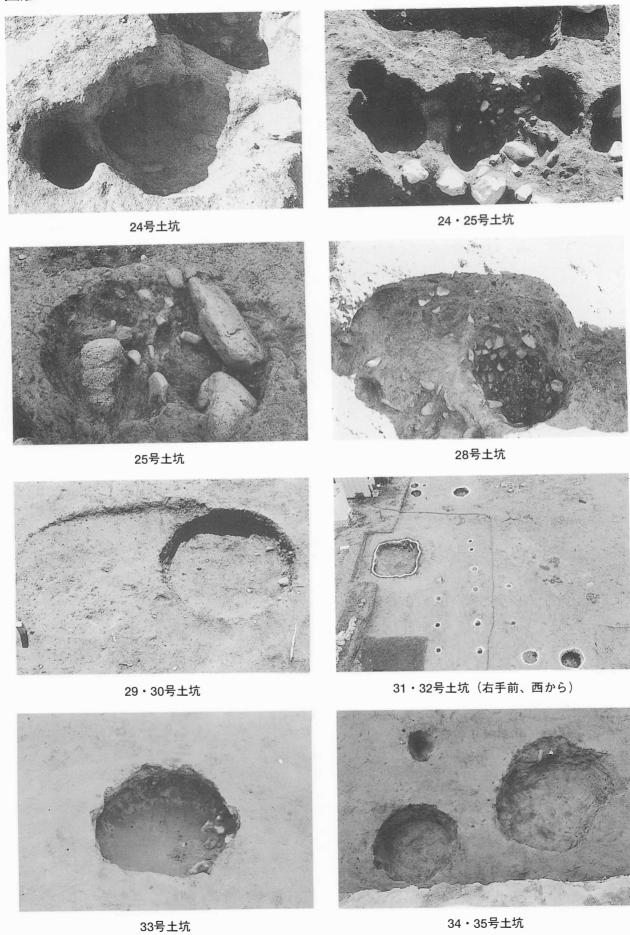
75号住居跡 カマド

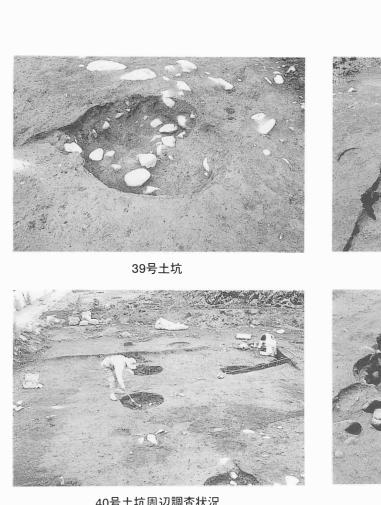


76号住居跡 カマド









40号土坑周辺調査状況



44~46号土坑 土層状況



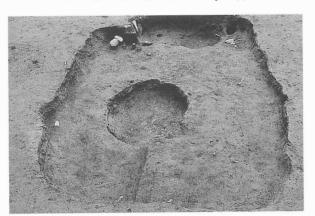
52号土坑



土坑群と1号道路状遺構



41~49・53~59・91~93号土坑



51号土坑



53 (中央)・54 (左) 号土坑



60~62号土坑(左から)



62号土坑 調査状況



62号土坑



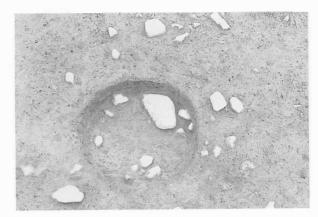
66・67号土坑



70~84号土坑



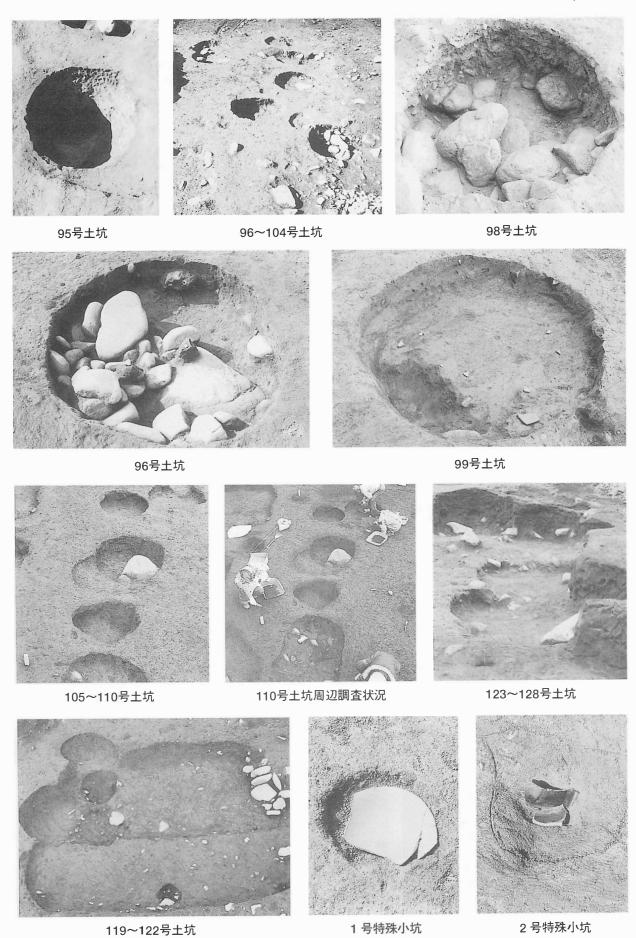
86~88号土坑(右から)



90号土坑



94号土坑





1 号竪穴状遺構(北東から)



1 号竪穴状遺構(東から)



1 号竪穴状遺構 礫の状況

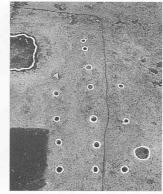


1号竪穴状遺構 完掘状況



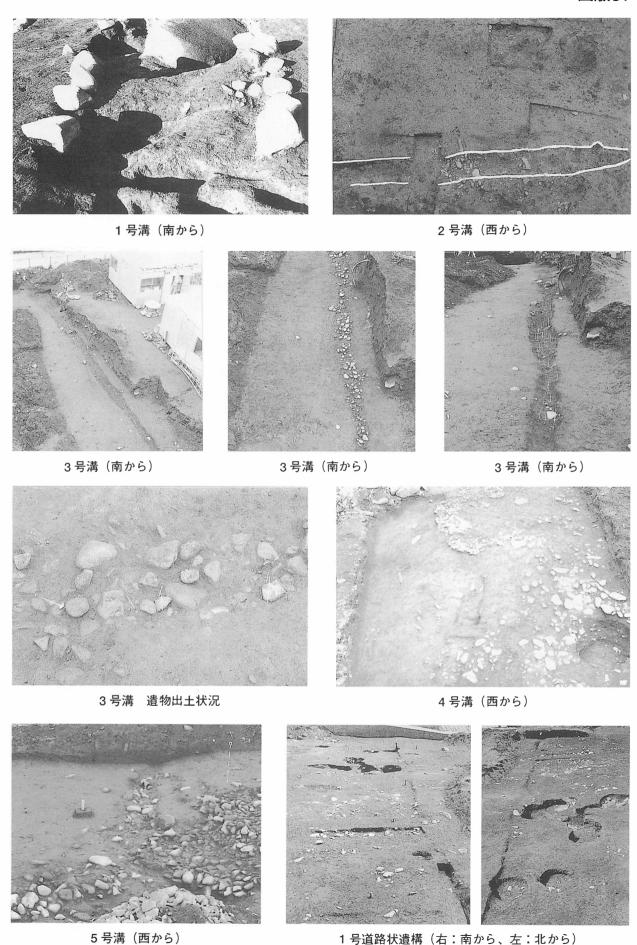
1号竪穴状遺構 調査状況



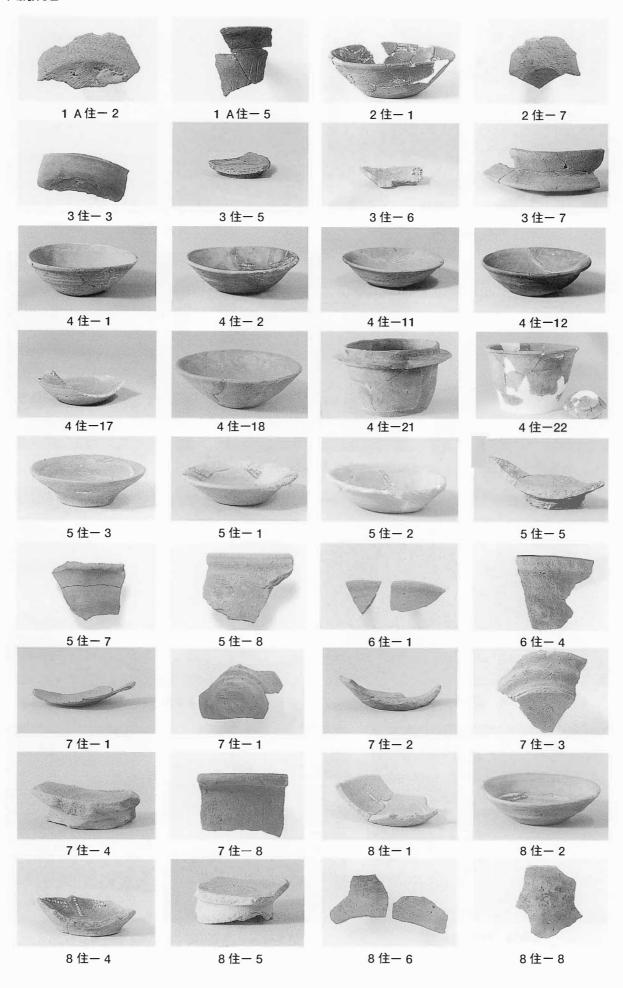


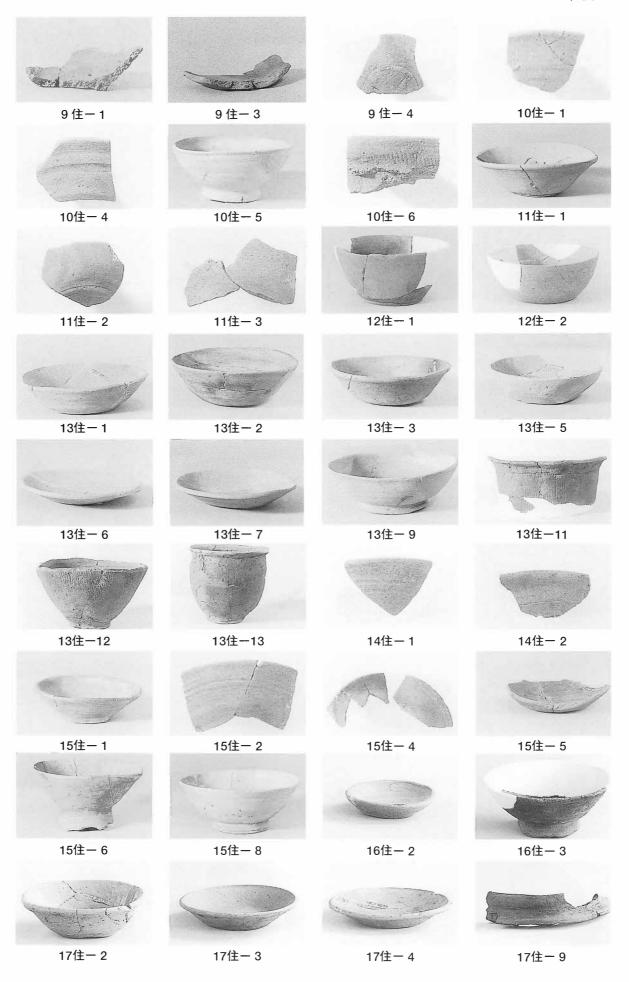


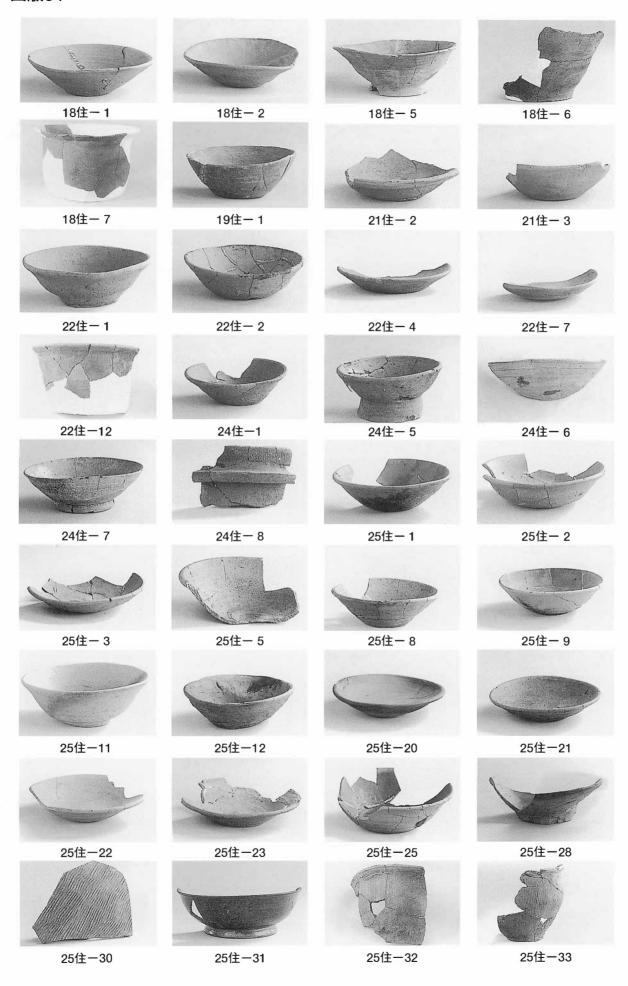
1号柱穴群(左:南から 中:西から 右:東から)

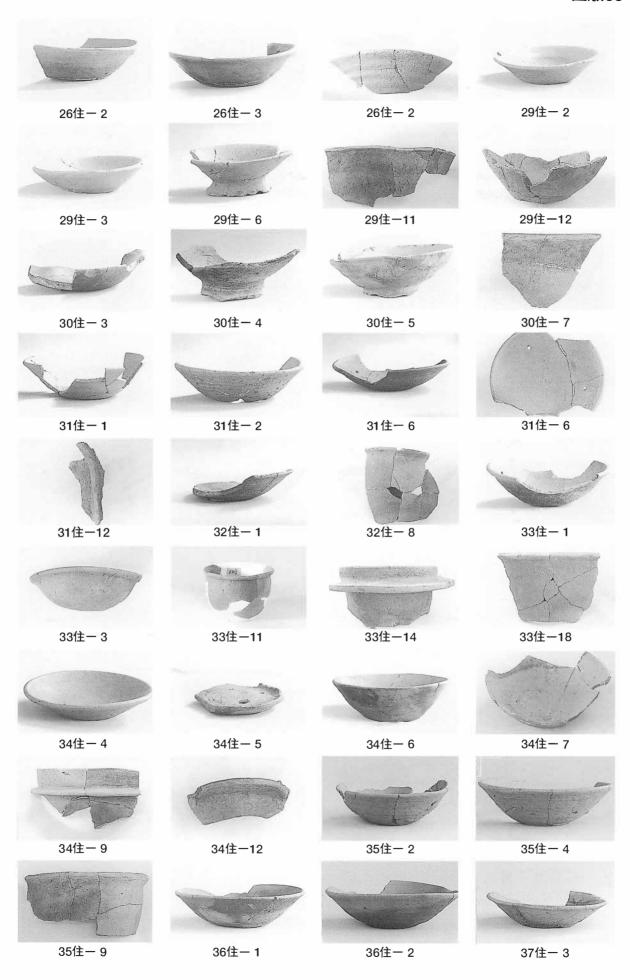


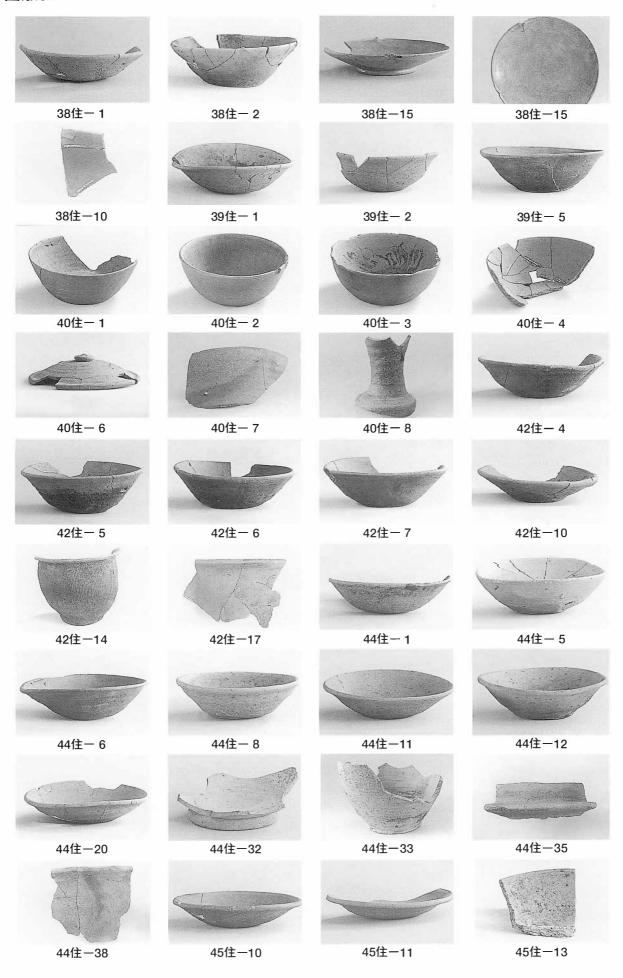
1号道路状遺構(右:南から、左:北から)

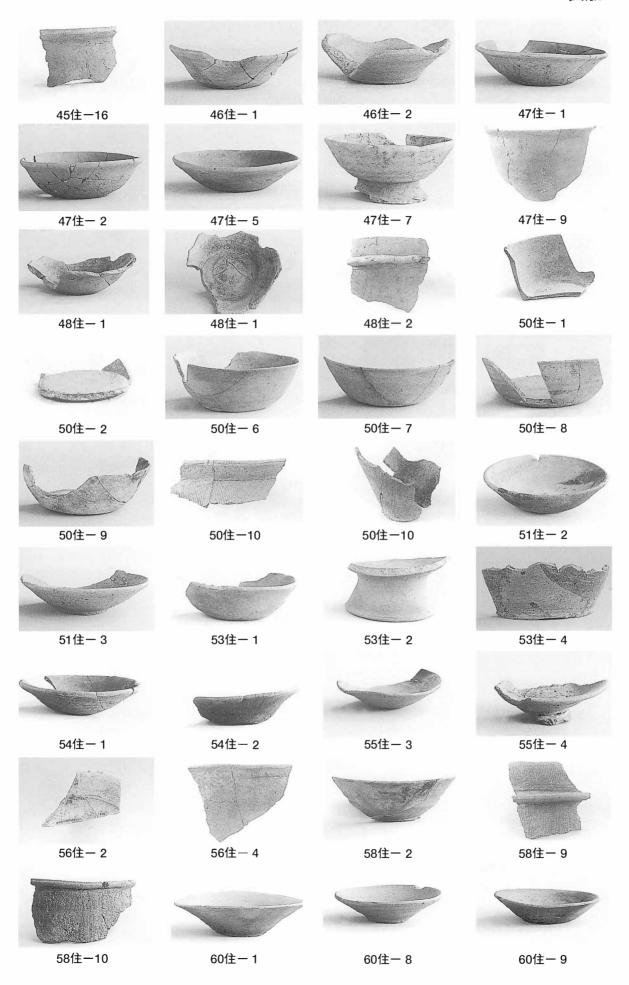


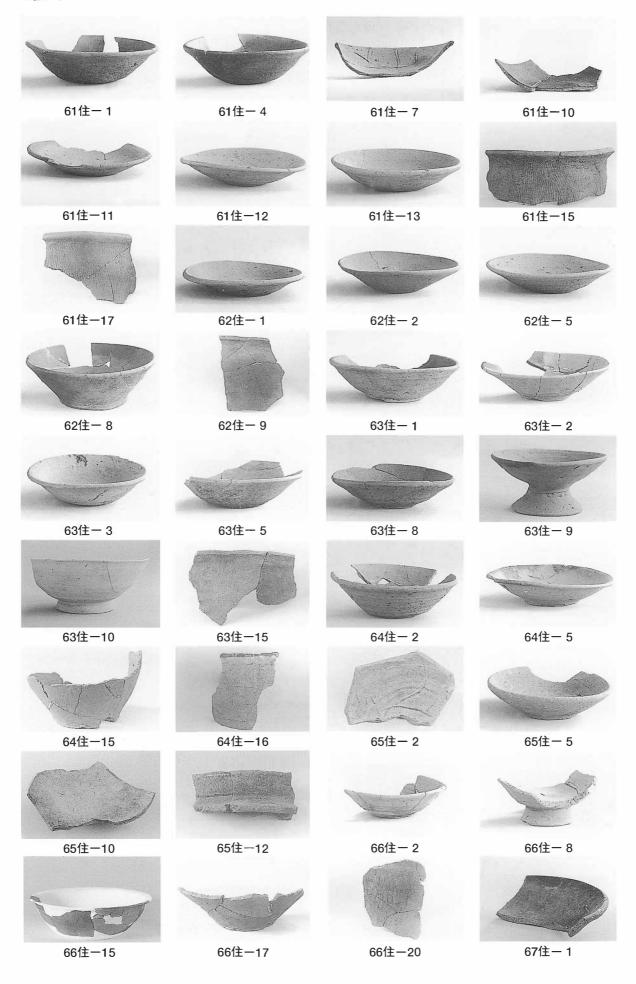


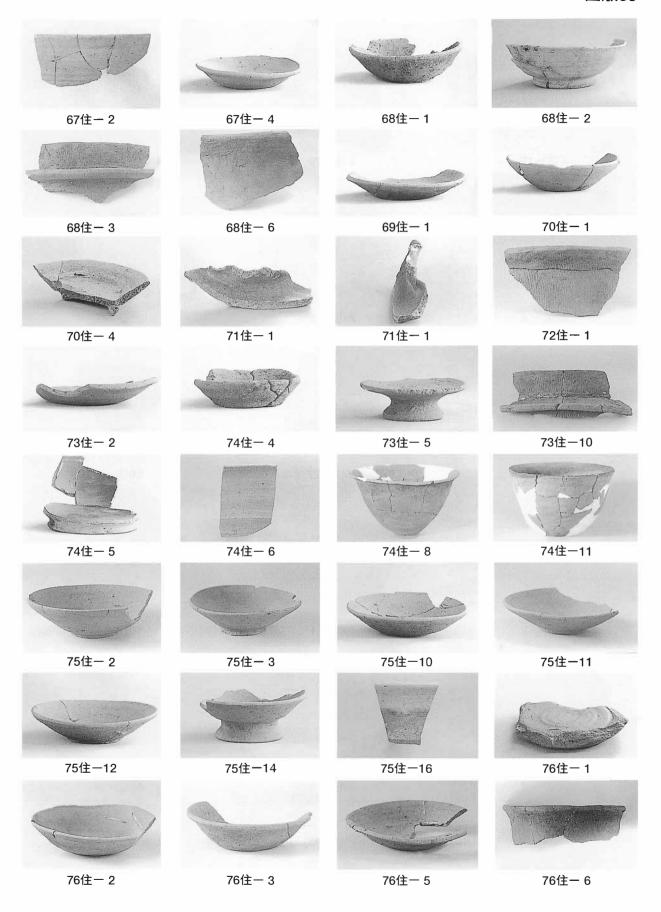


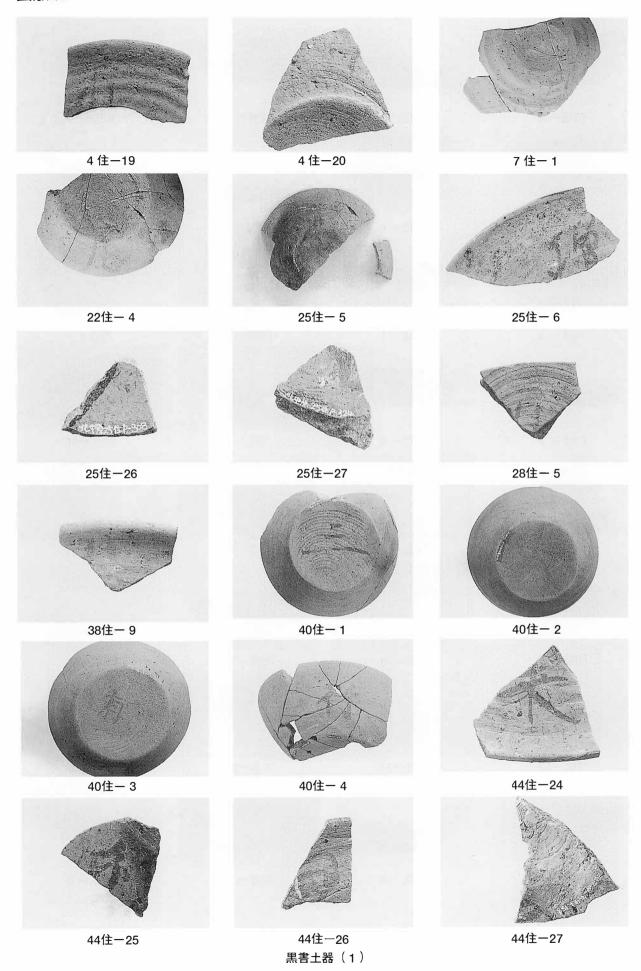


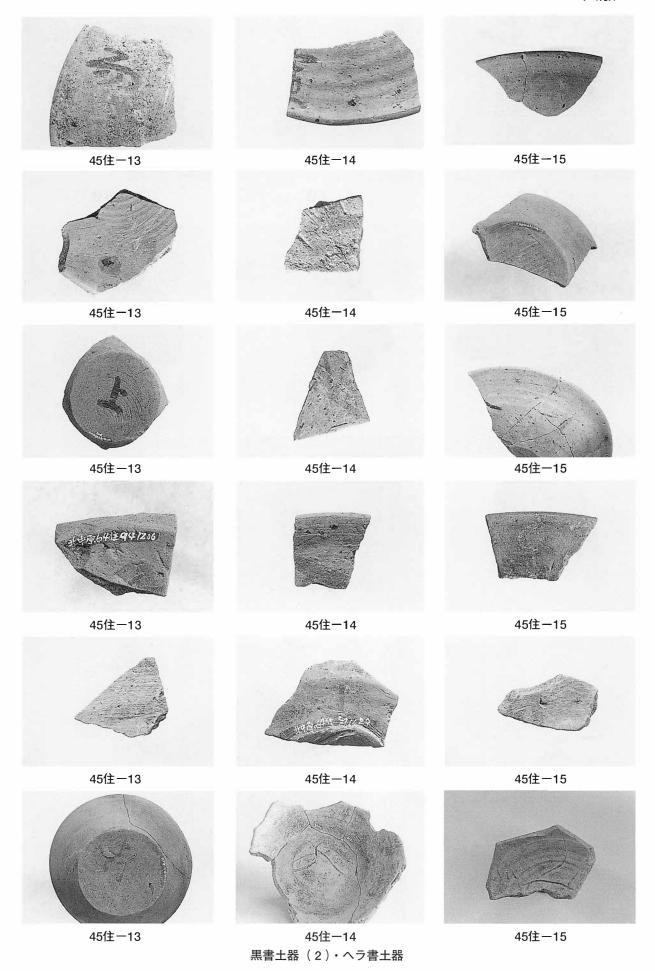


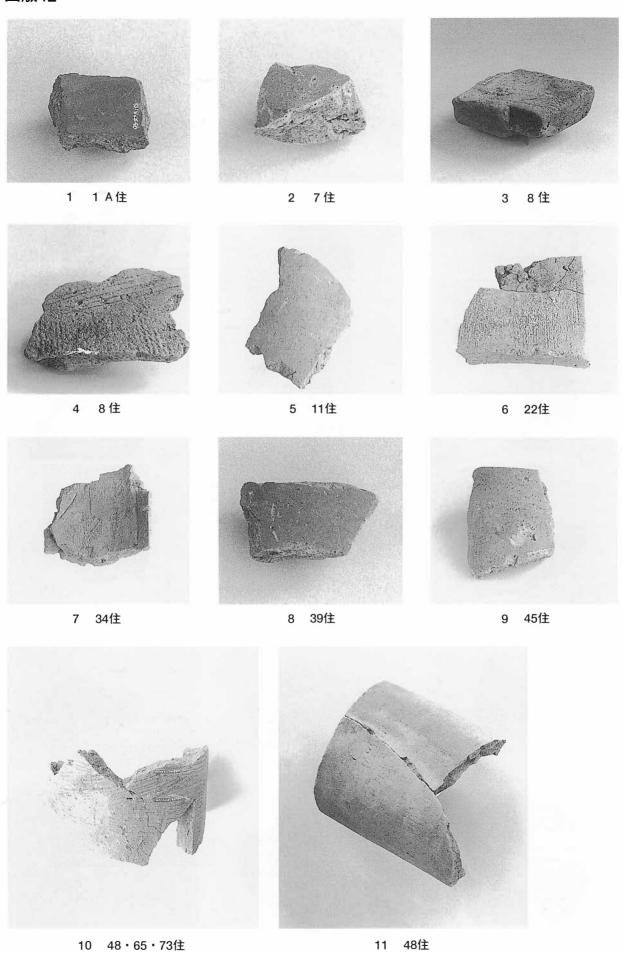




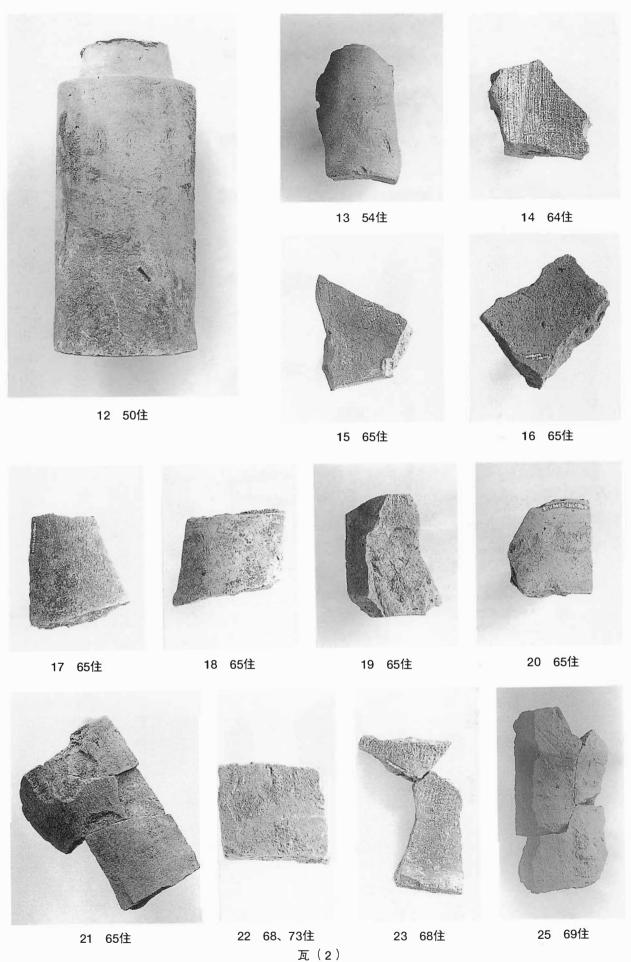






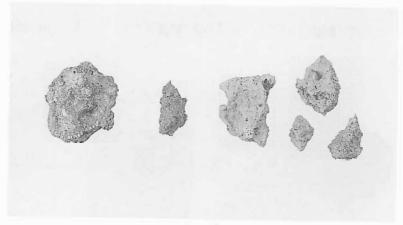


瓦(1)

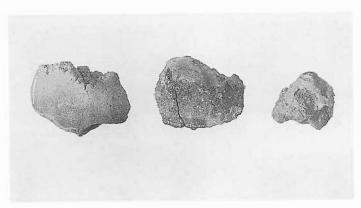




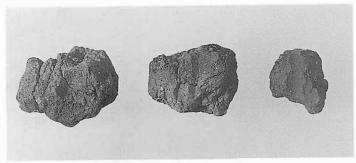
鉄製品



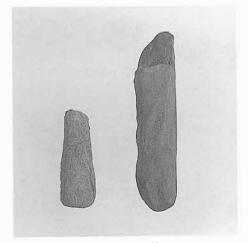
鉄 滓



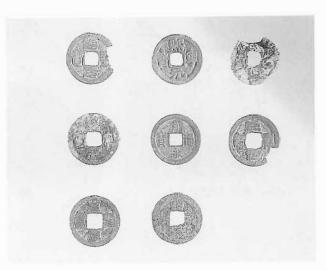
フイゴ羽口(表)



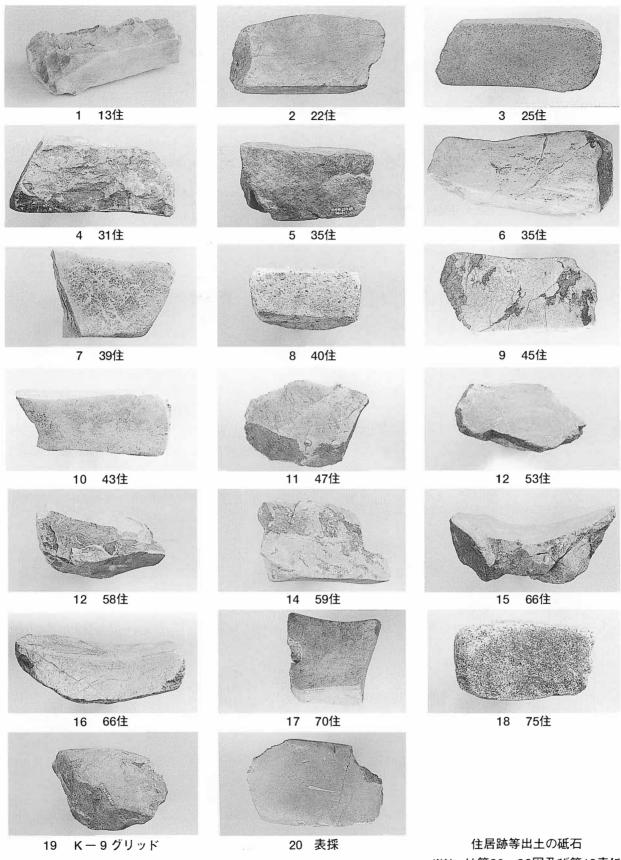
フイゴ羽口(裏)



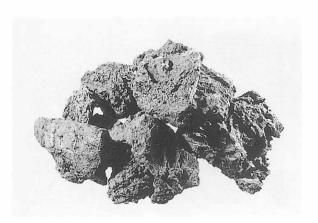
磨り石・石杵



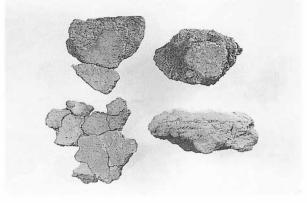
銭 貨



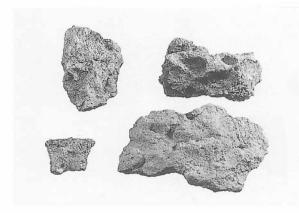
住居跡等出土の砥石 ※No.は第82・83図及び第19表に 対応する



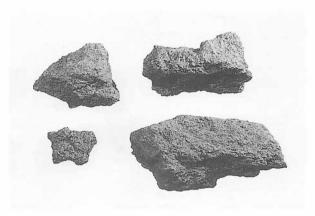
50号住居跡出土の被熱土塊(一部)



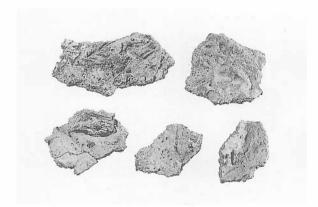
面をもつ被熱土塊



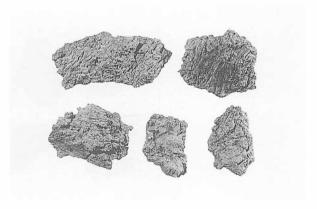
指頭による調整面をもつ被熱土塊



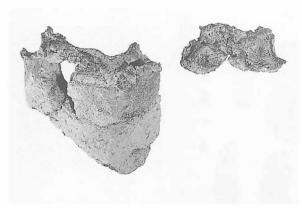
同左(裏)



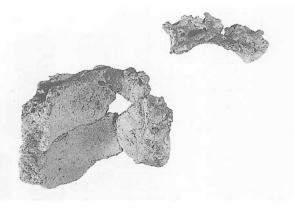
溶融面をもつ被熱土塊



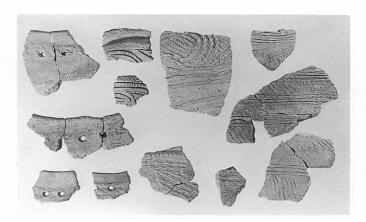
同左 (裏・スサが顕著)



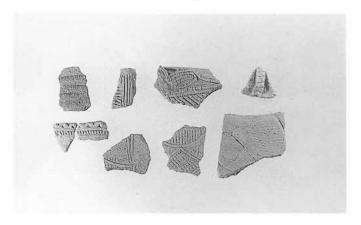
羽口状の形態をもつ被熱土塊



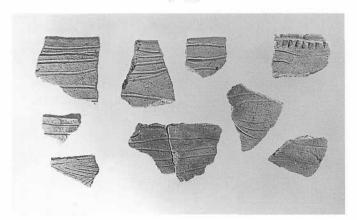
同左(裏)



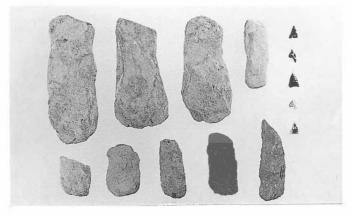
前 期



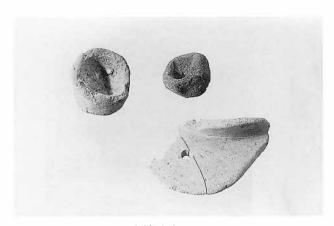
中期



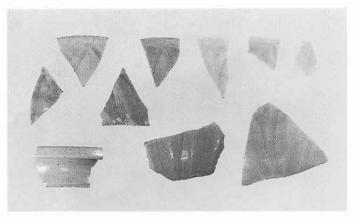
晩 期



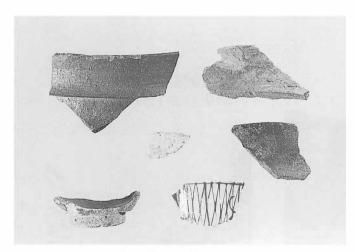
石 器



古墳時代土器



青磁片



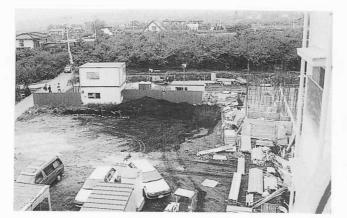
中~近世陶磁器・土器



煙管



土製人形



4号棟の建設にはいった調査区東半部



ブラジルからの研修により調査参加したサンドラ奈美さん



整理調査の状況



3 号棟と調査区西北部



39号住居跡下部の地山の状況



現地での遺物水洗

# 報告書抄録

報告書概要	
書 名	北中原遺跡(きたなかはら いせき)
副題	県営一宮団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第99集
編著者	出月 洋文
発 行 者	山梨県教育委員会·山梨県土木部
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
編集機関連絡先	〒400-15 山梨県東八代郡中道町下曽根923 電話 0552-66-3016
印 刷 所	ヨネヤ印刷
印刷・発行年月日	印刷: 1995 (平成7) 年 3 月20日 発行: 1995 (平成7) 年 3 月31日
報告書概要	
遺 跡 名	北中原遺跡(きたなかはら いせき)
遺跡所在地	山梨県東八代郡一宮町塩田585 緯度・経度 北緯35度38分04秒 東経138度41分32秒 地形図名 国土地理院 5万分の1 「甲府」、2万5千分の1「石和」
主 な 時 代	平安時代
主 な 遺 構	竪穴住居跡77軒のほか、竪穴遺構・掘建柱建物跡・土坑・溝状遺構・道路状遺構など
主な遺物	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦
特記される事項	9~11世紀の竪穴住居群からなる集落跡で、甲斐国分寺周辺遺跡群の一つ墨書土器(35点) ・刻書土器(2点)を含む豊富な生活遺物等が得られた。中世の道路遺構(南北方向の道 路と見られる)をも確認した。
調査期間	1993(平成 5)年11月17日~12月27日 および 1994(平成 6)年 4 月17日~12月27日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第99集

# 北中原遺跡

ー県営一宮団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー

印刷日 1995 (平成7)年3月20日

発行日 1995 (平成7)年3月31日

編 集 山梨県埋蔵文化財センター

発 行 山梨県教育委員会・山梨県土木部

印刷 株式会社 ヨネヤ

